8.1.4 動　物

1. 重要な種及び注目すべき生息地（海域に生息するものを除く。）

(1)調査結果の概要

① 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、陸産貝類、魚類及び底生動物に関する動物相の状況

a. 哺乳類の状況

(a) 文献その他の資料調査

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

ｲ. 調査方法

表 8.1.4-1 に示す文献その他の資料から、対象事業実施区域及びその周囲において生息記録のある種を抽出した。

表 8.1.4-1　哺乳類に係る文献その他の資料

文献その他の資料名	調査範囲
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 2 回（1978～1980）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 4 回（1988～1993）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 5 回（1993～1999）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 6 回（1999～2005）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ範囲と同等の 5km メッシュ
「いきものログ」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「環境アセスメントデータベース　全国環境情報　コウモリ分布」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲
「いわてレッドデータブック　岩手の希少な野生生物　web 版」（岩手県 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2、※3
「盛岡市史　第七巻（復刻版）」（盛岡市、昭和 55 年）	盛岡市
「いわてレッドデータブック（岩手の希少な野生生物 2025 年版）」（岩手県、令和 7 年）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2、※3

注：※については以下のとおりである。

※1：2 次メッシュは、国土地理院発行の 1/25,000 の地形図の図郭割の範囲に相当する。対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ「594132 区界」「594133 松草」「594142 大志田」「594143 青松葉山」を抽出した。

※2：掲載されている分布地域に盛岡市簗川等の詳細な地名が記載されている場合は詳細な地名を優先して抽出し、詳細な地名が記載されておらず盛岡市等の市町のみでの記載の場合は市町で抽出した。

※3：汽水域、沿岸域等明らかに対象事業実施区域の環境と生息域が異なるものについては除外した。

ｳ. 調査結果

文献その他の資料調査の結果、33 種の哺乳類が確認された。（第 3 章　3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況　(1) 動物相の概要 参照）

(b) 現地調査

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

ｲ. 調査地点

フィールドサイン調査の踏査ルート、シャーマントラップによる捕獲調査の 9 地点（T1～T9）、自動撮影調査の 9 地点（CM1～CM9）、巣箱調査の 4 地点（YM1～YM4）、コウモリ類生息状況調査における、かすみ網及びハープトラップによる捕獲調査の 4 地点（BT1～BT4）、夜間踏査調査の 5 地点（BP1～BP5）及び踏査ルート、音声モニタリング調査の 5 地点（BD1～BD5）とした。各調査地点の概要は表 8.1.4-2、調査地点位置は図 8.1.4-1 のとおりである。

表 8.1.4-2(1)　哺乳類調査地点の概要（捕獲調査）

調査方法	調査地点	地点概要	設定根拠
捕獲調査	T1	広葉樹林（ミズナラ群落）	対象事業実施区域の代表的な環境に生息するネズミ類、モグラ類等の小型哺乳類の生息状況の確認を目的として設定した。
	T2	植林地（スギ植林）	
	T3	草地・低木林（牧草地）	
	T4	草地・低木林（牧草地）	
	T5	広葉樹林（ミズナラ群落）	
	T6	植林地（カラマツ植林）	
	T7	広葉樹林（ダケカンバ群落）	
	T8	広葉樹林（ミズナラ群落）	
	T9	草地・低木林（牧草地）	

表 8.1.4-2(2)　哺乳類調査地点の概要（自動撮影調査）

調査方法	調査地点	地点概要	設定根拠
自動撮影調査	CM1	広葉樹林（ミズナラ群落）	対象事業実施区域の代表的な環境に生息する哺乳類の確認が難しい夜間等の生息状況の確認を目的として設定した。
	CM2	植林地（アカマツ植林）	
	CM3	植林地（カラマツ植林）	
	CM4	植林地（カラマツ植林）	
	CM5	広葉樹林（ミズナラ群落）	
	CM6	植林地（カラマツ植林）	
	CM7	広葉樹林（ダケカンバ群落）	
	CM8	広葉樹林（ミズナラ群落）	
	CM9	河辺（ヤマハンノキ群落）	

表 8.1.4-2(3)　哺乳類調査地点の概要（巣箱調査）

調査方法	調査地点	地点概要	設定根拠
巣箱調査	YM1	広葉樹林（ミズナラ群落）	ヤマネ、モモンガ等の樹洞性哺乳類の生息状況の確認を目的として設定した。
	YM2	植林地（カラマツ植林）	
	YM3	広葉樹林（ミズナラ群落）	
	YM4	河辺（ヤマハンノキ群落）	

表 8.1.4-2(4)　哺乳類調査地点の概要（コウモリ類生息状況調査：捕獲調査）

調査方法	調査地点	地点概要	設定根拠
捕獲調査	BT1	植林地（カラマツ植林）	コウモリ類の生息状況の確認を目的として設定した。
	BT2	河辺（ヤマハンノキ群落）	
	BT3	広葉樹林（ミズナラ群落）	
	BT4	広葉樹林（ミズナラ群落）	

表 8.1.4-2(5)　哺乳類調査地点の概要（コウモリ類生息状況調査：夜間踏査調査）

調査方法	調査地点	地点概要	設定根拠
夜間踏査調査	BP1	草地・低木林（牧草地）	コウモリ類の生息状況の確認を目的として設定した。
	BP2	河辺（ヤマハンノキ群落）	
	BP3	草地・低木林（牧草地）	
	BP4	植林地（カラマツ植林）	
	BP5	草地・低木林（牧草地）	

表 8.1.4-2(6)　哺乳類調査地点の概要（コウモリ類生息状況調査：音声モニタリング調査）

調査方法	調査地点	地点概要	設定根拠
音声モニタリング調査	BD1	風況観測塔：草地・低木林（牧草地）	風況観測塔及び樹高棒にバットディテクターを設置し、高高度におけるコウモリ類の飛翔状況を把握することを目的として設置した。
	BD2	樹高棒：植林地（カラマツ植林）	
	BD3	樹高棒：広葉樹林（ミズナラ群落）	
	BD4	樹高棒：植林地（カラマツ植林）	
	BD5	樹高棒：植林地（カラマツ植林）	

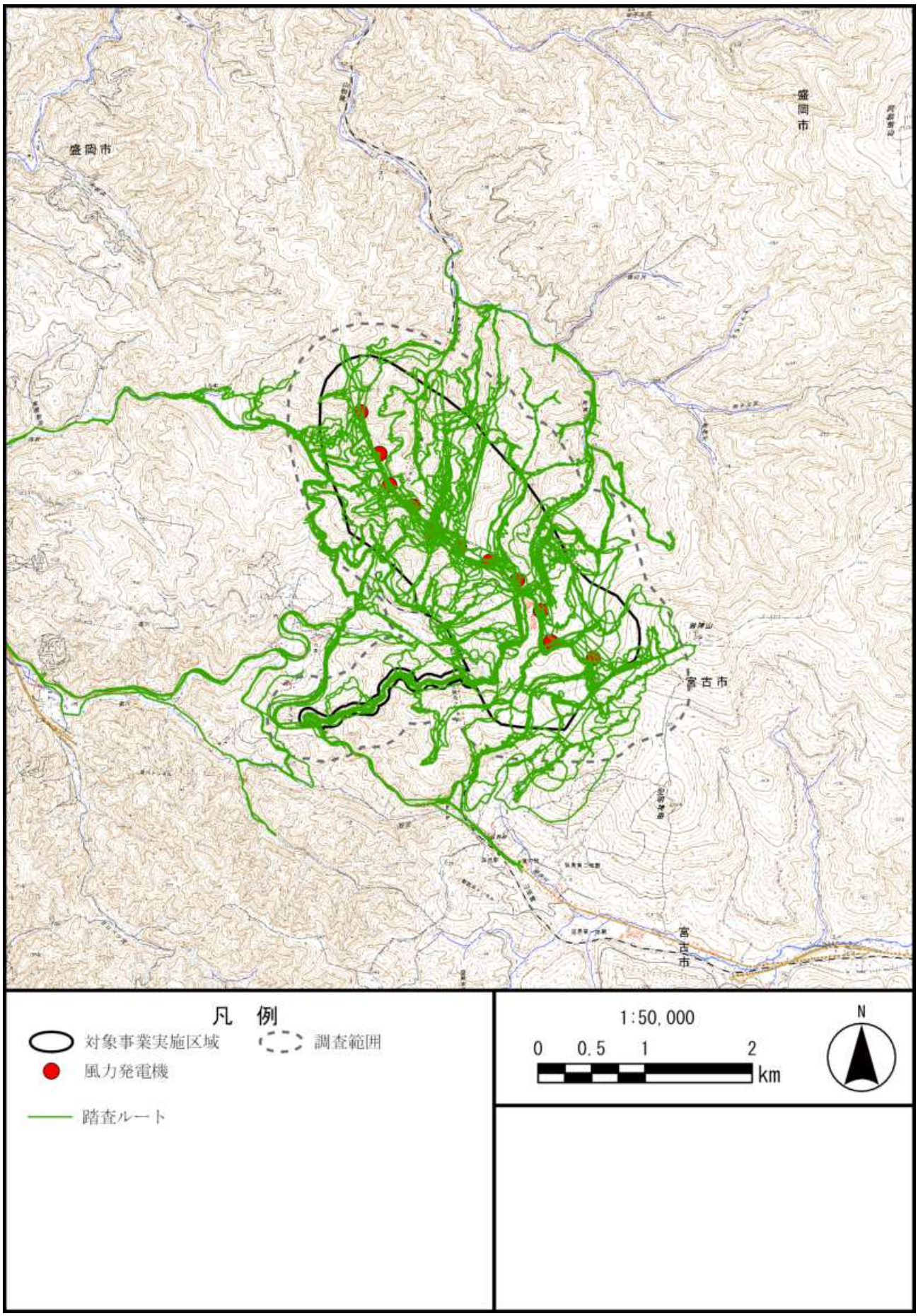


図 8.1.4-1(1)　哺乳類の調査地点（フィールドサイン調査）

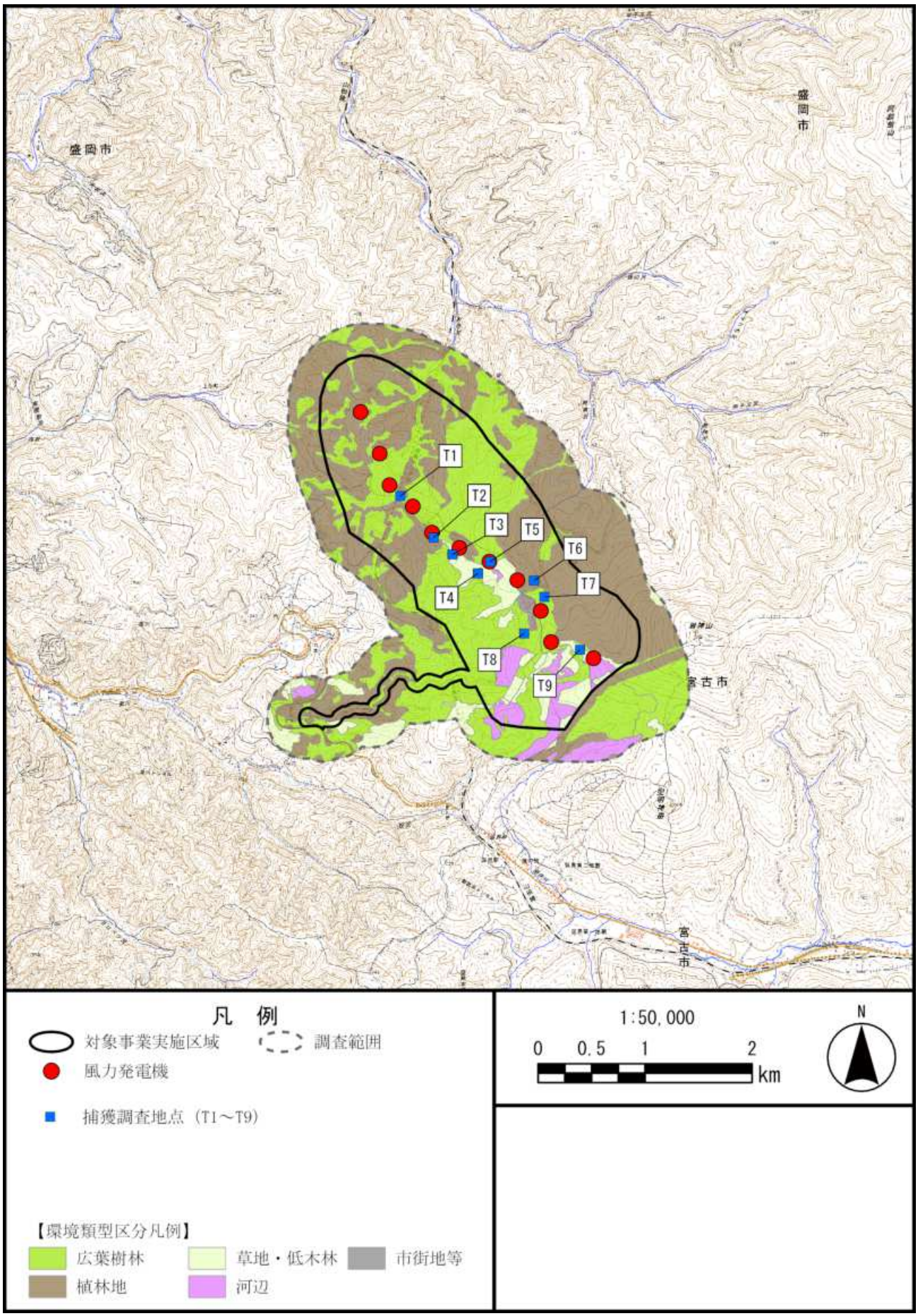


図 8.1.4-1(2)　哺乳類の調査地点（小型哺乳類捕獲調査）

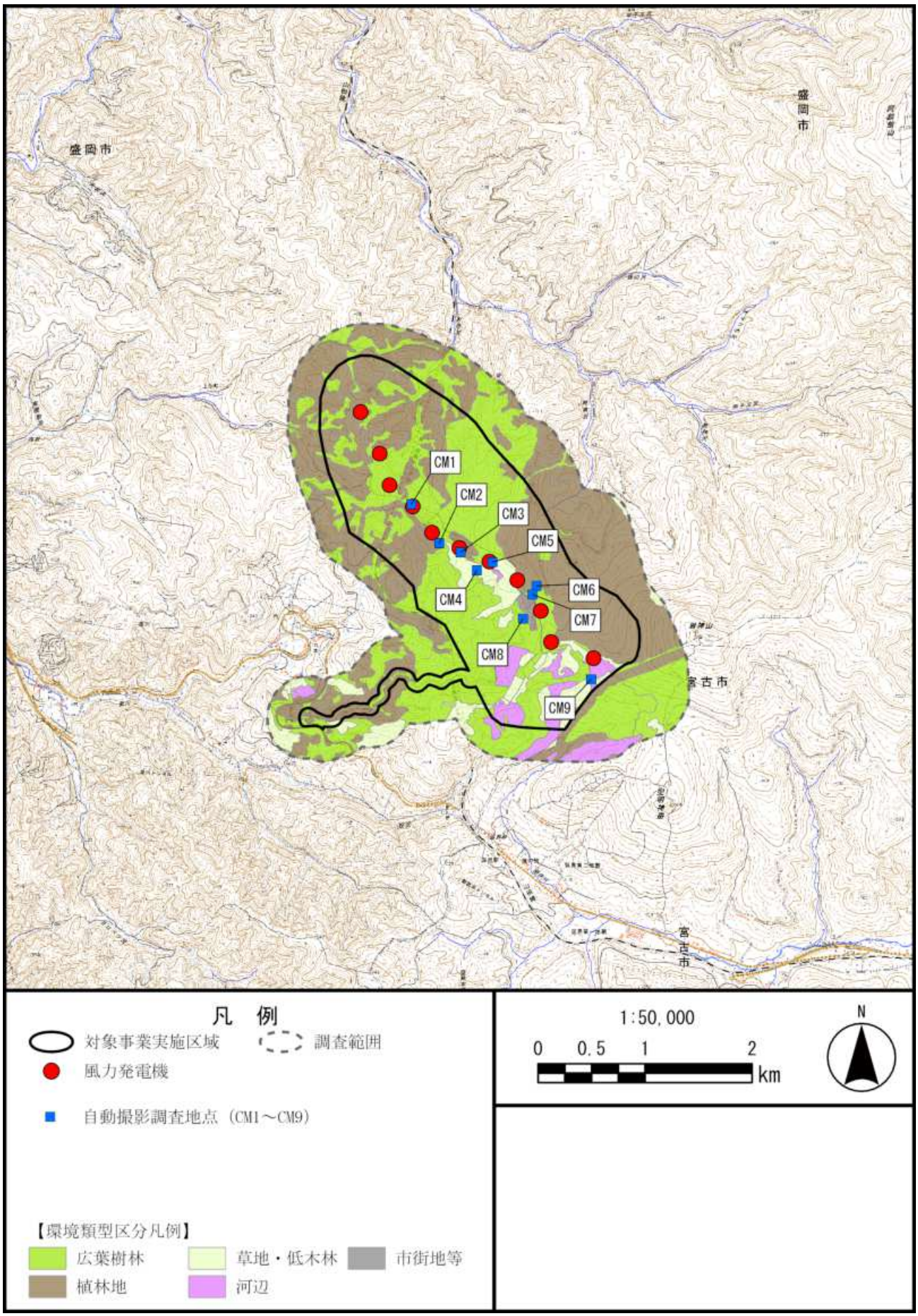


図 8.1.4-1(3)　哺乳類の調査地点（自動撮影調査）

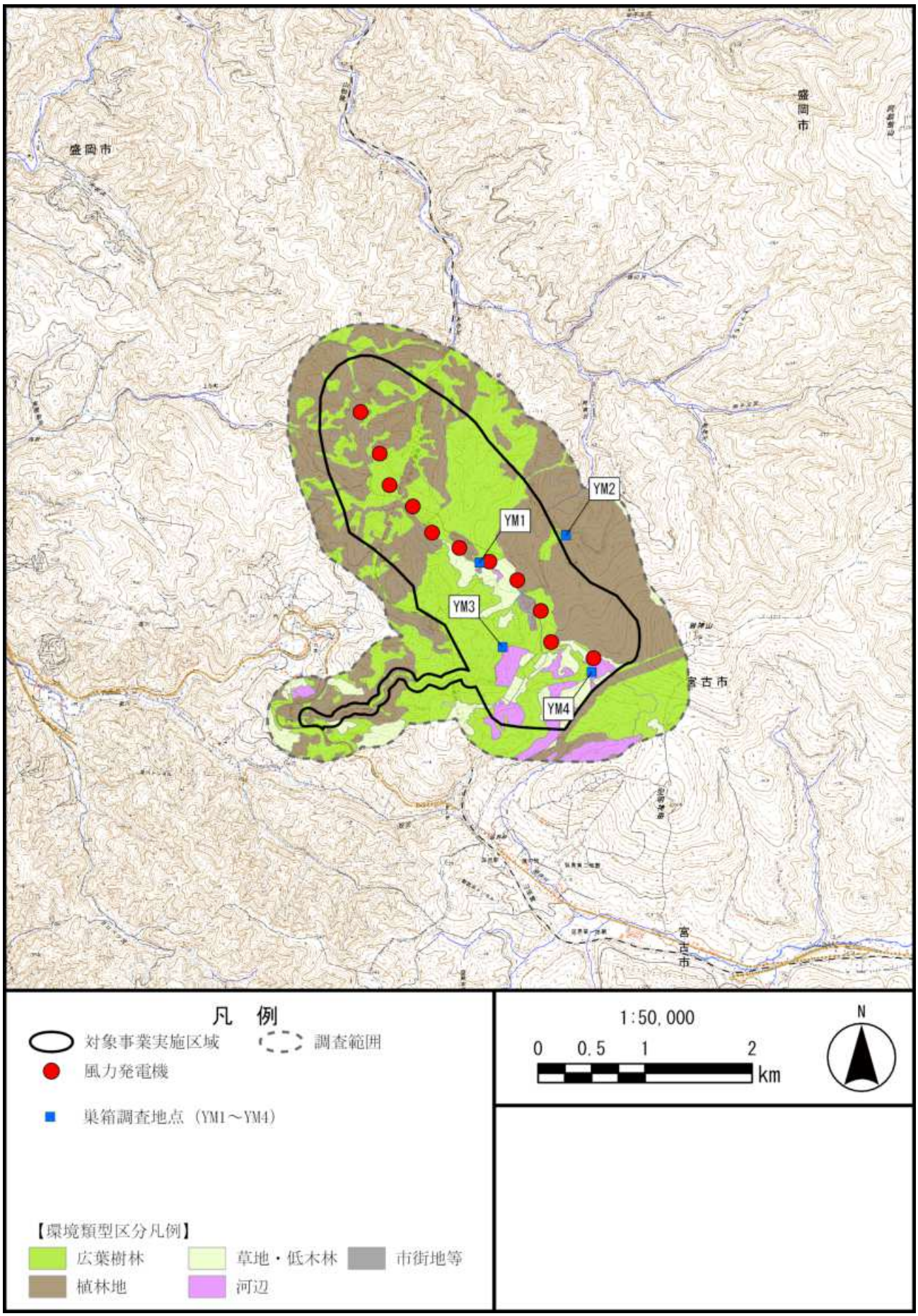


図 8.1.4-1(4)　哺乳類の調査地点（巣箱調査）

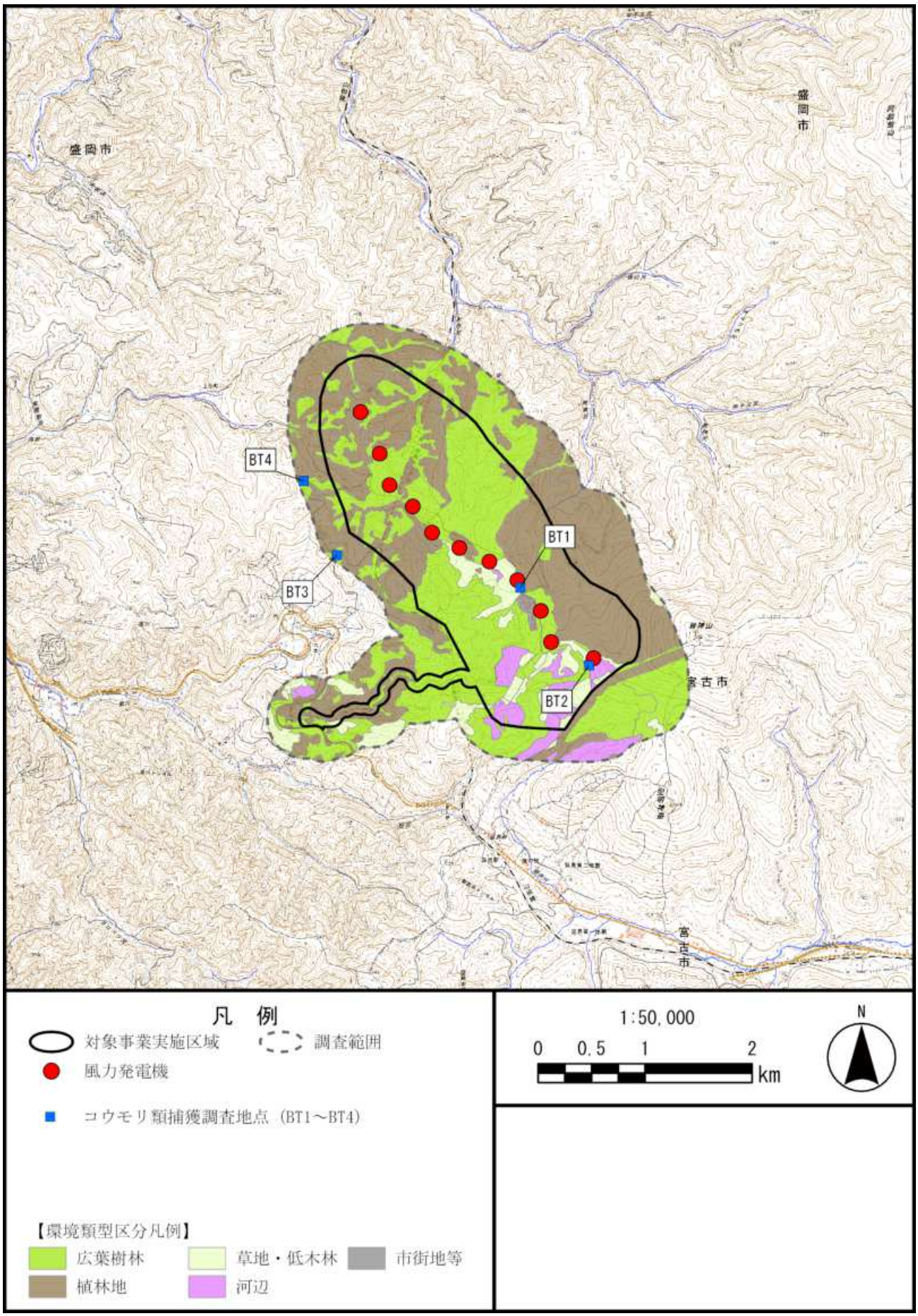


図 8.1.4-1(5)　哺乳類の調査地点（コウモリ類生息状況調査：捕獲調査）

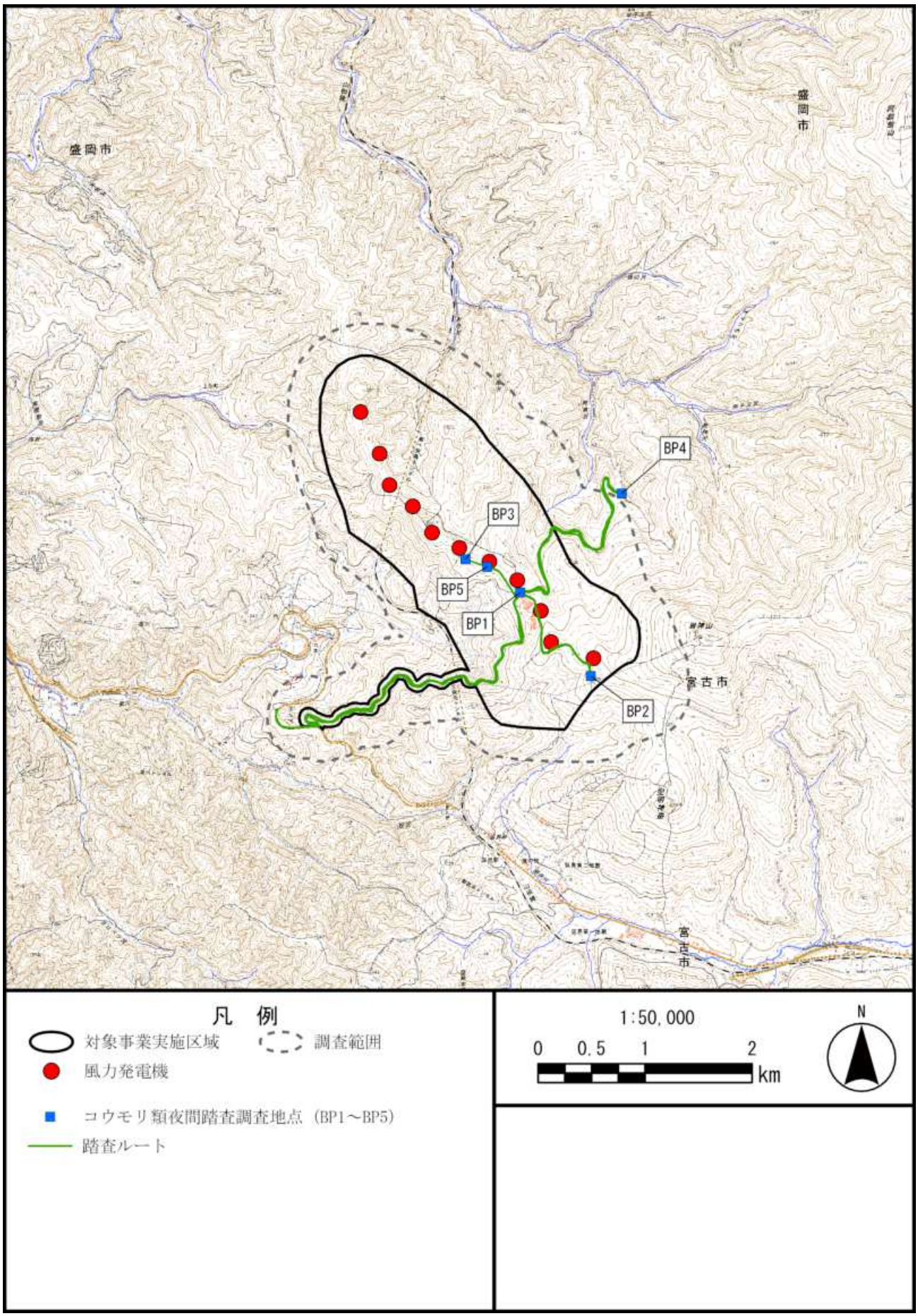


図 8.1.4-1(6)　哺乳類の調査地点（コウモリ類生息状況調査：夜間踏査調査）

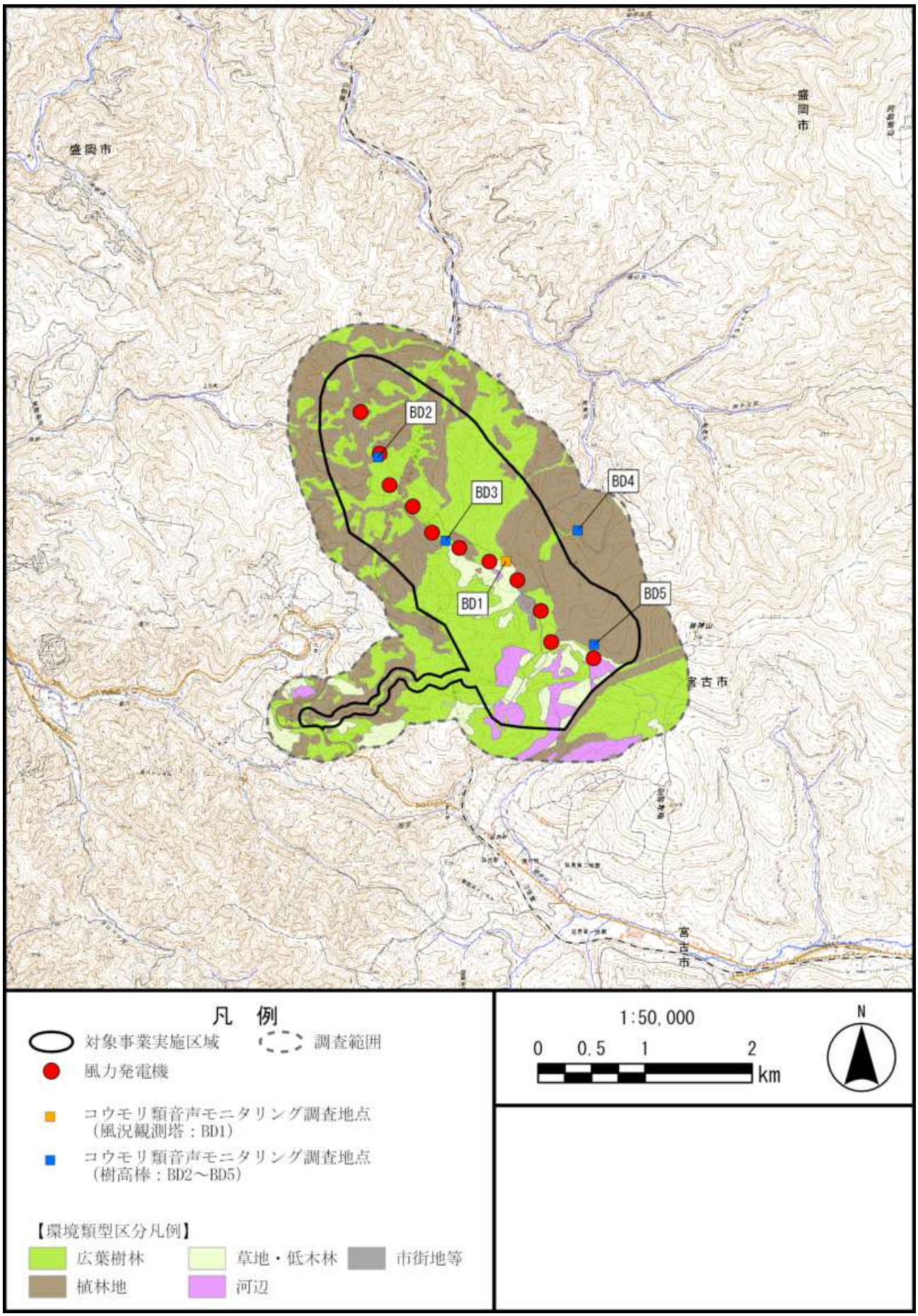


図 8.1.4-1(7)　哺乳類の調査地点（コウモリ類生息状況調査：音声モニタリング調査）

ｳ. 調査期間

(ｱ) フィールドサイン調査

春季調査：令和 7 年 5 月 12～16 日
5 月 26～27 日（夜間踏査）
夏季調査：令和 7 年 7 月 7～11 日
7 月 20 日（夜間踏査）
秋季調査：令和 7 年 9 月 7 日（夜間踏査）
10 月 20～24 日
冬季調査：令和 7 年 12 月 8～12 日

(ｲ) 捕獲調査

春季調査：令和 7 年 5 月 12～16 日
夏季調査：令和 7 年 8 月 4～8 日
秋季調査：令和 7 年 9 月 8～9 日

(ｳ) 自動撮影調査

春季調査：令和 7 年 5 月 12 日～6 月 30 日
夏季調査：令和 7 年 7 月 11 日～8 月 29 日

(ｴ) 巣箱調査

令和 7 年 4 月 18 日～11 月 29 日

(ｵ) コウモリ類生息状況調査

i. 捕獲調査

夏季調査：令和 7 年 6 月 23～24 日、7 月 21～22 日
秋季調査：令和 7 年 9 月 8～9 日

ii. 夜間踏査調査

春季調査：令和 7 年 5 月 26～27 日
夏季調査：令和 7 年 7 月 20 日
秋季調査：令和 7 年 9 月 7 日

iii. 音声モニタリング調査

令和 7 年 4 月 28 日～11 月 13 日

ｴ. 調査方法

(ｱ) フィールドサイン調査

調査範囲を踏査し、生息個体の足跡、糞、食痕等の痕跡（フィールドサイン）を確認し、その位置及び直接観察及び生活痕跡、死体等の確認から出現種を記録した。重要な種及び注目すべき生息地を確認した場合は、その個体数、確認位置、生息環境等を記録した。なお、夜行性動物を確認するため、夜間における踏査も行った。また、調査の際には樹洞性動物に留意するため、棲息場所となる樹洞、コウモリ類がねぐらとして利用する可能性のある竪穴、隧道等を確認した場合もその位置等を記録した。

(ｲ) 捕獲調査

各調査地点にシャーマントラップを 20 個程度、約 10m おきに設置し、フィールドサイン調査では確認し難いネズミ類等の小型哺乳類を捕獲した。1 地点当たり 1～2 晩設置し、捕獲した種については、種名、性別、体長、個体数等を記録した。

(ｳ) 自動撮影調査

調査範囲に出現する哺乳類がけもの道として利用しそうな林道や作業道に無人センサーカメラを設置し、けもの道を利用する動物を確認した。現地状況により各回当たり 1.5 か月程度設置した。また、利用の可能性のある樹洞を確認した際には可能な範囲でカメラを設置し、樹洞の利用状況の確認に努めた。

(ｴ) 巣箱調査

各調査地点に巣箱を 1 地点につき 3 個程度設置し、ヤマネ、モモンガの巣箱利用状況を確認した。月 1 回程度の点検時にヤマネ及びモモンガの個体を確認した場合は、直接個体に触れず、種名、地点名、個体数、巣材の有無等を記載した後、個体及び痕跡があった巣箱に対し自動撮影カメラを設置し、継続した観察を行った。なお、個体及び痕跡が見られなかった巣箱については、適宜地点の変更を行った。

(ｵ) コウモリ類生息状況調査

i. 捕獲調査

捕虫網、手捕り、かすみ網及びハープトラップにて捕獲した個体の種名、性別、個体数等を記録した。また捕獲調査実施中にバットディテクターを使用し、周囲の音声を録音した。

ii. 夜間踏査調査

フルスペクトラム方式のバットディテクターを、車両の運転席側、車両ルーフ、助手席側に設置して、時速 20km/h で走行し、ルート上に設定した 5 地点のうちの 4 地点においてそれぞれ 15 分間停車した。薄暮時の定点においては車外で飛翔個体の有無を記録した。運転席側と助手席側はヘテロダイン方式で入感を確認し、助手席側は入感位置とルート確認の記録に努め、音声は補助的な記録とした。

iii. 音声モニタリング調査

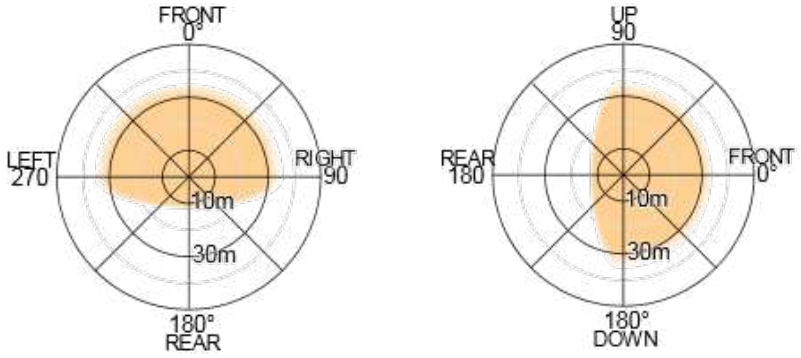
コウモリ類のエコロケーションパルスを可視化できるバットディテクター（Song Meter SM4BAT FS、Wildlife Acoustics 社製）及び適宜エクステンションケーブルと外付けマイクを用いて、高高度の録音調査を 5 地点（風況観測塔 1 地点、樹高棒 4 地点）で実施した。風況観測塔の地点では、高度約 10m と約 50m に、樹高棒の地点では、10m 程度の林冠上にマイクを設置した。

（i）機器設置概要

自動録音機能付きバットディテクター（機種名：SM4bat FS Wildlife Acoustics 社製）を用いた長期間定点観測を実施した。高高度に設置したマイクロフォンを、地上部に設置したコンテナ内の SM4BAT に接続してデータを取得した。電源は車用バッテリーを用い、SM4BAT 等とともに地上部のコンテナ内に収納したが、風況観測塔に設置したものについては太陽光パネルを取付けた状態で据え付けた。また、超音波を録音するマイクロフォンは一定の防水機能があるが、長期間観測に耐えられるように防水機能を高めるよう工夫した。なお、観測時間は毎日 16:00～7:00 とした。

（ii）マイクロフォンの観測可能範囲

取得されたデータが概ねどの程度の範囲で測定されているかを、アブラコウモリを用いて観測した。観測場所は大阪市内とし、コウモリの飛翔を目視で確認の上、その距離をレーザー距離計で測定した。観測した結果を図 8.1.4-2 にまとめた。



注：1. 本図は開放空間におけるアブラコウモリでの観測例を基に作図したものである。
2. オレンジ色の箇所がアブラコウモリの場合に測定可能であると推定された範囲である。

図 8.1.4-2　観察可能範囲イメージ

ｵ. 調査結果

(ｱ) フィールドサイン調査、捕獲調査、自動撮影調査、巣箱調査、コウモリ類生息状況調査（捕獲調査及び夜間踏査調査）

対象事業実施区域及びその周囲における哺乳類の現地調査結果は、表 8.1.4-3 のとおりであり、6 目 15 科 29 種が確認された。

春季に、フィールドサイン調査ではモグラ類、ネズミ類、ニホンジカ等が、捕獲調査ではアカネズミが、自動撮影調査ではツキノワグマ、アナグマ、ニホンジカ、カモシカ等が、巣箱調査ではヒミズが確認された。

夏季に、フィールドサイン調査ではアカネズミ、ヒメネズミ、ニホンジカ等が、捕獲調査ではヒミズ、アカネズミが、自動撮影調査ではツキノワグマ、アナグマ、ニホンジカ、カモシカ等が、巣箱調査ではヤマネ、ヒメネズミ、ネズミ類が確認された。

秋季に、フィールドサイン調査ではニホンリス、ツキノワグマ、ニホンジカ等が、捕獲調査ではヒミズ、アカネズミ、ヒメネズミ等が、巣箱調査ではヤマネ、ヒメネズミが確認された。

冬季に、フィールドサイン調査ではノウサギ、ニホンリス、ニホンジカ、カモシカ等が確認された。

コウモリ類については、捕獲調査においてヒメホオヒゲコウモリ、コテングコウモリが捕獲された。バットディテクターを用いた夜間踏査調査時には、キクガシラコウモリ、チチブコウモリ、コテングコウモリのほか、種の同定には至っていないが、コウモリ目（10～30kHz 帯）、コウモリ目（30～60kHz 帯）が確認された。

表 8.1.4-3　哺乳類の調査結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				確認内容
				春季	夏季	秋季	冬季	
1	モグラ（食虫）	トガリネズミ	ジネズミ			○		死体
2		モグラ	ヒメヒミズ		○			目撃
3			ヒミズ	○	○	○		目撃、捕獲
4			ミズラモグラ		○			死体
5			アズマモグラ		○	○		目撃、坑道
－			モグラ科※1			○		モグラ塚、坑道
－			モグラ類※2	●	●			モグラ塚、坑道
6	コウモリ（翼手）	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ	○	○	○		目撃、バットディテクター
7		ヒナコウモリ	ヒメホオヒゲコウモリ		○	○		捕獲
8			モモジロコウモリ			○		目撃
9			チチブコウモリ		○			バットディテクター
10			コテングコウモリ		○	○		目撃、捕獲
11			コウモリ目（10～30KHz）※3	○	○	○		バットディテクター
－			コウモリ目（30～60KHz）※4	○	●	●		バットディテクター
12	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	○		○	○	食痕、足跡、糞、死体、自動撮影
13	ネズミ（齧歯）	リス	ニホンリス	○	○	○	○	目撃、食痕、足跡、自動撮影
14			ムササビ			○	○	食痕、皮はぎ
15		ヤマネ	ヤマネ		○	○		目撃、自動撮影
16		ネズミ	ヤチネズミ			○		捕獲
17			ハタネズミ			○		捕獲
18			アカネズミ	○	○	○		捕獲、食痕
19			ヒメネズミ		○	○		捕獲、自動撮影
－			ネズミ科※5			●	○	足跡、巣穴
－			ネズミ類※6	●	●			食痕、足跡、土盛、坑道、自動撮影
20	ネコ（食肉）	クマ	ツキノワグマ	○	○	○	○	目撃、食痕、足跡、爪痕、皮はぎ、糞、クマ棚、ねぐら、鳴き声、自動撮影
21		イヌ	タヌキ	○	○	○	○	目撃、足跡、糞、溜糞、自動撮影
22			キツネ		○	○	○	目撃、足跡、糞、自動撮影
23		イタチ	テン（ホンドテン）	○	○	○	○	目撃、足跡、糞、自動撮影
24			ニホンイタチ		○	○	○	足跡、糞
25			アナグマ	○	○	○	○	目撃、足跡、掘り跡、巣穴、自動撮影
26		ジャコウネコ	ハクビシン		○			目撃、足跡、糞、自動撮影
27	ウシ（偶蹄）	イノシシ	イノシシ		○	○	○	足跡、糞、堀り跡、ぬた場
28		シカ	ニホンジカ	○	○	○	○	目撃、死体、食痕、皮はぎ、足跡、寝跡、角研ぎ痕、落角、糞、鳴き声、シカ道、自動撮影
29		ウシ	カモシカ	○	○		○	目撃、足跡、糞、溜糞、自動撮影
－		－	ウシ目※7		●		●	食痕、採餌跡、足跡、角研ぎ痕、糞、けもの道
合計	6 目	15 科	29 種	13 種	23 種	25 種	13 種	－

注：1. 種名及び配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和 7 年度生物リスト」（国土交通省　河川水辺の国勢調査 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に準拠した。

2. 「～目」、「～科」、「～類」としたもののうち、他種と重複する可能性があるものについては、種数の合計から除外した。ここでは「●」が計数しない種に該当する。

3. ※については以下のとおりである。

※1：モグラ科については、坑道及び塚での確認であり、種の同定には至らなかったが、分布状況等によりアズマモグラ及びヒミズの可能性がある。

※2：モグラ類については、坑道及び塚での確認であり、種の同定には至らなかったが、分布状況等によりアズマモグラ及びミズラモグラの可能性がある。

※3：コウモリ目（10～30kHz）については、バットディテクターでの確認であり、種の同定には至らなかったが、周波数帯及び分布状況等により、ヤマコウモリ、ヒメヒナコウモリ、ヒナコウモリ、オヒキコウモリの可能性がある。

※4：コウモリ目（30～60kHz）については、バットディテクターでの確認であり、種の同定には至らなかったが、周波数帯及び分布状況等により、ヒメホオヒゲコウモリ、カグヤコウモリ、モモジロコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、ノレンコウモリ、モリアブラコウモリ、アブラコウモリ、クロオオアブラコウモリ、コヤマコウモリ、チチブコウモリ、ニホンウサギコウモリ、ユビナガコウモリ、コテングコウモリ、テングコウモリの可能性がある。

※5：ネズミ科は巣穴及び足跡の確認であり、種の同定には至らなかったが、分布状況等によりアカネズミ及びヒメネズミの可能性がある。
※6：ネズミ類はヤマネ・モモンガ調査巡回中の確認であり、種の同定には至らなかったが、分布状況等によりアカネズミ及びヒメネズミの可能性がある。
※7：ウシ目は足跡等の確認であり、種の同定には至らなかったが、分布状況等によりカモシカの可能性がある。

巣箱調査結果は、表 8.1.4-4 のとおりである。令和 7 年 4 月 18 日に各地点において複数個数の巣箱を設置し、11 月 23～24 日及び 11 月 29 日に巣箱を回収した。

6 月に YM2 においてネズミ類の巣材の確認及びコガラの利用痕跡があったが、5 月～7 月の点検時にはヤマネの痕跡等はなかった。8 月の点検時には、YM1 でダケカンバの実生及び木のくずを細かく敷き詰めた巣材を確認した巣箱から飛び出すヤマネが確認され、YM2 においても巣材が確認された。9 月の点検時には、YM1 及び YM2 で巣材が確認されたが、個体の確認はなかった。10 月の点検時には、YM１において巣材の中でじっとしている個体が確認され、YM2、YM3 及び YM4 では巣材が確認された。11 月 17 日の点検時に YM1 で巣材及び越冬状態（睡眠中）のヤマネが確認されたが、それ以外の巣箱については痕跡等の確認がなかったことから、同月 23～24 日にヤマネが確認された YM1 の巣箱以外を回収した。なお、ヤマネが確認された YM1 の巣箱については、29 日に再確認したところ個体の確認がなかったため、巣箱を回収した。

表 8.1.4-4　哺乳類の調査結果（巣箱調査）

調査地点		YM1	YM2	YM3	YM4
設置環境		広葉樹林 （ミズナラ群落）	植林地 （カラマツ植林）	広葉樹林 （ミズナラ群落）	河辺 （ヤマハンノキ群落）
令和7年	4 月 18 日	・巣箱設置	・巣箱設置	・巣箱設置	・巣箱設置
	5 月 26-27 日	・痕跡等なし	・痕跡等なし	・痕跡等なし	・痕跡等なし
	6 月 28-29 日	・痕跡等なし	・2 か所で、ネズミ類の巣材確認あり ・1 か所で、コガラの利用痕跡あり	・痕跡等なし ・モモンガ巣箱 2 か所で、ツキノワグマ被害あり	・痕跡等なし ・モモンガ巣箱 1 か所で、ツキノワグマ被害あり
	7 月 28-29 日	・痕跡等なし	・痕跡等なし	・痕跡等なし	・痕跡等なし
	8 月 28-29 日	・1 か所で、ヤマネの目撃及び巣材の確認あり ・1 か所でヒメネズミの巣材確認あり	・2 か所で、ヤマネの巣材確認あり。 ・2 か所でヒメネズミの巣材確認あり	・3 か所で、ヒメネズミの巣材確認あり	・1 か所で、ヒメネズミの巣材確認あり ・モモンガ巣箱で、ツキノワグマ被害あり
	9 月 29-30 日	・1 か所で、ヤマネの巣材確認あり ・2 か所で、ヒメネズミの巣材確認あり	・2 か所で、ヤマネの巣材確認あり ・2 か所で、ヒメネズミの巣材確認あり	・3 か所で、ヒメネズミの巣材確認あり	・2 か所で、ヒメネズミの巣材確認あり
	10 月 30-31 日	・1 か所で、ヤマネの目撃及び巣材確認あり	・2 か所で、ヤマネの巣材確認あり	・2 か所で、ヤマネの巣材確認あり ・2 か所で、ヒメネズミの巣材確認あり	・2 か所で、ヤマネの巣材確認あり ・1 か所で、破損あり
	11 月 17 日	・1 か所で、ヤマネの目撃及び巣材確認あり	・痕跡等なし	・痕跡等なし	・痕跡等なし
	11 月 23-24 日	・ヤマネを確認した YM1 の巣箱 1 か所を除いてそれ以外の巣箱をすべて回収。			
	11 月 29 日	・ヤマネの確認がなかったため、巣箱を回収	－	－	－

(ｲ) コウモリ類生息状況調査（音声モニタリング調査）

ⅰ. 解析方法

音声モニタリング調査に用いたバットディテクター（SM4BAT FS）は、自動録音機能付きであり、一定の音圧レベル以上になると自動録音し記録する仕組みとなっている。バットディテクター（SM4BAT FS）の設定条件は表 8.1.4-5 のとおりである。

表 8.1.4-5 SM4BAT FS の設定条件

項目	設定条件
Gain	12 デシベル
16k high filter	Off
Sample rate	192kHz
Min duration	1.5ms
Max duration	None
Min trig freq	12kHz
Trigger level	12 デシベル
Trigger window	3sec
Max length	15s

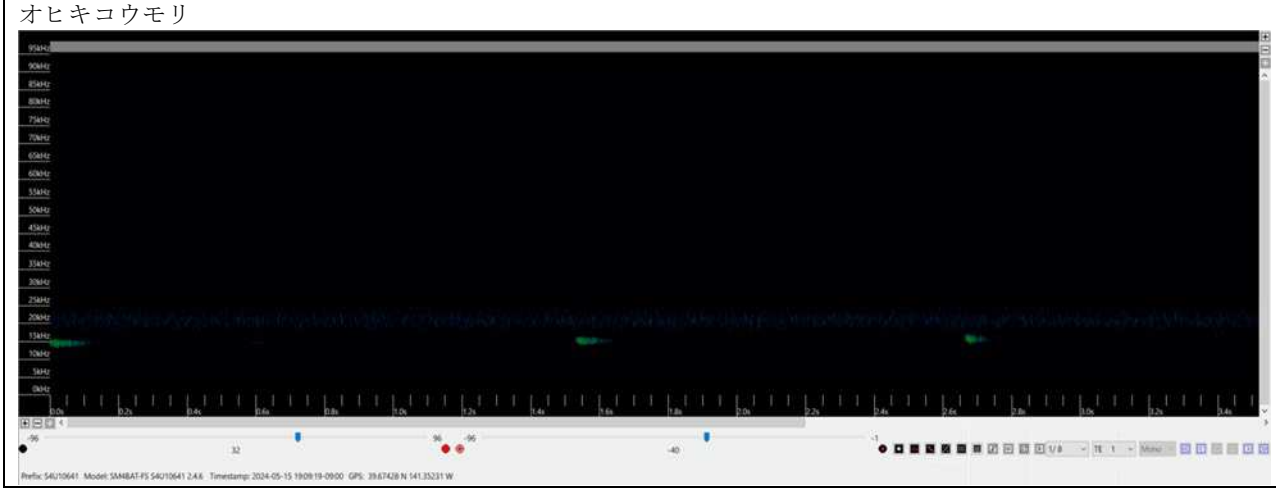
自動録音を開始後、3 秒間音声が入らなくなるまでの間が 1 ファイルとして.wav 形式で保存される（1 ファイルの最大録音時間は 15 秒）。これを専用の解析ソフトで読み込み、コウモリ類の周波数を可視化して、主たる周波数から 5 つにグループ分けし、確認回数や時刻を記録及び集計することにより整理した。

得られた周波数の形状から、5 つのグループ（10～20kHz のパルスを発する種群、20～30kHz の種群、30～60kHz の種群、60～80kHz の種群、80～120kHz の種群）に区分し、判読したエコロケーションがどれに該当するかを一覧表に記載した。波形のサンプルは図 8.1.4-3 のとおりである。すべての周波数で種までの特定は困難であったことから、前述の 5 区分として整理した。データ中に含まれていると考えられる種としては、10～20kHz ではオヒキコウモリ、20～30kHz では高空を飛翔するヒナコウモリ、ヤマコウモリ等、30～60kHz では林内（低空）及び高空を飛翔するニホンウサギコウモリ、アブラコウモリ、ユビナガコウモリ、ヒメホオヒゲコウモリ等、60～80kHz では林内（低空）を飛翔するキクガシラコウモリ、80～120kHz ではコキクガシラコウモリがあげられる。

また、それぞれのグループでの時刻別の観測事例数を比較した。

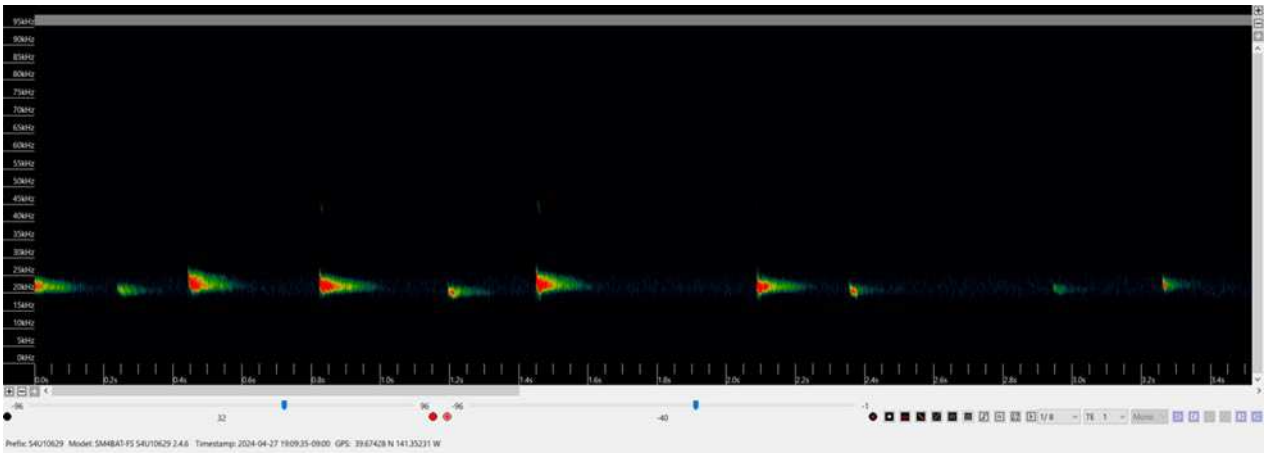
・10～20kHz

オヒキコウモリ

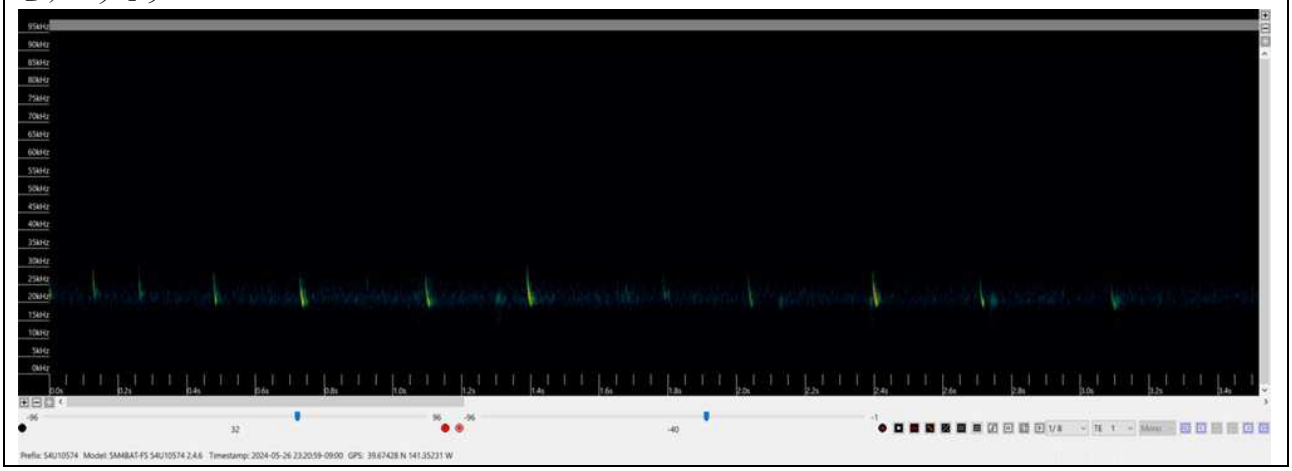


・20～30kHz

ヤマコウモリ



ヒナコウモリ

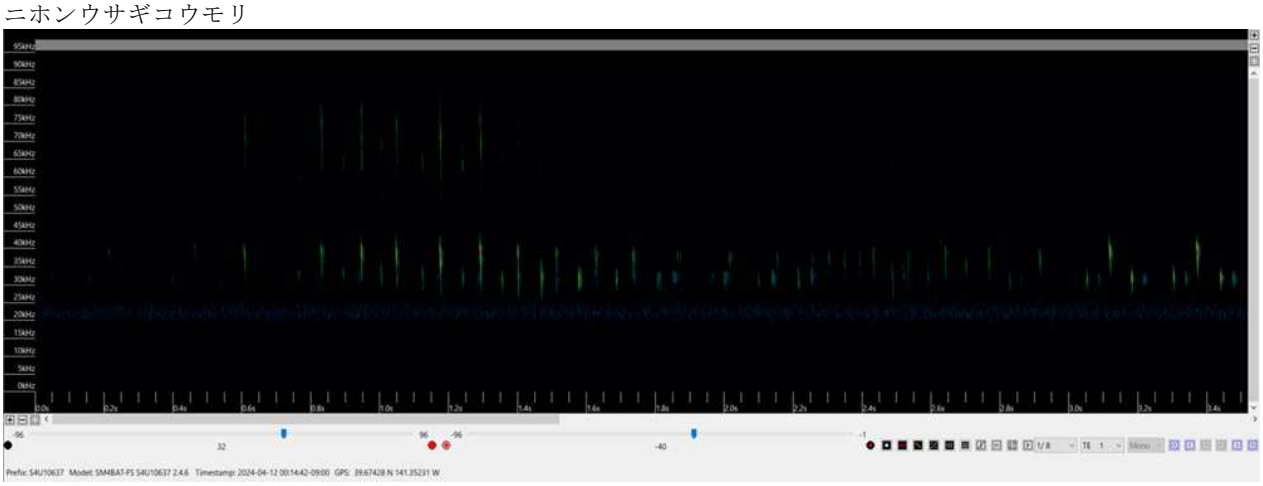


注：それぞれの図の縦軸は周波数（kHz）を、横軸は秒数（s）を示す。

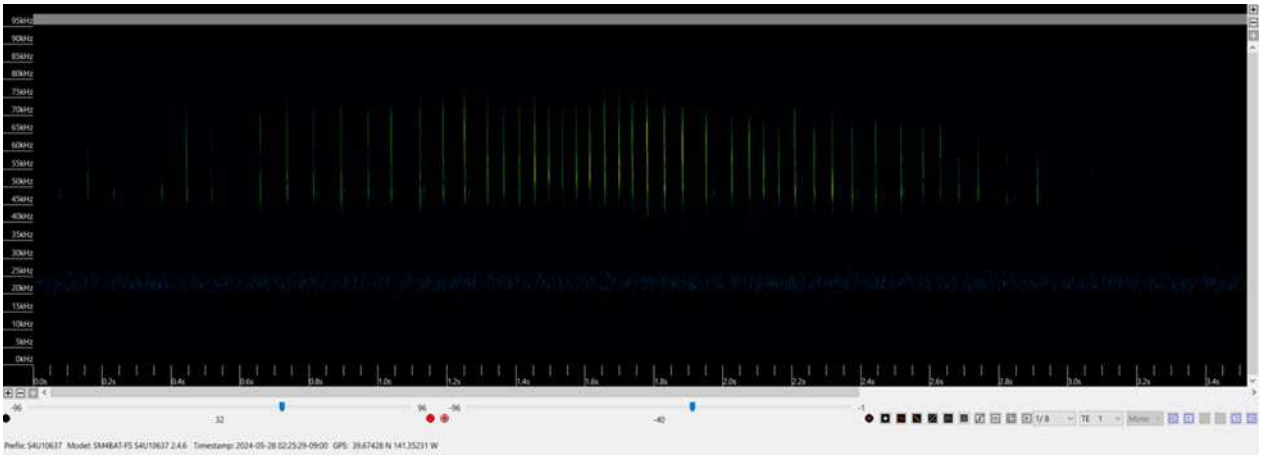
図 8.1.4-3(1)　エコロケーションパルス例

・30～60kHz

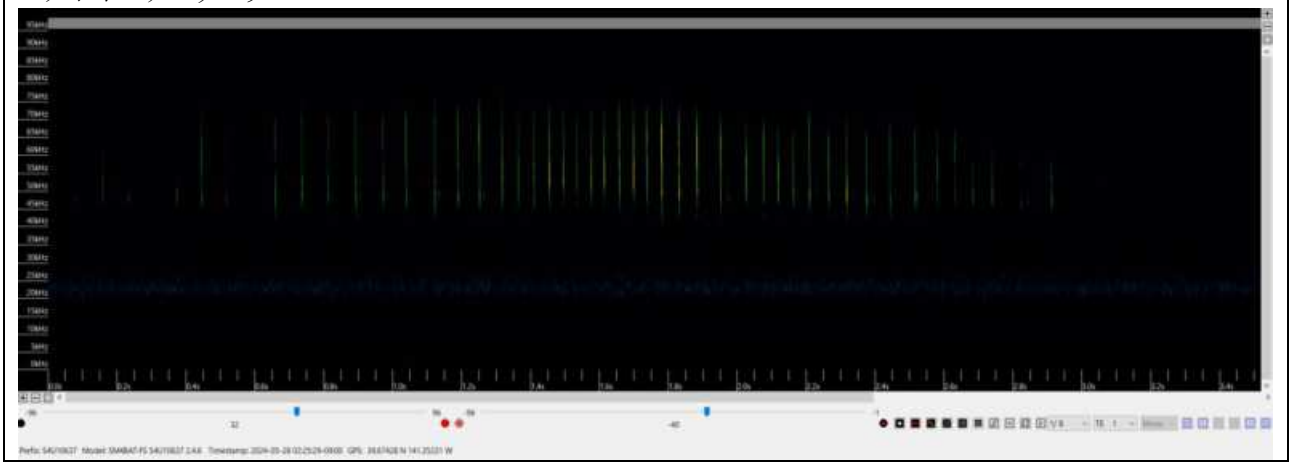
ニホンウサギコウモリ



アブラコウモリ



ヒメホオヒゲコウモリ

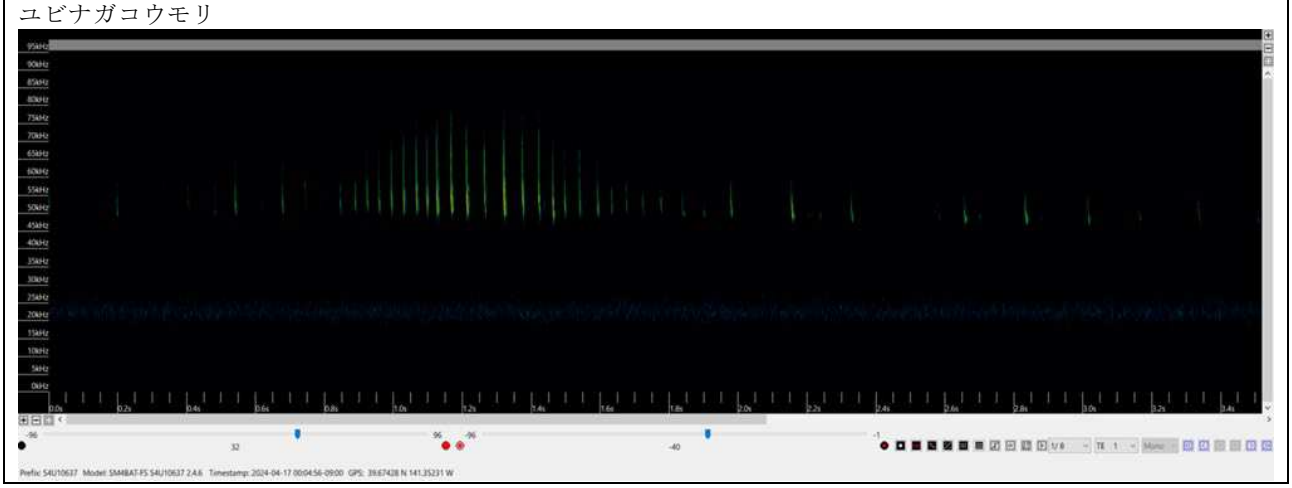


注：それぞれの図の縦軸は周波数（kHz）を、横軸は秒数（s）を示す。

図 8.1.4-3(2)　エコロケーションパルス例

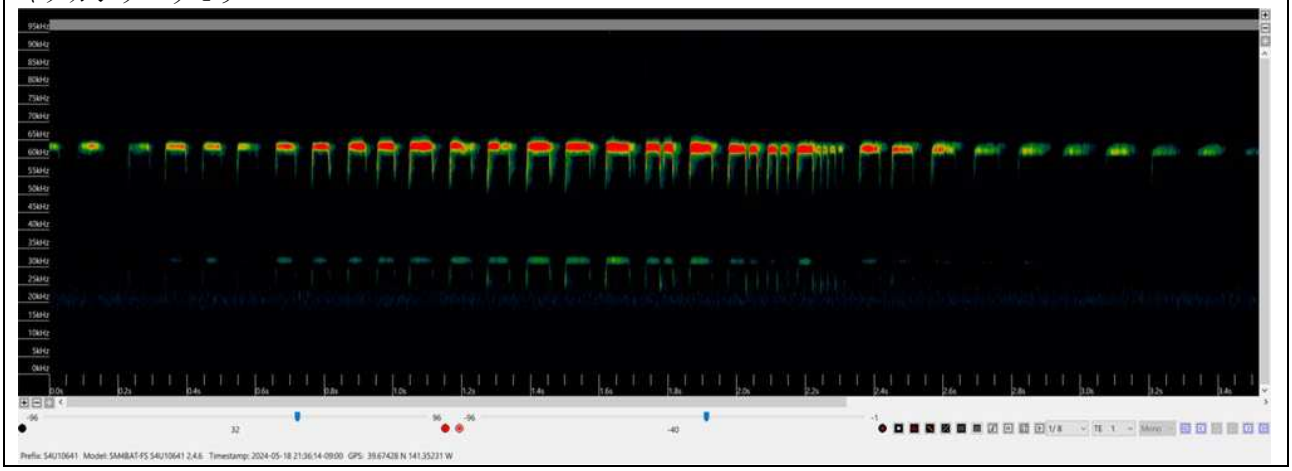
・30～60kHz

ユビナガコウモリ



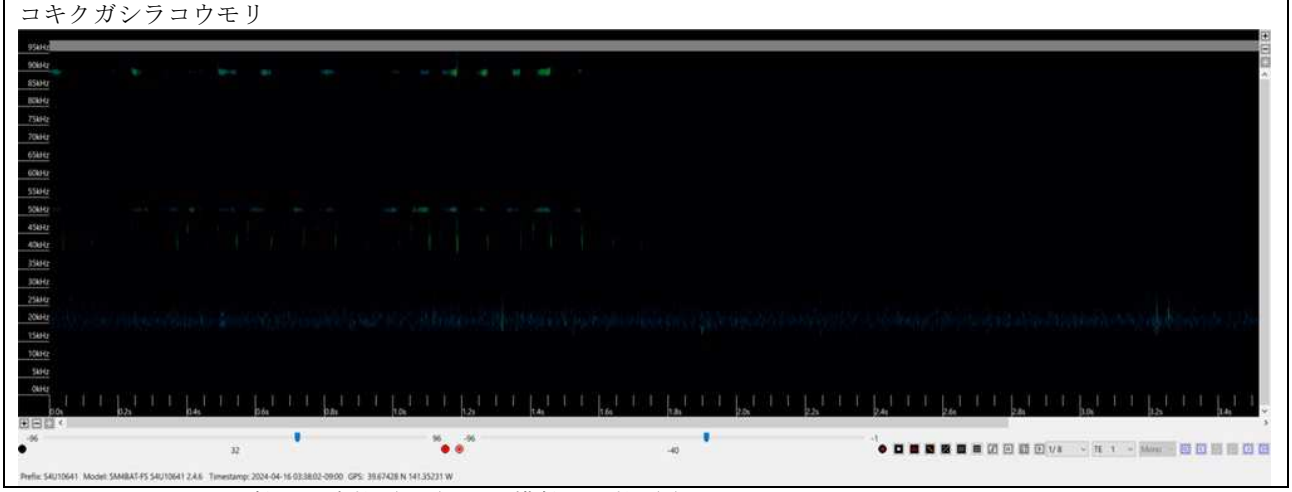
・60～80 kHz

キクガシラコウモリ



・80～120kHz

コキクガシラコウモリ



注：それぞれの図の縦軸は周波数（kHz）を、横軸は秒数（s）を示す。

図 8.1.4-3(3)　エコロケーションパルス例

ii. **解析結果**

記録した例数は、集音マイク周辺を飛翔したカウント数となるため、調査に使用した機材の性質上、機材周辺を長時間飛翔している個体については何度も記録されてしまうため生息個体数の記録とは異なる。そのため、生息個体数として判断ができないが、生息の有無及び行動時期については、本調査結果より推測が可能である。各調査地点における観測事例数及び確認日数は表 8.1.4-6 のとおりである。

5 地点で 225 日間調査した結果、コウモリ類の通過事例として合計 123,633 例が確認された。種群ごとでみると、10～20kHz は 712 例、20～30kHz は 60,206 例、30～60kHz は 58,679 例、60～80kHz は 3,770 例、80～120kHz は 266 例であった。

20～30kHz の種群のみでみると BD1 の 50m で 12,548 例、BD2 で 15,132 例、BD3 で 12,916 例、BD4 で 4,914 例、BD5 で 5,418 例となり、BD2 と BD3 では 20～30kHz の頻度が高く、BD4 と BD5 は相対的に頻度が低かった。また、30～60kHz の種群のみでみると BD1 の 50m で 451 例、BD2 で 20,330 例、BD3 で 20,662 例、BD4 で 10,007 例、BD5 で 4,708 例となり、BD2 と BD3 では 30～60kHz の頻度が高く、BD1 では相対的に頻度が低かった。(BD1 の 10m と 50m はダブルカウントが含まれている可能性があるため、ブレード回転域の 50m のみを参照した)。

調査日ごとの観測事例数は図 8.1.4-4～図 8.1.4-9 のとおりである。

10～20kHz では秋に確認がみられる。BD2、BD3 及び BD4 では、9 月下旬から 10 月上旬もしくは中旬にかけて確認がみられる。BD1 の 50m では 6 月上旬から 7 月中旬にかけて多くはないが確認がみられ、その他の調査地点では時々わずかに確認がみられる。

20～30kHz では夏から秋にかけて多くみられる。BD1 の 10m 及び BD2 では、6 月上旬から 8 月上旬にかけて、BD1 の 50m では 7 月下旬に減少するものの 6 月上旬から 10 月中旬にかけて、BD3、BD4 及び BD5 では 8 月中旬から 10 月中旬にかけて多くみられる。

30～60kHz では春もしくは夏から秋にかけて多くみられる。BD1 の 10m 及び BD2 では、7 月下旬に一旦下がるものの 6 月上旬から 8 月上旬にかけて、BD1 の 50m では 8 月上旬から 10 月中旬にかけて、BD3 と BD5 では 5 月上旬から 9 月中旬もしくは 10 月下旬にかけて、BD4 では 4 月上旬から 7 月中旬と 9 月下旬から 11 月上旬にかけて多くみられる。

60～80kHz では 30～60kHz 程ではないが春から秋にかけて確認がみられる。BD1 の 10m では 4 月下旬から 5 月上旬、6 月中旬から 7 月中旬にわずかに、BD2 は 4 月下旬から 10 月中旬にかけて、BD3 では 5 月及び 8 月上旬から 10 月下旬にかけて、BD4 では 4 月中旬から 6 月中旬と 7 月中旬、9 月下旬から 10 月中旬にかけて、BD5 では 5 月上旬から 7 月中旬と 9 月下旬から 10 月上旬にかけて確認がみられる。BD1 の 50m では確認がみられなかった。

80～120kHz では秋での確認がみられる。BD4 及び BD5 ではわずかで、BD2 及び BD3 で 9 月上旬もしくは中旬から 10 月上旬にかけて確認がみられる。BD1 は 10m、50m ともに確認がみられなかった。

各月の時刻別での観測事例数は図 8.1.4-10～図 8.1.4-15 のとおりである。いずれの地点でも大きな傾向は変わらず、21 時～22 時、1 時～3 時に多く確認がみられた。

風速別に、出現しやすいかどうかを示すには、風速ごとのコウモリの出現例数をその風速の観測回数で割る必要がある。例えば、観測期間中、その地域で風速 5m/s の風が頻

繁に観測されれば、風速 5m/s でコウモリの観測が多いのは当然である。同じ「10 例確認された」でも、「風が 100 回吹く間に 10 例確認された」というのと「風が 200 回吹く間に 10 例確認された」というのでは意味合いが違う。

風速の観測回数によるコウモリ類の出現例数のばらつきをなくすため、図 8.1.4-16～図 8.1.4-21 の右列の図のとおり、（各風速におけるコウモリ類の確認事例数）/（実測した 10 分間平均風速の観測回数）として風速階級 1 回当たりのコウモリ類の確認事例数を示した。なお、実測した 10 分間平均風速については、風況観測塔で観測した高度の平均風速値から設置高度の推定値を算出したものを使用した。

その結果、地点ごとの風速階級 1 回当たりのコウモリ類の確認例数が多かったのは、BD1（風況観測塔）10m においては風速 4～5m/s の 20～30kHz で 0.560 例、BD1（風況観測塔）50m においては風速 0～1m/s の 20～30kHz で 0.960 例、BD2（樹高棒）10m においては風速 2～3m/s の 30～60kHz で 1.240 例、BD3（樹高棒）10m においては風速 1～2m/s の 30～60kHz で 1.371 例、BD4（樹高棒）10m においては風速 4～5m/s の 30～60kHz で 0.608 例、BD5（樹高棒）10m においては風速 0～1m/s の 20～30kHz で 0.428 例であった。

また、風速と同様に図 8.1.4-22～図 8.1.4-27 のとおり、10 分間平均気温とコウモリの観測事例数との関係を示した。なお、気温については深夜帯の気温が日周活動に影響することから、風況観測塔で観測した平均気温のうち 23 時のデータを使用した。

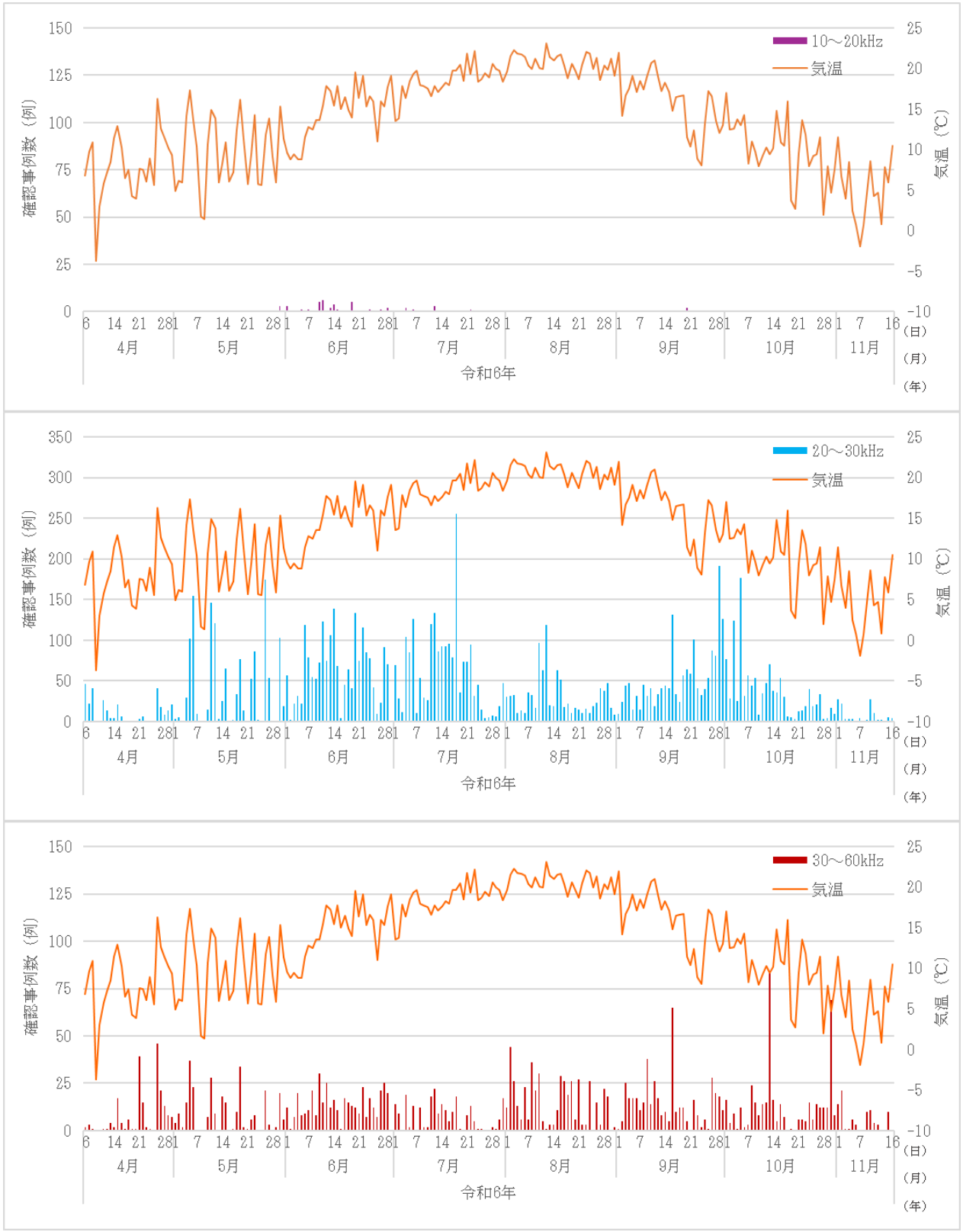
その結果、BD2（樹高棒）10m の 4～5℃において 30～60kHz で 2.477 例を記録したものの、その他の地点においては BD1（風況観測塔）10m の 13～14℃において 20～30kHz で 0.918 例、BD1（風況観測塔）50m の 22℃において 20～30kHz で 1.145 例、BD3（樹高棒）10m の 15～16℃において 30～60kHz で 2.146 例、BD4（樹高棒）10m の 12～13℃において 30～60kHz で 1. 070 例、BD5（樹高棒）10m の 18～19℃において 20～30kHz で 0.822 例であった。BD2（樹高棒）10m については、16～17℃でも 30～60kHz で 2.319 例と高頻度であったことから、当該地域では概ね 11～22℃の気温でコウモリが活発に活動していると思われる。

表 8.1.4-6　各高度のコウモリ類の観測事例数及び確認日数

地点名	設置方法	設置高度(m)	観測日数(日)	10～20kHz		20～30kHz		30～60kHz	
				確認事例数(例)	確認日数(日)	確認事例数(例)	確認日数(日)	確認事例数(例)	確認日数(日)
BD1	風況観測塔	10m	225	44	18	9,278	210	2,521	198
		50m	225	49	25	12,548	209	451	103
BD2	樹高棒	10m	225	116	21	15,132	209	20,330	204
BD3	樹高棒	10m	225	60	22	12,916	191	20,662	191
BD4	樹高棒	10m	225	434	41	4,914	198	10,007	199
BD5	樹高棒	10m	225	9	6	5,418	181	4,708	180
合計	－	－	－	712	－	60,206	－	58,679	－

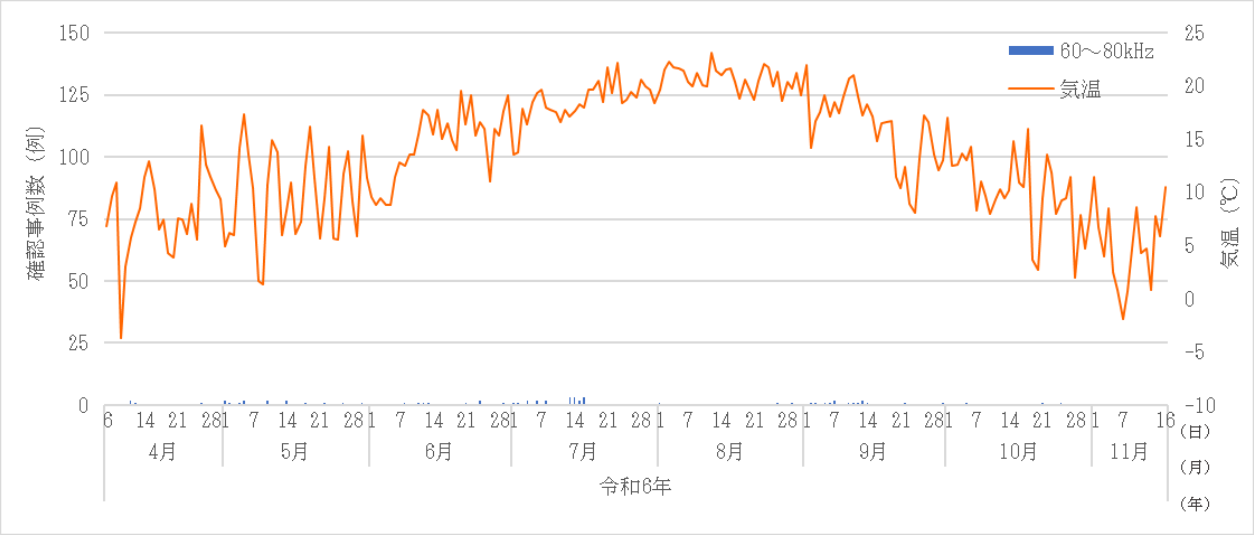
地点名	設置方法	設置高度(m)	観測日数(日)	60～80kHz		80～120kHz		総計	
				確認事例数(例)	確認日数(日)	確認事例数(例)	確認日数(日)	確認事例数(例)	確認日数(日)
BD1	風況観測塔	10m	225	65	47	0	0	11,908	216
		50m	225	0	0	0	0	13,048	209
BD2	樹高棒	10m	225	436	129	44	13	36,058	218
BD3	樹高棒	10m	225	2,247	125	210	23	36,095	199
BD4	樹高棒	10m	225	669	101	11	8	16,035	214
BD5	樹高棒	10m	225	353	94	1	1	10,489	196
合計	－	－	－	3,770	－	266	－	123,633	－

注：観測事例数はコウモリ類の観測事例を、確認日数は観測期間中にコウモリ類が確認された日数を示す。



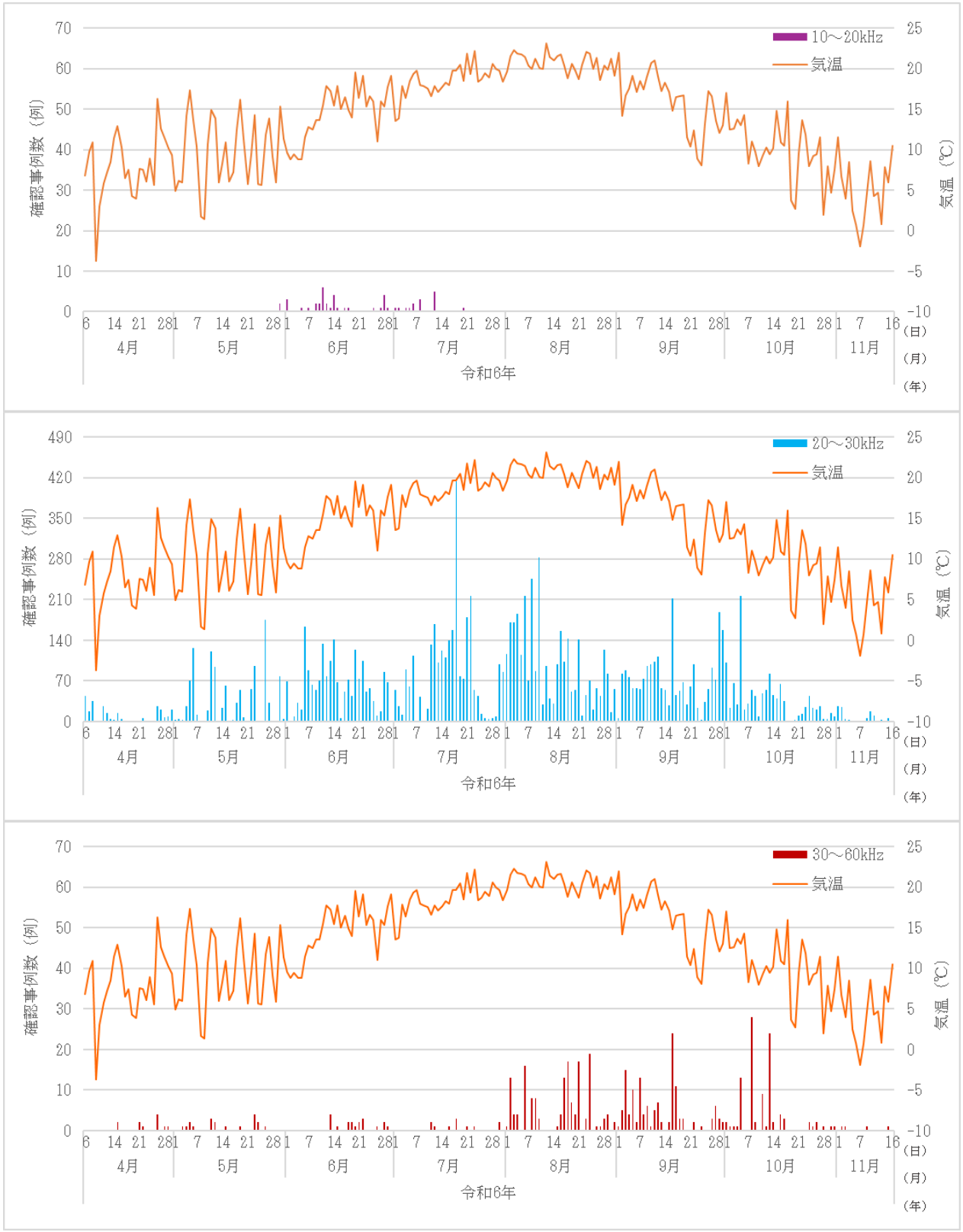
注：1. 縦軸は観測事例数を、横軸は観測日を示す。
2. 深夜帯の気温が日周活動に影響することから、23 時の気温を採用した。

図 8.1.4-4(1)　調査日ごとの観測事例数（BD1：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）



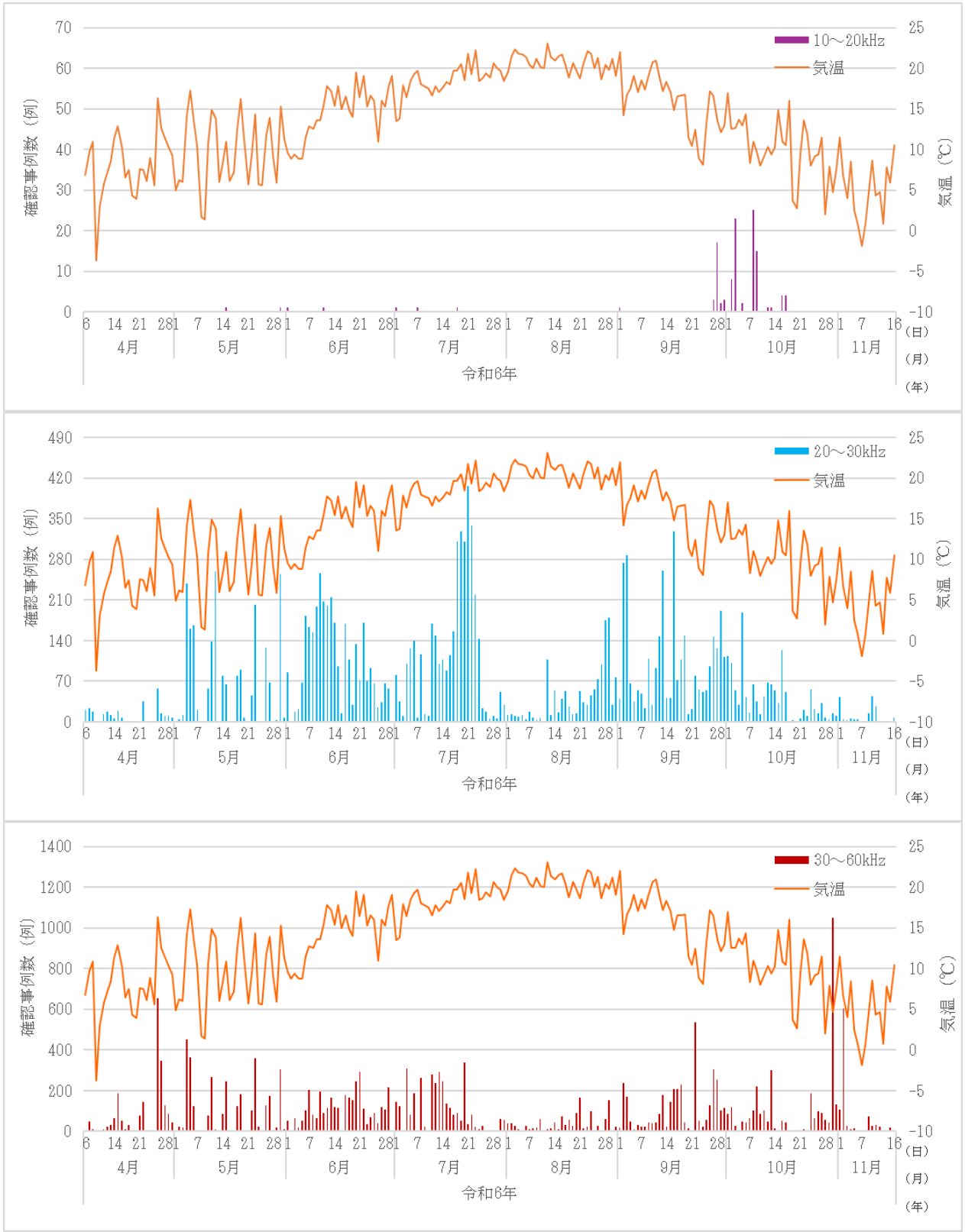
注：1. 縦軸は観測事例数を、横軸は観測日を示す。
2. 深夜帯の気温が日周活動に影響することから、23 時の気温を採用した。
3. 80～120kHz のコウモリ目は確認事例数が 0 例であったことからグラフは非作成とした。

図 8.1.4-4(2)　調査日ごとの観測事例数（BD1：10m　60～80kHz）



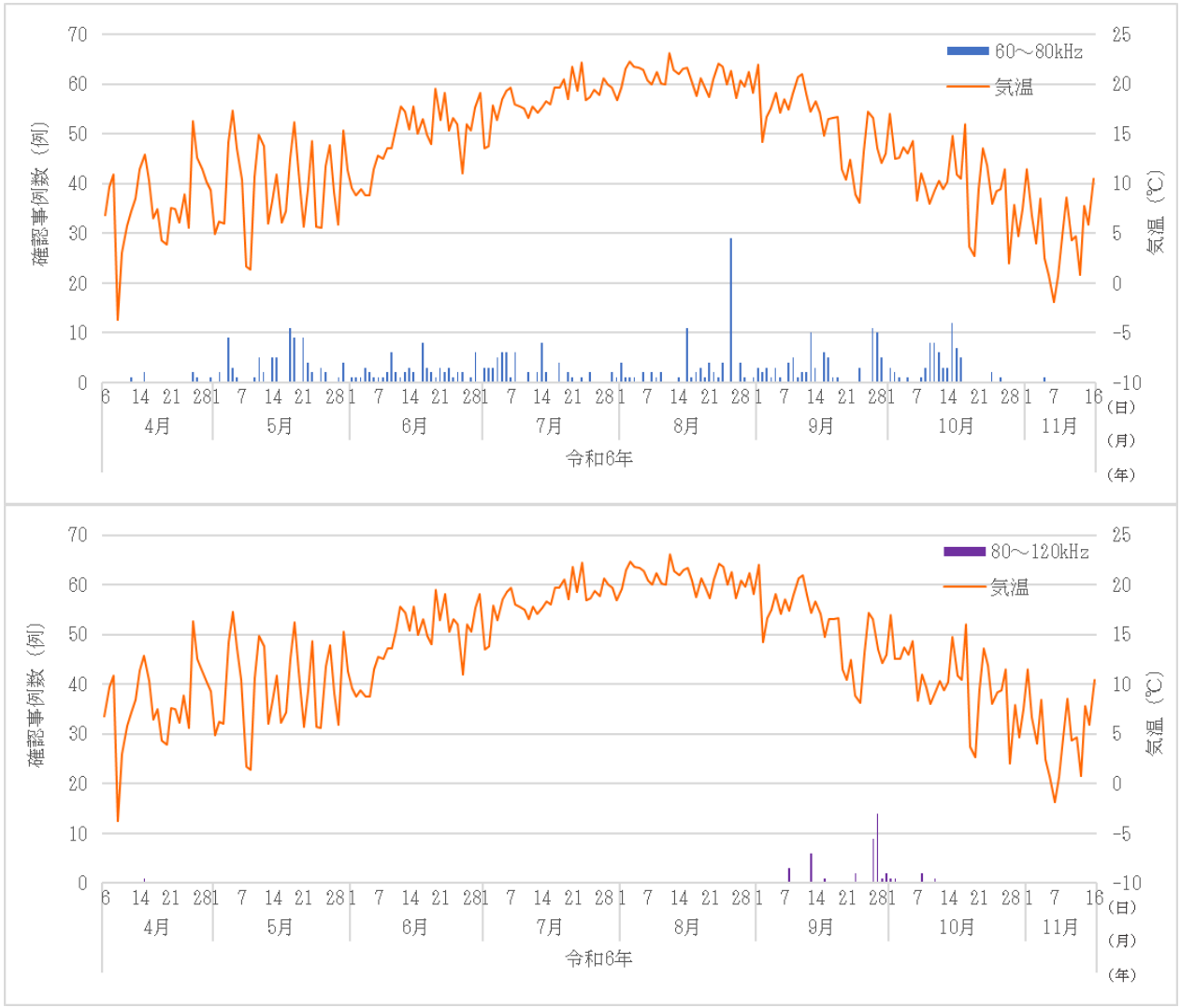
注：1. 縦軸は観測事例数を、横軸は観測日を示す。
2. 深夜帯の気温が日周活動に影響することから、23 時の気温を採用した。
3. 60～80kHz 及び 80～120kHz のコウモリ目は確認事例数が 0 例であったことからグラフは非作成とした。

図 8.1.4-5　調査日ごとの観測事例数（BD1：50m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）



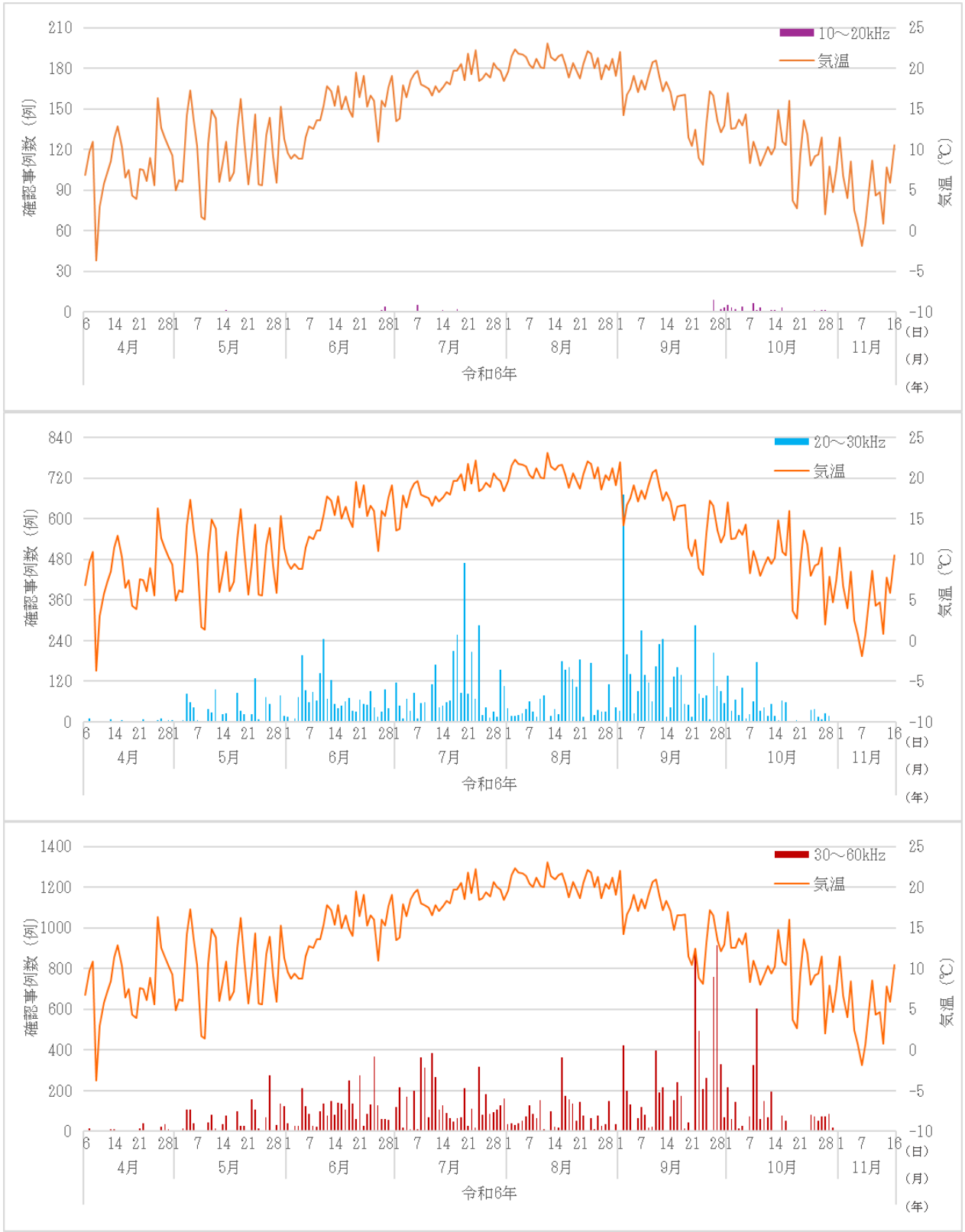
注：1. 縦軸は観測事例数を、横軸は観測日を示す。
2. 深夜帯の気温が日周活動に影響することから、23 時の気温を採用した。

図 8.1.4-6(1)　調査日ごとの観測事例数（BD2：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）



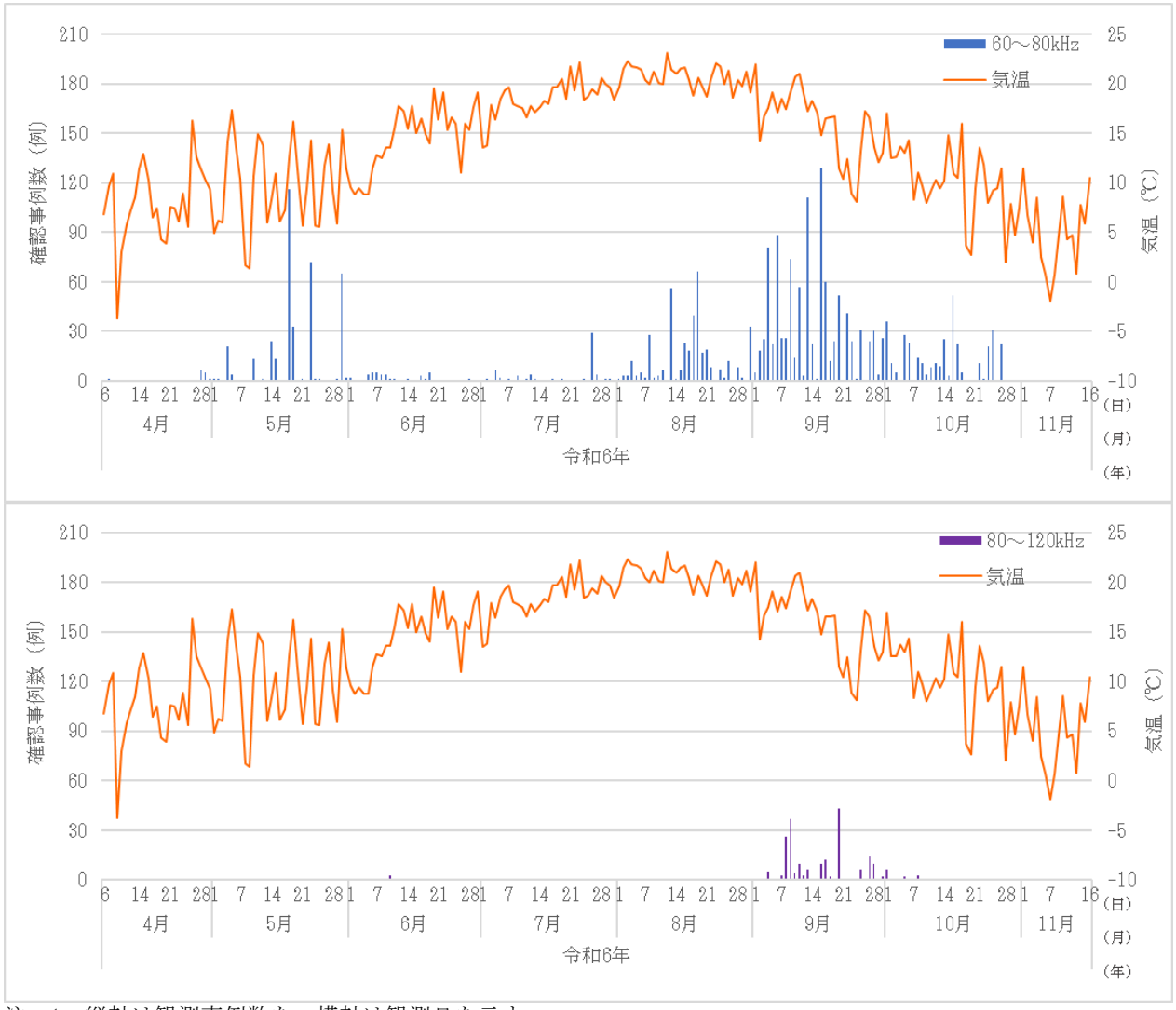
注：1. 縦軸は観測事例数を、横軸は観測日を示す。
2. 深夜帯の気温が日周活動に影響することから、23 時の気温を採用した。

図 8.1.4-6(2)　調査日ごとの観測事例数（BD2：10m　60～80kHz、80～120kHz）



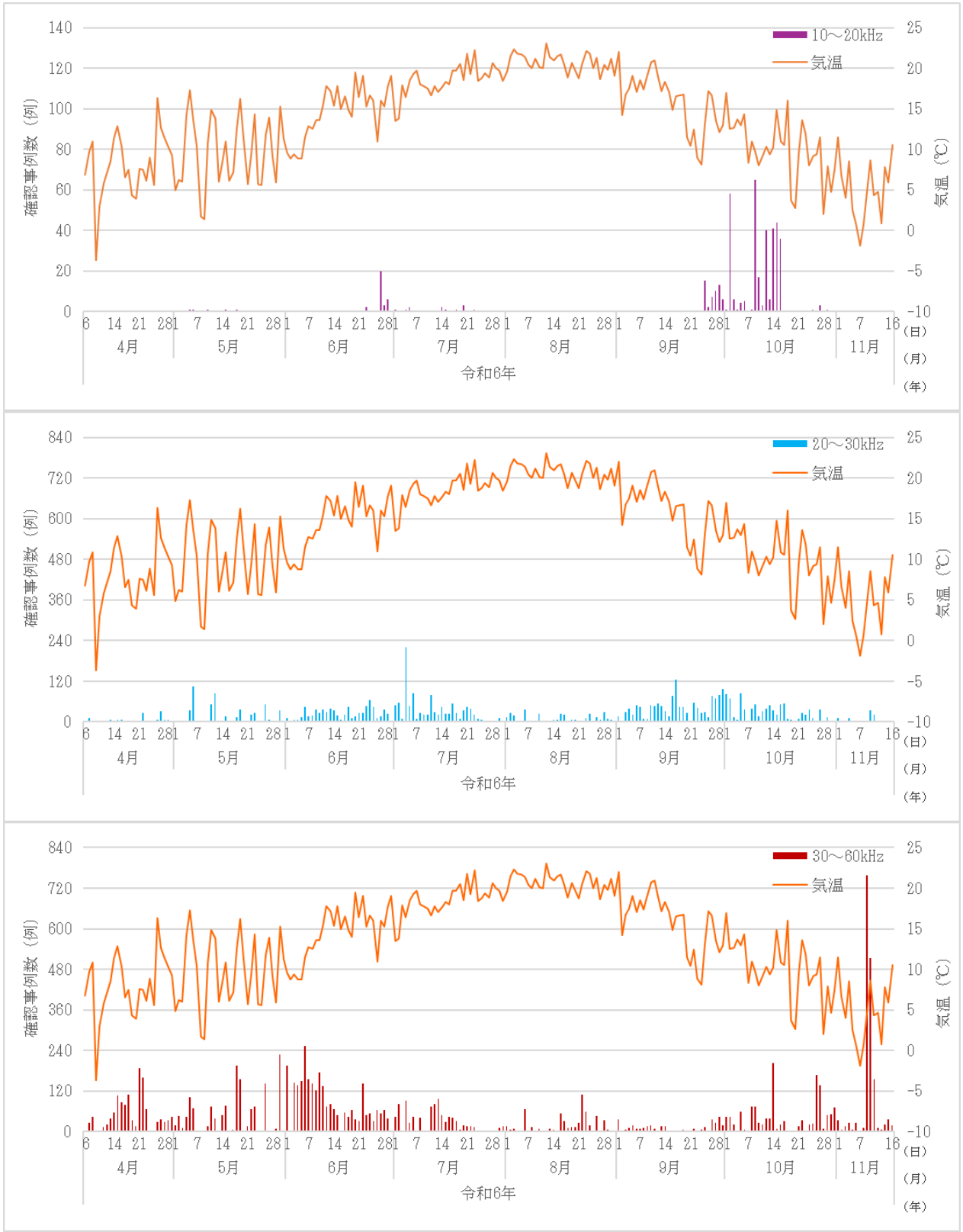
注：1. 縦軸は観測事例数を、横軸は観測日を示す。
2. 深夜帯の気温が日周活動に影響することから、23 時の気温を採用した。

図 8.1.4-7(1)　調査日ごとの観測事例数（BD3：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）



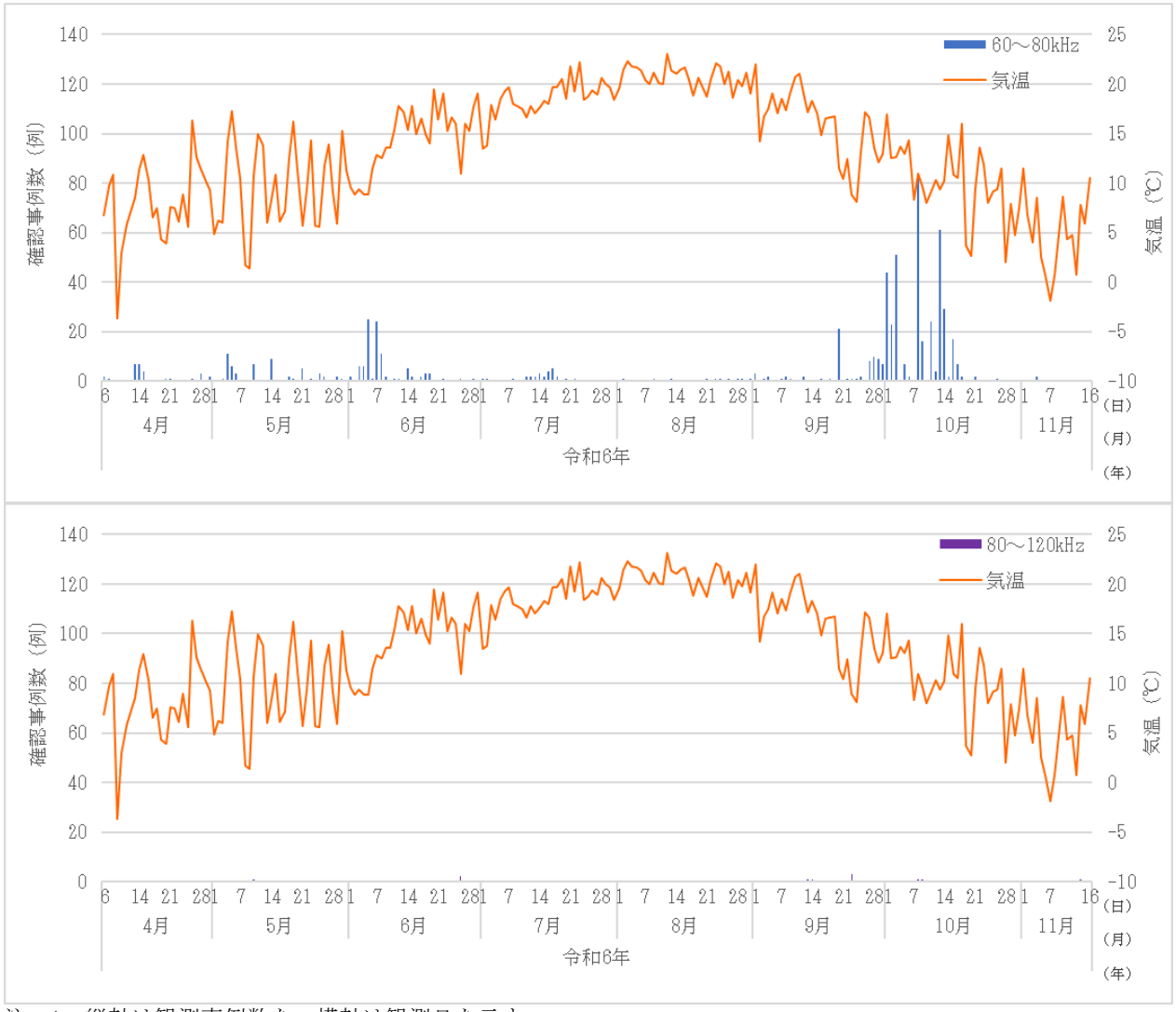
注：1. 縦軸は観測事例数を、横軸は観測日を示す。
2. 深夜帯の気温が日周活動に影響することから、23 時の気温を採用した。

図 8.1.4-7(2)　調査日ごとの観測事例数（BD3：10m　60～80kHz、80～120kHz）



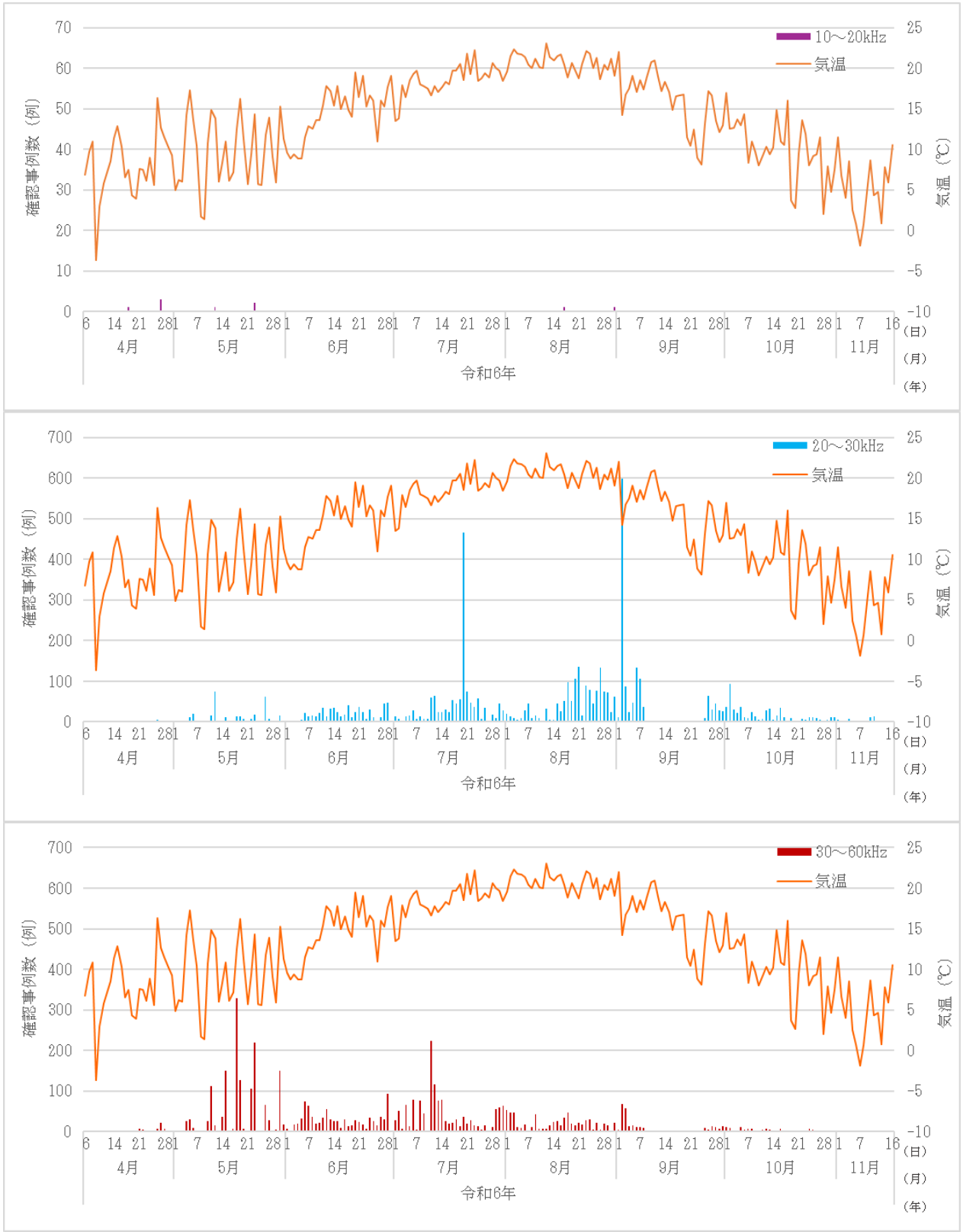
注：1. 縦軸は観測事例数を、横軸は観測日を示す。
2. 深夜帯の気温が日周活動に影響することから、23 時の気温を採用した。

図 8.1.4-8(1)　調査日ごとの観測事例数（BD4：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）



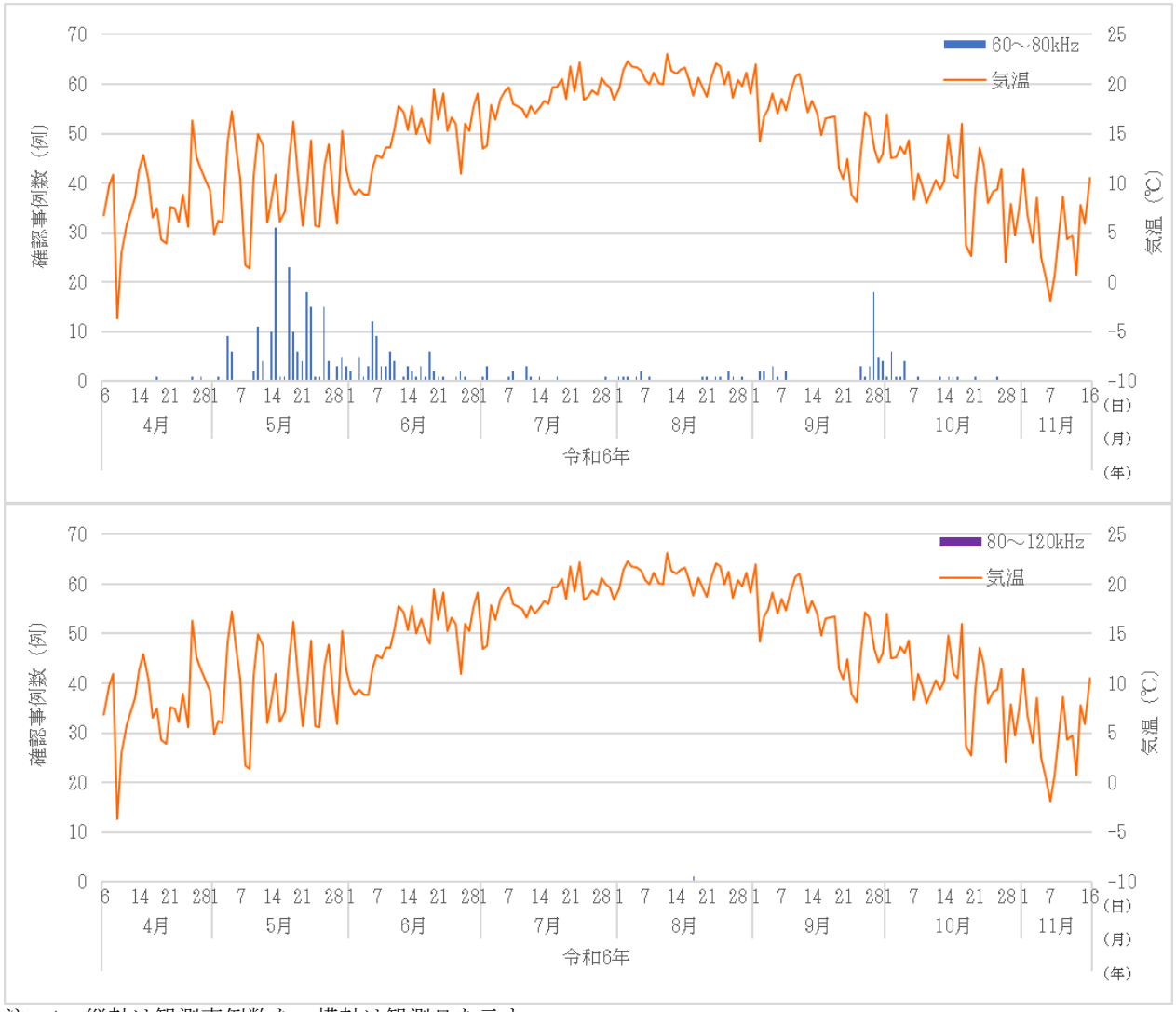
注：1. 縦軸は観測事例数を、横軸は観測日を示す。
2. 深夜帯の気温が日周活動に影響することから、23 時の気温を採用した。

図 8.1.4-8(2)　調査日ごとの観測事例数（BD4：10m　60～80kHz、80～120kHz）



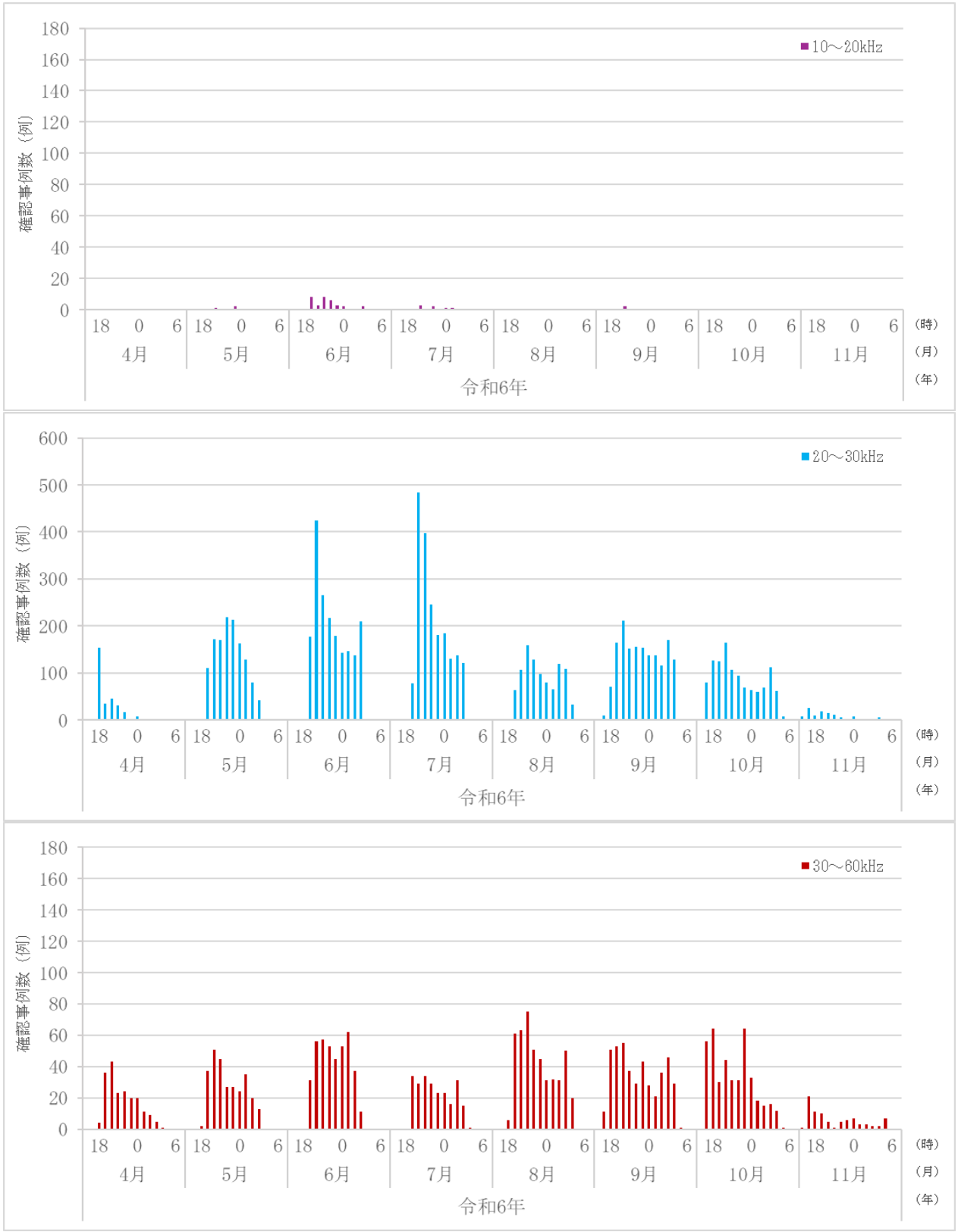
注：1. 縦軸は観測事例数を、横軸は観測日を示す。
2. 深夜帯の気温が日周活動に影響することから、23 時の気温を採用した。

図 8.1.4-9(1)　調査日ごとの観測事例数（BD5：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）



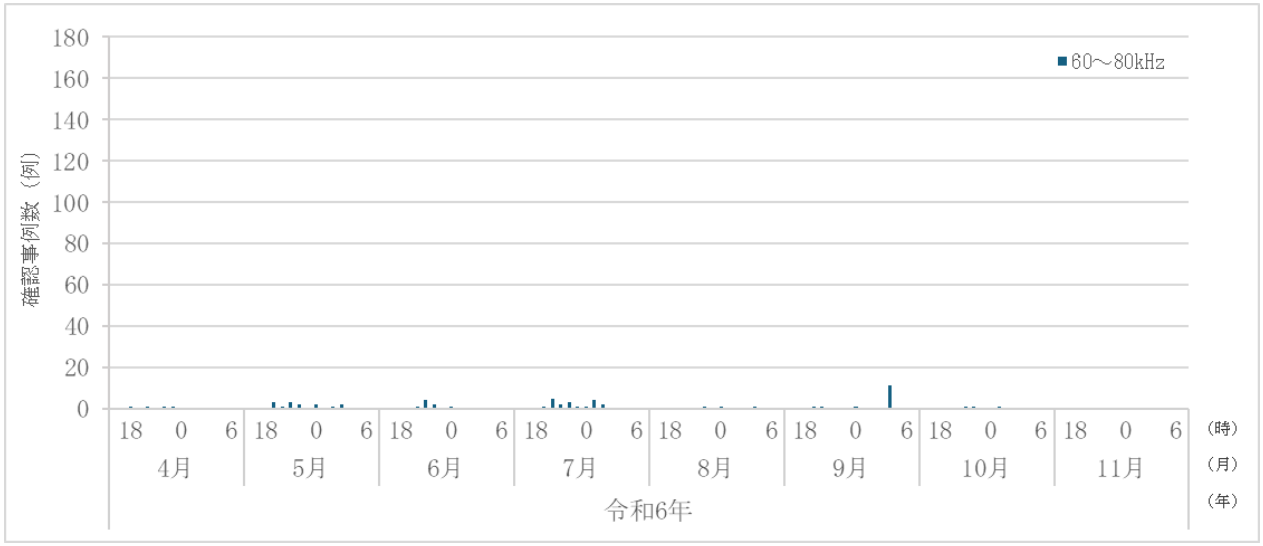
注：1. 縦軸は観測事例数を、横軸は観測日を示す。
2. 深夜帯の気温が日周活動に影響することから、23 時の気温を採用した。

図 8.1.4-9(2)　調査日ごとの観測事例数（BD5：10m　60～80kHz、80～120kHz）



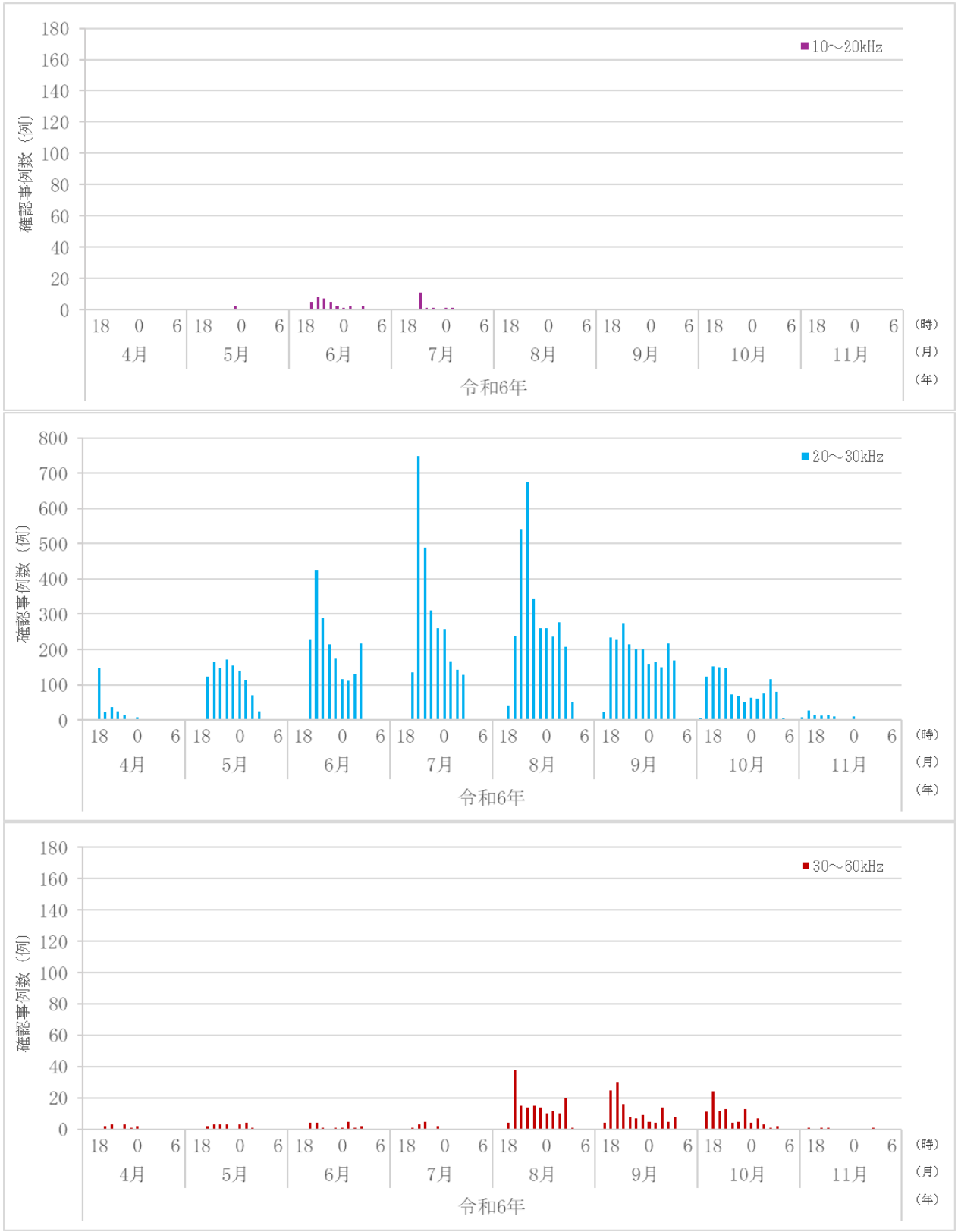
注：縦軸は観測事例数を、横軸は観測時刻を示す。

図 8.1.4-10(1)　時刻別の観測事例数（BD1：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）



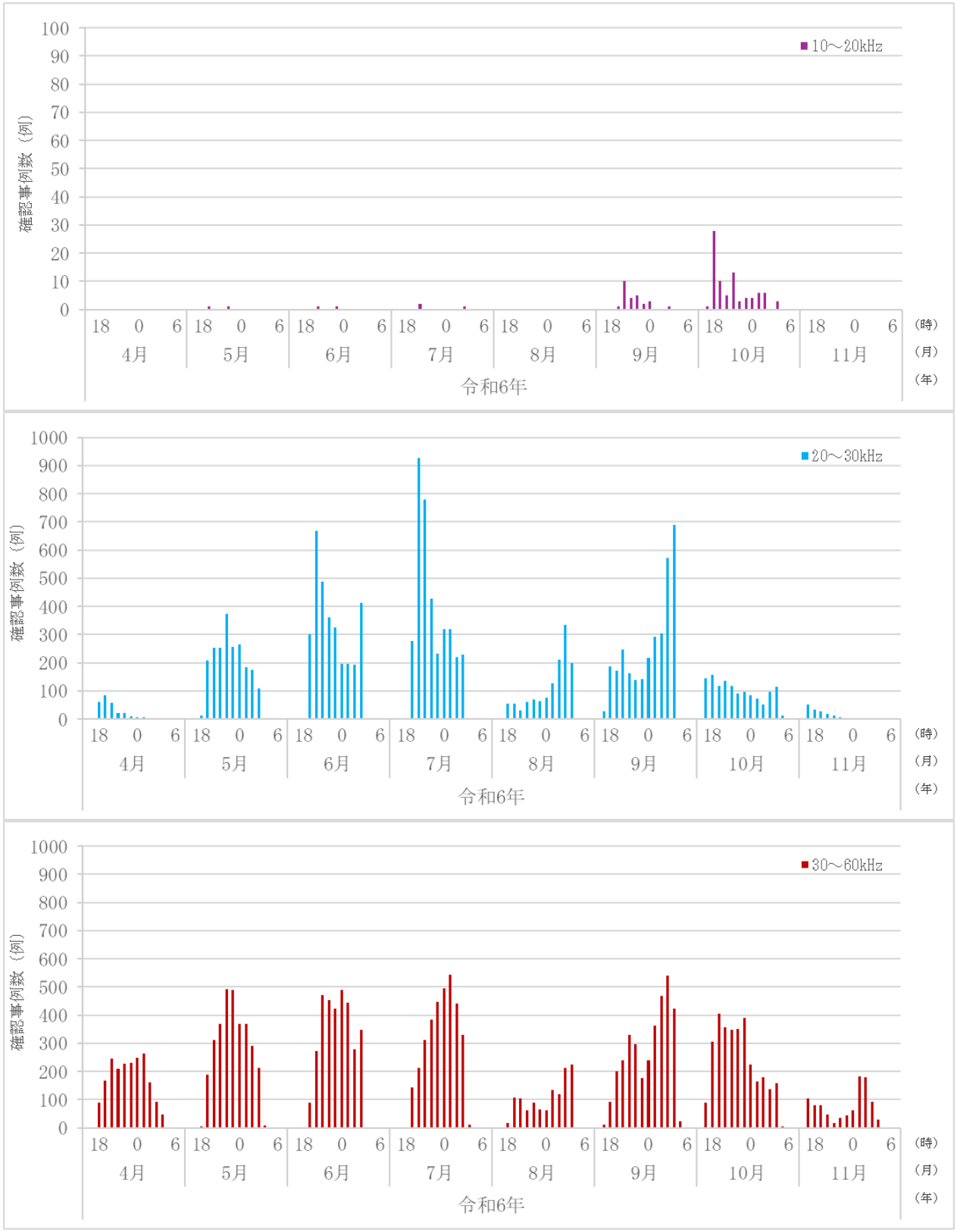
注：1. 縦軸は観測事例数を、横軸は観測時刻を示す。
2. 80～120kHz のコウモリ目は確認事例数が 0 例であったことからグラフは非作成とした。

図 8.1.4-10(2)　時刻別の観測事例数（BD1：10m　60～80kHz）



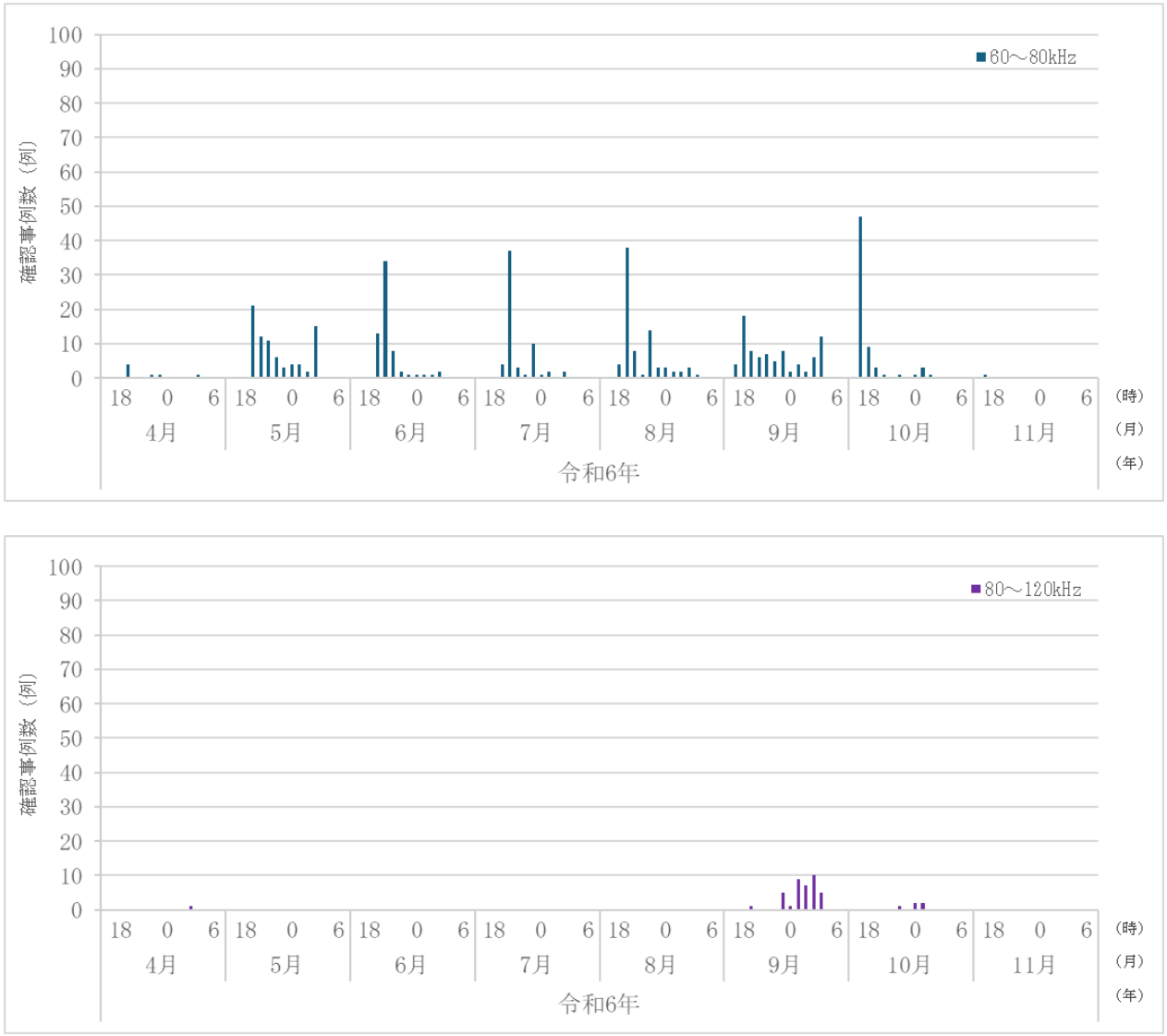
注：1. 縦軸は観測事例数を、横軸は観測時刻を示す。
2. 60～80kHz 及び 80～120kHz のコウモリ目は確認事例数が 0 例であったことからグラフは非作成とした。

図 8.1.4-11　時刻別の観測事例数（BD1：50m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）



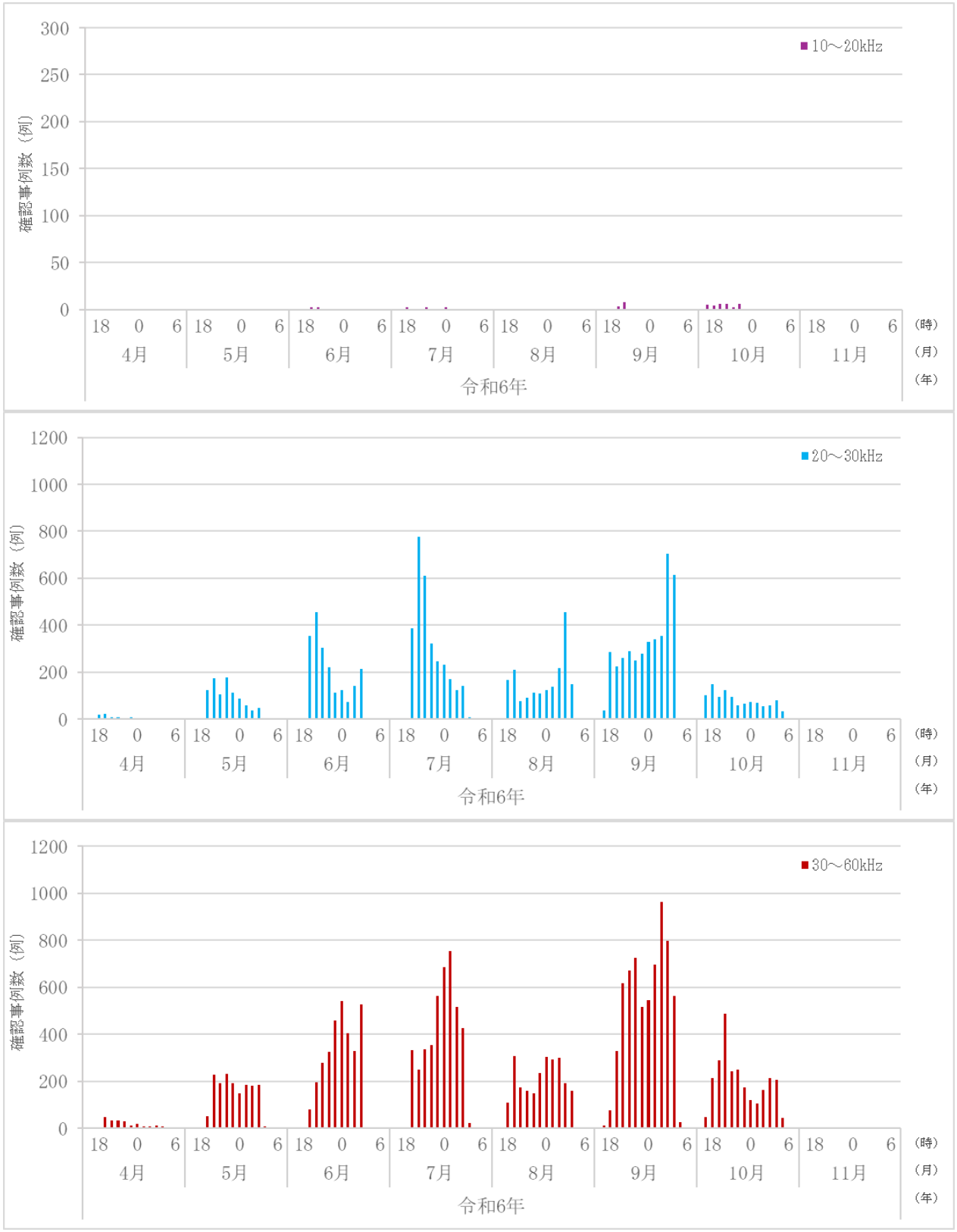
注：縦軸は観測事例数を、横軸は観測時刻を示す。

図 8.1.4-12(1)　時刻別の観測事例数（BD2：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）



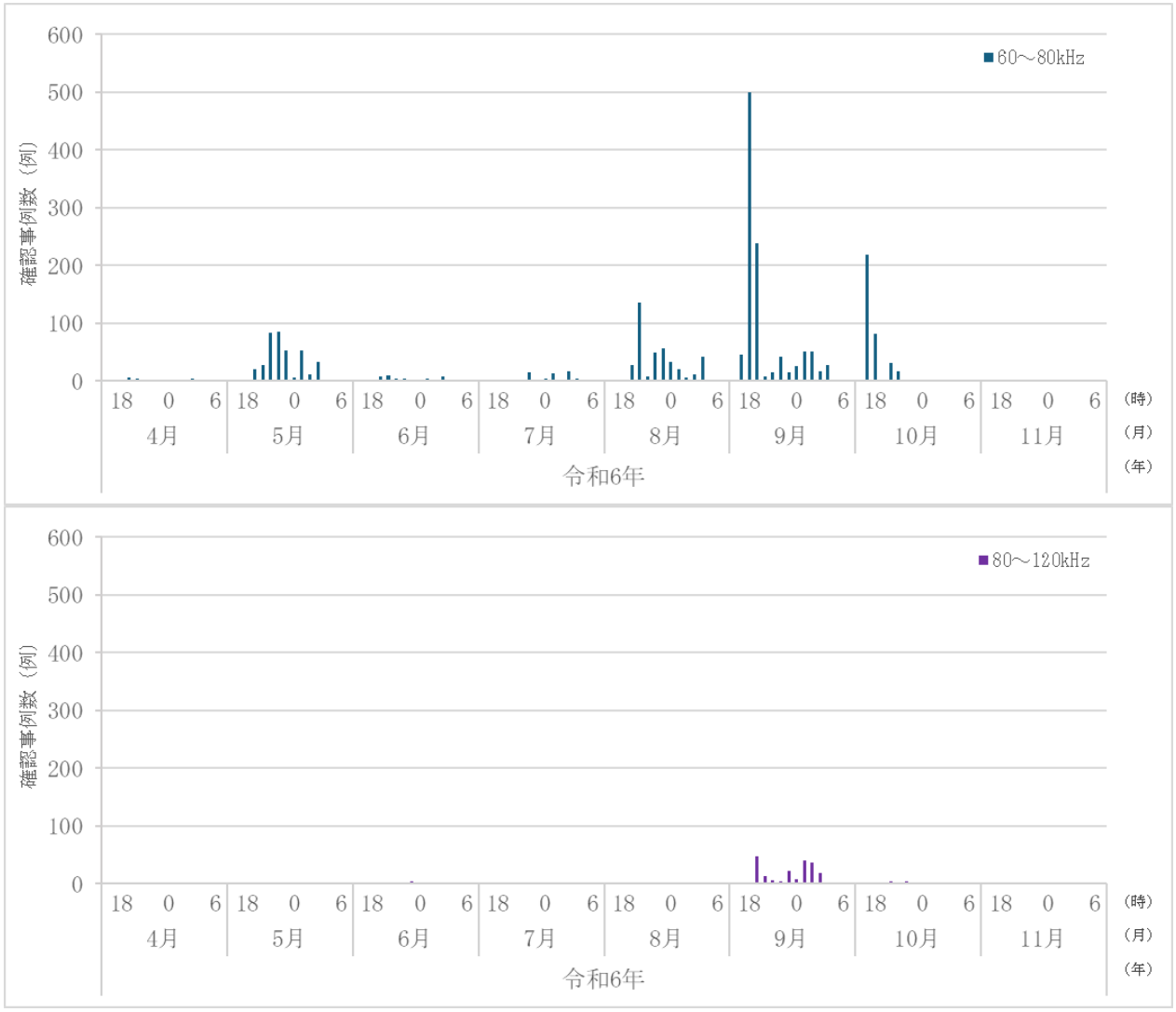
注：縦軸は観測事例数を、横軸は観測時刻を示す。

図 8.1.4-12(2)　時刻別の観測事例数（BD2：10m　60～80kHz、80～120kHz）



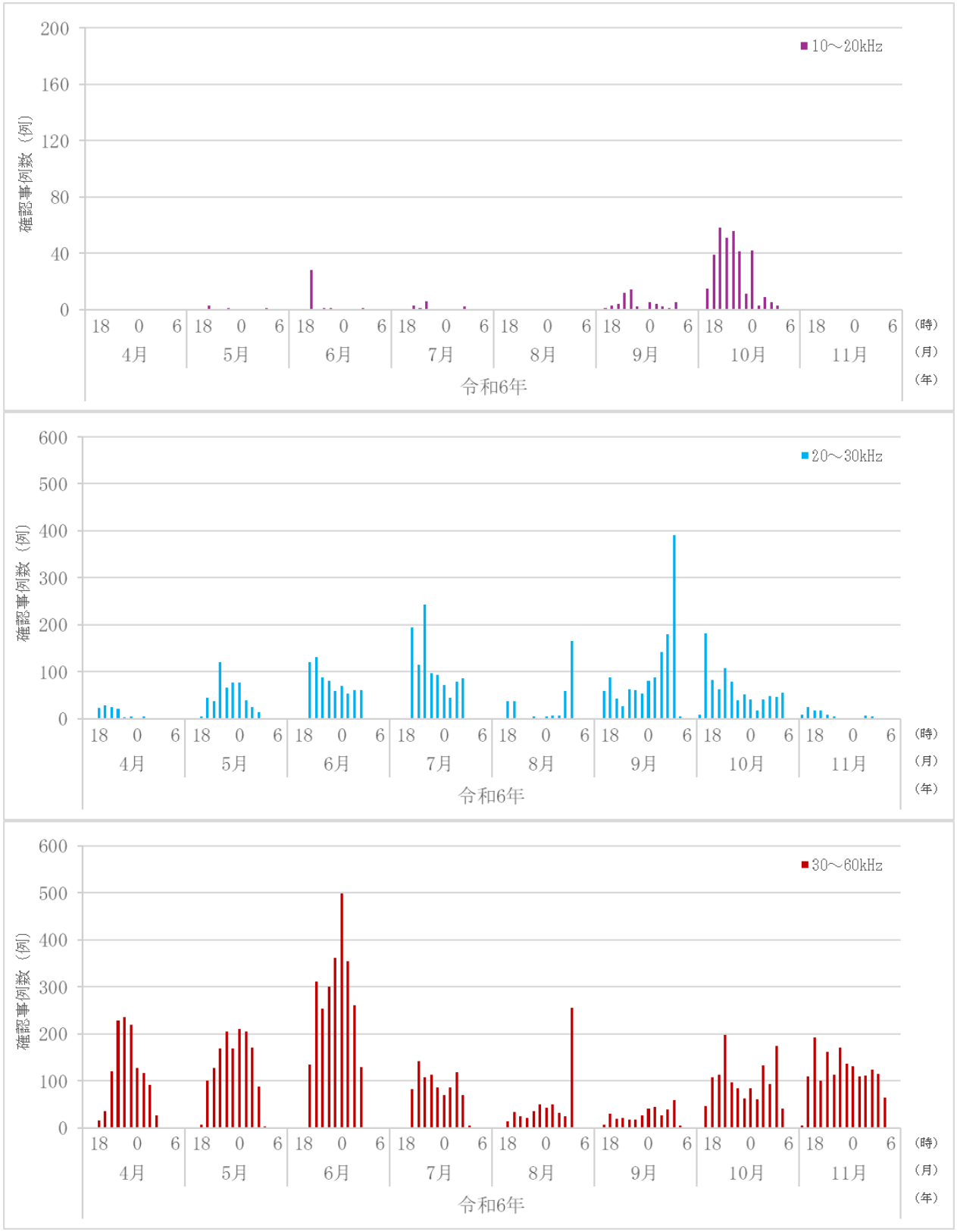
注：縦軸は観測事例数を、横軸は観測時刻を示す。

図 8.1.4-13(1)　時刻別の観測事例数（BD3：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）



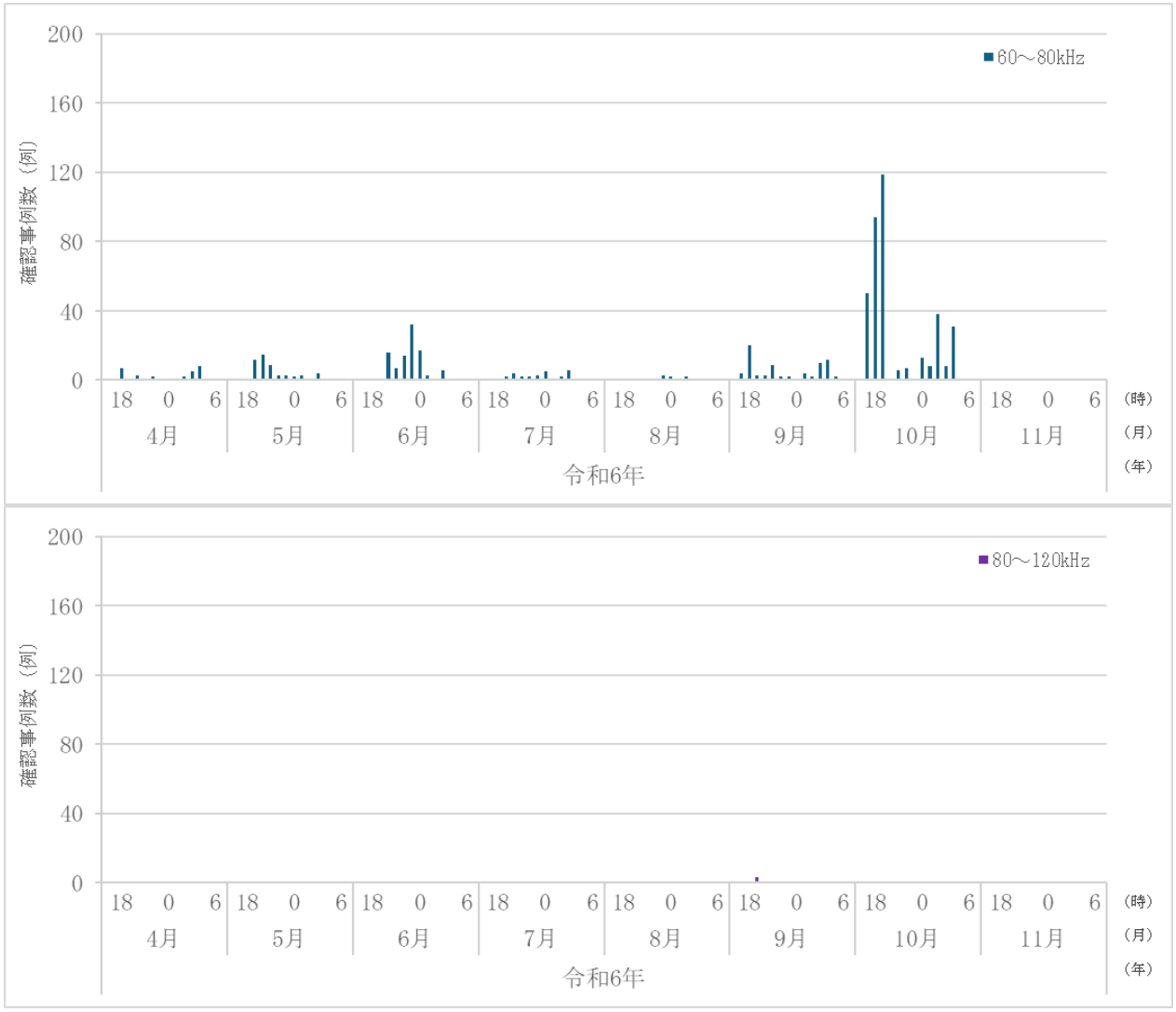
注：縦軸は観測事例数を、横軸は観測時刻を示す。

図 8.1.4-13(2)　時刻別の観測事例数（BD3：10m　60～80kHz、80～120kHz）



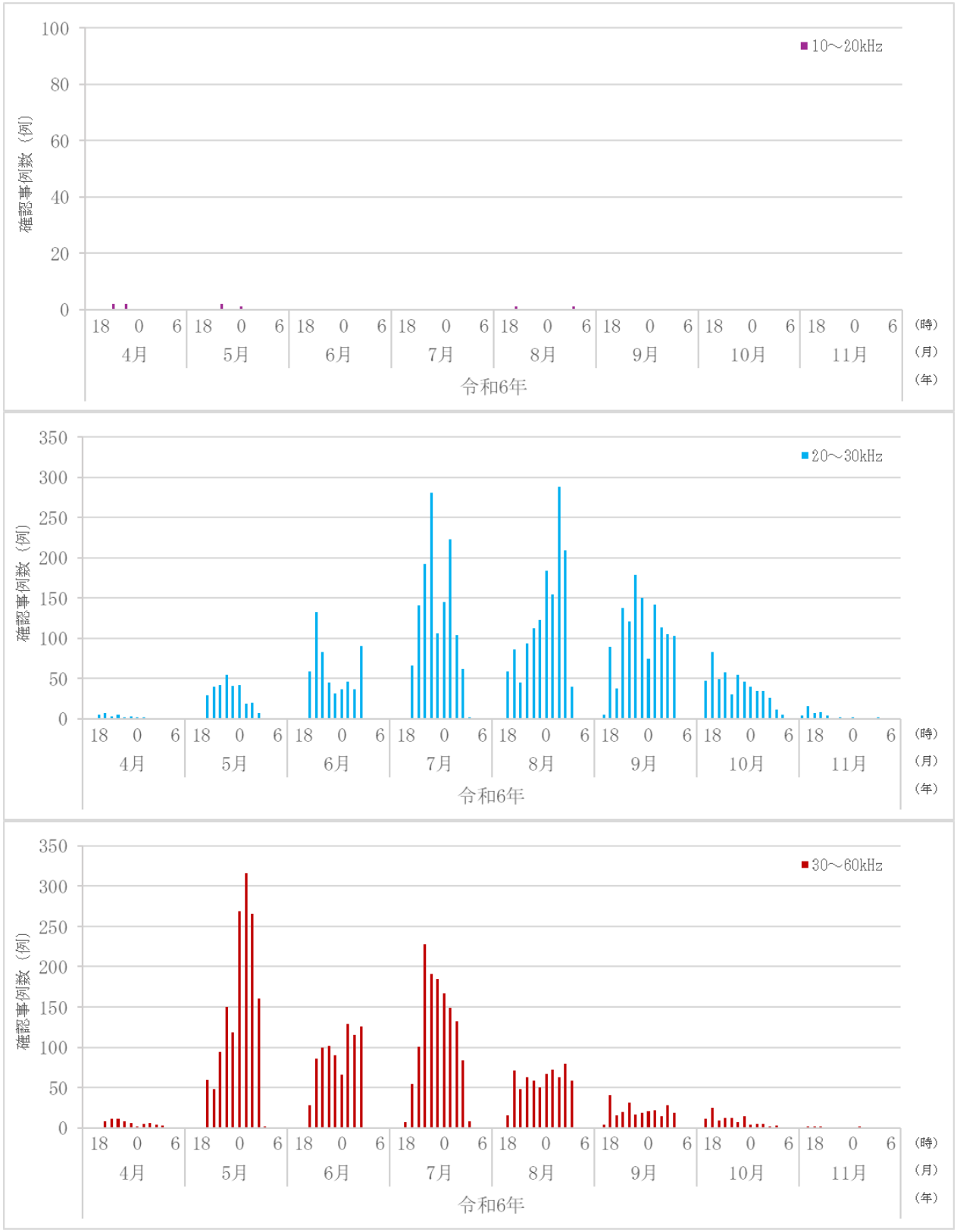
注：縦軸は観測事例数を、横軸は観測時刻を示す。

図 8.1.4-14(1)　時刻別の観測事例数（BD4：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）



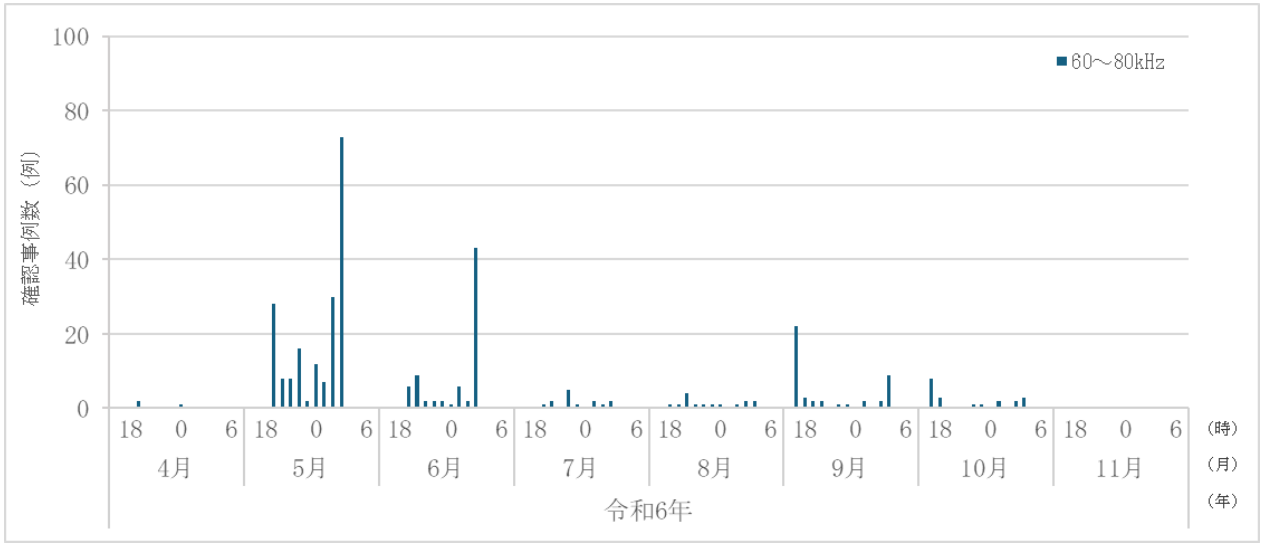
注：縦軸は観測事例数を、横軸は観測時刻を示す。

図 8.1.4-14(2)　時刻別の観測事例数（BD4：10m　60～80kHz、80～120kHz）



注：縦軸は観測事例数を、横軸は観測時刻を示す。

図 8.1.4-15(1)　時刻別の観測事例数（BD5：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）



注：1. 縦軸は観測事例数を、横軸は観測時刻を示す。
2. 80～120kHz のコウモリ目は確認事例数が 1 例であったことからグラフは非作成とした。

図 8.1.4-15(2)　時刻別の観測事例数（BD5：10m　60～80kHz）

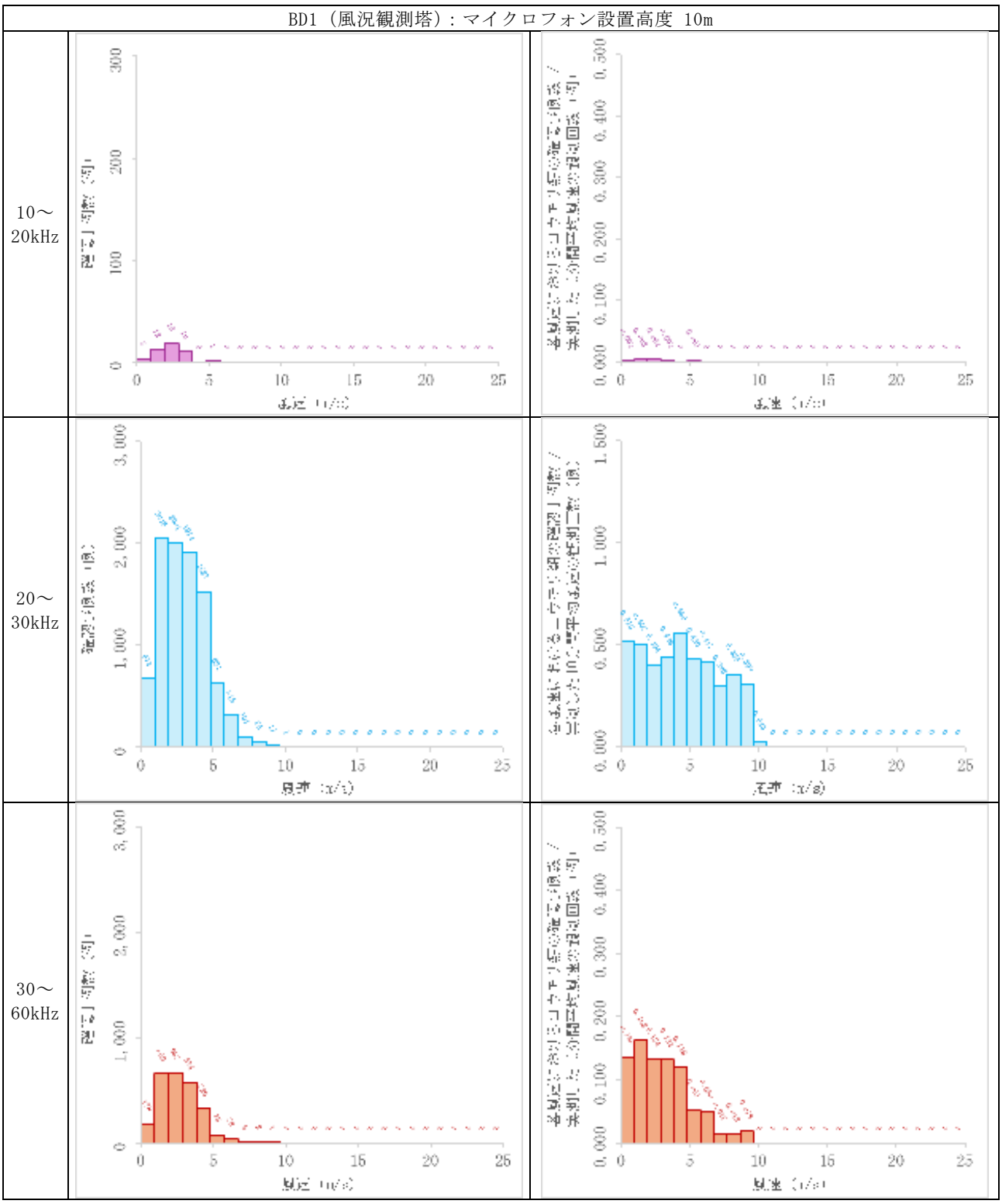
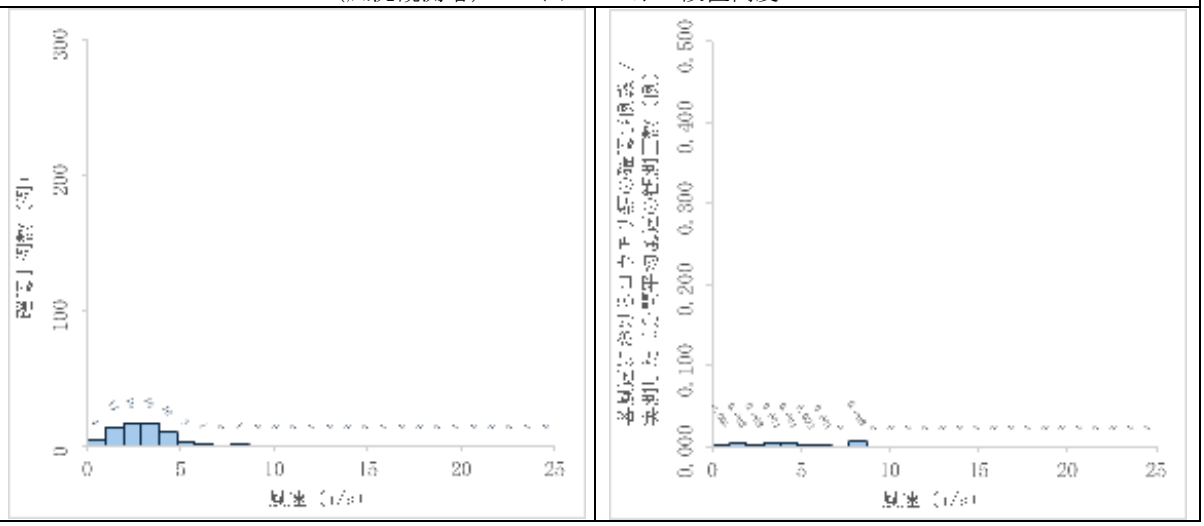
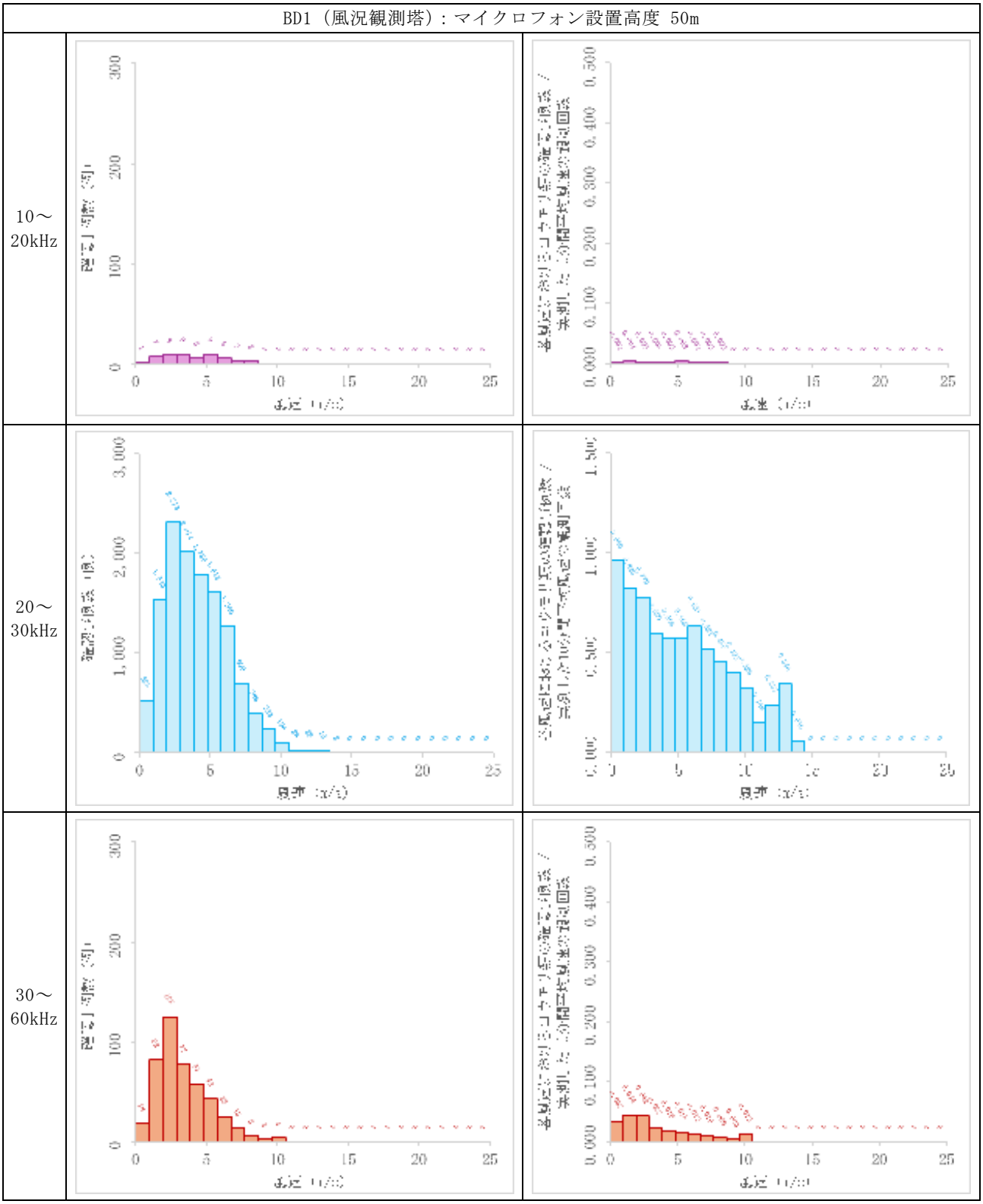


図 8.1.4-16(1)　コウモリ類の風速別確認事例数及び観測 1 回あたりの確認事例数
（BD1：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）

BD1（風況観測塔）：マイクロフォン設置高度 10m	
60～80kHz	

注：80～120kHz のコウモリ目は確認事例数が 0 例であったことからグラフは非作成とした。

図 8.1.4-16(2)　コウモリ類の風速別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD1：10m　60～80kHz）



注：60～80kHz 及び 80～120kHz のコウモリ目は確認事例数が 0 例であったことからグラフは非作成とした。

図 8.1.4-17　コウモリ類の風速別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD1：50m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）

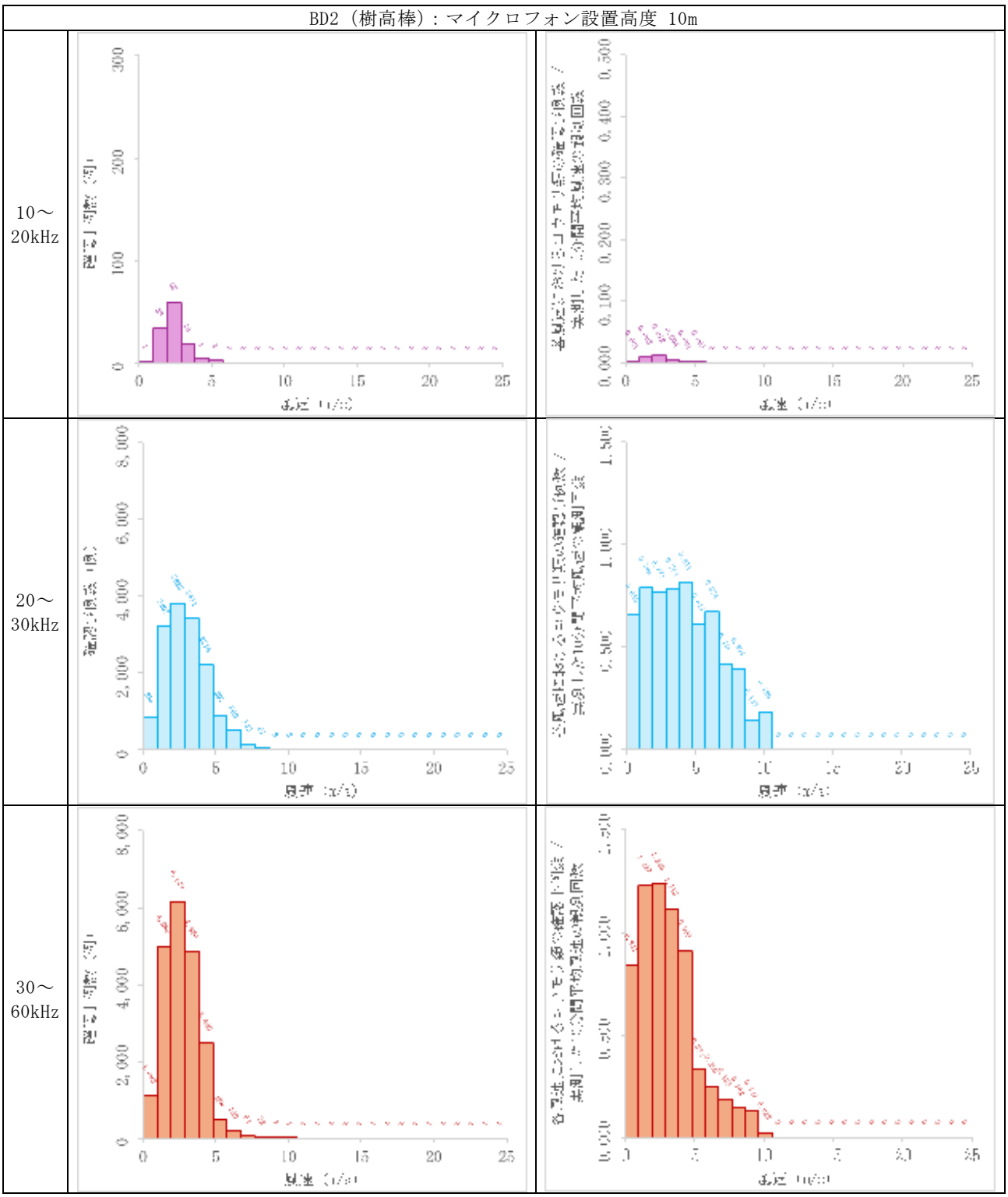


図 8.1.4-18(1)　コウモリ類の風速別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD2：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）

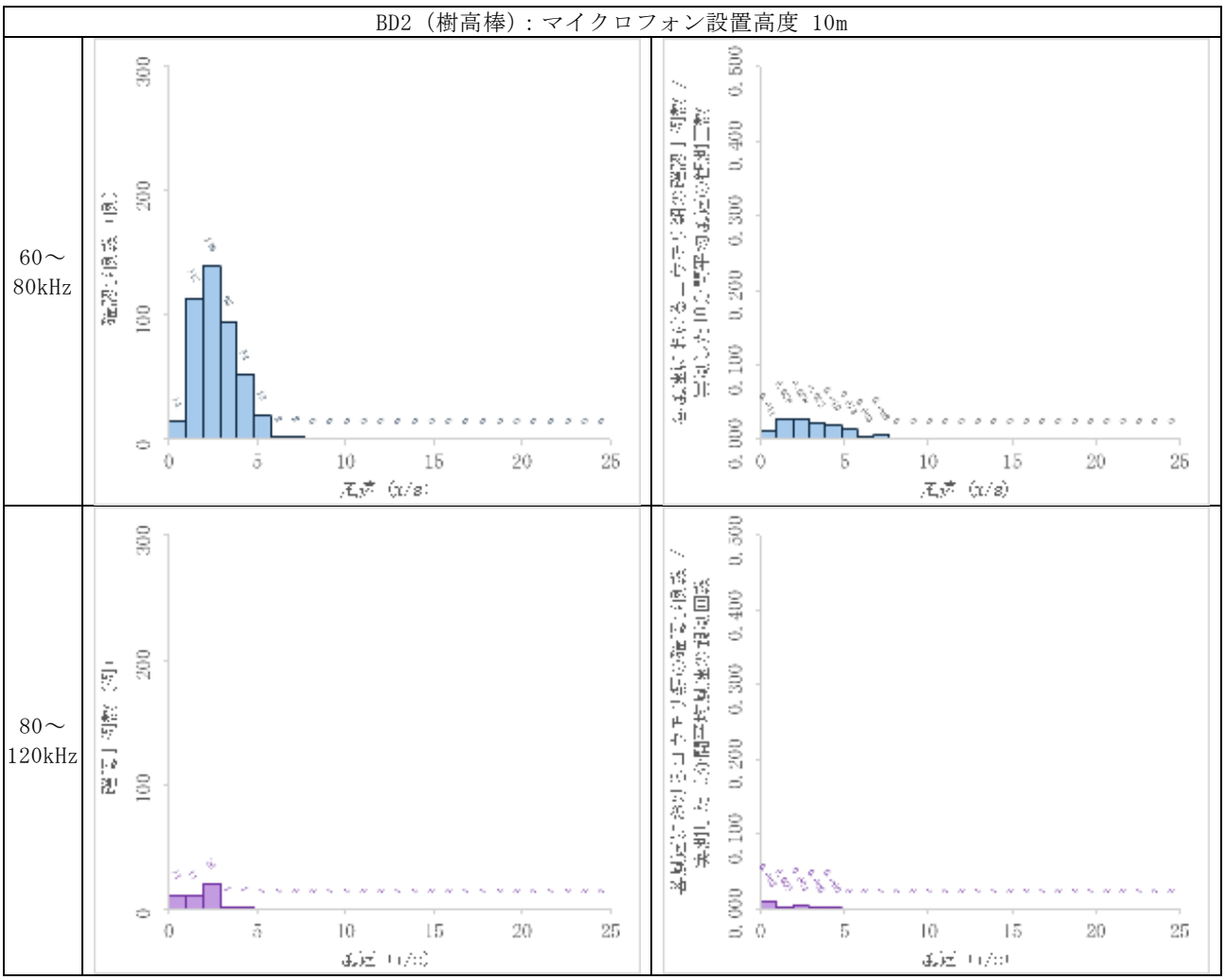


図 8.1.4-18(2)　コウモリ類の風速別確認事例数及び観測１回当たりの確認事例数
（BD2：10m　60～80kHz、80～120kHz）

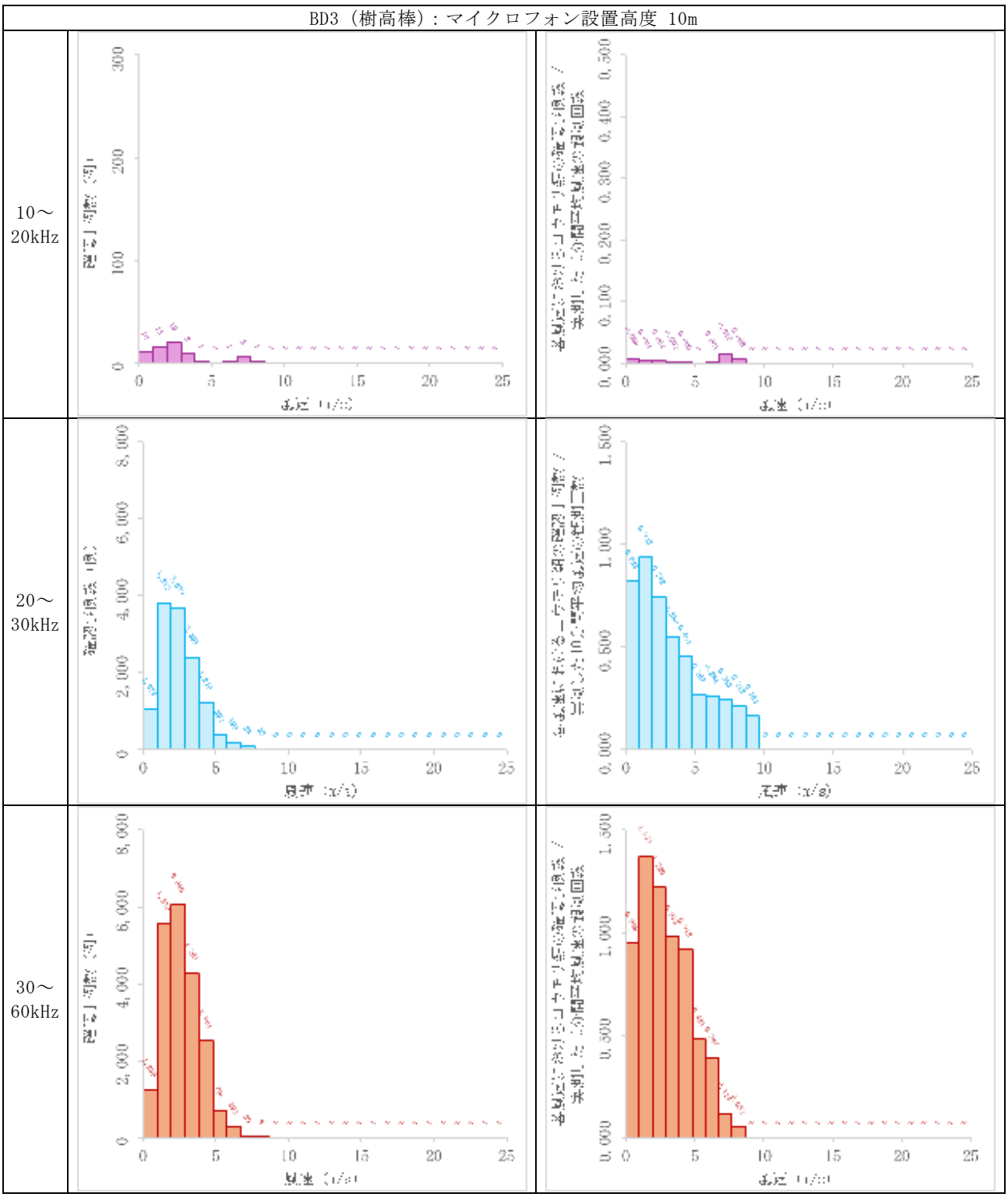


図 8.1.4-19(1)　コウモリ類の風速別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD3：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）

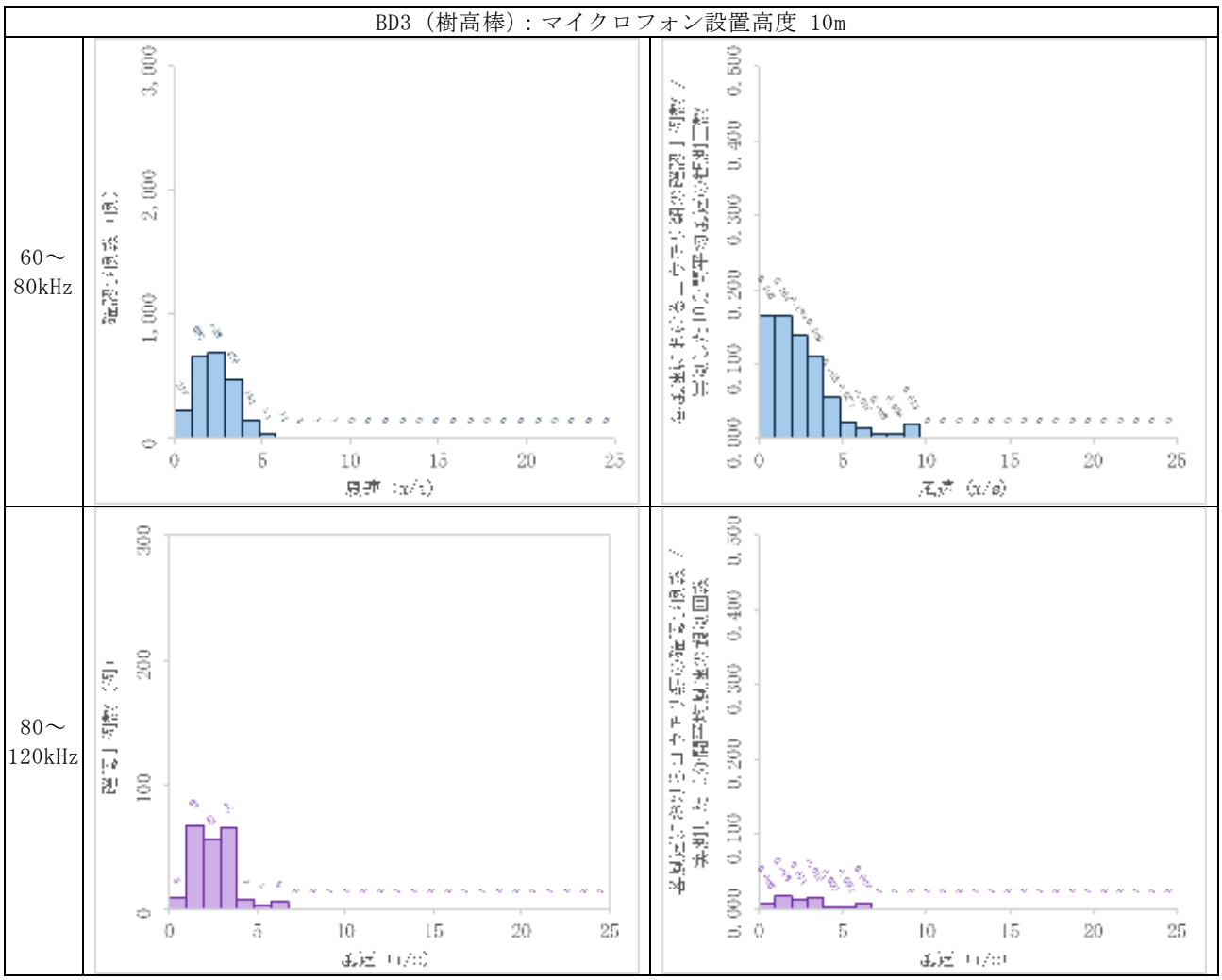


図 8.1.4-19(2)　コウモリ類の風速別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD3：10m　60～80kHz、80～120kHz）

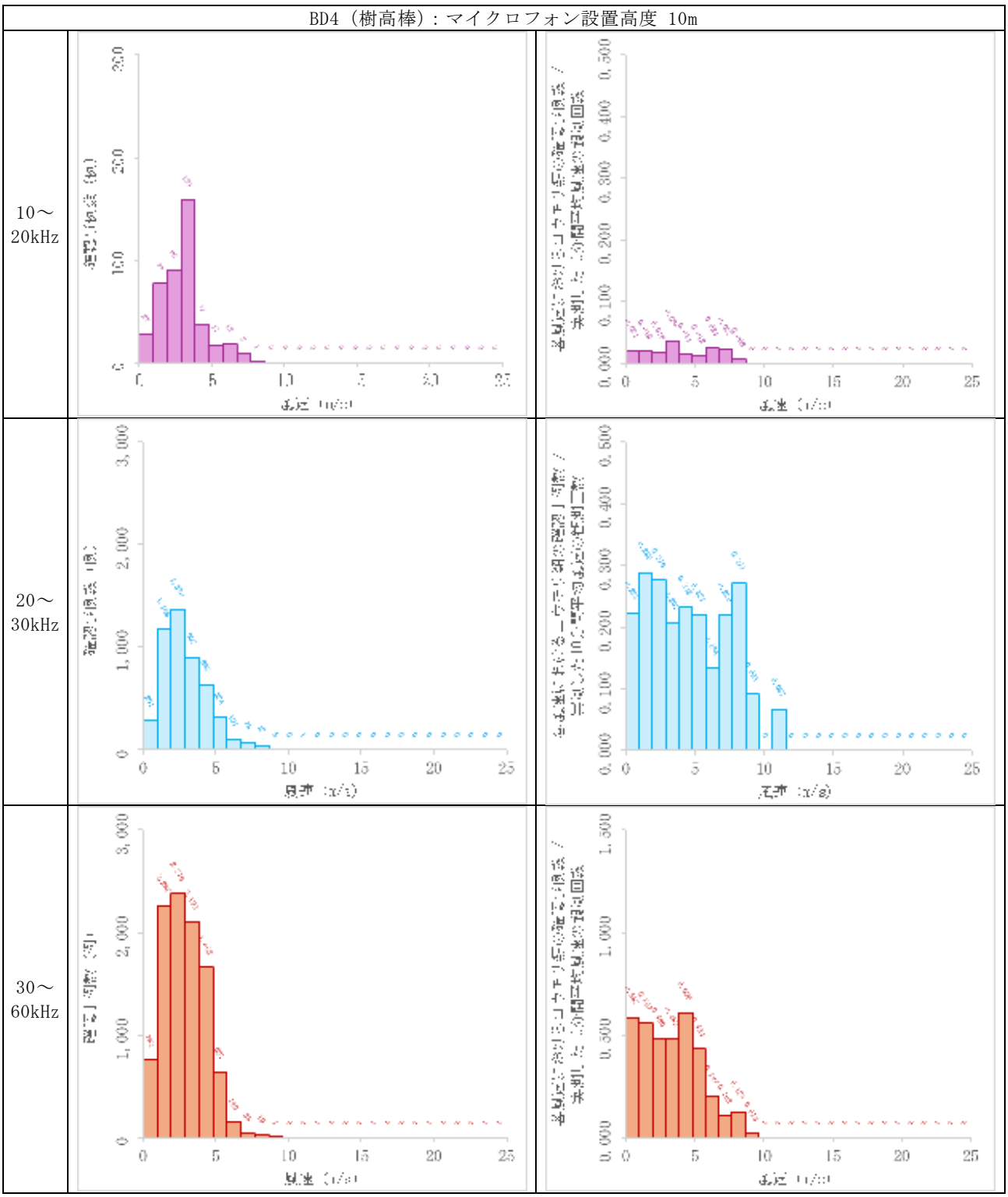


図 8.1.4-20(1)　コウモリ類の風速別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD4：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）

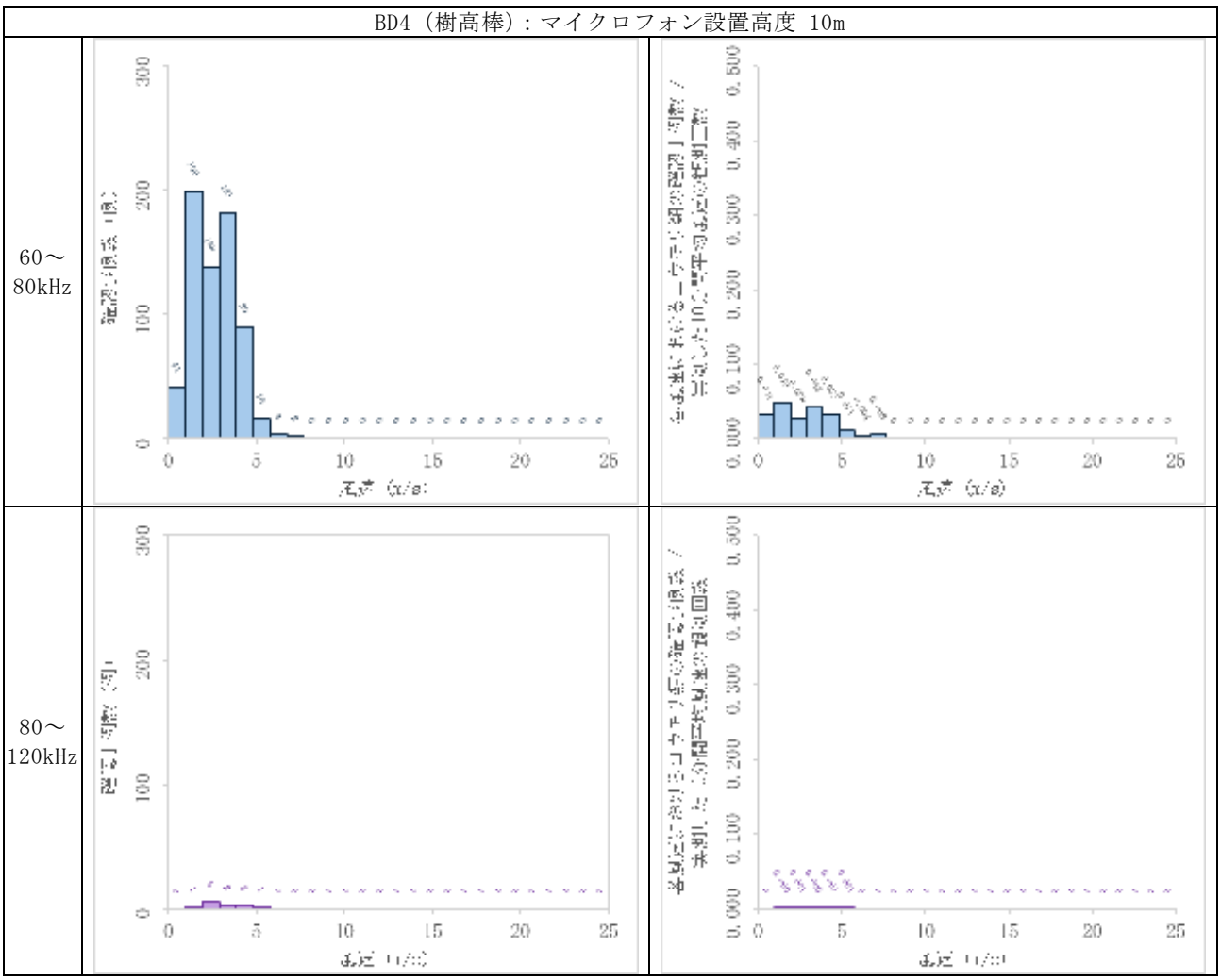


図 8.1.4-20(2)　コウモリ類の風速別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD4：10m　60～80kHz、80～120kHz）

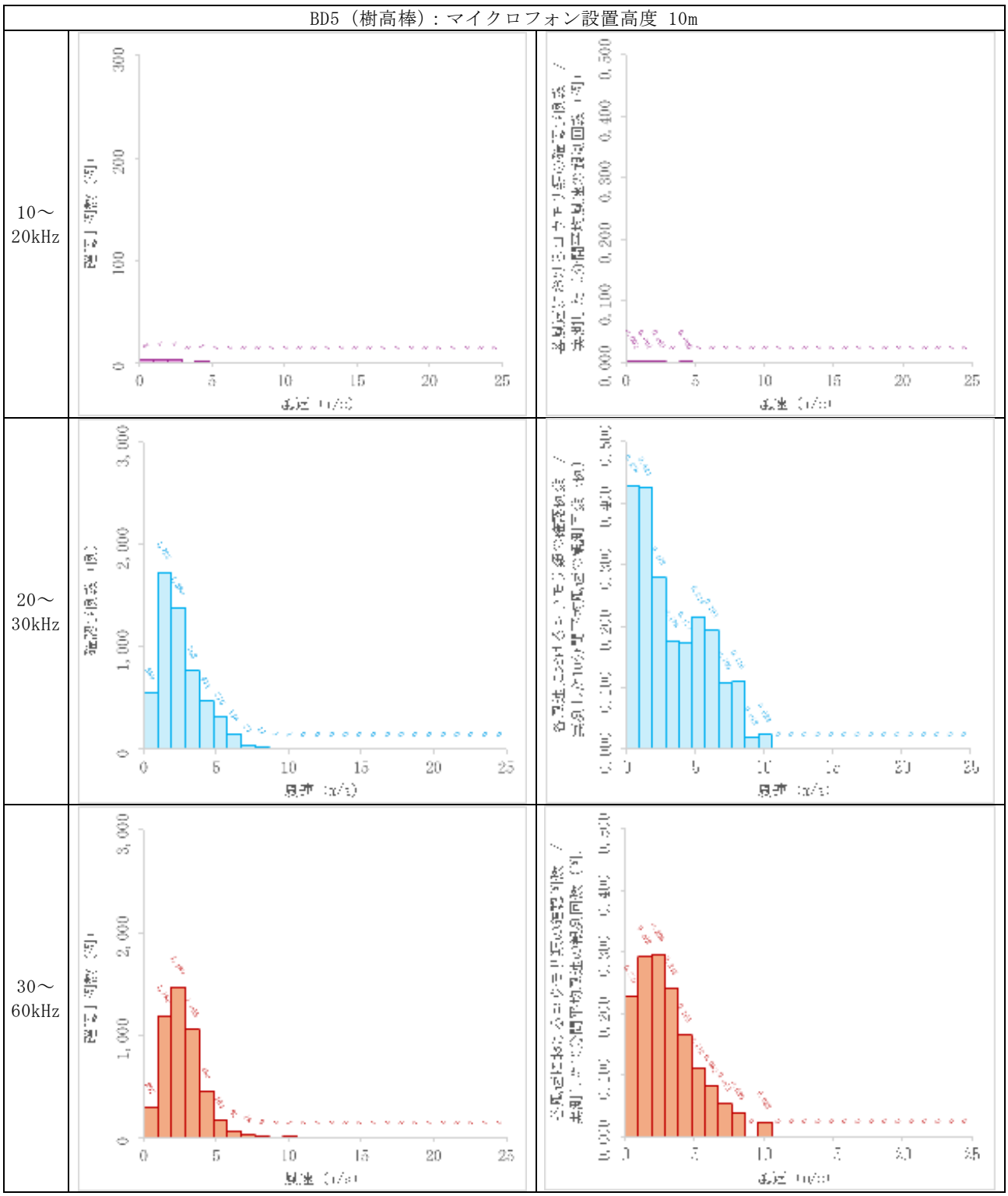


図 8.1.4-21(1)　コウモリ類の風速別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD5：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）

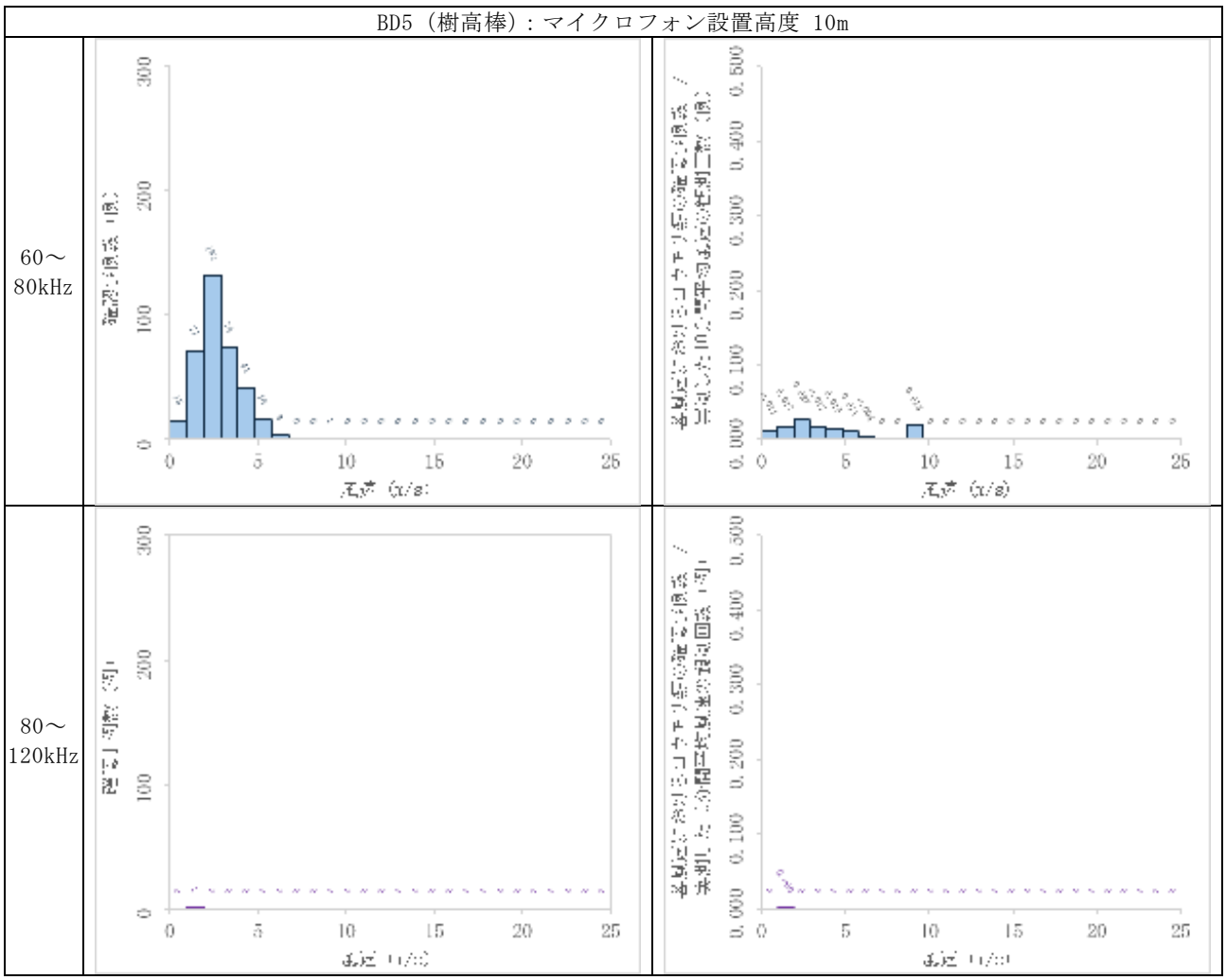


図 8.1.4-21(2)　コウモリ類の風速別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD5：10m　60～80kHz、80～120kHz）

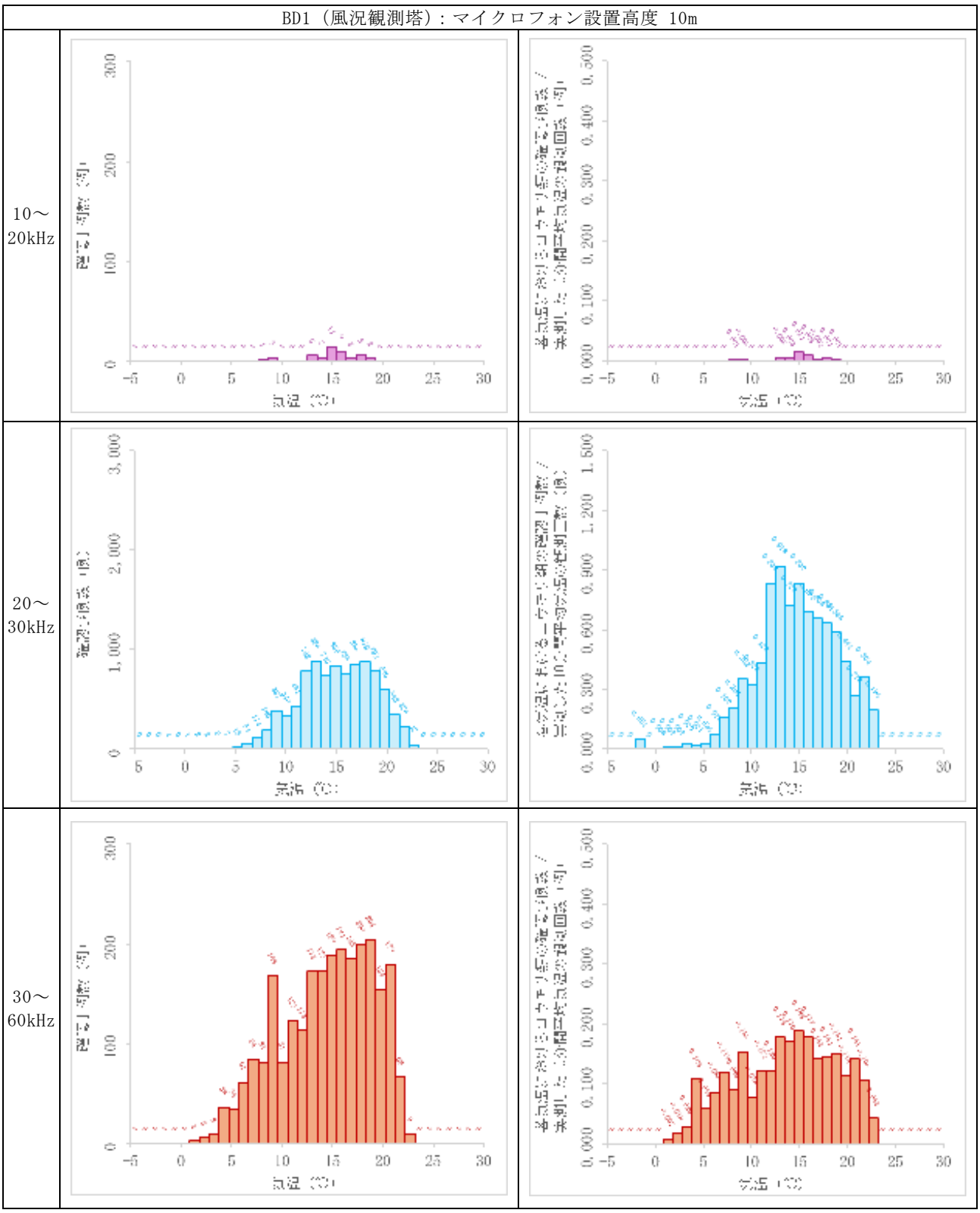
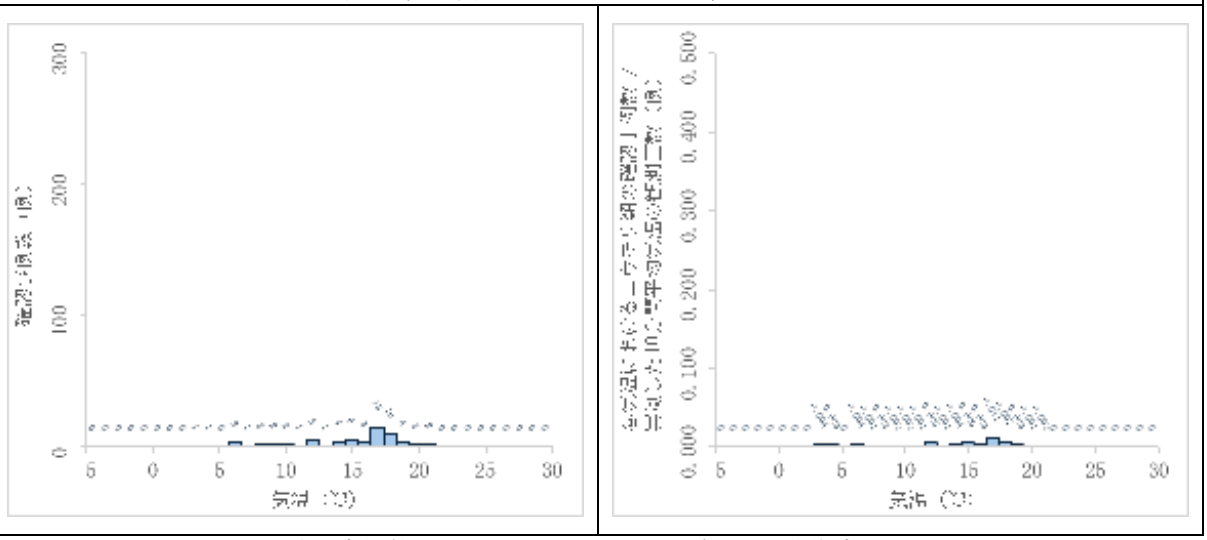
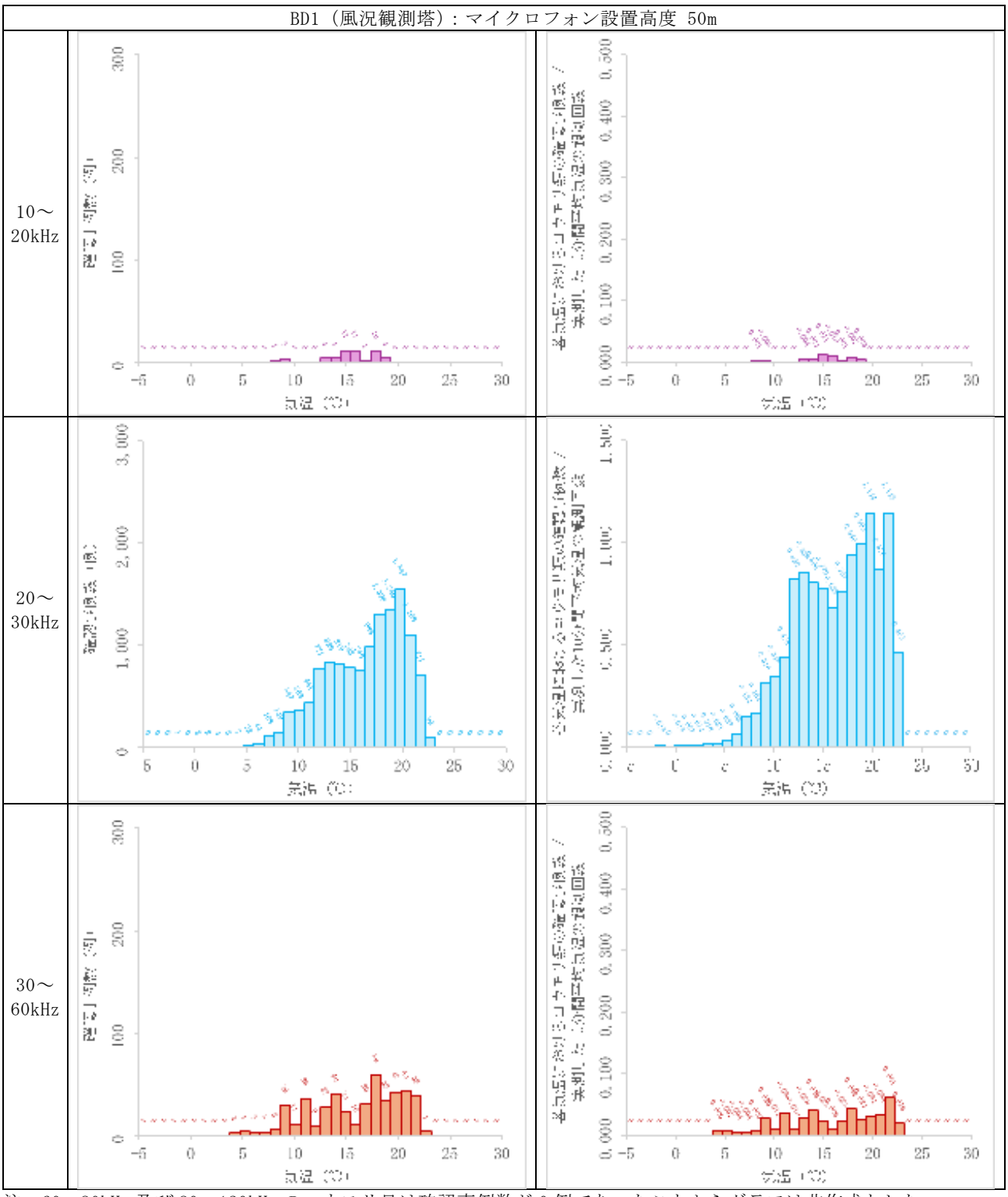


図 8.1.4-22(1)　コウモリ類の気温別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD1：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）

BD1（風況観測塔）：マイクロフォン設置高度 10m	
60～80kHz	

注： 80～120kHz のコウモリ目は確認事例数が 0 例であったことからグラフは非作成とした。

図 8.1.4-22(2)　コウモリ類の気温別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数（BD1：10m　60～80kHz）



注：60～80kHz 及び 80～120kHz のコウモリ目は確認事例数が 0 例であったことからグラフは非作成とした。

図 8.1.4-23　コウモリ類の気温別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD1：50m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）

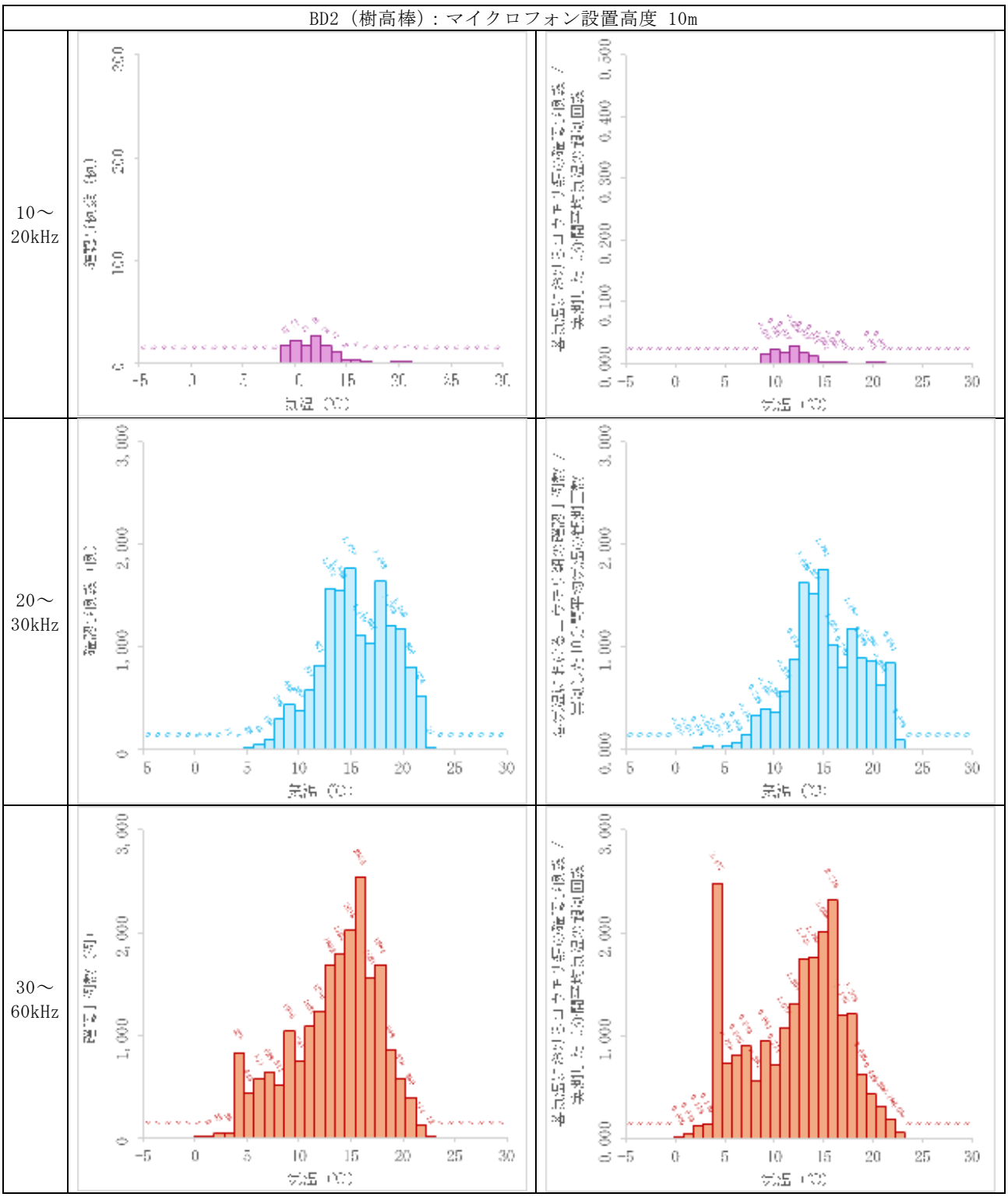


図 8.1.4-24(1)　コウモリ類の気温別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD2：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）

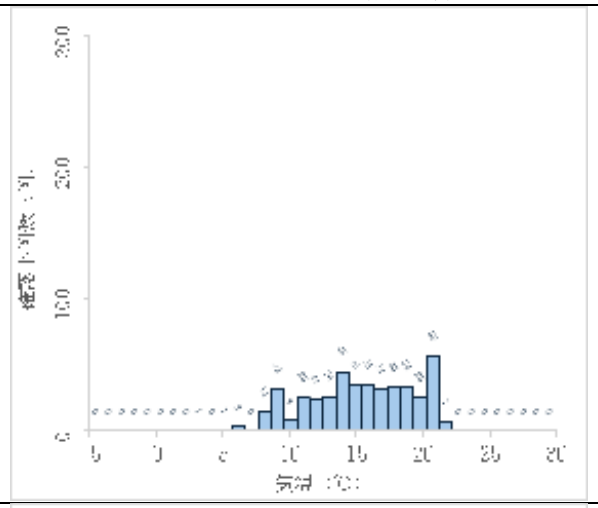
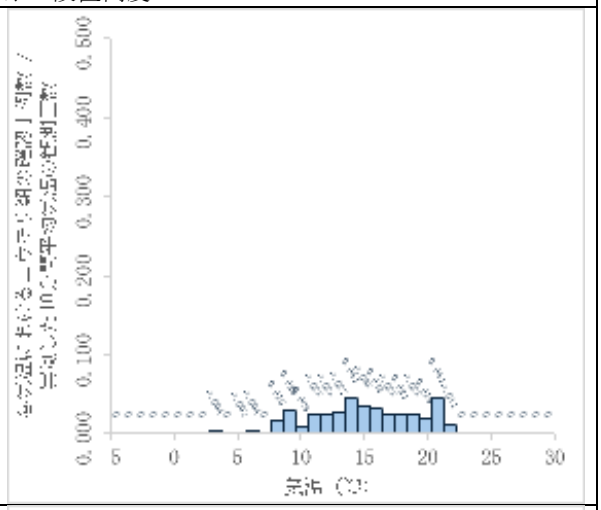
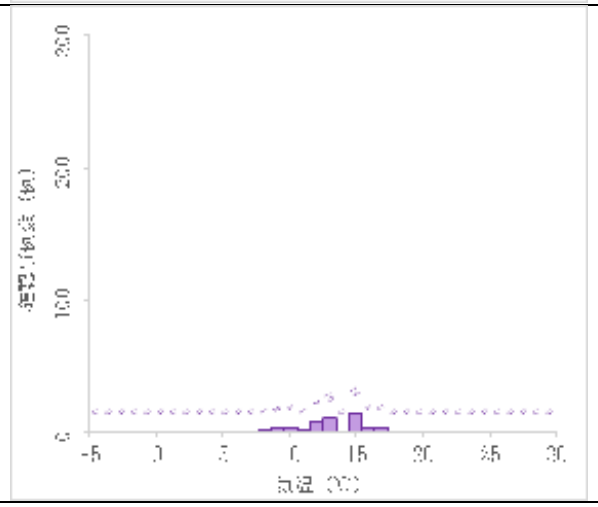
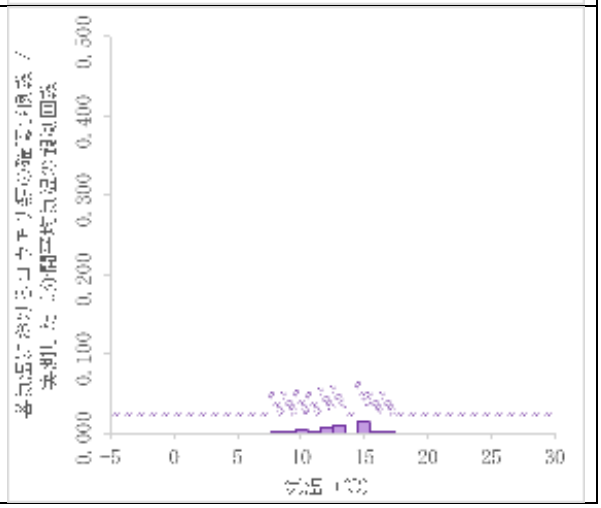
BD2（樹高棒）：マイクロフォン設置高度 10m		
60～80kHz		
80～120kHz		

図 8.1.4-24(2)　コウモリ類の気温別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD2：10m　60～80kHz、80～120kHz）

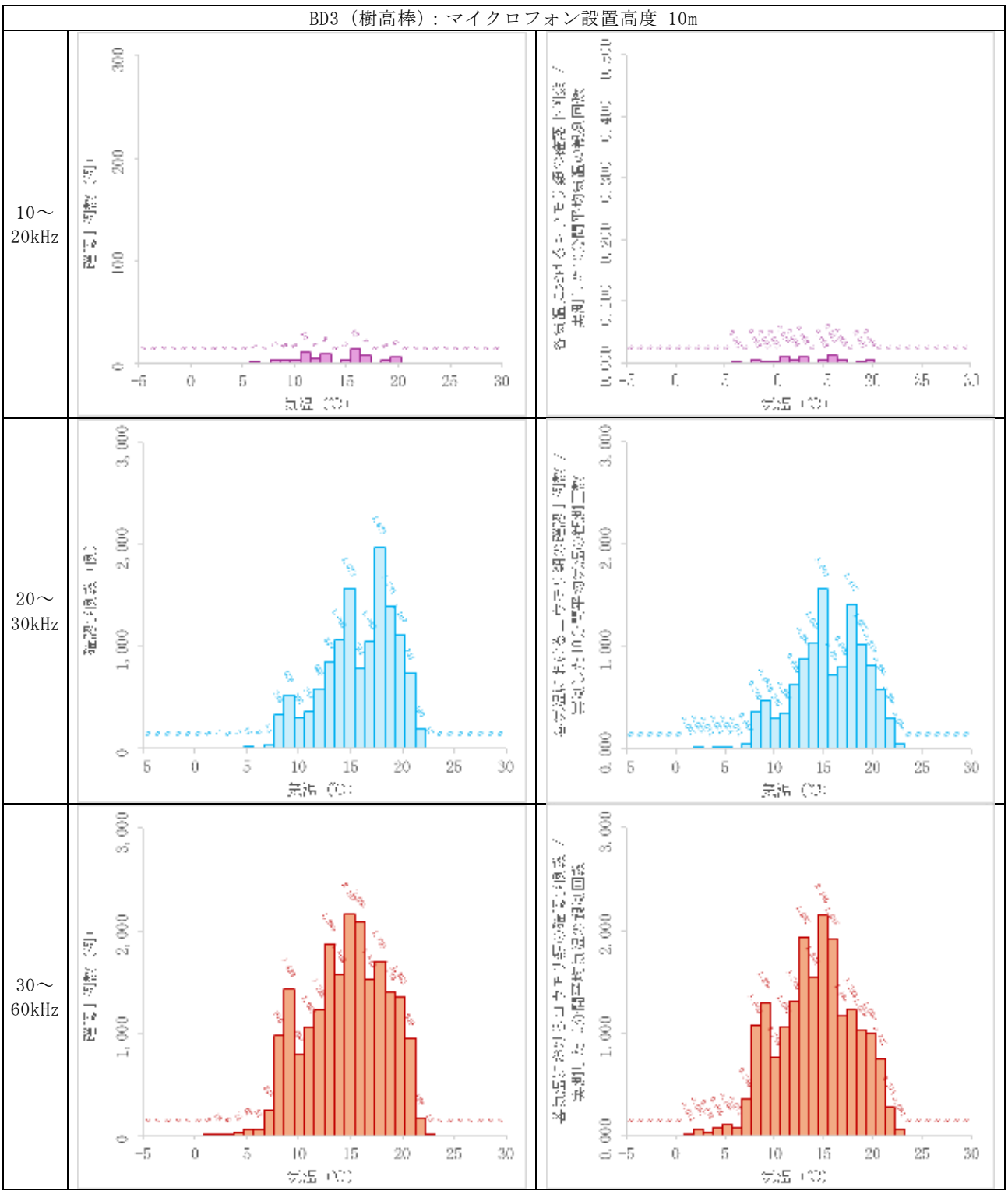


図 8.1.4-25(1)　コウモリ類の気温別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD3：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）

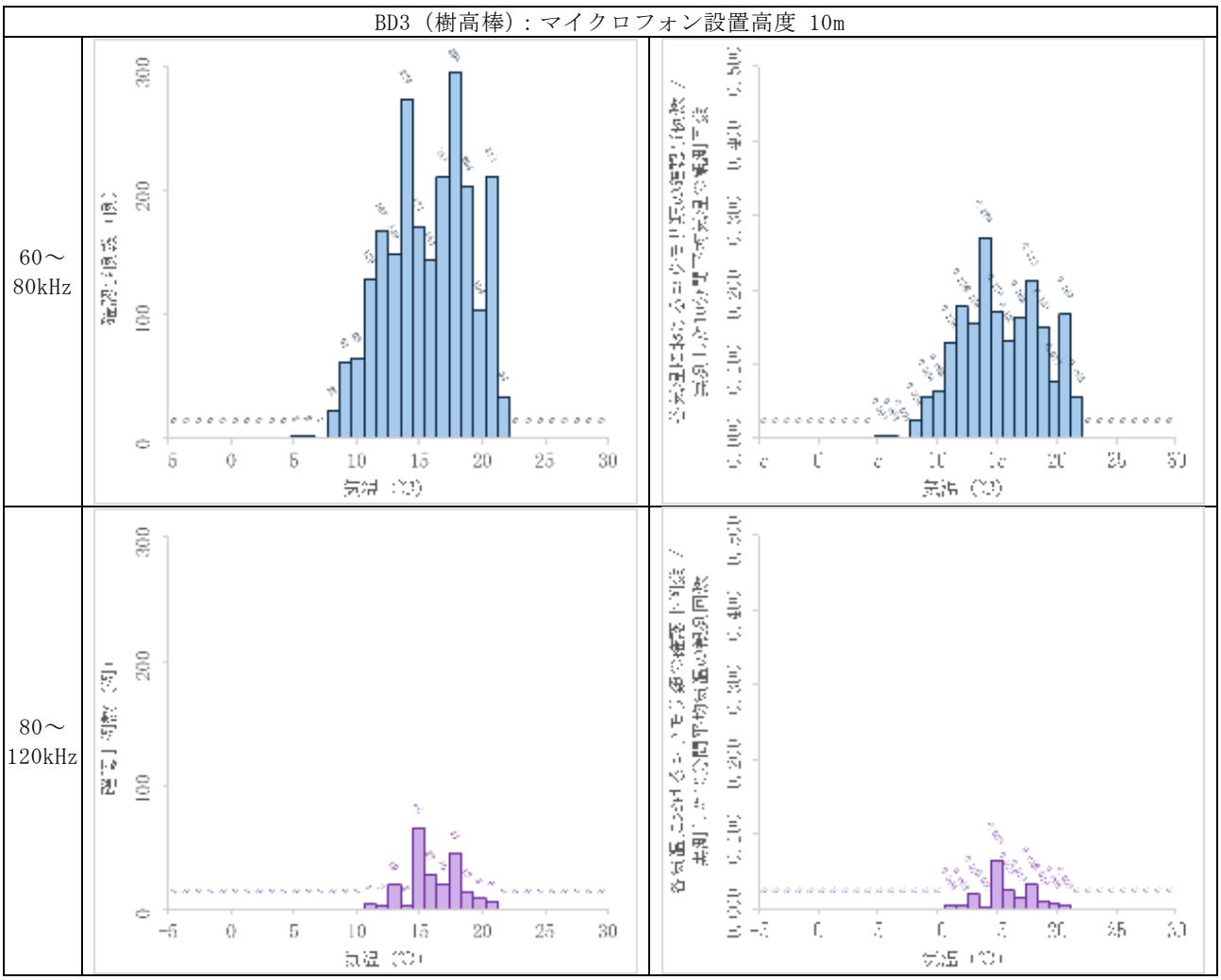


図 8.1.4-25(2)　コウモリ類の気温別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD3：10m　60～80kHz、80～120kHz）

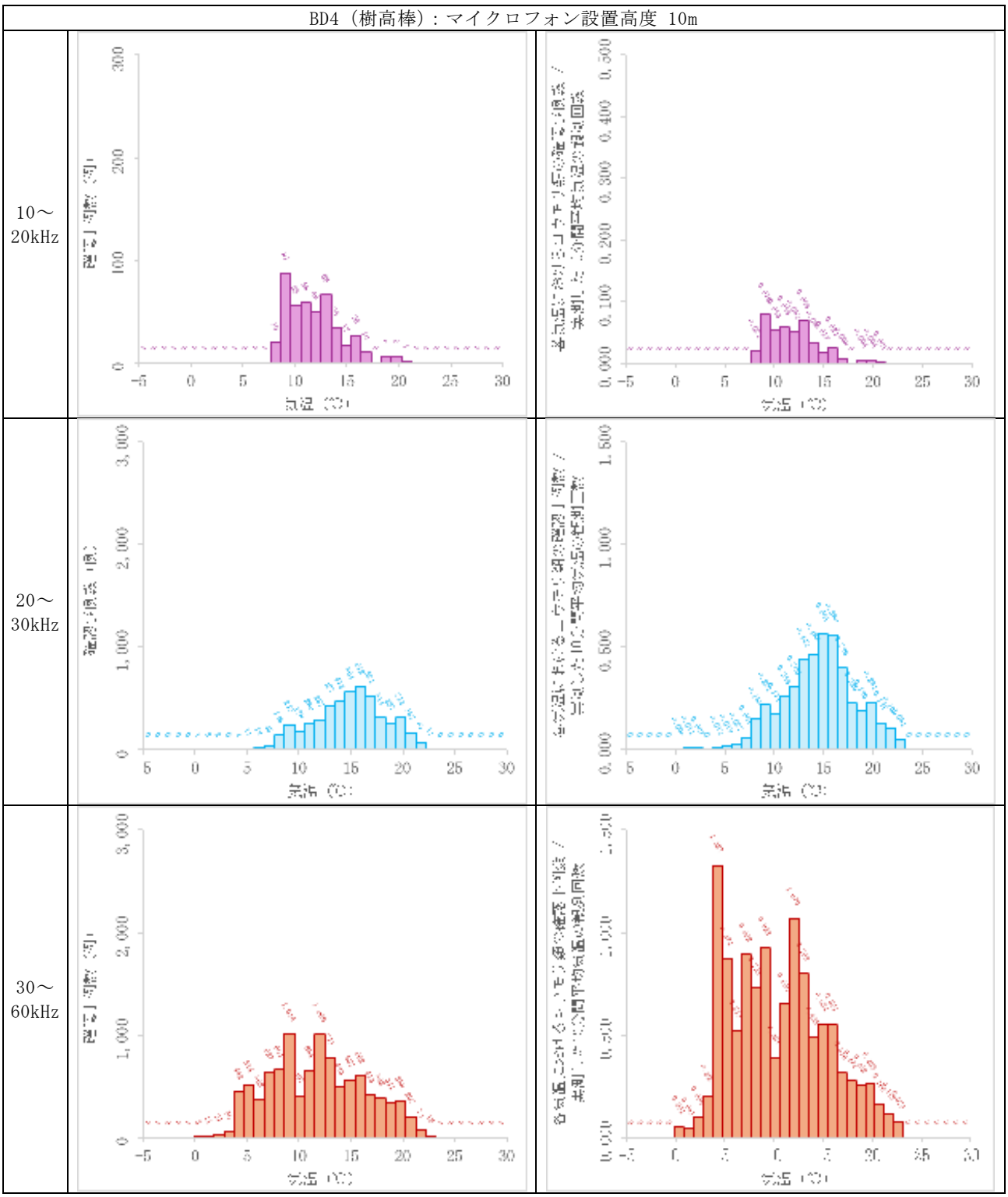


図 8.1.4-26(1)　コウモリ類の気温別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD4：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）

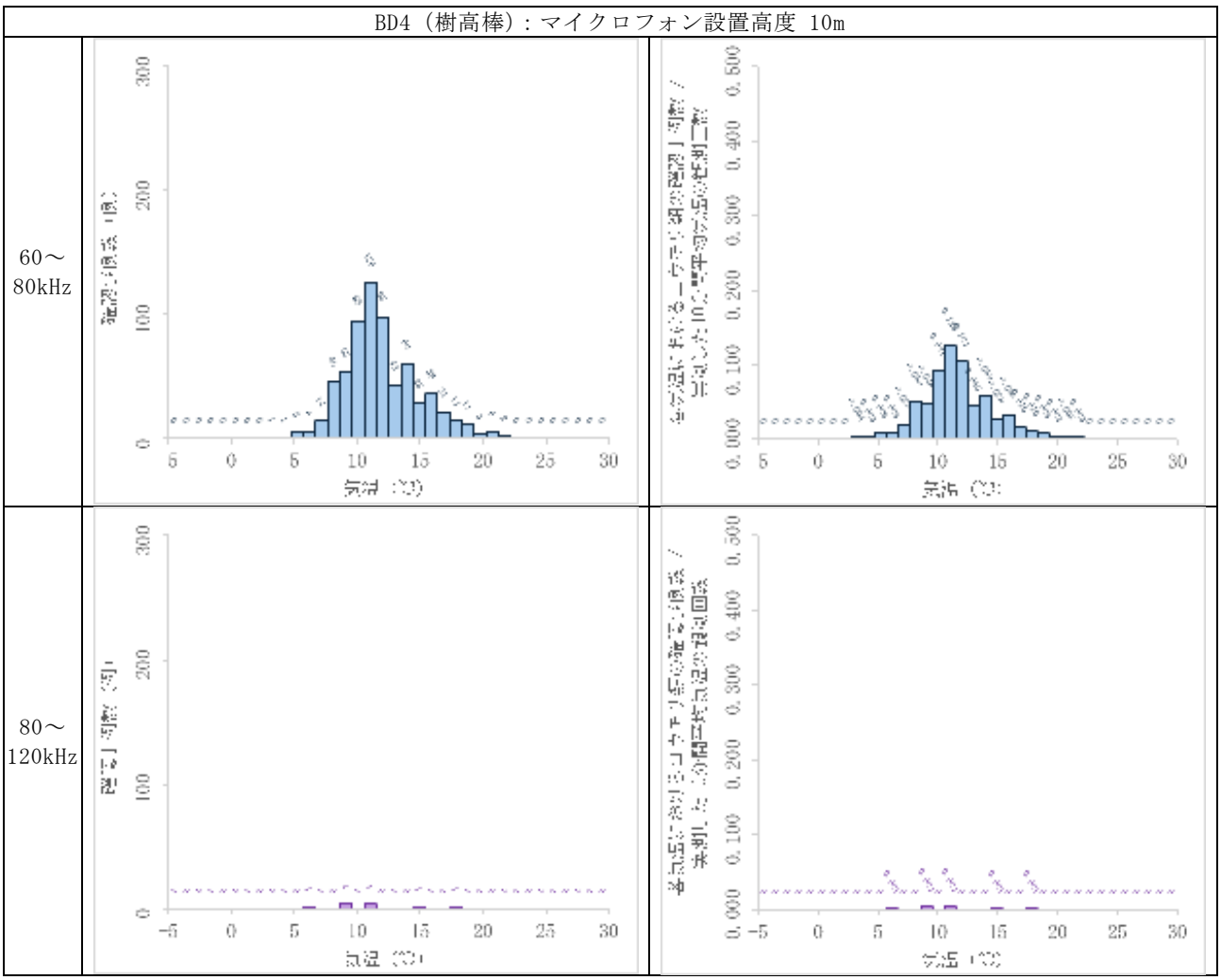


図 8.1.4-26(2)　コウモリ類の気温別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD4：10m　60～80kHz、80～120kHz）

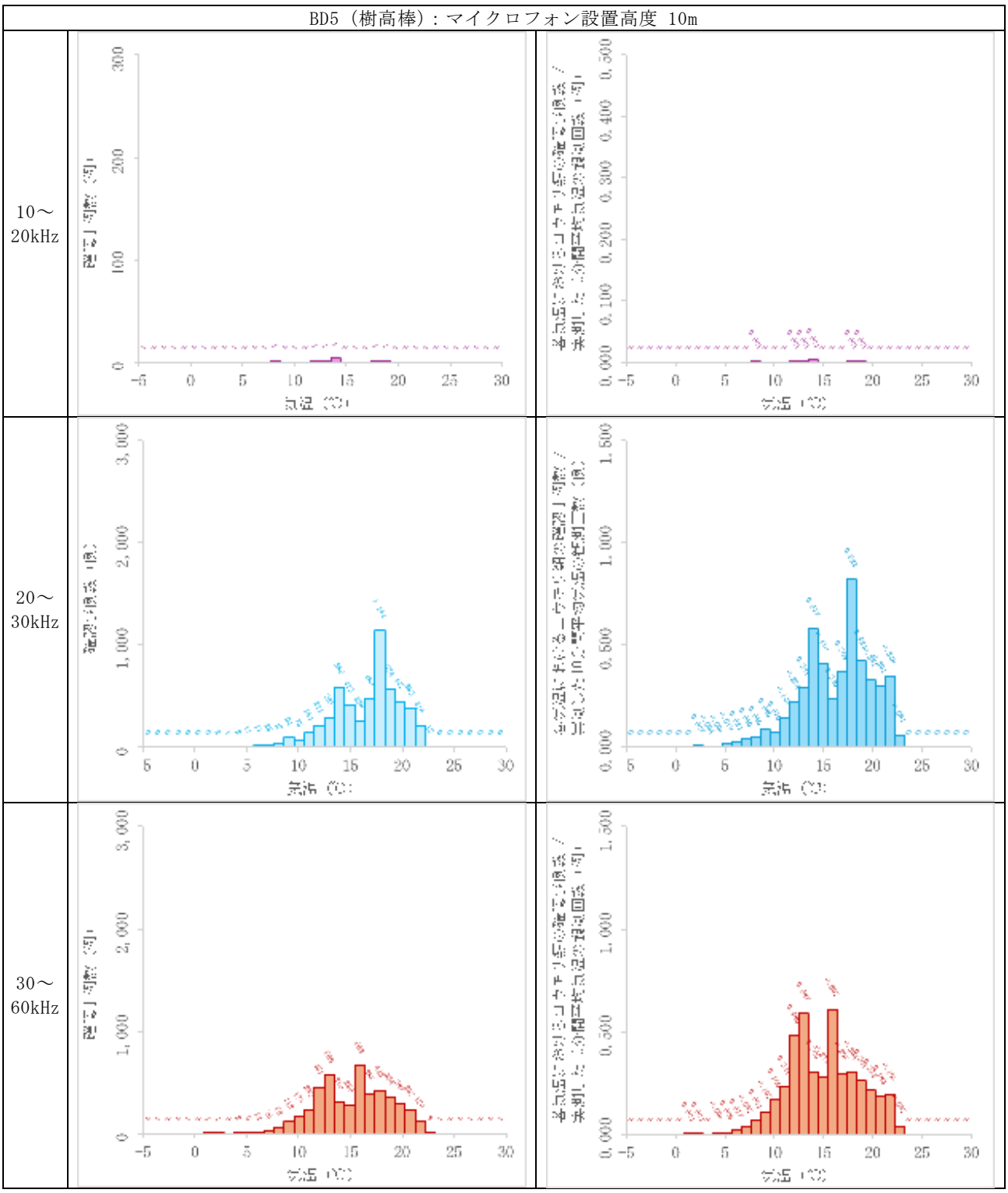


図 8.1.4-27(1)　コウモリ類の気温別確認事例数及び観測 1 回当たりの確認事例数
（BD5：10m　10～20kHz、20～30kHz、30～60kHz）

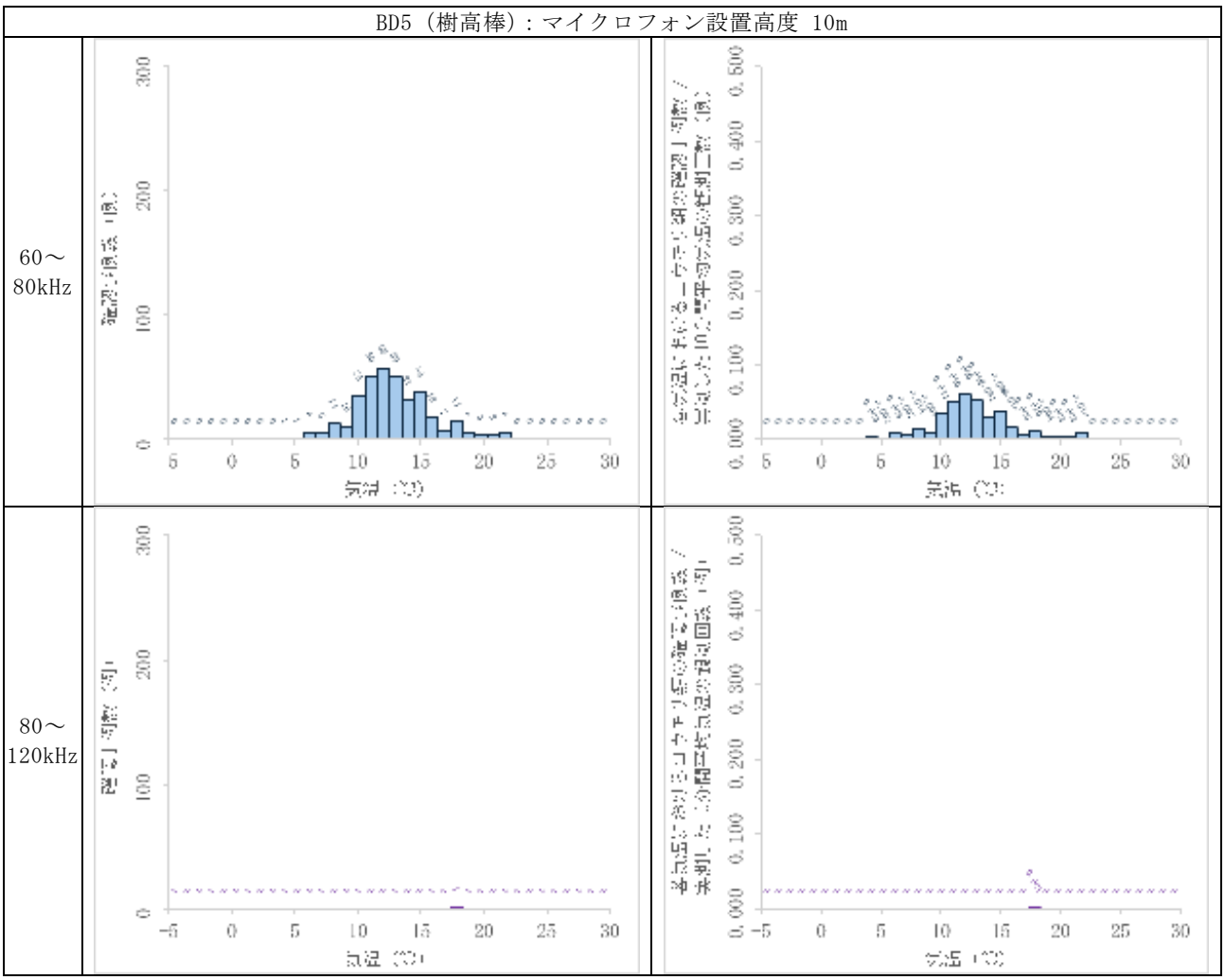


図 8.1.4-27(2)　コウモリ類の気温別確認事例数及び観測１回当たりの確認事例数
（BD5：10m　60～80kHz、80～120kHz）

b. 鳥類の状況

(a) 文献その他の資料調査

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

ｲ. 調査方法

表 8.1.4-7 に示す文献その他の資料から、対象事業実施区域及びその周囲において生息記録のある種を抽出した。

表 8.1.4-7　鳥類に係る文献その他の資料

文献その他の資料名	調査範囲
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 2 回（1978～1980）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 3 回（1983～1988）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「全国鳥類繁殖分布調査」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域が含まれる 20 kmメッシュ
「いきものログ」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「環境省報道発表資料－希少猛禽類調査（イヌワシ・クマタカ）の結果について－」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲
「環境アセスメントデータベース　センシティビティマップ」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲
「いわてレッドデータブック　岩手の希少な野生生物　web 版」（岩手県 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2、※3
「盛岡市史　第七巻（復刻版）」（盛岡市、昭和 55 年）	盛岡市
「特殊鳥類生息実態調査報告書」（岩手県環境保健部自然保護課、平成 5 年）	対象事業実施区域が含まれるメッシュ※4
「野生鳥獣保護調査事業・第 3 期調査　小型ワシタカ類生息実態調査報告書」（岩手県環境保健部自然保護課、平成 7 年）	対象事業実施区域が含まれるメッシュ※4
「野生鳥獣保護調査事業・第 4 期調査　フクロウ科生息実態調査報告書」（岩手県生活環境部自然保護課、平成 10 年）	対象事業実施区域が含まれるメッシュ※4
「野生生物保護対策事業調査報告書－イヌワシ生息状況調査－」（岩手県生活環境部自然保護課、平成 11 年）	対象事業実施区域が含まれるメッシュ※4
「いわてレッドデータブック（岩手の希少な野生生物 2025 年版）」（岩手県、令和 7 年）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2、※3

注：表中の※については、以下のとおりである。

※1：2 次メッシュは、国土地理院発行の 1/25,000 の地形図の図郭割の範囲に相当する。対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ「594132 区界」「594133 松草」「594142 大志田」「594143 青松葉山」を抽出した。

※2：掲載されている分布地域に盛岡市簗川等の詳細な地名が記載されている場合は詳細な地名を優先して抽出し、詳細な地名が記載されておらず盛岡市等の市町のみでの記載の場合は市町で抽出した。

※3：汽水域、沿岸域等明らかに対象事業実施区域の環境と生息域が異なるものについては除外した。

※4：対象事業実施区域を含む 10km×10km 又は 5km×5km メッシュ範囲。

ｳ. 調査結果

文献その他の資料調査の結果、111 種の鳥類が確認された。（第 3 章　3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況　(1) 動物相の概要 参照）

(b) 現地調査（一般鳥類）

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

ｲ. 調査地点

任意観察調査及びミゾゴイ・フクロウ夜間調査の踏査ルート、スポットセンサス法による調査の 12 地点（Sp1～Sp12）、IC レコーダーによる調査の 8 地点（IC1～IC8）とした。各調査地点の概要は表 8.1.4-8、調査地点位置は図 8.1.4-28 のとおりである。

表 8.1.4-8(1)　鳥類調査地点の概要（スポットセンサス法による調査）

調査方法	調査地点	地点概要	設定根拠
スポットセンサス法による調査	Sp1	広葉樹林（ミズナラ群落）	対象事業実施区域の代表的な環境に生息する鳥類の生息状況の確認を目的として設定した。
	Sp2	広葉樹林（ミズナラ群落）	
	Sp3	広葉樹林（ミズナラ群落）	
	Sp4	広葉樹林（ミズナラ群落）	
	Sp5	草地・低木林（牧草地）	
	Sp6	草地・低木林（牧草地）	
	Sp7	草地・低木林（牧草地）	
	Sp8	広葉樹林（ダケカンバ群落）	
	Sp9	草地・低木林（牧草地）	
	Sp10	河辺（ヤマハンノキ群落）	
	Sp11	植林地（カラマツ植林）	
	Sp12	植林地（カラマツ植林）	

表 8.1.4-8(2)　鳥類調査地点の概要（IC レコーダーによる調査）

調査方法	調査地点	地点概要	設定根拠
IC レコーダーによる調査	IC1	広葉樹林（ミズナラ群落）	対象事業実施区域の代表的な環境に生息する鳥類の生息状況の確認を目的として設定した。
	IC2	植林地（アカマツ植林）	
	IC3	草地・低木林（牧草地）	
	IC4	広葉樹林（ミズナラ群落）	
	IC5	植林地（カラマツ植林）	
	IC6	広葉樹林（ダケカンバ群落）	
	IC7	広葉樹林（ミズナラ群落）	
	IC8	広葉樹林（ダケカンバ群落）	

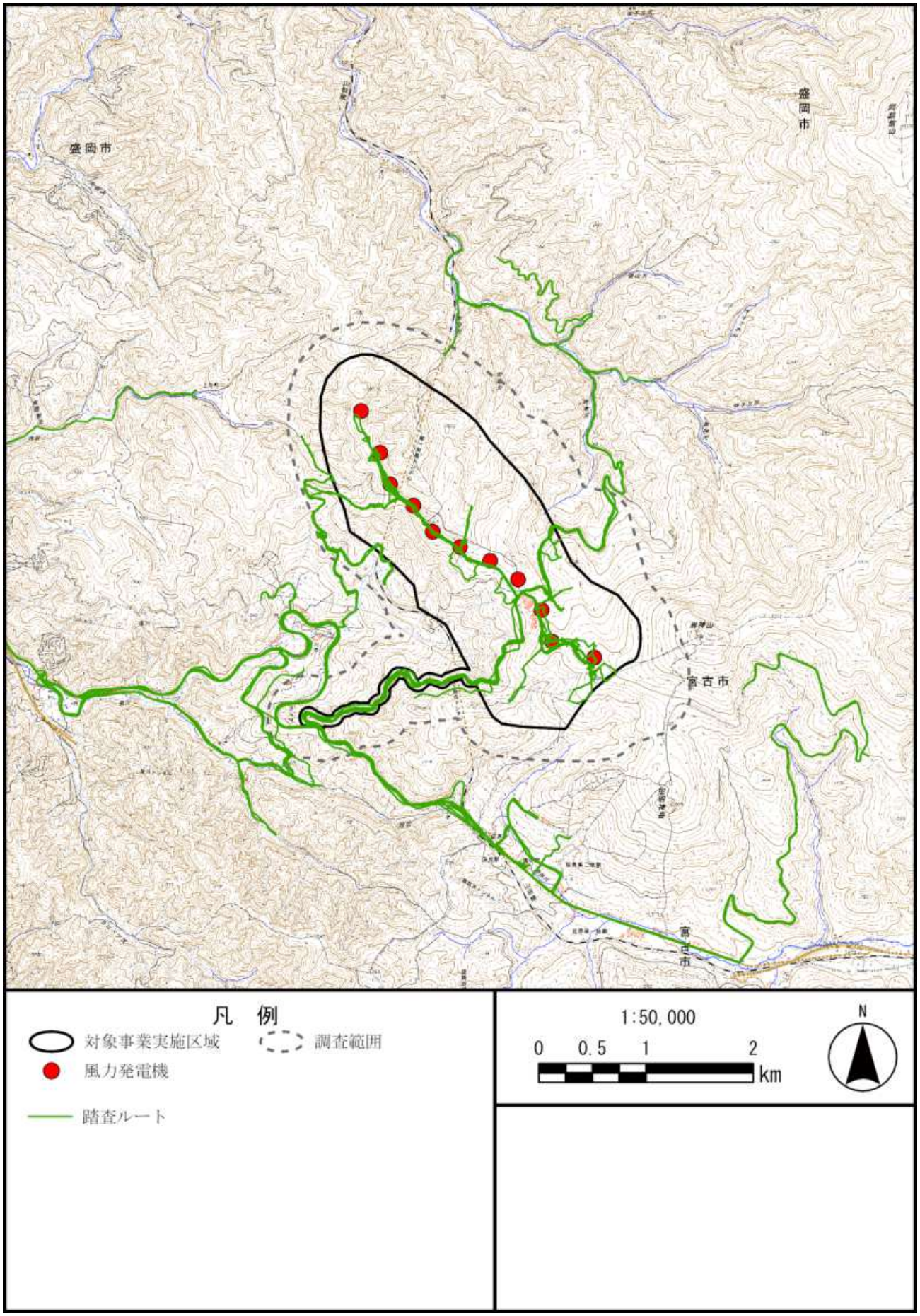


図 8.1.4-28(1)　鳥類の調査地点（任意観察調査）

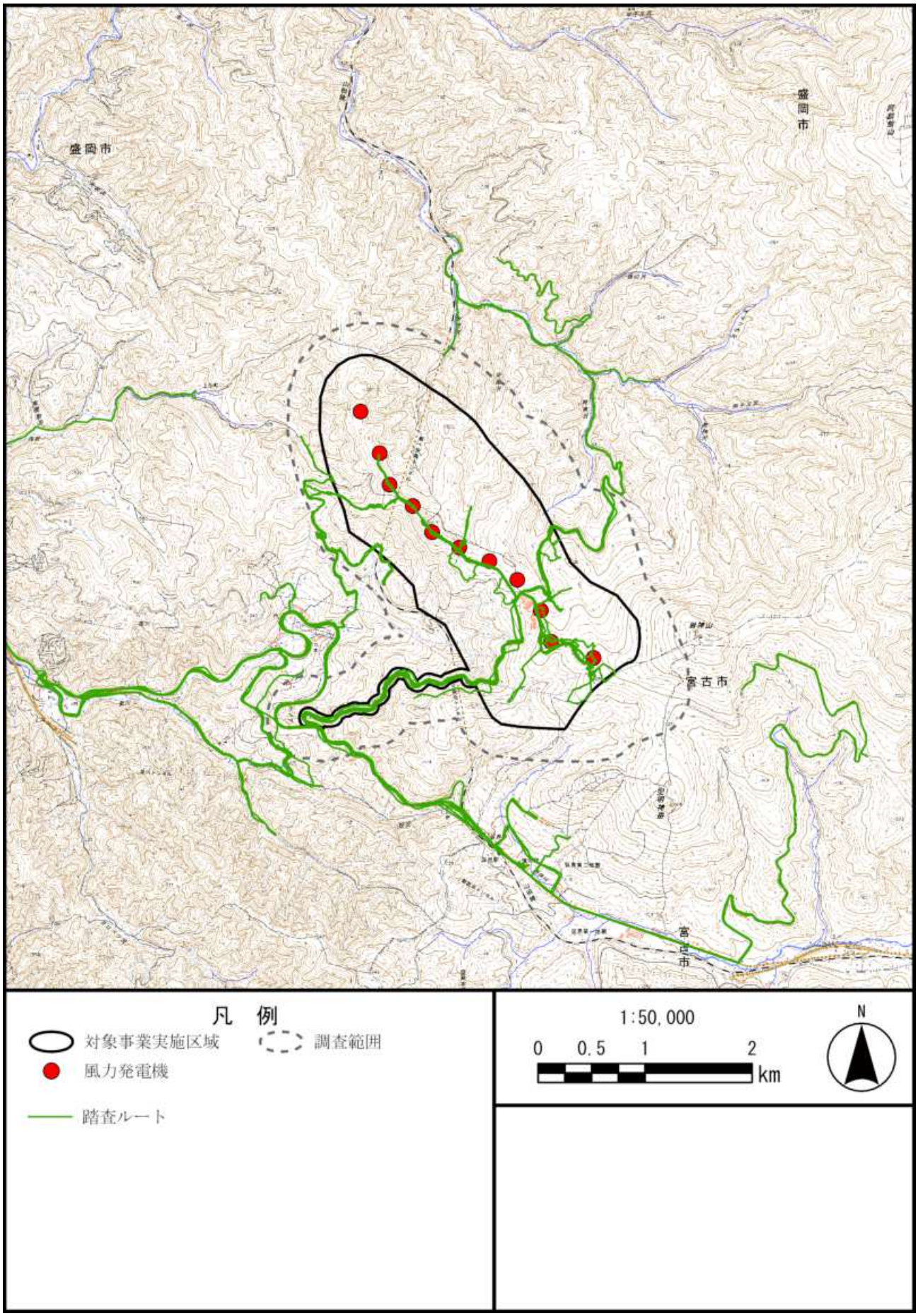


図 8.1.4-28(2)　鳥類の調査地点（ミゾゴイ・フクロウ夜間調査）

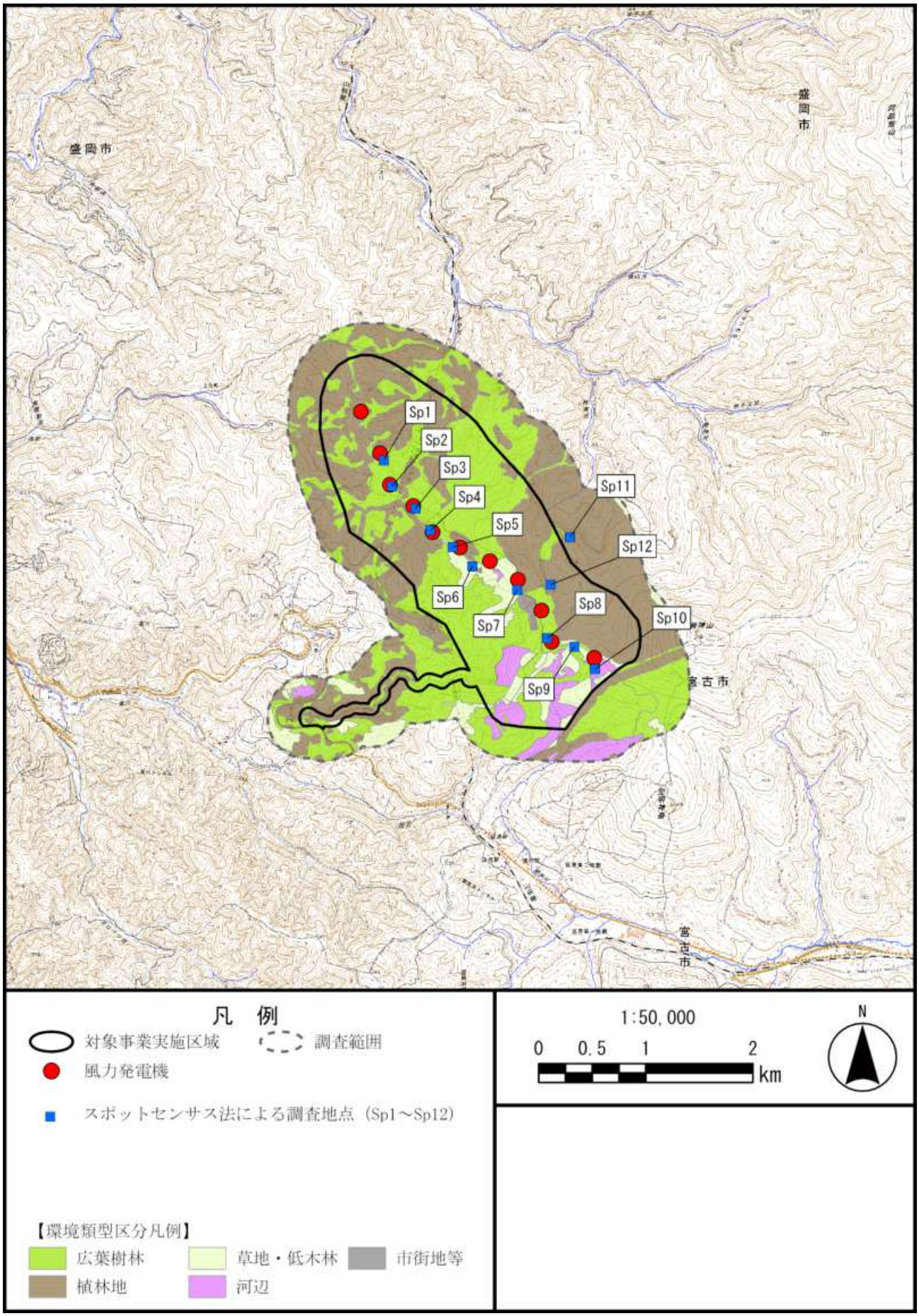


図 8.1.4-28(3)　鳥類の調査地点（スポットセンサス法による調査）

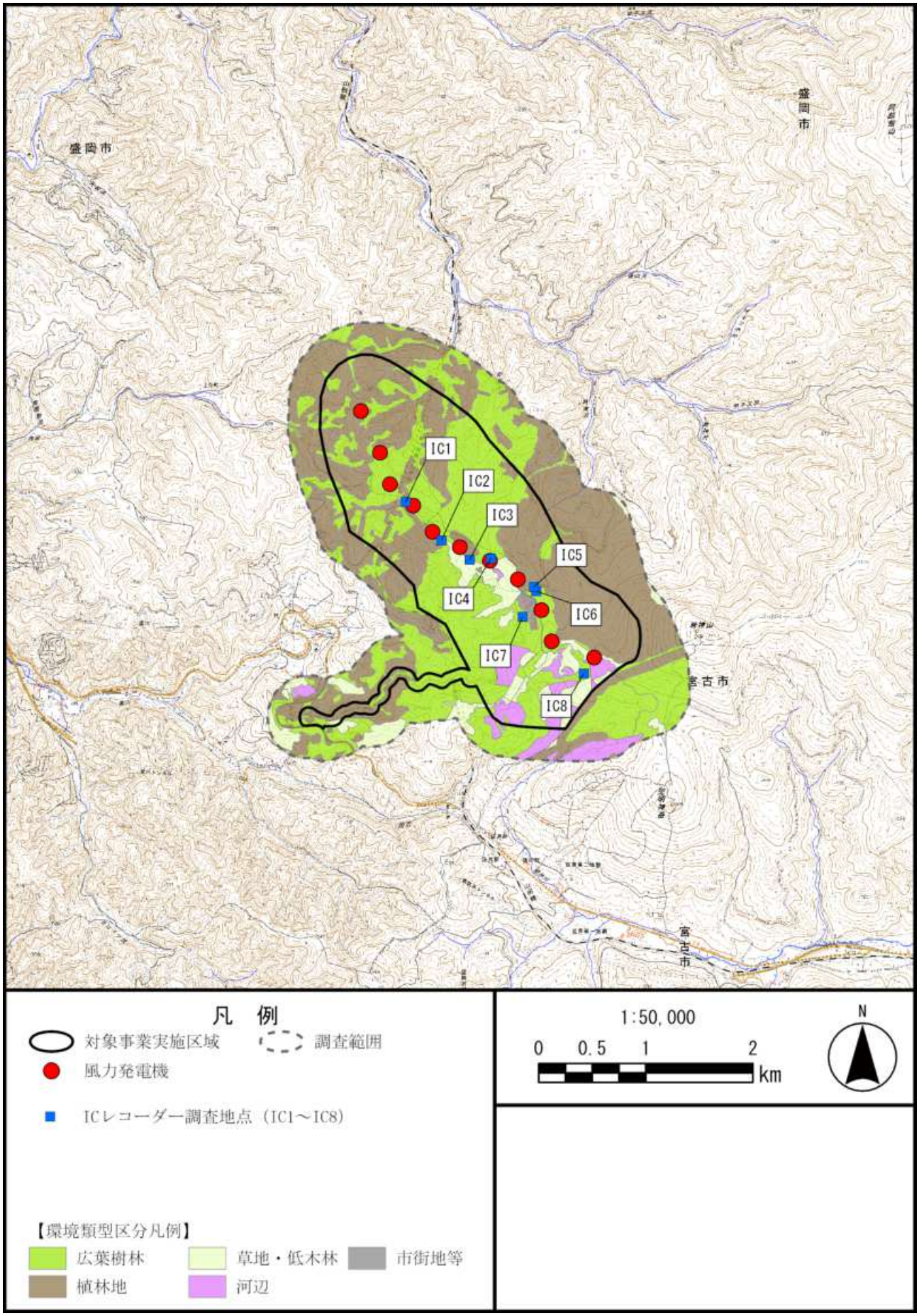


図 8.1.4-28(4)　鳥類の調査地点（IC レコーダー調査）

ｳ. 調査期間

(ｱ) 任意観察調査

春季調査：令和 7 年 4 月 9～11 日
夏季調査：令和 7 年 6 月 11～13 日
秋季調査：令和 7 年 10 月 2～4 日
冬季調査：令和 7 年 12 月 3～5 日

(ｲ) ミゾゴイ・フクロウ夜間調査

春季調査：令和 7 年 4 月 9～11 日、5 月 4 日
夏季調査：令和 7 年 6 月 12 日、7 月 10 日
秋季調査：令和 7 年 10 月 3 日

(ｳ) スポットセンサス法による調査

春季調査：令和 7 年 4 月 9～11 日
夏季調査：令和 7 年 6 月 11～13 日
秋季調査：令和 7 年 10 月 2～4 日
冬季調査：令和 7 年 12 月 3～5 日

(ｴ) IC レコーダーによる調査

春季調査：令和 7 年 5 月 9～16 日
夏季調査：令和 7 年 8 月 18～25 日

ｴ. 調査方法

(ｱ) 任意観察調査及びミゾゴイ・フクロウ夜間調査

調査範囲を踏査し、出現した種を記録した。適宜周辺環境に応じて任意踏査を実施した。夜間にはミゾゴイ、フクロウ類等の夜行性鳥類を対象とした調査も実施した。ミゾゴイについては活動時期（4 月中旬～5 月中旬頃）を含むよう調査時期を設定した。重要な種及び注目すべき生息地を確認した場合は、その個体数、確認位置、生息環境等を記録した。

(ｲ) スポットセンサス法による調査

調査定点に 10 分間※滞在し、定点から半径 50m の範囲内で出現する鳥類を目視及び鳴き声により、種名、個体数等を記録した。種が特定できなかった場合は分類階級が上位の属及び科等の記録とした。目視で観察された個体については、飛翔高度を記録した。高度区分は L（ブレード回転域より低空）、M（ブレード回転域を含む高度）、H（ブレード回転域より高空）とした。

※ 10 分間の観測時間は「モニタリングサイト 1000　森林・草原の鳥類調査ガイドブック（2009 年 4 月改訂版）」（環境省自然環境局生物多様性センター、（財）日本野鳥の会・NPO 法人バードリサーチ）を参考に設定した。

(ｳ) IC レコーダーによる調査

主にフクロウやヨタカ、ミゾゴイなどの夜行性の鳥類の生息状況の把握を目的として、IC レコーダーにより鳴き声を録音した。録音時間は日没～翌日の日の出までの時間帯を設定し、調査期間中繰り返し録音を実施した。設置地点は、主に樹林の類型区分を網羅するように設定した。

ｵ. 調査結果

対象事業実施区域及びその周囲における鳥類の現地調査結果は、表 8.1.4-9 のとおりであり、15 目 38 科 114 種が確認された。なお、調査結果には、希少猛禽類調査、鳥類の渡り時の移動経路調査において確認された種についても含めた。

ミズナラやコナラなどを主とする広葉樹林ではヤマドリ、コゲラ、ハシブトガラスといった留鳥が一年中みられたほか、多くの種の繁殖期に当たる春季から夏季には夏鳥のホトトギス、ツツドリ、ヤブサメ、オオルリ、キビタキ、イカル等の囀りが確認された。夜行性の留鳥であるフクロウもとまりが確認された。冬季には、ツグミ、ウソ等の冬鳥が確認された。

スギ・ヒノキ、アカマツ等の針葉樹を主とする植林地では、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ等の留鳥や夏鳥のホトトギス、カッコウ等が確認された。

草地・低木林では留鳥のウグイスやホオジロがみられたほか、ヤブサメ等の夏鳥、カシラダカ等の冬鳥が確認された。

河辺や水域では、カルガモ、アオサギ、ミソサザイ、カワガラス等の河川沿いに生息する種が確認された。

表 8.1.4-9(1)　鳥類の調査結果

No.	目名	科名	種名	任意観察				スポットセンサス法	夜間	IC	猛禽類調査	渡り鳥調査	
				春季	夏季	秋季	冬季					渡り	渡り以外
1	カモ	カモ	マガン					○				○	
－			ガン類※1									●	
2			コハクチョウ								○		
3			オオハクチョウ								○		
－			ハクチョウ類※2									○	
4			カルガモ								○		
5			マガモ								○		
6			コガモ								○		
7	キジ	キジ	ヤマドリ	○	○	○	○	○			○		○
8			キジ	○	○			○	○		○		○
9	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ						○	○	○		○
10	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ								○	○	
11			アマツバメ								○	○	○
12	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ		○				○		○		○
13			ホトトギス		○			○	○	○	○		○
14			ツツドリ		○			○	○		○	○	○
15			カッコウ		○			○		○	○		○
16	ハト	ハト	キジバト	○	○	○		○	○		○	○	○
17			アオバト		○	○		○			○	○	○
18	チドリ	シギ	オオジシギ							○	○		○
19	カツオドリ	ウ	カワウ								○	○	○
20	ペリカン	サギ	アオサギ	○					○		○		○
21			ダイサギ								○		
22	タカ	ミサゴ	ミサゴ								○		
23		タカ	ハチクマ								○	○	○
24			クマタカ	○			○				○		○
25			イヌワシ								○		○
26			ツミ								○	○	○
27			ハイタカ	○							○	○	○
28			オオタカ								○		○
29			トビ	○	○			○			○	○	○
30			オオワシ								○		○
31			オジロワシ								○		
32			サシバ								○		○
33			ノスリ					○			○	○	○
34	フクロウ	フクロウ	フクロウ						○	○			○
35	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン								○		
36			ヤマセミ	○							○		
37	キツツキ	キツツキ	コゲラ	○	○	○	○	○	○		○		○
38			アカゲラ	○	○	○		○	○		○	○	○
39			オオアカゲラ								○		○
40			アオゲラ	○	○	○		○	○		○		○
41			ヤマゲラ					○			○		
42	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ								○		○
43			チゴハヤブサ								○	○	
44			ハヤブサ								○		○
45	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ								○	○	○
46		モズ	モズ		○			○	○		○		○
47		カラス	カケス	○		○		○	○		○	○	○
48			ハシボソガラス		○	○		○	○		○		○
49			ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○		○		○
50		レンジャク	ヒレンジャク								○		
51		シジュウカラ	ヒガラ	○	○	○		○	○		○	○	○

表 8.1.4-9(2)　鳥類の調査結果

No.	目名	科名	種名	任意観察				スポットセンサス法	夜間	IC	猛禽類調査	渡り鳥調査	
				春季	夏季	秋季	冬季					渡り	渡り以外
52	スズメ	シジュウカラ	ヤマガラ	○	○	○		○	○		○	○	○
53			コガラ	○	○	○		○	○		○	○	○
54			シジュウカラ	○	○	○		○	○		○	○	○
－			カラ類※3	●								●	
55		ヒバリ	ヒバリ	○				○			○		○
56		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○		○	○		○	○	○
57		ツバメ	ショウドウツバメ								○		
58			ツバメ								○	○	○
59			イワツバメ								○	○	
60		ウグイス	ウグイス	○	○	○		○	○		○		○
61			ヤブサメ		○			○	○		○		○
62		エナガ	エナガ	○	○	○	○	○	○		○	○	○
63		ムシクイ	センダイムシクイ		○			○	○		○		○
64			エゾムシクイ					○	○		○		
65			メボソムシクイ								○		
66		メジロ	メジロ	○		○		○			○	○	○
67		キクイタダキ	キクイタダキ	○	○	○		○					○
68		ミソサザイ	ミソサザイ	○	○	○		○	○		○		○
69		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○	○	○		○			○		○
70		ムクドリ	ムクドリ	○							○		○
71			コムクドリ								○		
72		ツグミ	トラツグミ		○			○	○	○	○		○
73			マミジロ								○		
74			アカハラ	○	○			○	○		○	○	○
75			クロツグミ			○					○		○
76			マミチャジナイ								○		
77			シロハラ								○	○	○
78			ツグミ	○		○		○			○	○	○
79		ヒタキ	エゾビタキ								○		
80			サメビタキ									○	
81			コサメビタキ					○			○		
82			オオルリ		○			○			○		○
83			ノゴマ								○		
84			コルリ		○			○			○	○	○
85			コマドリ								○		
86			キビタキ		○			○			○		○
87			ルリビタキ					○	○		○	○	○
88			ジョウビタキ								○		
89			ノビタキ								○		
90		カワガラス	カワガラス								○		○
91		スズメ	スズメ					○			○		○
92		セキレイ	キセキレイ	○	○	○		○			○	○	○
93			ハクセキレイ	○	○			○			○		○
94			セグロセキレイ								○		
95			ビンズイ								○		○
96			タヒバリ								○		
97		アトリ	アトリ	○				○			○	○	○
－			アトリ類※4									●	
98			シメ	○				○			○	○	○
99			イカル	○				○			○	○	○
100			ウソ	○			○	○			○	○	○
101			ハギマシコ								○		
102			ベニマシコ	○				○			○		○

表 8.1.4-9(3)　鳥類の調査結果

No.	目名	科名	種名	任意観察				スポットセンサス法	夜間	IC	猛禽類調査	渡り鳥調査	
				春季	夏季	秋季	冬季					渡り	渡り以外
103	スズメ	アトリ	オオマシコ								○		
104			カワラヒワ	○	○			○			○	○	○
105			ベニヒワ								○		
106			イスカ				○	○			○	○	○
107			マヒワ					○			○	○	○
108		ホオジロ	ホオジロ	○	○	○		○	○		○		○
109			カシラダカ	○							○	○	○
110			ノジコ		○			○	○		○		
111			アオジ		○			○			○		○
112			クロジ		○						○	○	
－			ホオジロ類※5									●	
113	キジ	キジ	コジュケイ								○		
114	ハト	ハト	カワラバト(ドバト)								○		○
計	15 目	38 科	114 種	38 種	39 種	24 種	7 種	55 種	31 種	6 種	110 種	42 種	77 種

注：1. 種名及び配列は原則として、「日本鳥類目録 改訂第 8 版」（日本鳥学会、令和 6 年）に準拠した。
2. 「～類」としたもののうち、掲載する他種と重複する可能性のあるものについては種数の合計より除外した。表中の「●」は種数に計上しない種を示す。
3. 表中の「夜間」はミゾゴイ・フクロウ夜間調査を、「IC」は IC レコーダー調査を示す。
4. ※については以下のとおりである。
※1：ガン類については種の同定に至らなかったが、分布状況等によりマガン、ヒシクイ等の可能性がある。
※2：ハクチョウ類については種の同定に至らなかったが、分布状況等によりコハクチョウ、オオハクチョウの可能性がある。
※3：カラ類については種の同定に至らなかったが、分布状況等によりヒガラ、ヤマガラ、コガラ、シジュウカラ等の可能性がある。
※4：アトリ類については種の同定に至らなかったが、分布状況等によりアトリ等の可能性がある。
※5：ホオジロ類については種の同定に至らなかったが、分布状況等によりホオジロ、カシラダカ、クロジ等の可能性がある。

(ｱ) ミゾゴイ・フクロウ夜間調査

ミゾゴイ・フクロウを対象とした夜間調査において、令和 7 年 4 月 10 日の調査時にフクロウのとまりを調査範囲外で確認した。また、今回の夜間調査においてミゾゴイの確認はなかった。

(ｲ) スポットセンサス法による調査

スポットセンサス法による調査結果は、表 8.1.4-10 のとおりである。

各調査地点における調査時期ごとの生息密度については、いずれの調査地点においても春季が最も生息密度が高い結果となった。最も確認種が多かったのは Sp12 の秋季で、このうちエナガの生息密度が 63.69/ha と最も高かった。季節別においては、春季はコガラ、夏季はウグイス、秋季はエナガ、冬季はツグミが最も生息密度が高かった。

表 8.1.4-10(1)　スポットセンサス法による各調査地点における調査時期ごとの生息密度

（個体/ha）

No.	種名	Sp1				Sp2				Sp3			
		春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季
1	マガン												
2	ヤマドリ	5.10					1.27			1.27			
3	キジ												
4	ホトトギス						2.55				1.27		
5	ツツドリ		1.27				3.82				1.27		
6	カッコウ												
7	キジバト			1.27				3.82					
8	アオバト		1.27	2.55				2.55				7.64	
9	トビ												
10	ノスリ												
11	コゲラ		2.55	2.55	2.55	3.82	5.10	3.82	1.27	7.64		5.10	3.82
12	アカゲラ	1.27	1.27	3.82		5.10		1.27	2.55			2.55	1.27
13	アオゲラ			1.27		1.27	1.27			1.27		1.27	
14	ヤマゲラ												
15	モズ												
16	カケス	5.10	1.27	5.10		1.27	1.27	2.55				3.82	
17	ハシボソガラス					2.55							
18	ハシブトガラス	2.55		1.27			2.55	2.55				2.55	
19	ヒガラ	1.27		2.55		1.27	5.10	5.10		5.10	6.37	8.92	1.27
20	ヤマガラ	7.64	1.27			6.37	5.10	5.10		1.27	1.27	3.82	
21	コガラ	10.19		3.82	11.46	14.01		10.19	1.27	5.10	2.55		6.37
22	シジュウカラ	7.64	6.37	3.82		2.55	6.37	5.10		1.27	3.82	1.27	
23	ヒバリ												
24	ヒヨドリ							2.55					
25	ウグイス										1.27	3.82	
26	ヤブサメ						1.27				2.55		
27	エナガ		6.37	12.74			2.55	15.29		2.55	5.10	5.10	
28	センダイムシクイ												
29	エゾムシクイ												
30	メジロ			5.10							3.82	5.10	
31	キクイタダキ			1.27									
32	ミソサザイ												
33	ゴジュウカラ	1.27	1.27	2.55	1.27	6.37		2.55		7.64		2.55	1.27
34	トラツグミ												
35	アカハラ		1.27				1.27						
36	ツグミ								1.27				
37	コサメビタキ												
38	オオルリ												
39	コルリ						1.27				1.27		
40	キビタキ		2.55								3.82		
41	ルリビタキ												
42	スズメ												
43	キセキレイ												
44	ハクセキレイ												
45	アトリ												
46	シメ	2.55				8.92				31.85		5.10	
47	イカル	5.10				6.37							
48	ウソ					10.19				10.19			
49	ベニマシコ												
50	カワラヒワ			1.27									
51	イスカ				7.64				11.46				
52	マヒワ												
53	ホオジロ												
54	ノジコ												
55	アオジ												
合計	55 種	11 種	11 種	15 種	4 種	13 種	14 種	13 種	5 種	11 種	12 種	14 種	5 種
		49.68	26.75	50.96	22.93	70.06	40.76	62.42	17.83	75.16	34.39	58.60	14.01

表 8.1.4-10(2)　スポットセンサス法による各調査地点における調査時期ごとの生息密度

（個体/ha）

No.	種名	Sp4				Sp5				Sp6			
		春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季
1	マガン												
2	ヤマドリ												
3	キジ									1.27	1.27		
4	ホトトギス		1.27				1.27				3.82		
5	ツツドリ						2.55				1.27		
6	カッコウ						2.55				5.10		
7	キジバト	3.82				1.27	5.10	1.27		2.55	1.27	1.27	
8	アオバト		2.55				3.82				1.27		
9	トビ												
10	ノスリ											1.27	
11	コゲラ	1.27	1.27		1.27			3.82	1.27	1.27			
12	アカゲラ							1.27	1.27			1.27	
13	アオゲラ					1.27							
14	ヤマゲラ												
15	モズ						15.29				2.55		
16	カケス					1.27		3.82		6.37		3.82	
17	ハシボソガラス	1.27		1.27	1.27								1.27
18	ハシブトガラス				1.27		1.27		3.82	2.55	6.37	2.55	1.27
19	ヒガラ	6.37	5.10			6.37	2.55	14.01				7.64	
20	ヤマガラ	3.82				2.55		2.55		2.55			
21	コガラ			3.82		1.27		7.64		3.82			
22	シジュウカラ	1.27	1.27	2.55			5.10					2.55	
23	ヒバリ												
24	ヒヨドリ	5.10		1.27			1.27	6.37			1.27	3.82	3.82
25	ウグイス	10.19	2.55	11.46		19.11	7.64	12.74		11.46	8.92	5.10	
26	ヤブサメ		2.55										
27	エナガ	2.55	1.27			6.37				2.55			
28	センダイムシクイ												
29	エゾムシクイ												
30	メジロ		1.27										
31	キクイタダキ												
32	ミソサザイ												
33	ゴジュウカラ	1.27				1.27							
34	トラツグミ		1.27							1.27			
35	アカハラ		1.27										
36	ツグミ												
37	コサメビタキ												
38	オオルリ		1.27										
39	コルリ												
40	キビタキ						1.27						
41	ルリビタキ												
42	スズメ												
43	キセキレイ												
44	ハクセキレイ												
45	アトリ												
46	シメ						3.82						
47	イカル												
48	ウソ	8.92			1.27				2.55	1.27			
49	ベニマシコ												
50	カワラヒワ										1.27		
51	イスカ												
52	マヒワ												
53	ホオジロ					6.37				3.82		6.37	
54	ノジコ												
55	アオジ										1.27		
合計	55 種	11 種	12 種	5 種	4 種	10 種	13 種	9 種	4 種	12 種	12 種	10 種	3 種
		45.86	22.93	20.38	5.10	47.13	53.50	53.50	8.92	40.76	35.67	35.67	6.37

表 8.1.4-10(3)　スポットセンサス法による各調査地点における調査時期ごとの生息密度

（個体/ha）

No.	種名	Sp7				Sp8				Sp9			
		春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季
1	マガン			28.03									
2	ヤマドリ								1.27				
3	キジ		5.10			5.10				1.27	2.55	2.55	
4	ホトトギス		6.37				2.55						
5	ツツドリ												
6	カッコウ		3.82								2.55		
7	キジバト	11.46	7.64	3.82		2.55		1.27			7.64	1.27	
8	アオバト			7.64								1.27	
9	トビ		1.27	1.27				1.27		1.27			
10	ノスリ			1.27								1.27	
11	コゲラ	1.27			2.55	3.82	1.27	6.37	1.27	1.27		1.27	1.27
12	アカゲラ	1.27		1.27		8.92	3.82	2.55		6.37	1.27	2.55	2.55
13	アオゲラ					3.82			1.27	1.27	1.27		
14	ヤマゲラ												
15	モズ		3.82	2.55									
16	カケス	6.37	1.27			3.82		1.27		1.27		2.55	
17	ハシボソガラス			2.55				1.27	1.27			3.82	1.27
18	ハシブトガラス	10.19	8.92	14.01	11.46	10.19	2.55	10.19	5.10	6.37	7.64	6.37	
19	ヒガラ	5.10	1.27		2.55	7.64		2.55		16.56		6.37	
20	ヤマガラ	7.64		1.27		2.55	3.82	1.27		3.82	1.27	1.27	
21	コガラ	12.74		20.38	3.82	5.10	5.10	10.19	2.55	16.56	5.10	7.64	14.01
22	シジュウカラ	6.37	3.82	15.29		22.93				22.93	1.27	1.27	
23	ヒバリ	7.64											
24	ヒヨドリ		6.37	6.37			5.10	5.10			8.92	2.55	
25	ウグイス	5.10	7.64	10.19		5.10	3.82	1.27		8.92	6.37	10.19	
26	ヤブサメ						2.55						
27	エナガ	5.10		19.11	15.29	12.74		3.82		16.56		36.94	1.27
28	センダイムシクイ						3.82						
29	エゾムシクイ						1.27						
30	メジロ											2.55	
31	キクイタダキ												
32	ミソサザイ												
33	ゴジュウカラ	1.27				1.27		2.55					
34	トラツグミ		1.27										
35	アカハラ	1.27	5.10				3.82						
36	ツグミ	35.67		1.27	48.41	16.56		2.55		35.67			1.27
37	コサメビタキ												
38	オオルリ												
39	コルリ												
40	キビタキ						1.27	1.27			1.27		
41	ルリビタキ												
42	スズメ	3.82											
43	キセキレイ	8.92											
44	ハクセキレイ	5.10	1.27	3.82									
45	アトリ				17.83							5.10	
46	シメ		1.27										
47	イカル												
48	ウソ												
49	ベニマシコ									1.27			
50	カワラヒワ		5.10	30.57									
51	イスカ												
52	マヒワ				25.48							25.48	
53	ホオジロ	14.01		5.10				2.55	1.27	1.27	2.55	2.55	
54	ノジコ										1.27		
55	アオジ												
合計	55 種	19 種	17 種	19 種	8 種	15 種	13 種	17 種	7 種	16 種	14 種	20 種	6 種
		150.32	71.34	175.80	127.39	112.10	40.76	57.32	14.01	142.68	50.96	124.84	21.66

表 8.1.4-10(4)　スポットセンサス法による各調査地点における調査時期ごとの生息密度

（個体/ha）

No.	種名	Sp10				Sp11				Sp12			
		春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季
1	マガン												
2	ヤマドリ												
3	キジ												
4	ホトトギス						2.55						
5	ツツドリ												
6	カッコウ		1.27				1.27				1.27		
7	キジバト		2.55			8.92	7.64	1.27		3.82	1.27	3.82	
8	アオバト			1.27									
9	トビ	1.27											
10	ノスリ												
11	コゲラ		3.82	3.82		8.92	1.27	7.64	3.82	7.64		8.92	2.55
12	アカゲラ	10.19		3.82	3.82	3.82	2.55	2.55		2.55	1.27	3.82	2.55
13	アオゲラ						1.27	2.55				1.27	
14	ヤマゲラ					1.27				1.27			
15	モズ												
16	カケス	10.19		1.27		7.64		3.82	1.27	5.10	1.27	1.27	
17	ハシボソガラス		2.55		1.27								
18	ハシブトガラス	7.64	3.82	5.10	3.82	2.55	1.27	1.27		1.27	5.10	3.82	
19	ヒガラ	16.56		6.37	1.27	8.92			5.10	11.46			5.10
20	ヤマガラ	3.82	7.64			7.64	7.64	3.82		8.92	3.82	8.92	1.27
21	コガラ		6.37	17.83	11.46	22.93	7.64	12.74	8.92	17.83	5.10	29.30	7.64
22	シジュウカラ	11.46	1.27	11.46		10.19		26.75	1.27	11.46	2.55	31.85	1.27
23	ヒバリ												
24	ヒヨドリ		5.10	5.10			5.10	1.27				1.27	
25	ウグイス	5.10	7.64			1.27	7.64	2.55	1.27	7.64	8.92	3.82	
26	ヤブサメ		1.27				1.27				3.82		
27	エナガ	10.19		11.46		10.19		12.74	12.74	12.74	5.10	63.69	19.11
28	センダイムシクイ		1.27				7.64				3.82		
29	エゾムシクイ												
30	メジロ			5.10				12.74				12.74	
31	キクイタダキ												
32	ミソサザイ									5.10	7.64	5.10	2.55
33	ゴジュウカラ			1.27		1.27		1.27	1.27	3.82	2.55	1.27	
34	トラツグミ												
35	アカハラ		3.82			3.82	2.55			2.55	2.55		
36	ツグミ	6.37			2.55	2.55		1.27	10.19	3.82			8.92
37	コサメビタキ										1.27		
38	オオルリ												
39	コルリ						1.27						
40	キビタキ						3.82				8.92	1.27	
41	ルリビタキ					1.27							
42	スズメ												
43	キセキレイ												
44	ハクセキレイ												
45	アトリ								12.74				7.64
46	シメ												
47	イカル												
48	ウソ	6.37				2.55			5.10				3.82
49	ベニマシコ	2.55											
50	カワラヒワ												
51	イスカ												
52	マヒワ												7.64
53	ホオジロ		1.27			7.64				7.64			
54	ノジコ										1.27		
55	アオジ							1.27			6.37	1.27	
合計	55 種	12 種	14 種	12 種	6 種	18 種	16 種	16 種	11 種	17 種	19 種	17 種	12 種
		91.72	49.68	73.89	24.20	113.38	62.42	95.54	63.69	114.65	73.89	183.44	70.06

(ｳ) IC レコーダーによる調査

IC レコーダーによる調査では、表 8.1.4-11 のとおり、5 目 5 科 6 種が確認された。

表 8.1.4-11　IC レコーダーによる調査結果（調査地点別）

No.	目名	科名	種名	調査地点							
				IC1	IC2	IC3	IC4	IC5	IC6	IC7	IC8
1	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	○	○	○					○
2	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	○							○
3			カッコウ			○					
4	チドリ	シギ	オオジシギ	○	○	○	○	○	○	○	○
5	フクロウ	フクロウ	フクロウ	○	○	○	○	○	○	○	○
6	スズメ	ツグミ	トラツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○
合計	5 目	5 科	6 種	5 種	4 種	5 種	3 種	3 種	3 種	3 種	5 種

注：種名及び配列は原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」（日本鳥学会、令和 6 年）に準拠した。

(c) 現地調査（希少猛禽類）

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲約 1.5km の範囲とした。

ｲ. 調査地点

(ｱ) 定点観察法による調査

希少猛禽類調査の調査地点として、調査範囲の広域を見渡せる場所に 16 地点を設定した。現地調査に際しては、出現状況に応じて各回に適宜地点を選定し、必要に応じて任意の場所へ移動して観察を行う移動観察も併用し、調査地域における希少猛禽類の生息状況を広く把握することに努めた。また、令和 6 年 7 月～11 月においては、対象事業実施区域への飛来状況を観察する目的として対象事業実施区域の北東側において別途 7 地点を設定し、各回に適宜 5 地点を選定した。

各調査地点の概要は表 8.1.4-12、定点観察法による調査地点の配置状況は表 8.1.4-13、調査地点は図 8.1.4-29 のとおりである。

表 8.1.4-12　希少猛禽類調査地点の概要

調査方法	調査地点	地点概要
定点観察法による調査	St1	対象事業実施区域北東部周辺における生息状況確認を目的として設定した。
	St2	対象事業実施区域東部周辺における生息状況確認を目的として設定した。
	St3	対象事業実施区域中央部周辺における生息状況確認を目的として設定した。
	St4	対象事業実施区域中央部周辺における生息状況確認を目的として設定した。
	St5	対象事業実施区域南部周辺における生息状況確認を目的として設定した。
	St6	対象事業実施区域南部周辺における生息状況確認を目的として設定した。
	St7	対象事業実施区域西部周辺における生息状況確認を目的として設定した。
	St8	対象事業実施区域北部周辺における生息状況確認を目的として設定した。
	St9	対象事業実施区域北東部周辺における生息状況確認を目的として設定した。
	St10	対象事業実施区域南西部周辺における生息状況確認を目的として設定した。
	St11	対象事業実施区域南西部周辺における生息状況確認を目的として設定した。
	St12	対象事業実施区域南東部周辺における生息状況確認を目的として設定した。
	St13	対象事業実施区域南東部周辺における生息状況確認を目的として設定した。
	St14	対象事業実施区域北西部周辺における生息状況確認を目的として設定した。
	St15	対象事業実施区域北西部周辺における生息状況確認を目的として設定した。
	St16	対象事業実施区域北西部周辺における生息状況確認を目的として設定した。
	StA	対象事業実施区域北東部周辺における事業地方向への飛来状況確認を目的として設定した。
	StB	対象事業実施区域北東部周辺における事業地方向への飛来状況確認を目的として設定した。
	StC	対象事業実施区域北東部周辺における事業地方向への飛来状況確認を目的として設定した。
	StD	対象事業実施区域北東部周辺における事業地方向への飛来状況確認を目的として設定した。
	StE	対象事業実施区域北東部周辺における事業地方向への飛来状況確認を目的として設定した。
	StF	対象事業実施区域北東部周辺における事業地方向への飛来状況確認を目的として設定した。
	StG	対象事業実施区域北東部周辺における事業地方向への飛来状況確認を目的として設定した。

表 8.1.4-13(1)　調査地点の配置状況（定点観察法による調査：St1～St16 及び移動）

年	月	日	調査地点																
			St1	St2	St3	St4	St5	St6	St7	St8	St9	St10	St11	St12	St13	St14	St15	St16	移動
令和5年	9月	12日	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○					
		13日	○	○	○		○	○	○	○		○	○		○				
		14日	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○				
	10月	17日	○	○	○			○	○	○		○	○	○	○				
		18日	○	○	○		○	○	○	○		○	○		○				
		19日	○	○	○		○	○	○	○		○	○		○				
	11月	14日	○	○	○		○	○	○	○		○	○		○				
		15日	○	○	○		○	○	○	○		○	○		○				
		16日	○	○	○		○	○	○	○		○	○		○				
	12月	19日	○	○	○	○		○	○		○	○		○	○				
		20日	○	○	○	○		○	○		○	○		○	○				
		21日	○	○	○	○		○	○		○	○		○	○				
令和6年	1月	17日	○	○	○	○		○	○		○	○	○		○				
		18日	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○				
		19日	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○				
	2月	20日	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○				
		21日	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○				
		22日	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○				
	3月	26日	○	○	○		○	○	○		○		○	○	○				
		27日	○	○	○		○	○	○		○		○	○	○				
		28日	○	○	○		○	○	○		○		○	○	○				
	4月	24日	○	○	○		○	○	○		○		○	○	○				
		25日	○	○	○		○	○	○	○	○		○		○				
		26日	○	○	○		○	○	○	○	○		○		○				
	5月	29日	○	○	○		○	○	○	○	○		○		○				
		30日	○	○	○		○	○	○	○	○		○		○				
		31日	○	○	○		○	○	○	○	○		○		○				
	6月	25日	○	○	○		○	○	○	○	○		○		○				
		26日	○	○	○		○	○	○	○	○		○		○				
		27日	○	○	○		○	○	○	○	○		○		○				
	7月	17日	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○				
		18日	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○				
		19日	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○				
	8月	21日	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○				
		22日	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○				
		23日	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○				
	9月	25日	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○				
		26日	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○				
		27日	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○				
	10月	24日	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○				
		25日	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○				
		26日	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○				
	11月	20日	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○				
		21日	○	○	○		○	○	○	○		○	○		○				
		22日	○	○	○		○	○	○	○		○	○		○				
	12月	19日	○	○	○		○	○	○		○	○			○	○	○	○	
		20日	○	○	○		○	○	○		○	○			○	○	○	○	
		21日	○	○	○		○	○	○		○	○			○	○	○	○	
令和7年	1月	22日	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	
		23日	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	
		24日	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	
	2月	12日	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	
		13日	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	
		14日	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	
	3月	12月	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	
		13日	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	
		14日	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	
	4月	16日	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			○	○
		17日	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			○	○
		18日	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			○	○

表 8.1.4-13(2)　調査地点の配置状況（定点観察法による調査：St1～St16 及び移動）

年	月	日	調査地点															
			St1	St2	St3	St4	St5	St6	St7	St8	St9	St10	St11	St12	St13	St14	St15	St16	移動
令和7年	5月	12日	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			○	○
		13日	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			○	○
		14日	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			○	○
	6月	10月	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			○	
		11日	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			○	
		12日	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			○	
	7月	16日	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			○	
		17日	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			○	
		18日	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			○	
	8月	13日	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			○	
		14日	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			○	
		15日	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			○	

表 8.1.4-13(3)　調査地点の配置状況（定点観察法による調査：StA～StG）

年	月	日	調査地点						
			StA	StB	StC	StD	StE	StF	StG
令和6年	7月	17日	○	○	○	○		○	
		18日	○	○	○	○		○	
		19日	○	○		○	○	○	
	8月	21日	○	○		○	○	○	
		22日		○	○	○	○	○	
		23日	○	○		○	○	○	
	9月	25日	○	○	○		○	○	
		26日	○	○	○		○	○	
		27日		○	○		○	○	○
	10月	24日		○	○		○	○	○
		25日		○	○		○	○	○
		26日		○	○		○	○	○
	11月	20日		○	○		○	○	○
		21日		○	○		○	○	○
		22日		○	○		○	○	○

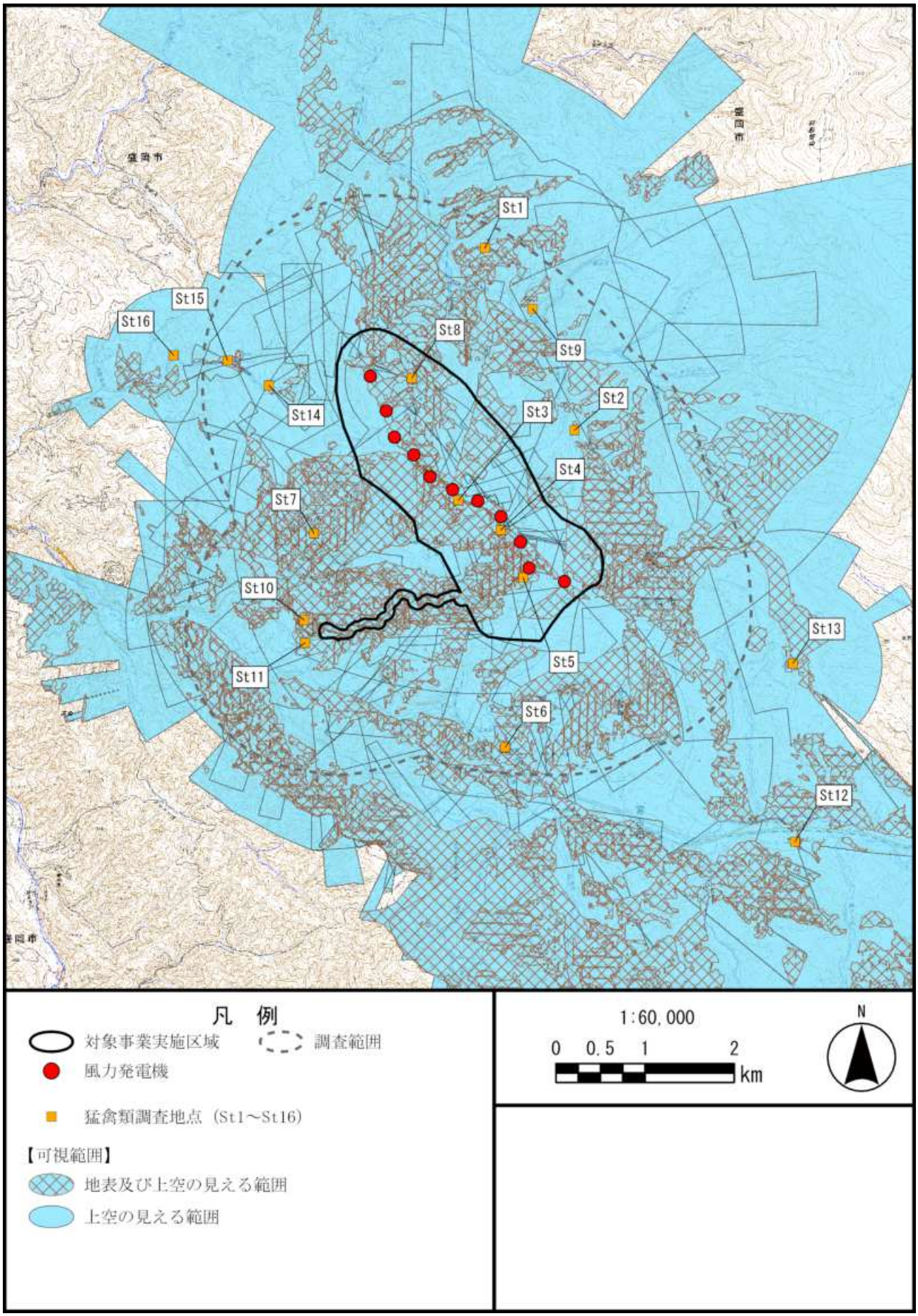


図 8.1.4-29(1)　希少猛禽類の調査地点（定点観察法による調査）

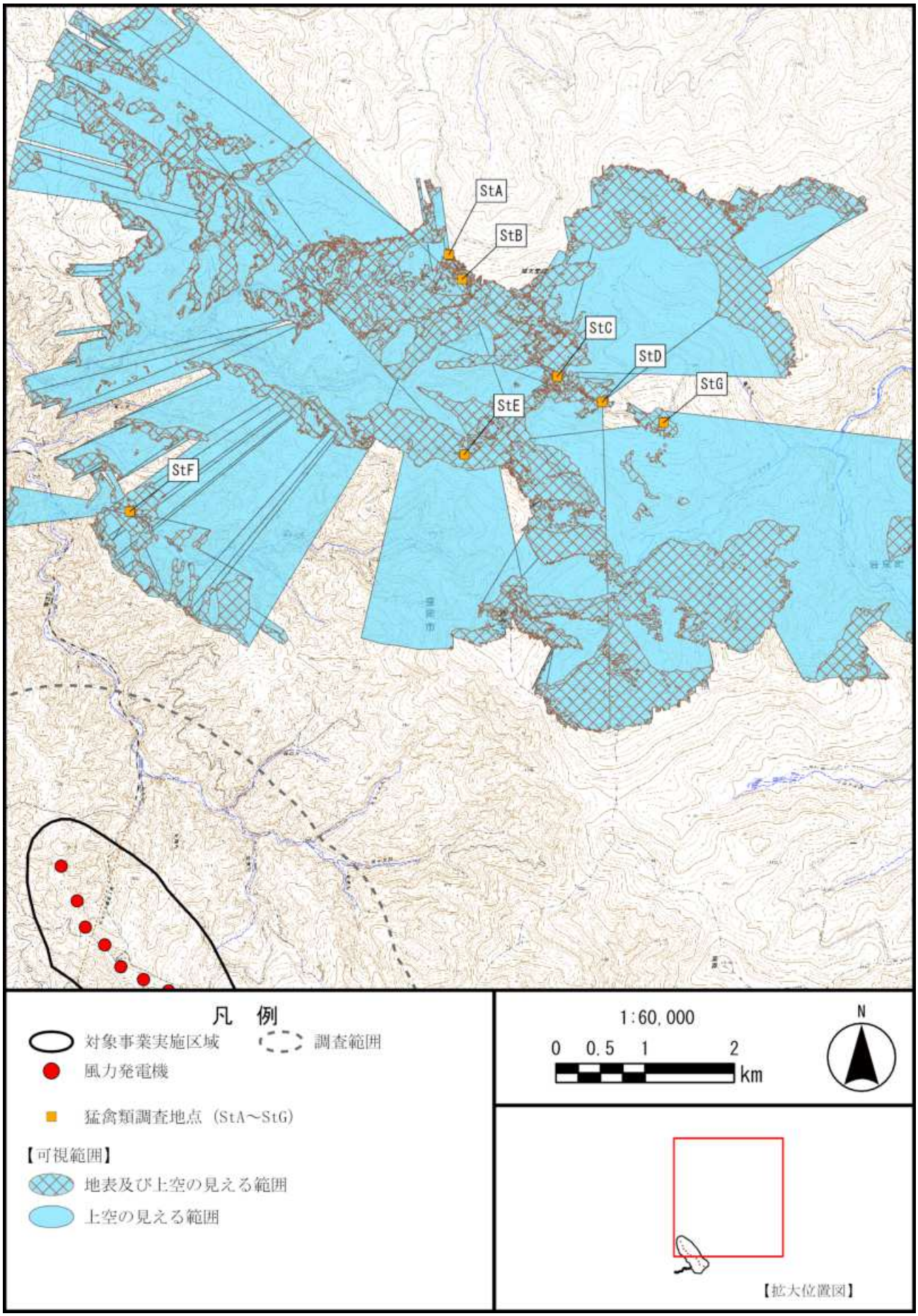


図 8.1.4-29(2)　希少猛禽類の調査地点（定点観察法による調査）

(ｲ) モニタリングカメラによる調査

定点観察法による調査の補足として、対象事業実施区域内の牧草地を撮影できる向きで定点カメラを 3 地点に設置し、餌場となる牧草地への希少猛禽類の飛来及び利用状況を撮影した。

調査地点は図 8.1.4-30 のとおりである。

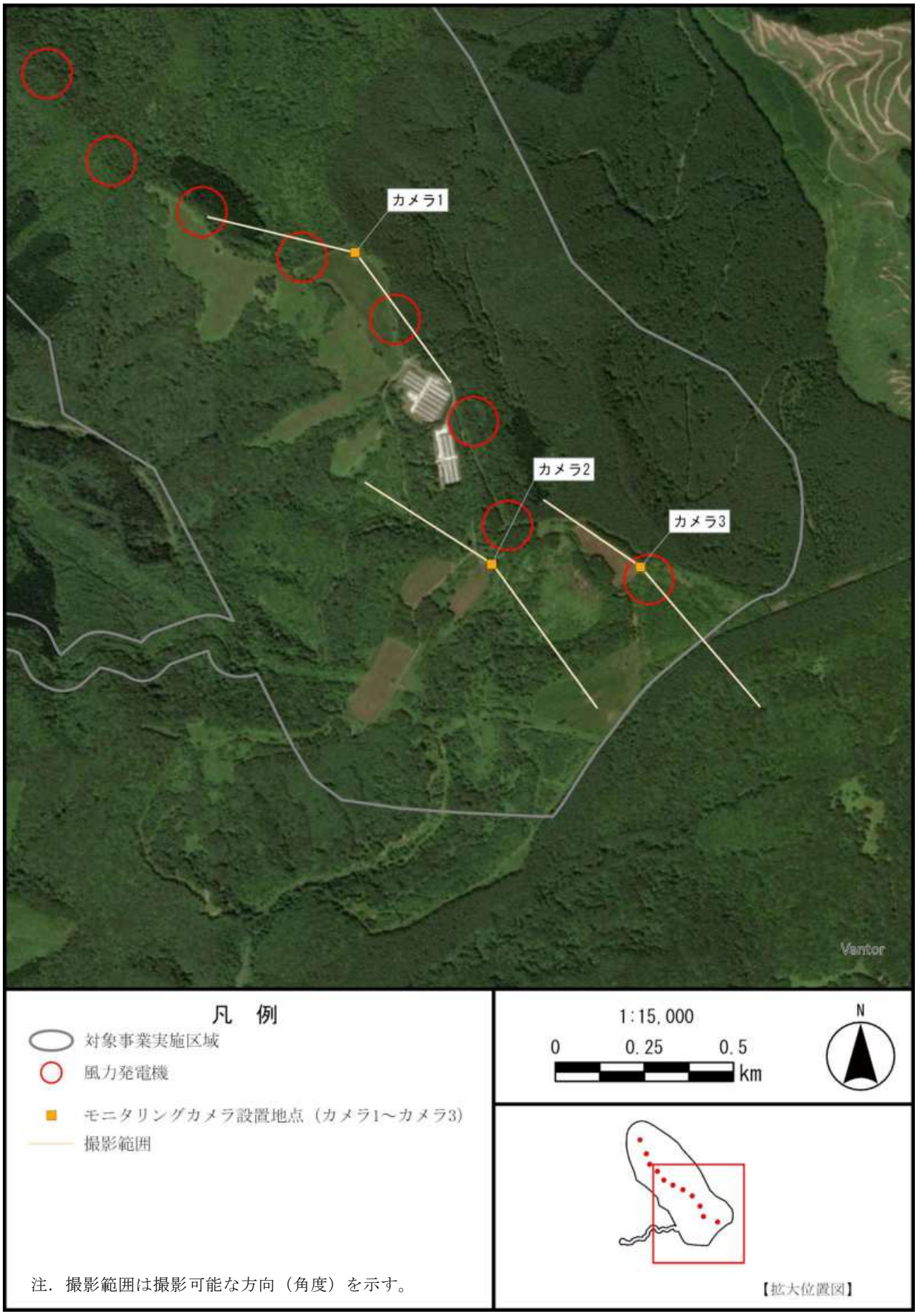


図 8.1.4-30　希少猛禽類の調査地点（モニタリングカメラによる調査）

ｳ. 調査期間

(ｱ) 定点観察法による調査

令和 5 年　9 月 12 ～ 14 日
10 月 17 ～ 19 日
11 月 14 ～ 16 日
12 月 19 ～ 21 日
令和 6 年　1 月 17 ～ 19 日
2 月 20 ～ 22 日
3 月 26 ～ 28 日
4 月 24 ～ 26 日
5 月 29 ～ 31 日
6 月 25 ～ 27 日
7 月 17 ～ 19 日
8 月 21 ～ 23 日
9 月 25 ～ 27 日
10 月 24 ～ 26 日
11 月 20 ～ 22 日
12 月 19 ～ 21 日
令和 7 年　1 月 22 ～ 24 日
2 月 12 ～ 14 日
3 月 12 ～ 14 日
4 月 16 ～ 18 日
5 月 12 ～ 14 日
6 月 10 ～ 12 日
7 月 16 ～ 18 日
8 月 13 ～ 15 日

(ｲ) モニタリングカメラによる調査

設　　置：令和 6 年 5 月 22 日
動画取得期間：令和 6 年 5 月 24 日～令和 7 年 11 月 29 日
撤　　去：令和 7 年 12 月 1 日、3 日

ｴ. 調査方法

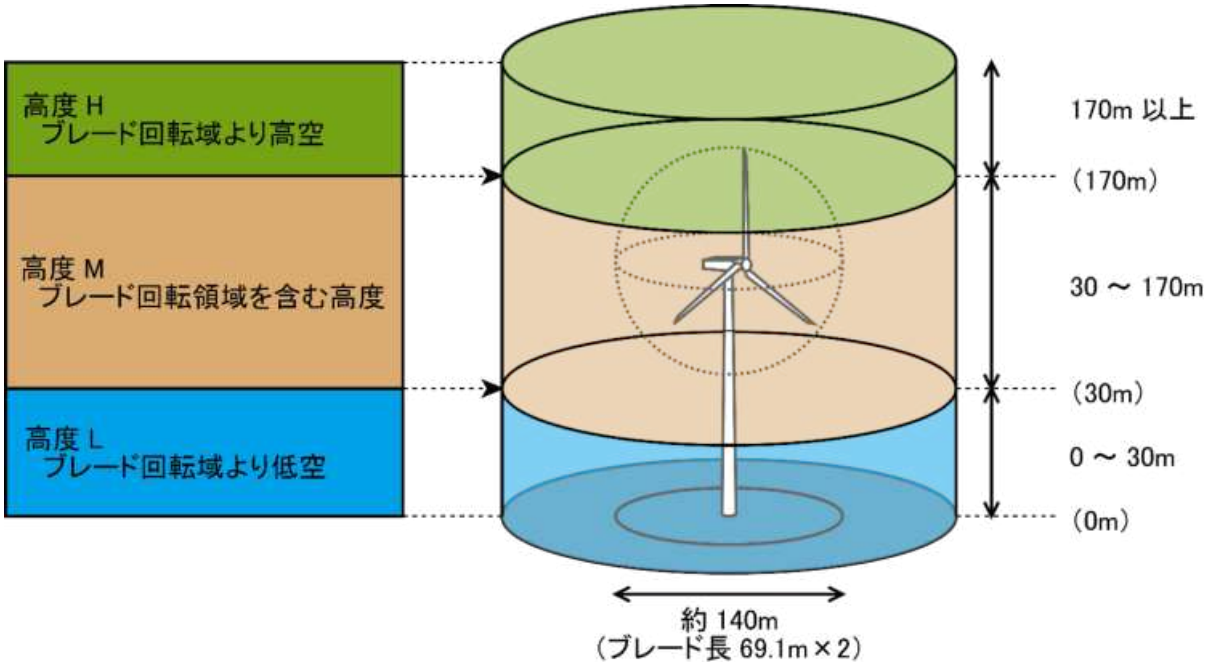
(ｱ) 定点観察法による調査

対象事業実施区域及びその周囲を広域に見渡せる複数の地点で定点観察を行い、希少猛禽類を確認した場合には、種名、年齢、性別、観察時間、行動内容、飛翔軌跡、飛翔高度等の記録を行った。

また、飛翔高度については、以下に示す 3 区分のうち該当する高度を L、M、H で記録し、データ集計及び整理を行った。

・高度 L：対地高度 0m～30m 未満（ブレード回転域よりも低空）
・高度 M：対地高度 30m 以上～170m 以下（ブレード回転域を含む高度）
・高度 H：対地高度 170m 超（ブレード回転域より高空）

飛翔高度が L～M、L～H、M～H のように高度区分間を飛翔し、かつ高度 M を含む場合は安全側を考慮して高度 M として集計した。高度区分の概念は図 8.1.4-31 のとおりである。



注：予定されている風力発電機はブレード長約 69.1m、タワー高 99.8m（ブレード回転域の最高端は約 169.0m）であるが、安全側を考慮してブレード長を 70m として高度区分を設定した。

図 8.1.4-31　調査で記録する高度区分

(ｲ) モニタリングカメラによる調査

定点観察の補足として、定点カメラを対象事業実施区域内の牧草地を撮影できる向きで 3 地点に設置し、餌場となる牧草地への希少猛禽類の飛来及び利用状況を撮影した。カメラ 1 については風況観測塔を利用し、高さ 25m の位置に、カメラ 2 及びカメラ 3 については単管を利用し、高さ 3m の位置にカメラを設置した。

撮影した動画については 5 分単位で区切られており、遠隔録画管理のできる NeteyePlus を利用し、各日のデータを mp4 にて保存した。NeteyePlus に保存された動画については、その後別の外部記録媒体に保存し、動体検知プログラムにより解析を行った。動体検知した物体は画像に緑の枠が画像に示され、別途静止画像として mp4 動画単位のフォルダにて保存される。ただし、プログラムで設定した反応時間に該当した動く物体すべてに反応するため、検知した画像を目視にて判別を行った。なお、静止画像での判読が難しい場合は、mp4 動画による確認を行った。

オ. 調査結果

(ｱ) 定点観察法による調査

対象事業実施区域及びその周囲で確認された希少猛禽類は表 8.1.4-14 のとおり、ミサゴ、ハチクマ、クマタカ、イヌワシ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、オオワシ、オジロワシ、サシバ、ノスリ、チョウゲンボウ、チゴハヤブサ、ハヤブサの 14 種であった。

令和 5 年 9 月から令和 7 年 8 月までの 2 年間の調査での確認概要は表 8.1.4-15 のとおり、全体で 1,384 例の確認であった。2 年間の調査のうちクマタカが 556 例と最も多く、次いでノスリが 290 例であった。

高度区分別の確認状況は表 8.1.4-16 のとおり、対象事業実施区域内の確認例数は 436 例であり、このうち高度 M の飛翔は 408 例であった。2 年間の調査のうち、高度 M の飛翔はクマタカが 178 例と最も多く、次いでノスリが 70 例であった。

なお、調査結果には、渡り時の移動経路調査及び一般鳥類調査において確認された地付きの希少猛禽類についても含めた。確認位置は図 8.1.4-43～図 8.1.4-56 のとおりである。希少猛禽類の各個体における確認状況については資料編に掲載した。

表 8.1.4-14　希少猛禽類確認種一覧

No.	目名	科名	種名
1	タカ	ミサゴ	ミサゴ
2		タカ	ハチクマ
3			クマタカ
4			イヌワシ
5			ツミ
6			ハイタカ
7			オオタカ
8			オオワシ
9			オジロワシ
10			サシバ
11			ノスリ
12	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ
13			チゴハヤブサ
14			ハヤブサ
合計	2 目	3 科	14 種

注：種名及び配列は原則として「日本鳥類目録 改訂第8版」（日本鳥学会、令和6年）に準拠した。

表 8.1.4-15(1)　希少猛禽類の確認概要

（単位：例）

種名	令和 5 年				令和 6 年								小計
	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	
ミサゴ	2								3		3	1	9
ハチクマ	20								2	11	31	14	78
クマタカ	25	24	71	6	13	30	35	6	7	3	10	20	250
イヌワシ	2			5		1	1	2	2		4	2	19
ツミ	2	4									2	4	12
ハイタカ	28	20	5	3	1	2	2	6	4	3	9	12	95
オオタカ		1							1	2		5	9
オオワシ													0
オジロワシ				1									1
サシバ										1		5	6
ノスリ	45	18	14	2	6	1	17	16	2	12	14	11	158
チョウゲンボウ													0
チゴハヤブサ												4	4
ハヤブサ	9	2					1				1		13
合計	133	69	90	17	20	34	56	30	21	32	74	78	654

表 8.1.4-15(2)　希少猛禽類の確認概要

（単位：例）

種名	令和 6 年				令和 7 年								小計	合計
	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月		
ミサゴ								1		2			3	12
ハチクマ	6								2	10	19	23	60	138
クマタカ	48	22	25	21	23	19	16	26	52	8	19	27	306	556
イヌワシ	4	14	5		5	10		20	1	4		3	66	85
ツミ		2						4	2	1	1		10	22
ハイタカ	38	12	11	5	2	2	9	11	1	6	8	20	125	220
オオタカ	2		1					1				2	6	15
オオワシ				1									1	1
オジロワシ				1									1	2
サシバ								1		2		5	8	14
ノスリ	26	4	2			1	6	15	9	22	28	19	132	290
チョウゲンボウ												5	5	5
チゴハヤブサ	2												2	6
ハヤブサ	2						1					2	5	18
合計	128	54	44	28	30	32	32	79	67	55	75	106	730	1,384

表 8.1.4-16　高度区分別の確認状況

（単位：例）

種名	確認例数	対象事業実施区域内確認例数		対象事業実施区域内高度					
				高度 L		高度 M		高度 H	
ミサゴ	12	5	(41.7)	0	(0.0)	5	(100.0)	0	(0.0)
ハチクマ	138	34	(24.6)	1	(2.9)	31	(91.2)	2	(5.9)
クマタカ	556	191	(34.4)	5	(2.6)	178	(93.2)	8	(4.2)
イヌワシ	85	30	(35.3)	0	(0.0)	29	(96.7)	1	(3.3)
ツミ	22	8	(36.4)	0	(0.0)	8	(100.0)	0	(0.0)
ハイタカ	220	71	(32.3)	6	(8.5)	64	(90.1)	1	(1.4)
オオタカ	15	1	(6.7)	0	(0.0)	1	(100.0)	0	(0.0)
オオワシ	1	1	(100.0)	0	(0.0)	1	(100.0)	0	(0.0)
オジロワシ	2	1	(50.0)	0	(0.0)	1	(100.0)	0	(0.0)
サシバ	14	6	(42.9)	0	(0.0)	6	(100.0)	0	(0.0)
ノスリ	290	74	(25.5)	2	(2.7)	70	(94.6)	2	(2.7)
チョウゲンボウ	5	1	(20.0)	0	(0.0)	1	(100.0)	0	(0.0)
チゴハヤブサ	6	3	(50.0)	0	(0.0)	3	(100.0)	0	(0.0)
ハヤブサ	18	10	(55.6)	0	(0.0)	10	(100.0)	0	(0.0)
合計	1,384	436	(31.5)	14	(3.2)	408	(93.6)	14	(3.2)

注：1. 種名及び配列については原則として、「日本鳥類目録　改訂第 8 版」（日本鳥学会、令和 6 年）に準拠した。

2. （　）内は割合（%）を示し、合計値は四捨五入の関係で必ずしも 100%にはならない。詳細については以下のとおりである。
・対象事業実施区域内確認個体数：各分類群における確認個体数に対する割合。
・対象事業実施区域内飛翔高度：対象事業実施区域内確認個体数に対する割合。

3. 対象事業実施区域内高度については、図 8.1.4-31 のとおりである。飛翔高度が L～M、M～H 等のような高度区分間を飛翔した場合は、高度 M とした。

(ｲ) モニタリングカメラによる調査

動画取得期間のうち、希少猛禽類調査の実施時期と重なる令和 6 年 5 月 24 日～令和 7 年 8 月までの撮影期間において、モニタリングカメラで撮影された各定点の動画を確認した結果、対象事業実施区域の牧草地内において、重要な種であるイヌワシの採餌（狩り）行動は撮影されていない。モニタリングカメラによる調査においては、撮影範囲の牧草地内において、図 8.1.4-32 のとおり、カラスの利用が撮影された。



カメラ 1：令和 6 年 8 月 20 日撮影



カメラ 1：令和 6 年 8 月 22 日撮影



カメラ 1：令和 6 年 9 月 26 日撮影

図 8.1.4-32　モニタリングカメラで撮影された牧草地を利用するカラス（カメラ 1）

(d) 現地調査（鳥類の渡り時の移動経路）

ｱ. 調査地域

鳥類の渡り時の移動経路を広域的に把握するため、対象事業実施区域及びその周囲約1.5km の範囲の渡り飛翔が確認できる観察位置を含めた地域とした。

ｲ. 調査地点

調査地点として 12 地点を設定して観察を行った。各調査地点の概要は表 8.1.4-17、配置状況は表 8.1.4-18 及び図 8.1.4-33 のとおりである。

表 8.1.4-17　鳥類の渡り時の移動経路調査地点の概要

調査方法	調査地点	地点概要
定点観察法による調査	Wt1	対象事業実施区域東部周辺における渡り鳥の利用状況を把握するため設定した。
	Wt2	対象事業実施区域中央部における渡り鳥の利用状況を把握するため設定した。
	Wt3	対象事業実施区域中央部から南部周辺における渡り鳥の利用状況を把握するため設定した。
	Wt4	対象事業実施区域南部周辺における渡り鳥の利用状況を把握するため設定した。
	Wt5	対象事業実施区域西部周辺における渡り鳥の利用状況を把握するため設定した。
	Wt6	対象事業実施区域北部周辺における渡り鳥の利用状況を把握するため設定した。
	Wt7	対象事業実施区域東部周辺における渡り鳥の利用状況を把握するため設定した。
	Wt8	対象事業実施区域中央部における渡り鳥の利用状況を把握するため設定した。
	Wt9	対象事業実施区域中央部から南部周辺における渡り鳥の利用状況を把握するため設定した。
	Wt10	対象事業実施区域西部周辺における渡り鳥の利用状況を把握するため設定した。
	Wt11	対象事業実施区域中央部から南部周辺における渡り鳥の利用状況を把握するため設定した。
	Wt12	対象事業実施区域中央部から南部周辺における渡り鳥の利用状況を把握するため設定した。

表 8.1.4-18　調査地点の配置状況（鳥類の渡り時の移動経路調査）

年	月日	調査時間	調査地点											
			Wt1	Wt2	Wt3	Wt4	Wt5	Wt6	Wt7	Wt8	Wt9	Wt10	Wt11	Wt12
令和7年	3月29日	4:00～12:00 15:00～18:00	○	○	○	○	○	○						
	3月30日	4:30～18:00	○	○	○	○	○	○						
	3月31日	4:30～12:00 15:00～18:00	○	○	○	○	○	○						
	4月26日	4:30～12:00 15:00～18:30				○	○	○	○	○	○			
	4月27日	4:30～18:30				○	○	○	○	○	○			
	4月28日	4:30～12:00 15:00～17:00				○	○	○	○	○	○			
	5月29日	4:00～12:00 15:00～19:00				○	○	○	○	○	○			
	5月30日	4:00～19:00				○	○	○	○	○	○			
	5月31日	4:00～12:00 15:00～17:00				○	○	○	○	○	○			
	9月4日	4:00～19:00						○	○	○		○	○	○
	9月5日	4:00～19:00						○	○	○		○	○	○
	9月14日	4:00～19:00						○	○	○		○	○	○
	9月15日	4:00～19:00						○	○	○		○	○	○
	9月23日	4:00～19:00						○	○	○		○	○	○
	9月24日	4:00～19:00						○	○	○		○	○	○
	10月6日	4:30～18:00						○	○	○		○	○	○
	10月7日	4:30～18:00						○	○	○		○	○	○
	10月17日	4:30～18:00						○	○	○		○	○	○
	10月18日	4:30～18:00						○	○	○		○	○	○
	10月25日	4:30～18:00						○	○	○		○	○	○
	10月26日	4:30～18:00						○	○	○		○	○	○
	11月7日	5:00～17:00						○	○	○		○	○	○
	11月8日	5:00～17:00						○	○	○		○	○	○
	11月16日	5:00～17:00						○	○	○		○	○	○
	11月17日	5:00～17:00						○	○	○		○	○	○
	11月28日	5:00～17:00						○	○	○		○	○	○
	11月29日	5:00～17:00						○	○	○		○	○	○

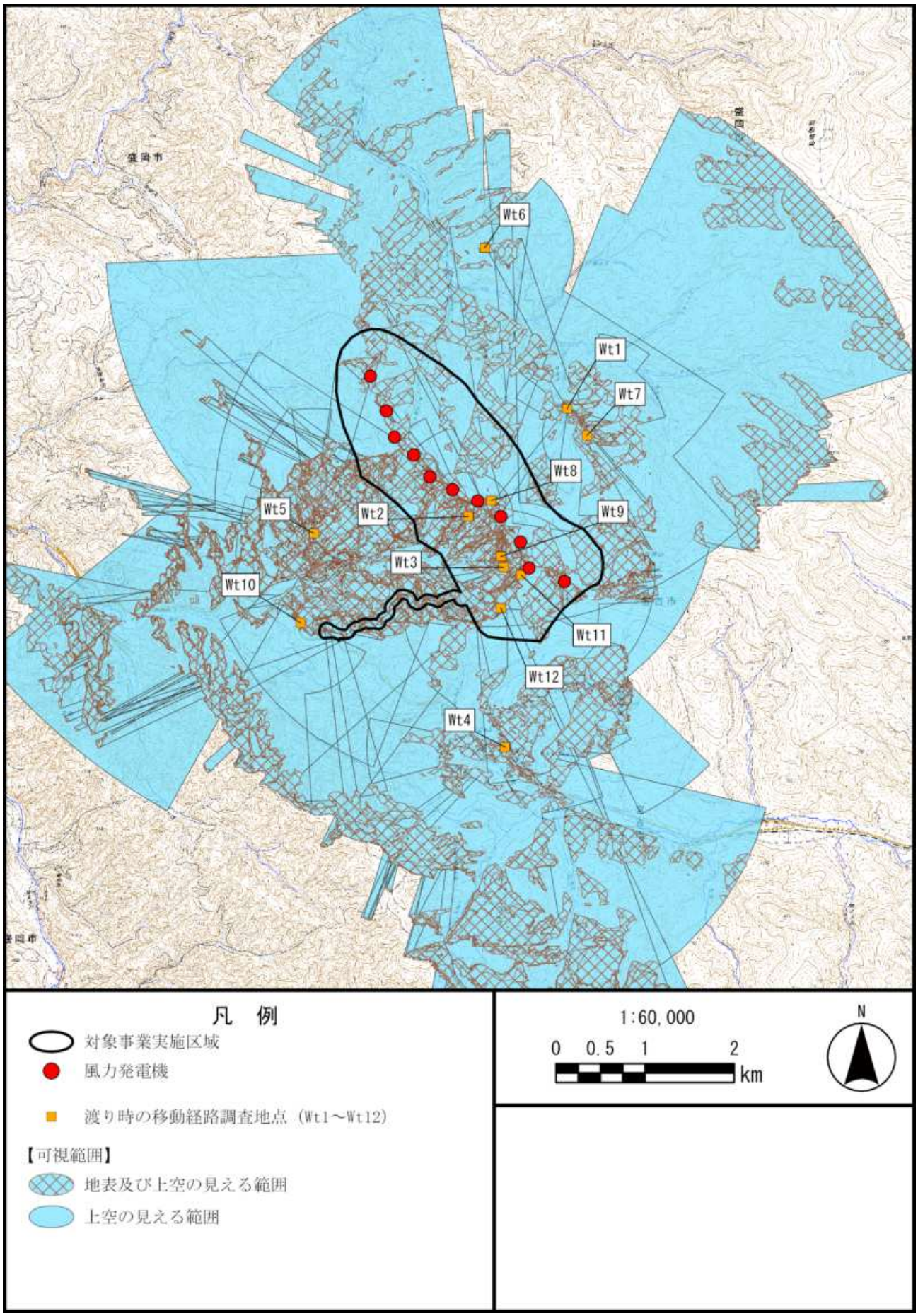


図 8.1.4-33　鳥類の渡り時の移動経路調査地点（定点観察法による調査）

ｳ. 調査期間

(ｱ) 定点観察法による調査

春季調査：令和 7 年 3 月 29～31 日
4 月 26～28 日
5 月 29～31 日

秋季調査：令和 7 年 9 月 4～5 日、14～15 日、23～24 日
10 月 6～7 日、17～18 日、25～26 日
11 月 7～8 日、16～17 日、28～29 日

ｴ. 調査方法

(ｱ) 定点観察法による調査

対象事業実施区域及びその周囲に定点を配置し、希少猛禽類やその他の一般鳥類の移動経路を把握した。確認時には種名、個体数、飛翔高度、確認時間等を記録した。また、飛翔高度は次の 3 区分に当てはめ、データ集計及び整理を行った。飛翔高度が L～M、L～H、M～H のように高度区分間を飛翔した場合は、安全側を考慮して高度 M とした。

・高度 L：対地高度 0～30m 未満（ブレード回転域よりも低空）
・高度 M：対地高度 30m 以上～170m 以下（ブレード回転域を含む高度）
・高度 H：対地高度 170m 超（ブレード回転域より高空）

渡りの判定に当たっては、行動面及び生態面の両方の基準を設定し、両基準を満たす個体を渡り個体とした。

行動面では、通常より高空を飛翔している、通常より長距離を飛翔している、通常群れない種が群れで飛翔している、多数の個体が一定方向に飛翔している等の行動を渡りの判断基準とした。生態面では、対象事業実施区域及びその周囲で確認された冬鳥、夏鳥、旅鳥、迷鳥及び留鳥のうち、渡りの習性を有する種を判定対象とした。

なお、行動面における「通常」とする目安は、種ごとの習性（渡り時期、飛翔場所の地形条件、飛翔方向、天気・風況の気象条件、出現個体数等）から、現地調査における複数の情報及び条件を総合的に勘案した。

オ. 調査結果

(ｱ) 定点観察法による調査

鳥類の渡り時の移動経路調査結果は表 8.1.4-19 のとおりである。対象事業実施区域及びその周囲でのべ 4,975 個体（うち対象事業実施区域内 2,419 個体）の渡りが確認された。春季調査では 975 個体、秋季調査では 4,000 個体の確認であった。対象事業実施区域内の通過は秋季におけるその他の鳥類が 1,666 個体と最も多く、次いで秋季におけるガン・カモ・ハクチョウ類の 467 個体であった。

本調査では、鳥類についてガン・カモ・ハクチョウ類、猛禽類、その他の鳥類の 3 つに分類した。ガン・カモ・ハクチョウ類はカモ目の種全体を含むカテゴリーとし、猛禽類はトビを除くタカ目及びハヤブサ目の鳥類を含むカテゴリーとした。また、それら以外の種は、その他の鳥類とした。

表 8.1.4-19　鳥類の渡り時の移動経路調査結果概要

（単位：個体）

分類	令和 7 年				合計	
	春季		秋季			
ガン・カモ・ハクチョウ類	0	(0)	610	(467)	610	(467)
猛禽類	10	(3)	37	(22)	47	(25)
その他の鳥類	965	(261)	3,353	(1,666)	4,318	(1,927)
合計	975	(264)	4,000	(2,155)	4,975	(2,419)

注：（ ）内は対象事業実施区域内の確認個体数を示す。

i. 令和 7 年春季調査（令和 7 年 3 月～5 月）

令和 7 年春季調査では、28 種（975 個体）の渡りが確認された。調査月別の渡り状況は表 8.1.4-20、高度区分別の渡り状況は表 8.1.4-21 のとおりである。

猛禽類について 10 個体の渡りが確認され、このうち対象事業実施区域内を通過した個体は 3 個体（30.0%）であった。

その他の鳥類について 965 個体の渡りが確認され、このうち対象事業実施区域内を通過した個体は 261 個体（27.0%）であった。

なお、ガン・カモ・ハクチョウ類の渡りは確認されなかった。

表 8.1.4-20　調査月別の渡り状況（令和 7 年春季）

（単位：個体）

分類	種名	確認個体数				対象事業実施区域内確認個体数			
		令和 7 年			合計	令和 7 年			合計
		3 月	4 月	5 月		3 月	4 月	5 月	
猛禽類	ハチクマ			3	3			1	1
	ハイタカ		2		2		2		2
	ノスリ	3	2		5				0
	小計	3	4	3	10	0	2	1	3
その他の鳥類	ハリオアマツバメ			33	33			33	33
	アマツバメ		3	6	9		1	6	7
	ツツドリ		1		1		1		1
	アオバト	3		59	62	3		5	8
	カワウ	3			3	3			3
	トビ		1		1				0
	カケス	8			8	8			8
	ヒガラ	4			4				0
	ヤマガラ	3			3				0
	コガラ	27	13		40	27	13		40
	シジュウカラ	3			3				0
	カラ類※	74			74	12			12
	ヒヨドリ		16		16				0
	メジロ		52		52		7		7
	アカハラ		1		1		1		1
	シロハラ	4			4				0
	ツグミ	131	39		170	92	15		107
	サメビタキ		3		3		3		3
	コルリ		1		1		1		1
	ルリビタキ		3		3				0
	アトリ	111			111				0
	シメ		19		19		5		5
	イカル	13	4	6	23		4	6	10
	カワラヒワ	45	13		58		13		13
	マヒワ	261			261				0
	カシラダカ	2			2	2			2
	小計	692	169	104	965	147	64	50	261
種数		15 種	16 種	5 種	28 種	6 種	12 種	5 種	18 種
個体数		695 個体	173 個体	107 個体	975 個体	147 個体	66 個体	51 個体	264 個体

注：1. 種名及び配列については、原則として「日本鳥類目録　改訂第 8 版」（日本鳥学会、令和 6 年）に準拠した。
2. 「～類」としたもののうち、同一分類群の他種と重複する可能性があるものについては、種数の合計から除外した。
3. 表中の※については以下のとおりである。
※：カラ類については種の確認には至らなかったが、分布及び確認状況等によりヒガラ、ヤマガラ、コガラ、シジュウカラ、エナガ、ゴジュウカラのいずれかの可能性がある。

表 8.1.4-21　高度区分別の渡り状況（令和 7 年春季）

（単位：個体）

種名	確認個体数	対象事業実施区域内確認個体数		対象事業実施区域内高度					
				高度 L		高度 M		高度 H	
ハチクマ	3	1	(33.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(100.0)
ハイタカ	2	2	(100.0)	0	(0.0)	2	(100.0)	0	(0.0)
ノスリ	5	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
猛禽類　計	10	3	(30.0)	0	(0.0)	2	(66.7)	1	(33.3)
ハリオアマツバメ	33	33	(100.0)	0	(0.0)	33	(100.0)	0	(0.0)
アマツバメ	9	7	(77.8)	0	(0.0)	1	(14.3)	6	(85.7)
ツツドリ	1	1	(100.0)	1	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
アオバト	62	8	(12.9)	3	(37.5)	5	(62.5)	0	(0.0)
カワウ	3	3	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	3	(100.0)
トビ	1	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
カケス	8	8	(100.0)	0	(0.0)	8	(100.0)	0	(0.0)
ヒガラ	4	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
ヤマガラ	3	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
コガラ	40	40	(100.0)	40	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
シジュウカラ	3	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
カラ類※	74	12	(16.2)	12	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
ヒヨドリ	16	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
メジロ	52	7	(13.5)	7	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
アカハラ	1	1	(100.0)	1	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
シロハラ	4	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
ツグミ	170	107	(62.9)	107	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
サメビタキ	3	3	(100.0)	3	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
コルリ	1	1	(100.0)	1	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
ルリビタキ	3	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
アトリ	111	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
シメ	19	5	(26.3)	2	(40.0)	3	(60.0)	0	(0.0)
イカル	23	10	(43.5)	6	(60.0)	4	(40.0)	0	(0.0)
カワラヒワ	58	13	(22.4)	0	(0.0)	13	(100.0)	0	(0.0)
マヒワ	261	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
カシラダカ	2	2	(100.0)	2	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
その他の鳥類　計	965	261	(27.0)	185	(70.9)	67	(25.7)	9	(3.4)
合計	975	264	(27.1)	185	(70.1)	69	(26.1)	10	(3.8)

注：1. 種名及び配列については原則として、「日本鳥類目録　改訂第 8 版」（日本鳥学会、令和 6 年）に準拠した。
2. (　)内は確認個体数に対する割合（%）とし、合計値は四捨五入の関係で必ずしも 100%にはならない。
詳細については以下のとおりである。
・対象事業実施区域内確認個体数：各分類群における確認個体数に対する割合。
・対象事業実施区域内飛翔高度：対象事業実施区域内確認個体数に対する割合。
3. 対象事業実施区域内高度については、図 8.1.4-31 のとおりである。
4. 表中の※については以下のとおりである。
※：カラ類については種の確認には至らなかったが、分布及び確認状況等によりヒガラ、ヤマガラ、コガラ、シジュウカラ、エナガ、ゴジュウカラのいずれかの可能性がある。

ii. 令和 7 年秋季調査（令和 7 年 9 月～11 月）

令和 7 年秋季調査では 34 種（4,000 個体）の渡りが確認された。調査月別の渡り状況は表 8.1.4-22、高度区分別の渡り状況は表 8.1.4-23 のとおりである。

ガン・カモ・ハクチョウ類について 610 個体の渡りが確認され、このうち対象事業実施区域内を通過した個体は 467 個体（76.6%）であった。

猛禽類について 37 個体の渡りが確認され、このうち対象事業実施区域内を通過した個体は 22 個体（59.5%）であった。

その他の鳥類について 3,353 個体の渡りが確認され、このうち対象事業実施区域内を通過した個体は 1,666 個体（49.7%）であった。

表 8.1.4-22　調査月別の渡り状況（令和 7 年秋季）

（単位：個体）

分類	種名	確認個体数				対象事業実施区域内確認個体数			
		令和 7 年			合計	令和 7 年			合計
		9 月	10 月	11 月		9 月	10 月	11 月	
ガン・カモ・ハクチョウ類	マガン		240		240		208		208
	ガン類※1		317	33	350		239		239
	ハクチョウ類※2			20	20			20	20
	小計	0	557	53	610	0	447	20	467
猛禽類	ハチクマ	13			13	6			6
	ツミ	3			3				0
	ハイタカ	1	6		7		5		5
	ノスリ	6	7		13	5	5		10
	チゴハヤブサ	1			1	1			1
	小計	24	13	0	37	12	10	0	22
その他の鳥類	ハリオアマツバメ	2			2	2			2
	アマツバメ	9			9	4			4
	キジバト	21	13		34	21	13		34
	アオバト	37	26		63	28	15		43
	トビ	2	5	7	14	2	5	7	14
	アカゲラ	1			1	1			1
	サンショウクイ	6			6				0
	カケス	568	67		635	355	18		373
	ヒガラ		17	6	23		17		17
	ヤマガラ			2	2				0
	コガラ		40		40		40		40
	シジュウカラ			3	3				0
	カラ類※3		52		52		5		5
	ヒヨドリ	5	166	29	200	5	56	21	82
	ツバメ	7			7	2			2
	イワツバメ	2			2	2			2
	エナガ	54	5	5	64	45	5		50
	メジロ	10	21		31	1			1
	ツグミ		649	127	776		491	98	589
	キセキレイ		4		4		4		4
	アトリ		297	500	797		29		29
	アトリ類※4		9	15	24		9	15	24
	シメ		2	7	9		2		2
	イカル	9			9	5			5
	ウソ		3		3		3		3
	カワラヒワ	15	61	29	105		19	28	47
	イスカ		9	200	209		9	117	126
	マヒワ		200	20	220		161		161
	クロジ	3			3				0
	ホオジロ類※5	6			6	6			6
	小計	757	1,646	950	3,353	479	901	286	1,666
種数		21 種	20 種	14 種	34 種	17 種	19 種	7 種	30 種
個体数		781 個体	2,216 個体	1,003 個体	4,000 個体	491 個体	1,358 個体	306 個体	2,155 個体

注：1. 種名及び配列については、原則として「日本鳥類目録　改訂第 8 版」（日本鳥学会、令和 6 年）に準拠した。
2. 「～類」としたもののうち、同一分類群の他種と重複する可能性があるものについては、種数の合計から除外した。
3. 表中の※については以下のとおりである。
※1：ガン類については種の同定に至らなかったが、分布状況等によりマガン、ヒシクイ等の可能性がある。
※2：ハクチョウ類については種の同定に至らなかったが、分布状況等によりコハクチョウ、オオハクチョウの可能性がある。
※3：カラ類については種の同定に至らなかったが、分布状況等によりヒガラ、ヤマガラ、コガラ、シジュウカラ等の可能性がある。
※4：アトリ類については種の同定に至らなかったが、分布状況等によりアトリ等の可能性がある。
※5：ホオジロ類については種の同定に至らなかったが、分布状況等によりホオジロ、カシラダカ、クロジ等の可能性がある。

表 8.1.4-23　高度区分別の渡り状況（令和 7 年秋季）

（単位：個体）

種名	確認個体数	対象事業実施区域内確認個体数		対象事業実施区域内高度					
				高度 L		高度 M		高度 H	
マガン	240	208	(86.7)	0	(0.0)	8	(3.8)	200	(96.2)
ガン類※1	350	239	(68.3)	0	(0.0)	239	(100.0)	0	(0.0)
ハクチョウ類※2	20	20	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	20	(100.0)
ガン・カモ・ハクチョウ類　計	610	467	(76.6)	0	(0.0)	247	(52.9)	220	(47.1)
ハチクマ	13	6	(46.2)	0	(0.0)	6	(100.0)	0	(0.0)
ツミ	3	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
ハイタカ	7	5	(71.4)	1	(20.0)	4	(80.0)	0	(0.0)
ノスリ	13	10	(76.9)	1	(10.0)	9	(90.0)	0	(0.0)
チゴハヤブサ	1	1	(100.0)	0	(0.0)	1	(100.0)	0	(0.0)
猛禽類　計	37	22	(59.5)	2	(9.1)	20	(90.9)	0	(0.0)
ハリオアマツバメ	2	2	(100.0)	2	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
アマツバメ	9	4	(44.4)	3	(75.0)	1	(25.0)	0	(0.0)
キジバト	34	34	(100.0)	16	(47.1)	18	(52.9)	0	(0.0)
アオバト	63	43	(68.3)	13	(30.2)	30	(69.8)	0	(0.0)
トビ	14	14	(100.0)	0	(0.0)	14	(100.0)	0	(0.0)
アカゲラ	1	1	(100.0)	1	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
サンショウクイ	6	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
カケス	635	373	(58.7)	267	(71.6)	106	(28.4)	0	(0.0)
ヒガラ	23	17	(73.9)	17	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
ヤマガラ	2	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
コガラ	40	40	(100.0)	40	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
シジュウカラ	3	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
カラ類※3	52	5	(9.6)	5	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
ヒヨドリ	200	82	(41.0)	65	(79.3)	17	(20.7)	0	(0.0)
ツバメ	7	2	(28.6)	2	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
イワツバメ	2	2	(100.0)	0	(0.0)	2	(100.0)	0	(0.0)
エナガ	64	50	(78.1)	20	(40.0)	30	(60.0)	0	(0.0)
メジロ	31	1	(3.2)	1	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
ツグミ	776	589	(75.9)	327	(55.5)	262	(44.5)	0	(0.0)
キセキレイ	4	4	(100.0)	0	(0.0)	4	(100.0)	0	(0.0)
アトリ	797	29	(3.6)	29	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
アトリ類※4	24	24	(100.0)	0	(0.0)	24	(100.0)	0	(0.0)
シメ	9	2	(22.2)	0	(0.0)	2	(100.0)	0	(0.0)
イカル	9	5	(55.6)	1	(20.0)	4	(80.0)	0	(0.0)
ウソ	3	3	(100.0)	3	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
カワラヒワ	105	47	(44.8)	40	(85.1)	7	(14.9)	0	(0.0)
イスカ	209	126	(60.3)	105	(83.3)	21	(16.7)	0	(0.0)
マヒワ	220	161	(73.2)	101	(62.7)	60	(37.3)	0	(0.0)
クロジ	3	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
ホオジロ類※5	6	6	(100.0)	6	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
その他の鳥類　計	3,353	1,666	(49.7)	1,064	(63.9)	602	(36.1)	0	(0.0)
合計	4,000	2,155	(53.9)	1,066	(49.5)	869	(40.3)	220	(10.2)

注：1. 種名及び配列については原則として、「日本鳥類目録　改訂第 8 版」（日本鳥学会、令和 6 年）に準拠した。

2. （ ）内は確認個体数に対する割合（%）とし、合計値は四捨五入の関係で必ずしも 100%にはならない。詳細については以下のとおりである。

・対象事業実施区域内確認個体数：各分類群における確認個体数に対する割合。

・対象事業実施区域内飛翔高度：対象事業実施区域内確認個体数に対する割合。

3. 対象事業実施区域内高度については、図 8.1.4-31 のとおりである。

4. 表中の※については以下のとおりである。

※1：ガン類については種の同定に至らなかったが、分布状況等によりマガン、ヒシクイ等の可能性がある。

※2：ハクチョウ類については種の同定に至らなかったが、分布状況等によりコハクチョウ、オオハクチョウの可能性がある。

※3：カラ類については種の同定に至らなかったが、分布状況等によりヒガラ、ヤマガラ、コガラ、シジュウカラ等の可能性がある。

※4：アトリ類については種の同定に至らなかったが、分布状況等によりアトリ等の可能性がある。

※5：ホオジロ類については種の同定に至らなかったが、分布状況等によりホオジロ、カシラダカ、クロジ等の可能性がある。

c. 爬虫類の状況

(a) 文献その他の資料調査

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

ｲ. 調査方法

表 8.1.4-24 に示す文献その他の資料から、調査範囲において生息記録のある種を抽出した。

表 8.1.4-24　爬虫類に係る文献その他の資料

文献その他の資料名	調査範囲
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 4 回（1988～1993）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 5 回（1993～1999）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「いきものログ」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「いわてレッドデータブック　岩手の希少な野生生物　web 版」（岩手県 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2、※3
「いわてレッドデータブック（岩手の希少な野生生物 2025 年版）」（岩手県、令和 7 年）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2、※3

注：表中の※については、以下のとおりである。

※1：2 次メッシュは、国土地理院発行の 1/25,000 の地形図の図郭割の範囲に相当する。対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ「594132 区界」「594133 松草」「594142 大志田」「594143 青松葉山」を抽出した。

※2：掲載されている分布地域に盛岡市簗川等の詳細な地名が記載されている場合は詳細な地名を優先して抽出し、詳細な地名が記載されておらず盛岡市等の市町のみでの記載の場合は市町で抽出した。

※3：汽水域、沿岸域等明らかに対象事業実施区域の環境と生息域が異なるものについては除外した。

ｳ. 調査結果

文献その他の資料調査の結果、7 種の爬虫類が確認された。（第 3 章 3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況　(1) 動物相の概要 参照）

(b) 現地調査

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

ｲ. 調査地点

当該地域の生息種を把握するための踏査ルートは図 8.1.4-34 のとおりである。

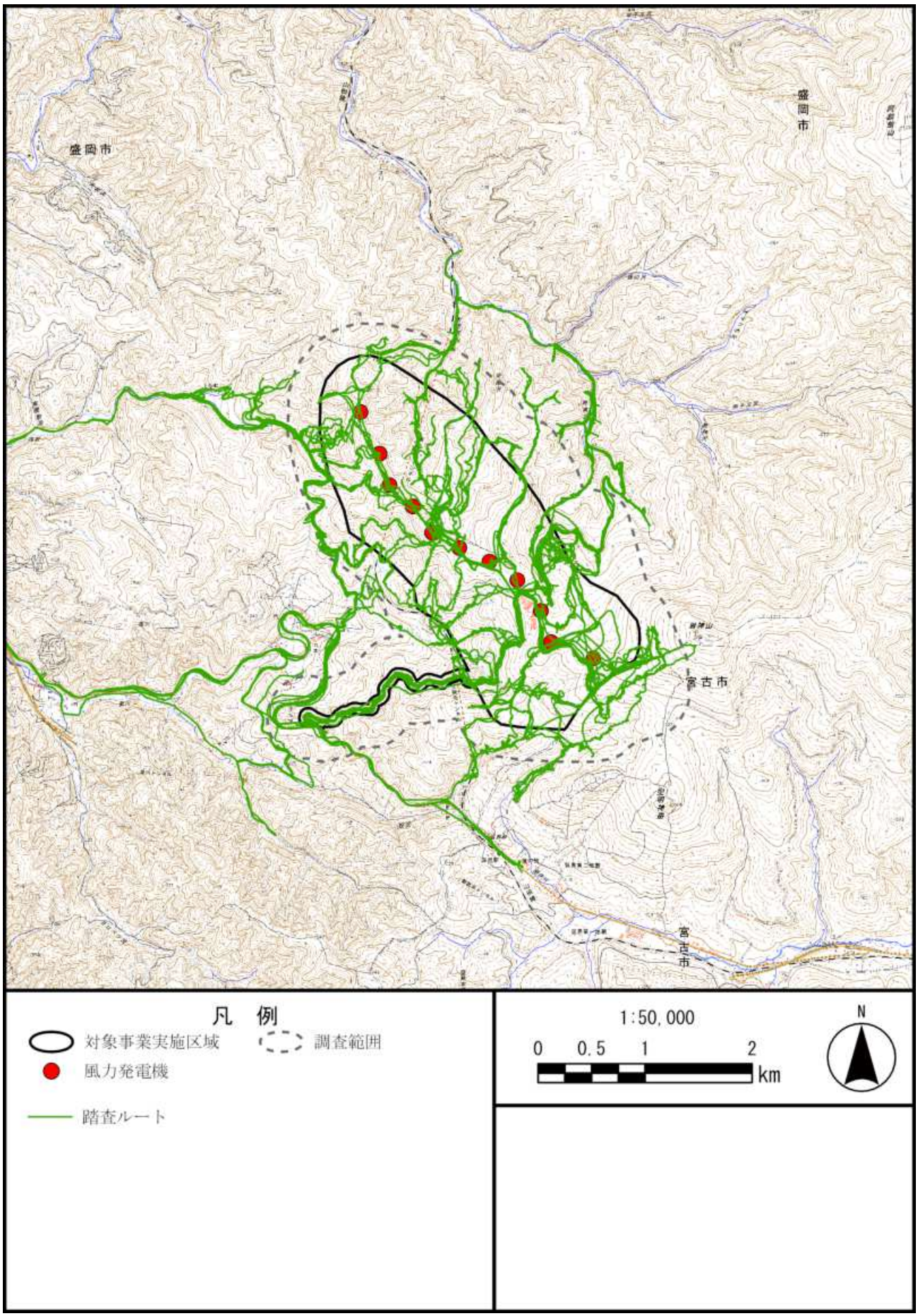


図 8.1.4-34　爬虫類の調査地点（直接観察調査）

ｳ. 調査期間

春季調査：令和 7 年　5 月 12～16 日

夏季調査：令和 7 年　7 月　7～11 日

秋季調査：令和 7 年 10 月 21～23 日

ｴ. 調査方法

(ｱ) 直接観察調査

調査範囲を踏査し、直接観察や鳴き声、抜け殻、死骸などを確認し、出現種を記録した。重要な種及び注目すべき生息地を確認した場合は、その個体数、確認位置、生息環境等を記録した。

ｵ. 調査結果

対象事業実施区域及びその周囲における爬虫類の現地調査結果は、表 8.1.4-25 のとおりであり、1 目 5 科 10 種が確認された。なお、調査結果については生態系上位性餌資源量調査として実施したヘビ類の調査結果で確認された種も含めた。

直接観察調査では春季が最も多く確認され、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシの 3 種が確認された。ニホンカナヘビは全季で確認された。

また、ヘビ類調査では夏季が最も多く確認され、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ヒバカリ、ヤマカガシ等 8 種が確認された。

表 8.1.4-25　爬虫類の調査結果

No.	目名	科名	種名	直接観察調査			ヘビ類調査		確認形態
				春季	夏季	秋季	夏季	秋季	
1	有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ				○		成体、幼体
2		カナヘビ	ニホンカナヘビ	○	○	○	○	○	成体、幼体、卵
3		タカチホヘビ	タカチホヘビ		○				亜成体
4		ナミヘビ	シマヘビ				○		亜成体
5			アオダイショウ	○					成体
6			ジムグリ				○		成体
7			シロマダラ				○		成体
8			ヒバカリ				○		成体
9			ヤマカガシ	○			○	○	成体、亜成体、幼体
10		クサリヘビ	ニホンマムシ				○		成体
合計	1 目	5 科	10 種	3 種	2 種	1 種	8 種	2 種	－

注：1. 種名及び配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和 7 年度生物リスト」（国土交通省　河川水辺の国勢調査 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に準拠した。

2. 表中の「ヘビ類調査」は生態系上位性餌資源調査として夏季及び秋季に実施した「ヘビ類調査」を示す。

d. 両生類の状況

(a) 文献その他の資料調査

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

ｲ. 調査方法

表 8.1.4-26 に示す文献その他の資料から、調査範囲において生息記録のある種を抽出した。

表 8.1.4-26　両生類に係る文献その他の資料

文献その他の資料名	調査範囲
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 4 回（1988～1993）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 5 回（1993～1999）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「いきものログ」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「いわてレッドデータブック　岩手の希少な野生生物　web 版」（岩手県 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2、※3
「いわてレッドデータブック（岩手の希少な野生生物 2025 年版）」（岩手県、令和 7 年）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2、※3

注：※については以下のとおりである。

※1：2 次メッシュは、国土地理院発行の 1/25,000 の地形図の図郭割の範囲に相当する。対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ「594132 区界」「594133 松草」「594142 大志田」「594143 青松葉山」を抽出した。

※2：掲載されている分布地域に盛岡市簗川等の詳細な地名が記載されている場合は詳細な地名を優先して抽出し、詳細な地名が記載されておらず盛岡市等の市町のみでの記載の場合は市町で抽出した。

※3：汽水域、沿岸域等明らかに対象事業実施区域の環境と生息域が異なるものについては除外した。

ｳ. 調査結果

文献その他の資料調査の結果、13 種の両生類が確認された。（第 3 章 3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況　(1) 動物相の概要 参照）

(b) 現地調査

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

ｲ. 調査地点

当該地域の生息種を把握するための踏査ルートは図 8.1.4-35 のとおりである。

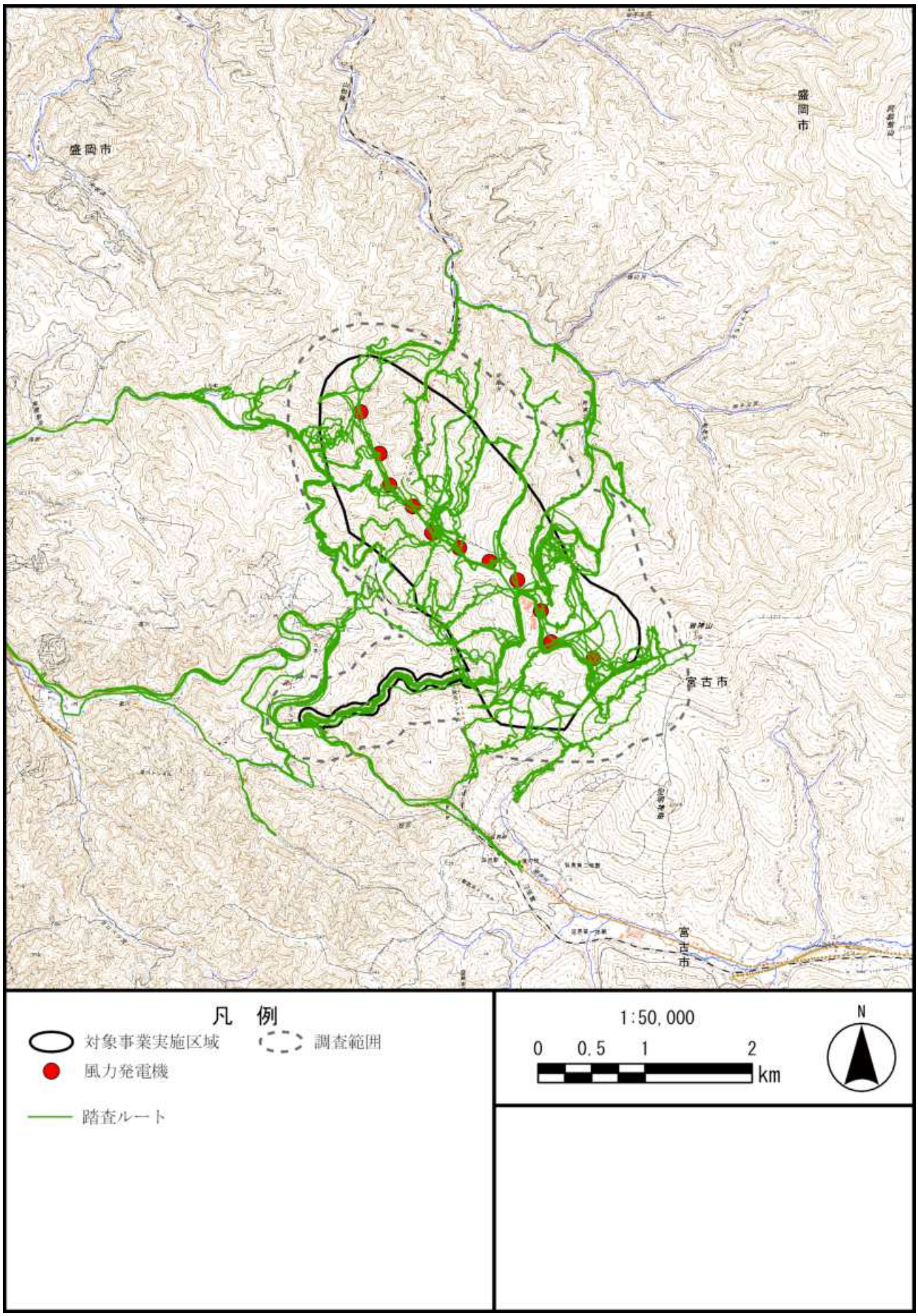


図 8.1.4-35　両生類の調査地点（直接観察調査）

ｳ. 調査期間

春季調査：令和 7 年　5 月 12～16 日

夏季調査：令和 7 年　7 月　7～11 日

秋季調査：令和 7 年 10 月 21～23 日

ｴ. 調査方法

(ｱ) 直接観察調査

調査範囲を踏査し、直接観察や鳴き声、抜け殻、死骸などを確認し、出現種を記録した。重要な種及び注目すべき生息地を確認した場合はその個体数、確認位置、生息環境などを記録した。また、繁殖に適した水域の有無等を記録し、重要な種及び注目すべき生息地を確認した場合はその個体数、確認位置、生息環境などを記録した。

ｵ. 調査結果

対象事業実施区域及びその周囲における両生類の現地調査結果は、表 8.1.4-27 のとおりであり、2 目 7 科 11 種が確認された。なお、調査結果については生態系上位性餌資源量調査として実施したヘビ類の調査結果で確認された種も含めた。

直接観察調査では夏季が最も多く確認され、トウホクサンショウウオ、ヤマアカガエル、モリアオガエルが数多く確認された。トウホクサンショウウオ、キタオウシュウサンショウウオ、タゴガエル、ヤマアカガエルは 3 季で確認された。

また、ヘビ類調査では夏季が最も多く確認され、ニホンアマガエル、ヤマアカガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエルの 4 種が確認された。

表 8.1.4-27　両生類の調査結果

No.	目名	科名	種名	直接観察調査			ヘビ類調査		確認形態
				春季	夏季	秋季	夏季	秋季	
1	有尾	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	○	○	○			成体、幼体、幼生、卵塊
2			キタオウシュウサンショウウオ	○	○	○			成体、亜成体、幼体、幼生
3		オオサンショウウオ	オオサンショウウオ		○				幼体
4		イモリ	アカハライモリ			○			幼生
5	無尾	ヒキガエル	ニホンヒキガエル	○					幼生
6			アズマヒキガエル	○	○				成体、幼体、幼生、卵塊
7		アマガエル	ニホンアマガエル	○	○		○		成体、幼生、卵塊
8		アカガエル	タゴガエル	○	○	○			成体、亜成体、幼体、幼生、鳴き声
9			ヤマアカガエル	○	○	○	○	○	成体、亜成体、幼体、幼生、卵塊
10		アオガエル	シュレーゲルアオガエル				○		鳴き声
11			モリアオガエル		○	○	○		成体、幼生、卵塊、鳴き声
合計	2 目	7 科	11 種	7 種	8 種	6 種	4 種	1 種	－

注：1. 種名及び配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和 7 年度生物リスト」（国土交通省　河川水辺の国勢調査 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に準拠した。

2. 表中の「ヘビ類調査」は生態系上位性餌資源調査として夏季及び秋季に実施した「ヘビ類調査」を示す。

e. 昆虫類の状況

(a) 文献その他の資料調査

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

ｲ. 調査方法

表 8.1.4-28 に示す文献その他の資料から、調査範囲において生息記録のある種を抽出した。

表 8.1.4-28　昆虫類に係る文献その他の資料

文献その他の資料名	調査範囲
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 2 回（1978～1980）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 4 回（1988～1993）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 5 回（1993～1999）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「いわてレッドデータブック　岩手の希少な野生生物　web 版」（岩手県 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2、※3
「岩手県立博物館収蔵資料目録　第 9 集　生物Ⅲ　岩手の蝶」（岩手県立博物館、平成 5 年）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2
「岩手県立博物館収蔵資料目録　第 24 集　生物Ⅵ　岩手の蝶 2」（岩手県立博物館、平成 24 年）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2
「岩手県立博物館収蔵資料目録　第 25 集　生物Ⅶ　岩手の蝶 3」（岩手県立博物館、平成 25 年）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2
「いわてレッドデータブック（岩手の希少な野生生物 2025 年版）」（岩手県、令和 7 年）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2、※3

注：※については以下のとおりである。

※1：2 次メッシュは、国土地理院発行の 1/25,000 の地形図の図郭割の範囲に相当する。対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ「594132 区界」「594133 松草」「594142 大志田」「594143 青松葉山」を抽出した。

※2：掲載されている分布地域に盛岡市簗川等の詳細な地名が記載されている場合は詳細な地名を優先して抽出し、詳細な地名が記載されておらず盛岡市等の市町のみでの記載の場合は市町で抽出した。

※3：汽水域、沿岸域等明らかに対象事業実施区域の環境と生息域が異なるものについては除外した。

ｳ. 調査結果

文献その他の資料調査の結果、283 種の昆虫類が確認された。（第 3 章 3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況　(1) 動物相の概要 参照）

(b) 現地調査

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

ｲ. 調査地点

一般採集調査の踏査ルート、ベイトトラップ法及びライトトラップ法による調査の9地点（T1～T9）とした。各調査地点の概要は表 8.1.4-29、調査地点位置は図 8.1.4-36 のとおりである。

表 8.1.4-29　昆虫類調査地点の概要

調査方法	調査地点	地点概要	設定根拠
ベイトトラップ法及びライトトラップ法による調査	T1	広葉樹林（ミズナラ群落）	対象事業実施区域の代表的な植生に生息する昆虫類の生息状況を把握することを目的として設定した。
	T2	植林地（スギ植林）	
	T3	草地・低木林（牧草地）	
	T4	草地・低木林（牧草地）	
	T5	広葉樹林（ミズナラ群落）	
	T6	植林地（カラマツ植林）	
	T7	広葉樹林（ダケカンバ群落）	
	T8	広葉樹林（ミズナラ群落）	
	T9	草地・低木林（牧草地）	

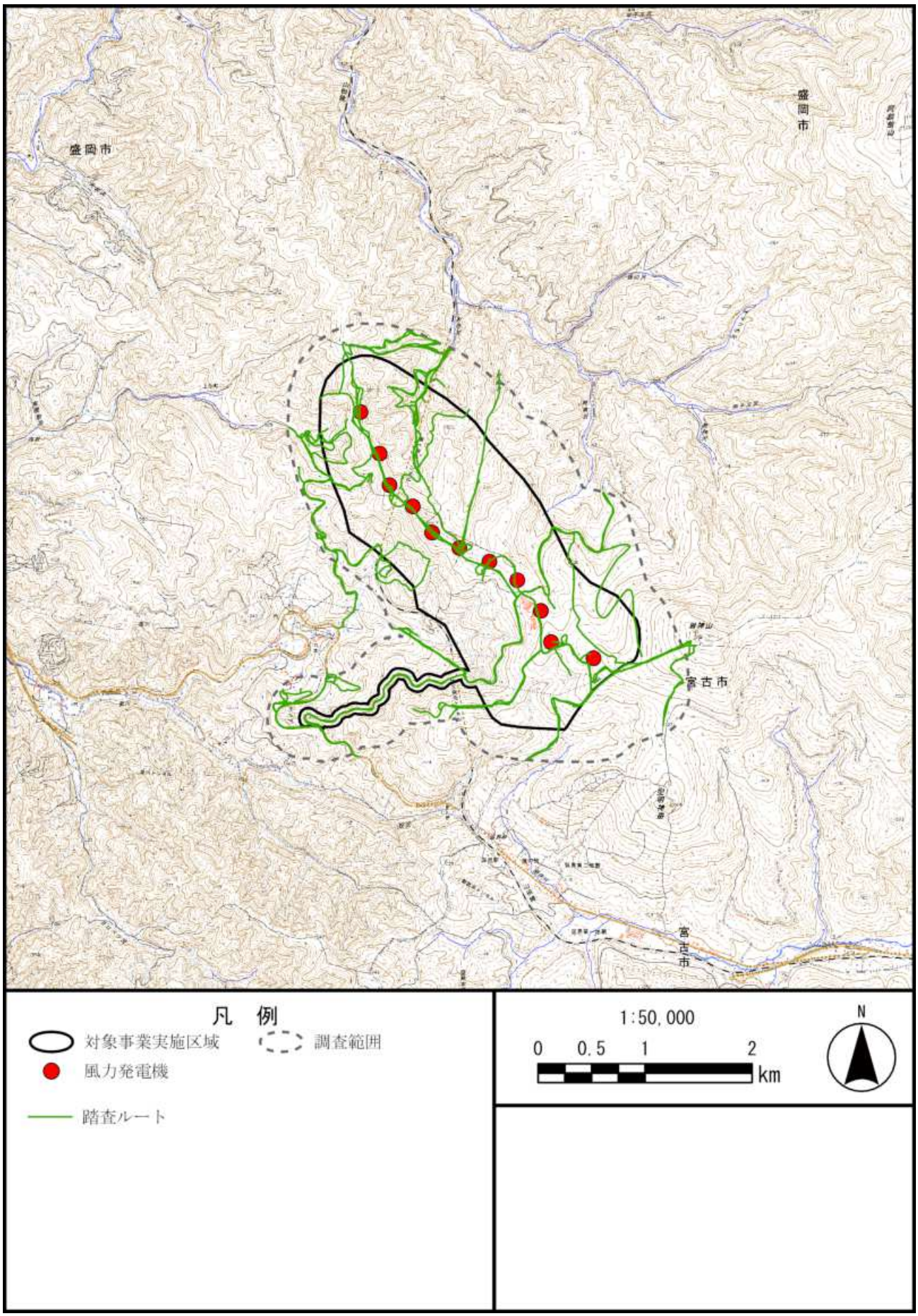


図 8.1.4-36(1)　昆虫類の調査地点（一般採集調査）

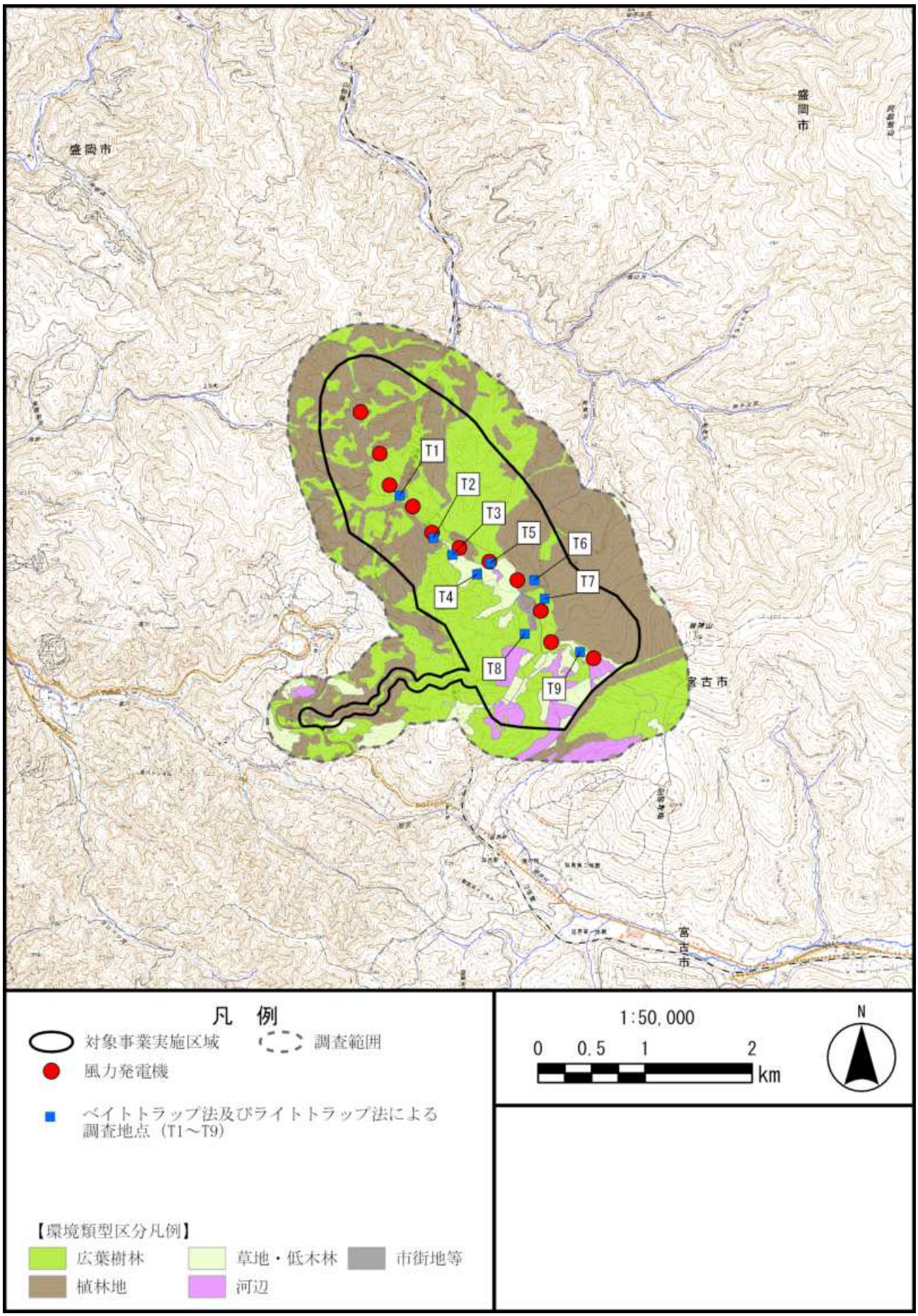


図 8.1.4-36(2)　昆虫類の調査地点（ベイトトラップ法及びライトトラップ法による調査）

ｳ. 調査期間

(ｱ) 一般採集調査

春季調査：令和 7 年 5 月 20～22 日、26～30 日

夏季調査：令和 7 年 7 月 28～31 日

秋季調査：令和 7 年 9 月 8～11 日

(ｲ) ベイトトラップ法による調査

春季調査：令和 7 年 5 月 20～22 日、26～30 日

夏季調査：令和 7 年 7 月 28～31 日

秋季調査：令和 7 年 9 月 8～11 日

(ｳ) ライトトラップ法による調査

春季調査：令和 7 年 5 月 20～22 日、26～30 日

夏季調査：令和 7 年 7 月 28～31 日

秋季調査：令和 7 年 9 月 8～11 日

ｴ. 調査方法

(ｱ) 一般採集調査

調査範囲を任意に踏査し、直接観察法、鳴き声、ビーティング法、スウィーピング法など様々な方法により採集を行った。重要な種及び注目すべき生息地が確認された場合は、その個体数、確認位置、生息環境等を記録した。採集した昆虫類は基本的に室内で検鏡・同定した。

(ｲ) ベイトトラップ法による調査

調査地点において、誘引物をプラスチックコップ等に入れ、口が地表面と同じになるように埋設し、地表徘徊性の昆虫類を捕獲した。1 地点当たり 10 個程度のトラップを設置し、採集した昆虫類は室内で検鏡・同定した。

(ｳ) ライトトラップ法による調査

調査地点において、ブラックライトを用いた捕虫箱（ボックス法）を設置し、夜行性の昆虫を誘引し、採集した。捕虫箱は夕方から日没時にかけて 1 地点当たり 1 台設置し、翌朝回収した。採集した昆虫類は室内で検鏡・同定した。

オ. 調査結果

対象事業実施区域及びその周囲における昆虫類の現地調査結果は表 8.1.4-30 のとおり、18 目 230 科 1,465 種が確認された。一般採集調査の結果は表 8.1.4-31、ベイトトラップ法による調査結果は表 8.1.4-32、ライトトラップ法による調査結果は表 8.1.4-33 のとおりである。

現地調査結果では、春季に 540 種が、夏季に 967 種が、秋季に 533 種と、夏季調査が最も多く確認された。

一般採集調査では、春季に 494 種、夏季に 576 種、秋季に 409 種と、夏季調査が最も多く確認された。

ベイトトラップ法による調査では、T1 で夏季に 26 種が、T2 で夏季に 26 種が、T3 で秋季に 28 種が、T4 で夏季に 22 種が、T5 で秋季に 25 種が、T6 で秋季に 14 種が、T7 で秋季に 21 種が、T8 で秋季に 22 種が、T9 で夏季に 16 種と、各調査地点で夏季もしくは秋季で多く確認された。最も多く確認されたのは、T3 の秋季であった。

ライトトラップ法による調査では、T1 で夏季に 87 種が、T2 で夏季に 125 種が、T3 で夏季に 52 種が、T4 で夏季に 76 種が、T5 で夏季に 97 種が、T6 で夏季に 86 種が、T7 で夏季に 174 種が、T8 で夏季に 135 種が、T9 で夏季に 67 種と、すべての調査地点で夏季に多く確認された。最も多く確認されたのは、T7 の夏季であった。

表 8.1.4-30　昆虫類の調査結果概要

目名	全体		調査時期			主な確認種
			春季	夏季	秋季	
	科数	種数	種数	種数	種数	
イシノミ	1	1	0	0	1	Pedetontus 属
カゲロウ(蜉蝣)	3	3	0	1	2	トビイロカゲロウ属、フタスジモンカゲロウ、キイロガガンボカゲロウ
トンボ(蜻蛉)	7	17	3	10	13	ムカシトンボ、オニヤンマ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、アキアカネ、ノシメトンボ等
カマキリ(螳螂)	1	1	0	0	1	オオカマキリ
ハサミムシ(革翅)	2	4	2	4	3	ヒゲジロハサミムシ、コブハサミムシ、エゾハサミムシ、キバネハサミムシ
カワゲラ(セキ翅)	7	11	6	5	3	トワダカワゲラ、フサオナシカワゲラ属、ノギカワゲラ属、モンカワゲラ属、クロヒゲカワゲラ、ヤマトカワゲラ等
バッタ(直翅)	11	38	5	33	29	コノシタウマ、ムツセモンササキリモドキ、エンマコオロギ、マダラスズ、シバスズ等
ナナフシ(竹節虫)	1	1	0	1	0	ヤスマツトビナナフシ
チャタテムシ	2	3	0	2	2	ウスベニチャタテ、オオチャタテ、カバイロチャタテ
カメムシ(半翅)	28	159	58	106	87	マダラアワフキ、コガシラアワフキ、ヨコバイ科、チャイロナガカメムシ、ツチカメムシ等
ヘビトンボ	1	1	0	1	0	ヘビトンボ
アミメカゲロウ(脈翅)	4	11	0	10	3	スカシヒロバカゲロウ、キマダラヒロバカゲロウ、クシヒゲカゲロウ、エグリヒメカゲロウ、ミヤマヒメカゲロウ等
シリアゲムシ(長翅)	2	7	4	4	2	キアシガガンボモドキ、ヤマトシリアゲ、マルバネシリアゲ、プライアシリアゲ等
トビケラ(毛翅)	11	20	9	16	7	シロズシマトビケラ、シマトビケラ属、オオシマトビケラ、フトヒゲカクツツトビケラ、ヌカビラカクツツトビケラ、ムラサキトビケラ等
チョウ(鱗翅)	33	495	103	357	153	キバガ科、モミジツマキリエダシャク、キホソスジナミシャク、オニベニシタバ、キシタミドリヤガ等
ハエ(双翅)	33	117	50	74	57	ヒメガガンボ科、ガガンボ属、クロバネキノコバエ科、トゲハネバエ科、イエバエ科、ヤドリバエ科等
コウチュウ(鞘翅)	62	496	259	292	119	トウホククロナガゴミムシ、マルガタナガゴミムシ、マルガタツヤヒラタゴミムシ、クロツヤヒラタゴミムシ、コクロツヤヒラタゴミムシ等
ハチ(膜翅)	21	80	41	51	51	ヒメバチ科、ムネアカオオアリ、クロヤマアリ、ハラクシケアリ、アメイロアリ、アズマオオズアリ等
18 目	230 科	1,465 種	540 種	967 種	533 種	－

注：種名及び配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和 7 年度生物リスト」（国土交通省河川水辺の国勢調査 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に準拠した。

表 8.1.4-31　一般採集調査による確認種数及び主な確認種

調査地点	調査時期	種数	主な確認種
任意	春季	494 種	ニホンカワトンボ、セスジミドリカワゲラ属、ヤマトキタヨコバイ、チャイログンバイ、ホソオビトゲシリアゲ、クレメンスナガレトビケラ、セブトエダシャク本州亜種、シロモンアカガネヨトウ、マダラコシボソハナアブ、アオムネアカコメツキ本州亜種、トワダムモンメダカカミキリ、ハイイロヒョウタンゾウムシ、アブラナマメヒメハナバチ等
	夏季	576 種	オナガサナエ、ヤマトカワゲラ、コバネササキリモドキ、ヤスマツトビナナフシ、ミドリカスリヨコバイ、アシアカクロカスミカメ、ヒメカマキリモドキ、アオバセセリ本土亜種、ウスイロオナガシジミ、サッポロアシナガムシヒキ、カオグロオオモモブトハナアブ、トガリシロオビサビカミキリ、イノコヅチカメノコハムシ、ヤノトガリハナバチ等
	秋季	409 種	Pedetontus 属、キイロガガンボカゲロウ、ルリボシヤンマ、オオカマキリ、セスジツユムシ、カバイロチャタテ、セスジアシナガサシガメ、シロヘリカメムシ、クロテンカバナミシャク、シマカラスヨトウ、タテジマハマダラミバエ、キンモリヒラタゴミムシ、ウスモンチビシギゾウムシ、ムモンホソアシナガバチ、クロホソギングチ等

注：種名及び配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和 7 年度生物リスト」（国土交通省河川水辺の国勢調査 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に準拠した。

表 8.1.4-32　ベイトトラップ法による調査の確認種数及び主な確認種

調査地点	調査時期	種数	主な確認種
T1	春季	16 種	ノミバエ科、ヤマトクロヒラタゴミムシ、ナミツヤムネハネカクシ、ヒメバチ科等
	夏季	26 種	コブハサミムシ、チャイロナガカメムシ、ツヤケシブチヒゲハネカクシ等
	秋季	18 種	クロナガオサムシ、ホソヒラタゴミムシ、スジクワガタ、クロマルエンマコガネ等
T2	春季	14 種	エゾハサミムシ、ヒメナガカメムシ、ニッコウエダシャク、オオセンチコガネ等
	夏季	26 種	オオクロツヤゴモクムシ、ナカアカヒゲブトハネカクシ、ヒゲナガビロウドコガネ等
	秋季	16 種	ベッコウバエ、マルガタツヤヒラタゴミムシ、センチコガネ、ムネアカオオアリ等
T3	春季	18 種	コガシラナガゴミムシ、ニッコウヒメナガゴミムシ、マグソコガネ等
	夏季	23 種	ヒゲジロハサミムシ、キンナガゴミムシ、ニワハンミョウ、クロツヤハダコメツキ等
	秋季	28 種	コクロナガオサムシ北上山地亜種、オオヒラタシデムシ、アズマオオズアリ等
T4	春季	9 種	ヒメガガンボ科、マルガタゴミムシ、トビイロケアリ等
	夏季	22 種	キアシヒバリモドキ、クロサジヨコバイ、オオツマキヘリカメムシ、ツノコガネ等
	秋季	17 種	ヤマトシリアゲ、チャイロムナボソコメツキ、クワヒョウタンゾウムシ等
T5	春季	11 種	クロバネキノコバエ科、クロボシヒラタシデムシ、クロヤマアリ等
	夏季	21 種	マイマイカブリ東北地方北部亜種、ルリコガシラハネカクシ、クロスズメバチ等
	秋季	25 種	シバスズ、オオアトボシアオゴミムシ、オオヒラタシデムシ、センチコガネ等
T6	春季	8 種	キノコバエ科、クロバネキノコバエ科、マメダルマコガネ、カバノキハムシ等
	夏季	12 種	キスジカンムリヨコバイ、ナカグロヒメコメツキ、コブヤハズカミキリ等
	秋季	14 種	ルイスオオアリガタハネカクシ、エゾアリガタハネカクシ等
T7	春季	16 種	ミヤマメダカゴミムシ、ケブカマグソコガネ、キノコヒラタケシキスイ等
	夏季	15 種	モリズミウマ、オニベニシタバ、キンバエ、コクロナガオサムシ北上山地亜種等
	秋季	21 種	オオキバネヒメガガンボ、フタボシチビゴミムシ、クビアカツヤゴモクムシ等
T8	春季	13 種	ニッコウヒメナガゴミムシ、マルガタナガゴミムシ、アミメアリ等
	夏季	21 種	ヨリトモナガゴミムシ、マエカドコエンマコガネ、カシワクチブトゾウムシ等
	秋季	22 種	セアカヒラタゴミムシ、アカバトガリオオズハネカクシ、クロマルエンマコガネ等
T9	春季	10 種	トビイロツノゼミ、クロバネキノコバエ科、ノミバエ科、オオバコトビハムシ等
	夏季	16 種	トビイロサシガメ、オオキンナガゴミムシ、ウリハムシモドキ、ムネアカオオアリ等
	秋季	15 種	コバネイナゴ、コバネヒョウタンナガカメムシ、アズマオオズアリ等

注：種名及び配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和 7 年度生物リスト」（国土交通省河川水辺の国勢調査 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に準拠した。

表 8.1.4-33　ライトトラップ法による調査の確認種数及び主な確認種

調査地点	調査時期	種数	主な確認種
T1	春季	33 種	ヒゲナガカワトビケラ、ウスイロカギバ、キジマエダシャク、シロテンシャチホコ等
	夏季	87 種	ベニモンツノカメムシ、マツアトキハマキ、モモスズメ、チャボヒゲナガカミキリ等
	秋季	32 種	コノシタウマ、クロフトメイガ、ブドウドクガ、ヒトスジアツバ等
T2	春季	15 種	フタモンカバナミシャク、シダエダシャク、ナカグロホソキリガ等
	夏季	125 種	ハサミツノカメムシ、オオワタノメイガ、ウスムラサキヨトウ、オオスジコガネ等
	秋季	32 種	ツマグロギンハマキ、チビツトガ、ムラサキシタバ、オオハガタヨトウ等
T3	春季	13 種	クロオビシロナミシャク、ミスジツマキリエダシャク、ハルササハマダラミバエ等
	夏季	52 種	チビセトトビケラ、ホソバアツバ、ハイイロビロウドコガネ、セボシジョウカイ等
	秋季	31 種	ヒメトビウンカ、ミジンキヒメシャク、ユスリカ科、ナカジロサビカミキリ等
T4	春季	10 種	フタモンカバナミシャク、クロテンヨトウ、ガガンボ属、ヒメフンバエ等
	夏季	76 種	ヤマトシリアゲ、チャバネヒゲナガカワトビケラ、トビハマキ、サクラコガネ等
	秋季	16 種	Peuceptyelus 属、コナガ、オオキバネヒメガガンボ、ベーツホソアトキリゴミムシ等
T5	春季	16 種	ウスキヒゲナガ、ウグイスシャチホコ、ベッコウバエ、カバイロコメツキ等
	夏季	97 種	チャイロナガカメムシ、ヘビトンボ、ウスイロカバスジヤガ、ビロウドカミキリ等
	秋季	22 種	セジロウンカ、マエモンクロヒロズコガ、クチナガガガンボ属、サビキコリ等
T6	春季	3 種	ヒメガガンボ科、クロバネキノコバエ科、ヒメバチ科
	夏季	86 種	クロヒゲカワゲラ、アミメシマトビケラ、フキノメイガ、ムネアカオオアリ等
	秋季	28 種	ナツアカネ、ムツセモンササキリモドキ、モンキアワフキ、ヒメヤママユ等
T7	春季	9 種	ネグロハマキ、ルリモンエダシャク、ムナビロアカハネムシ等
	夏季	174 種	キマダラヒロバカゲロウ、モクメヤガ、キバネクロバエ、ナミクチキムシ等
	秋季	62 種	アキアカネ、ハンエンカクツツトビケラ、マメノメイガ、ガロアミズギワゴミムシ等
T8	春季	1 種	オオノコギリガガンボ
	夏季	135 種	クサギカメムシ、エグリノメイガ、クロホシフタオ、ベニシタバ、ナガヒラタムシ等
	秋季	33 種	ヒトツメヨコバイ、マユミオオスガモンオビヒメヨトウ、モンキナガクチキムシ等
T9	春季	5 種	シロジマシャチホコ、ガガンボ属、アシマダラブユ属等
	夏季	67 種	オオチャタテ、オオシマトビケラ、フタキボシアツバ、カシワクチブトゾウムシ等
	秋季	29 種	ズキンヨコバイ、タデキボシホソガ、テンスジツトガ、ケブカマグソコガネ等

注：種名及び配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和 7 年度生物リスト」（国土交通省 河川水辺の国勢調査 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に準拠した。

f. 陸産貝類の状況

(a) 文献その他の調査

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲を対象とした。

ｲ. 調査方法

表 8.1.4-34 に示す文献その他の資料から、調査範囲において生息記録のある種を抽出した。

表 8.1.4-34　陸産貝類に係る文献その他の資料

文献その他の資料名	調査範囲
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 4 回（1988～1993）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 5 回（1993～1999）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「いきものログ」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「いわてレッドデータブック　岩手の希少な野生生物　web 版」（岩手県 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2、※3
「盛岡市史　第七巻（復刻版）」（盛岡市、昭和 55 年）	盛岡市
「いわてレッドデータブック（岩手の希少な野生生物 2025 年版）」（岩手県、令和 7 年）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2、※3

注：※については以下のとおりである。

※1：2 次メッシュは、国土地理院発行の 1/25,000 の地形図の図郭割の範囲に相当する。対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ「594132 区界」「594133 松草」「594142 大志田」「594143 青松葉山」を抽出した。

※2：掲載されている分布地域に盛岡市簗川等の詳細な地名が記載されている場合は詳細な地名を優先して抽出し、詳細な地名が記載されておらず盛岡市等の市町のみでの記載の場合は市町で抽出した。

※3：汽水域、沿岸域等明らかに対象事業実施区域の環境と生息域が異なるものについては除外した。

ｳ. 調査結果

文献その他の資料調査の結果、9 種の陸産貝類が確認された。（第 3 章　3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況　(1) 動物相の概要 参照）

(b) 現地調査

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

ｲ. 調査地点

当該地域の生息種を把握するための踏査ルートは図 8.1.4-37 のとおりである。

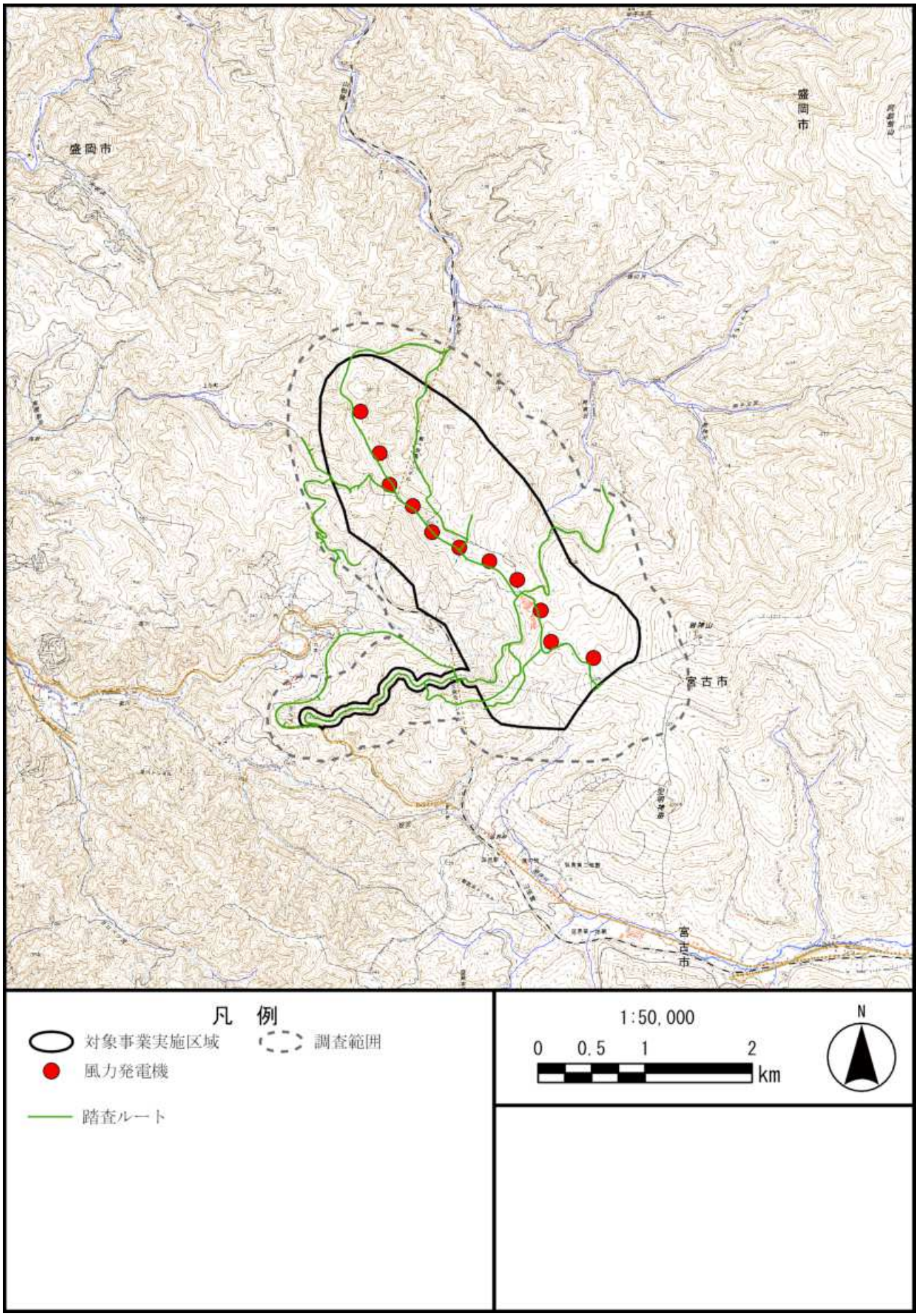


図 8.1.4-37　陸産貝類の調査地点（直接観察調査）

ｳ. 調査期間

夏季調査：令和 7 年 6 月 24～27 日

ｴ. 調査方法

(ｱ) 直接観察調査

調査範囲を踏査し、直接観察、見つけ採り等の方法により採集を行った。重要な種及び注目すべき生息地を確認した場合はその個体数、確認位置、生息環境等を記録した。採集した個体は基本的に室内で検鏡・同定した。

ｵ. 調査結果

対象事業実施区域及びその周囲における陸産貝類の調査結果は、表 8.1.4-35 のとおり、4 目 15 科 31 種が確認された。

表 8.1.4-35　陸産貝類の調査結果

No.	目名	科名	種名	調査季
				夏季
1	オキナエビス	ヤマキサゴ	ヤマキサゴ	○
2	ニナ	ゴマガイ	ウゼンゴマガイ	○
3			ヒダリマキゴマガイ	○
4	オオカミガイ	ケシガイ	ニホンケシガイ	○
5	マイマイ	ヤマボタルガイ	ヤマボタルガイ	○
6		キセルガイモドキ	クリイロキセルガイモドキ	○
7			フトキセルガイモドキ	○
8		キセルガイ	ツムガタモドキギセル	○
9		オカチョウジガイ	オカチョウジガイ	○
10		ナタネガイ	ミジンナタネ	○
11			ハリマナタネ	○
12		パツラマイマイ	パツラマイマイ	○
13		コハクガイ	オオコハクガイ	○
14		ナメクジ	ヤマナメクジ	○
15		オオコウラナメクジ	*Nipponolimax* 属	○
16		ベッコウマイマイ	スカシベッコウ	○
17			ヒメベッコウガイ	○
18			マギレヒメベッコウ	○
19			カスミヒメベッコウ	○
20			クリイロベッコウ	○
21			*Nipponochlamys* 属	○
22			ハリマキビ	○
23			ヒメハリマキビ	○
24			スジキビ	○
－			*Parakaliella* 属	●
25			*Parasitala* 属	○
26			カサキビ	○
27			オオタキキビ	○
28		ニッポンマイマイ（ナンバンマイマイ）	ニッポンマイマイ	○
29		オナジマイマイ	オオウケマイマイ	○
30			ムツヒダリマキマイマイ	○
31			アオモリマイマイ	○
計	4 目	15 科	31 種	31 種

注：1. 種名及び配列は原則として、「日本産野生生物目録　無脊椎動物編Ⅲ」（環境庁、平成 10 年）に準拠した。

2. 「～属」としたもののうち、掲載する他種と重複する可能性のあるものについては種数の合計より除外した。表中 No. の「－」及び調査季の「●」は種数に計上しない種を示す。

g. 魚類の状況

(a) 文献その他の資料調査

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

ｲ. 調査方法

表 8.1.4-36 に示す文献その他の資料から、調査範囲において生息記録のある種を抽出した。

表 8.1.4-36　魚類に係る文献その他の資料

文献その他の資料名	調査範囲
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 4 回（1988～1993）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 5 回（1993～1999）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「いきものログ」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「いわてレッドデータブック　岩手の希少な野生生物　web 版」（岩手県 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2、※3
「盛岡市史　第七巻（復刻版）」（盛岡市、昭和 55 年）	盛岡市
「いわてレッドデータブック（岩手の希少な野生生物 2025 年版）」（岩手県、令和 7 年）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2、※3

注：※については以下のとおりである。

※1：2 次メッシュは、国土地理院発行の 1/25,000 の地形図の図郭割の範囲に相当する。対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ「594132 区界」「594133 松草」「594142 大志田」「594143 青松葉山」を抽出した。

※2：掲載されている分布地域に盛岡市簗川等の詳細な地名が記載されている場合は詳細な地名を優先して抽出し、詳細な地名が記載されておらず盛岡市等の市町のみでの記載の場合は市町で抽出した。

※3：汽水域、沿岸域等明らかに対象事業実施区域の環境と生息域が異なるものについては除外した。

ｳ. 調査結果

文献その他の資料調査の結果、29 種の魚類が確認された。（第 3 章　3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況　(1) 動物相の概要 参照）

(b) 現地調査

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲の河川を対象とした。

ｲ. 調査地点

対象事業実施区域及びその周囲の 7 地点（W1～W7）とした。各調査地点の概要は表 8.1.4-37、調査地点位置は図 8.1.4-38 のとおりである。

表 8.1.4-37　魚類調査地点の概要

調査方法	調査地点	地点概要	設定根拠
捕獲調査	W1	対象事業実施区域の南東端領域を集水域とする閉伊川を対象とした。	地形の改変により濁水の影響を受ける可能性のある河川及び沢の魚類の生息状況を把握することを目的として設定した。 なお、調査に必要な一定の水量の確保が可能であり、安全を確保した上で人のアクセスが可能な場所とした。
	W2	対象事業実施区域の中央部東側領域を集水域とする時常沢を対象とした。	
	W3	対象事業実施区域の中央部東側領域を集水域とする安庭沢を対象とした。	
	W4	対象事業実施区域の北側領域を集水域とする本田沢を対象とした。	
	W5	対象事業実施区域の北西側領域を集水域とする内沢を対象とした。	
	W6	対象事業実施区域の西側領域を集水域とする簗川及び栃沢を対象とした。	
	W7	対象事業実施区域の南側領域を集水域とする栃沢を対象とした。	

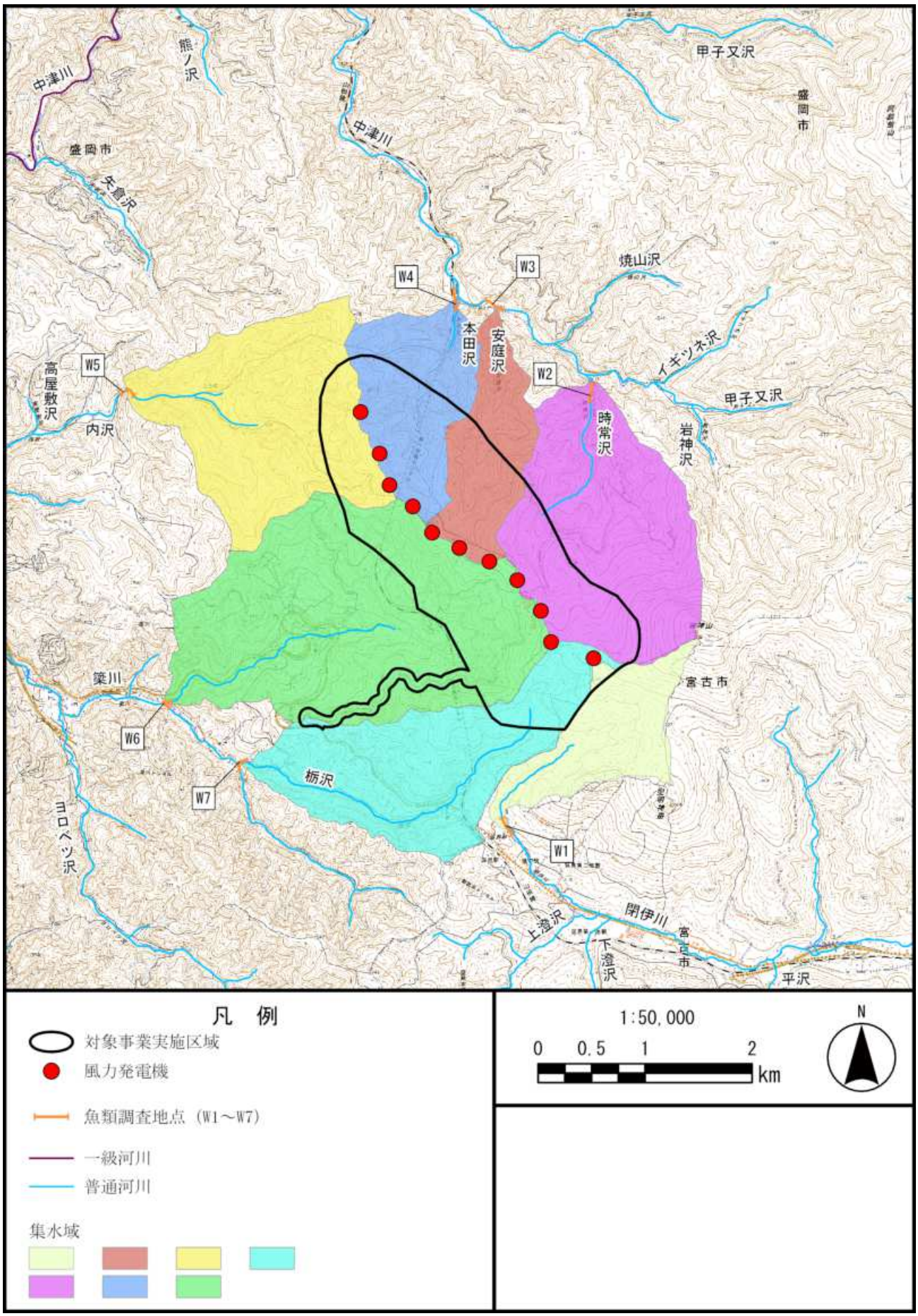


図 8.1.4-38　魚類の調査地点（捕獲調査）

ｳ. 調査期間

春季調査：令和７年　５月 12～16 日

夏季調査：令和７年　８月 25～29 日

秋季調査：令和７年 10 月 10～14 日

ｴ. 調査方法

(ｱ) 捕獲調査

表 8.1.4-38 に示す漁具を用いて捕獲調査を行った。捕獲した魚類については、現地での同定が困難な種を除き、種名、個体数等を記録した後写真撮影を行い、再放流した。現地での同定が困難な種は、10%ホルマリンで固定して標本として持ち帰り、室内にて図鑑等を参照し、同定した。

表 8.1.4-38　使用漁具

漁具名	規格
投網	目合：12.0mm、網裾：半径3.0m 目合：18.0mm、網裾：半径3.0m
たも網	目合：1.0mm、口径：底辺37cm、柄の長さ：1.0m 目合：3.0mm、口径：底辺37cm、柄の長さ：1.0m
さで網	目合：1.0mm、口径：約60cm
定置網	【袖網部】目合い：12mm、長さ：3m、高さ：1.1m 【袋網部】目合い：6mm、長さ：3m
せん（かご）	長さ：45cm、縦幅：25cm、横幅：25cm、口径：4.5cm
びん漬	長さ：30cm、外径：20cm、内径：4cm
サーバーネット	目合：0.5mm、縦幅：25cm、横幅：25cm

ｵ. 調査結果

対象事業実施区域及びその周囲における魚類の現地調査結果は、表 8.1.4-39 のとおり、２目２科３種が確認された。

全季ともアメマス（エゾイワナ）、サクラマス（ヤマメ）及びカジカの３種が確認された。

表 8.1.4-39　魚類の調査結果

No.	目名	科名	種名	調査期間		
				夏季	秋季	春季
1	サケ	サケ	アメマス（エゾイワナ）	○	○	○
2			サクラマス（ヤマメ）	○	○	○
3	スズキ	カジカ	カジカ	○	○	○
合計	２目	２科	３種	３種	３種	３種

注：種名及び配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和７年度生物リスト」（国土交通省　河川水辺の国勢調査 HP、閲覧：令和８年５月）に準拠した。

h. 底生動物の状況

(a) 文献その他の資料調査

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

ｲ. 調査方法

昆虫類以外の無脊椎動物（淡水産貝類を含む）として、表 8.1.4-40 に示す文献その他の資料から、調査範囲において生息記録のある種を抽出した。

表 8.1.4-40　昆虫類以外の無脊椎動物（淡水産貝類を含む）に係る文献その他の資料

文献その他の資料名	調査範囲
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 4 回（1988～1993）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「自然環境調査 Web-GIS　動物　第 5 回（1993～1999）」（環境省自然環境局生物多様性センターHP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「いきものログ」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ※1
「いわてレッドデータブック　岩手の希少な野生生物　web 版」（岩手県 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2、※3
「盛岡市史　第七巻（復刻版）」（盛岡市、昭和 55 年）	盛岡市
「いわてレッドデータブック（岩手の希少な野生生物 2025 年版）」（岩手県、令和 7 年）	対象事業実施区域及びその周囲を示す地名及び盛岡市、岩泉町、宮古市※2、※3

注：※については以下のとおりである。

※1：2 次メッシュは、国土地理院発行の 1/25,000 の地形図の図郭割の範囲に相当する。対象事業実施区域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ「594132 区界」「594133 松草」「594142 大志田」「594143 青松葉山」を抽出した。

※2：掲載されている分布地域に盛岡市簗川等の詳細な地名が記載されている場合は詳細な地名を優先して抽出し、詳細な地名が記載されておらず盛岡市等の市町のみでの記載の場合は市町で抽出した。

※3：汽水域、沿岸域等明らかに対象事業実施区域の環境と生息域が異なるものについては除外した。

ｳ. 調査結果

文献その他の資料調査の結果、7 種の昆虫類以外の無脊椎動物（淡水産貝類を含む）が確認された。（第 3 章　3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況　(1) 動物相の概要 参照）

(b) 現地調査

ｱ. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲の河川を対象とした。

ｲ. 調査地点

対象事業実施区域及びその周囲の 7 地点（W1～W7）とした。各調査地点の概要は表 8.1.4-41、調査地点位置は図 8.1.4-39 のとおりである。

表 8.1.4-41　昆虫類以外の無脊椎動物（淡水産貝類を含む）調査地点の概要

調査方法	調査地点	地点概要	設定根拠
定性採集調査	W1	対象事業実施区域の南東端領域を集水域とする閉伊川を対象とした。	地形の改変により濁水の影響を受ける可能性のある河川及び沢の底生動物の生息状況を把握することを目的として設定した。 なお、調査に必要な一定の水量の確保が可能であり、安全を確保した上で人のアクセスが可能な場所とした。
	W2	対象事業実施区域の中央部東側領域を集水域とする時常沢を対象とした。	
	W3	対象事業実施区域の中央部東側領域を集水域とする安庭沢を対象とした。	
	W4	対象事業実施区域の北側領域を集水域とする本田沢を対象とした。	
	W5	対象事業実施区域の北西側領域を集水域とする内沢を対象とした。	
	W6	対象事業実施区域の西側領域を集水域とする簗川及び栃沢を対象とした。	
	W7	対象事業実施区域の南側領域を集水域とする栃沢を対象とした。	

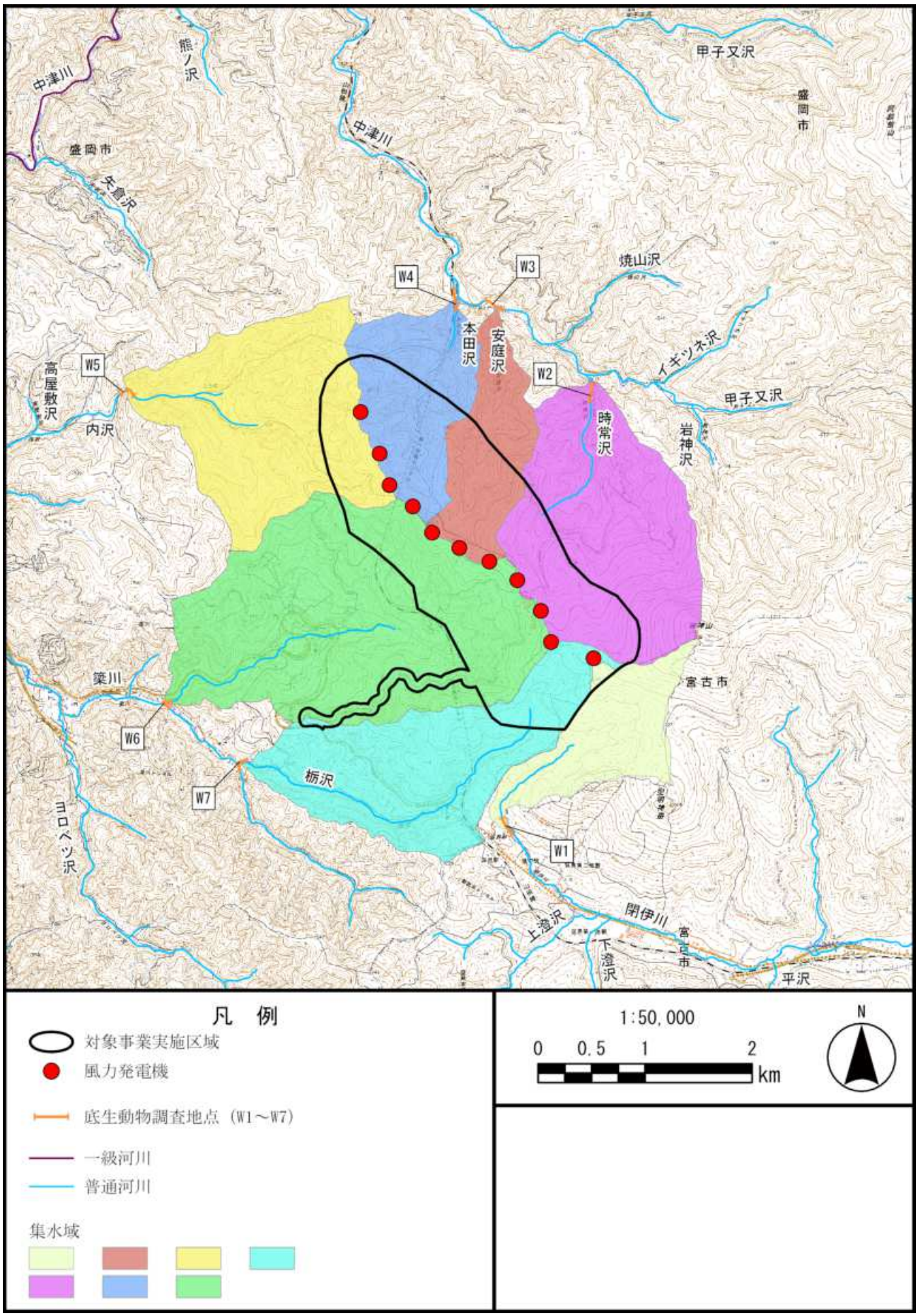


図 8.1.4-39　底生動物の調査地点（定性採集調査）

ｳ. 調査期間

春季調査：令和 7 年　5 月 12～16 日

夏季調査：令和 7 年　8 月 25～29 日

秋季調査：令和 7 年 11 月 10～14 日

ｴ. 調査方法

(ｱ) 定性採集調査

石礫の間や下、砂泥、落葉の中、抽水植物群落内等の環境を対象とし、たも網等を用いて採集を行った。

ｵ. 調査結果

対象事業実施区域及びその周囲における底生動物の調査結果は、表 8.1.4-42 のとおり、7 綱 21 目 75 科 177 種が確認された。

調査時期別では、春季にはミツトゲマダラカゲロウ、シロハラコカゲロウ、カクツツトビケラ属、トクナガエリユスリカ属等の 118 種、夏季にはシロハラコカゲロウ、コブニンギョウトビケラ、オオカクツツトビケラ、ナガスネユスリカ属等の 116 種、秋季にはオオクママダラカゲロウ、エルモンヒラタカゲロウ、ウルマーシマトビケラ、カクツツトビケラ属等の 89 種が確認された。

表 8.1.4-42(1)　底生動物の調査結果

No.	綱名	目名	科名	種名	調査時期		
					春季	夏季	秋季
1	有棒状体	三岐腸	ヒラタウズムシ	カズメウズムシ	○	○	○
2				ヒラタウズムシ科	○	○	○
－			－	三岐腸目	●	●	●
3	二枚貝	ドブシジミ	ドブシジミ	マメシジミ属		○	
4	腹足	オニノツノガイ	カワニナ	カワニナ		○	
5	ミミズ	オヨギミミズ	オヨギミミズ	オヨギミミズ科	○		
6		イトミミズ	ミズミミズ	ミズミミズ科	○		
7		ヒメミミズ	ヒメミミズ	ヒメミミズ科		○	
8		厚環帯	ツリミミズ	ツリミミズ科	○	○	○
9			フトミミズ	フトミミズ科		○	
10	軟甲	ヨコエビ	アゴナガヨコエビ	ヤマトヨコエビ	○	○	○
11		エビ	サワガニ	サワガニ	○	○	
12		ワラジムシ	ミズムシ（甲）	ミズムシ（甲）		○	
13	昆虫	カゲロウ（蜉蝣）	トビイロカゲロウ	ウェストントビイロカゲロウ		○	
－				トビイロカゲロウ属	○	●	○
14			モンカゲロウ	フタスジモンカゲロウ	○	○	○
－				モンカゲロウ属			●
15			マダラカゲロウ	オオクママダラカゲロウ	○		○
16				クロマダラカゲロウ	○		
17				チェルノバマダラカゲロウ	○		○
－				トウヨウマダラカゲロウ属	●	○	●
18				オオマダラカゲロウ	○		○
19				フタコブマダラカゲロウ	○		
20				ヨシノマダラカゲロウ	○	○	
21				コウノマダラカゲロウ	○		
22				フタマタマダラカゲロウ	○		
23				ミツトゲマダラカゲロウ	○		
－				トゲマダラカゲロウ属	●	●	●
24				ホソバマダラカゲロウ	○		
25				クシゲマダラカゲロウ		○	
－				マダラカゲロウ属	●		
26			ヒメフタオカゲロウ	ヒメフタオカゲロウ属	○		○
27			コカゲロウ	ミジカオフタバコカゲロウ	○	○	
28				ヨシノコカゲロウ	○	○	
29				フタバコカゲロウ	○	○	○
30				サホコカゲロウ	○	○	
31				シロハラコカゲロウ	○	○	○
32				トビイロコカゲロウ属	○		
33				コバネヒゲトガリコカゲロウ	○	○	
－				コカゲロウ科	●	●	●
34			ヒラタカゲロウ	ミヤマタニガワカゲロウ属	○	○	○
35				キブネタニガワカゲロウ		○	
－				タニガワカゲロウ属	○	●	○
36				キイロヒラタカゲロウ	○		
37				ウエノヒラタカゲロウ	○	○	○
38				エルモンヒラタカゲロウ	○	○	○
39				ユミモンヒラタカゲロウ	○	○	
－				ヒラタカゲロウ属	●	●	●
40				ヒメヒラタカゲロウ属		○	○
41		トンボ（蜻蛉）	アオイトトンボ	アオイトトンボ科	○		
42			ムカシトンボ	ムカシトンボ	○	○	○
43			サナエトンボ	ダビドサナエ		○	
－				ダビドサナエ属	○	●	
44				ヒメクロサナエ	○		
－				サナエトンボ科	●	●	○
45			オニヤンマ	オニヤンマ	○	○	
46		カワゲラ（セキ翅）	トワダカワゲラ	トワダカワゲラ	○	○	
47			クロカワゲラ	クロカワゲラ科			○
48			ホソカワゲラ	ホソカワゲラ科	○		

表 8.1.4-42(2)　底生動物の調査結果

No.	綱名	目名	科名	種名	調査時期		
					春季	夏季	秋季
49	昆虫	カワゲラ（セキ翅）	オナシカワゲラ	フサオナシカワゲラ属	○	○	○
50				オナシカワゲラ属	○	○	○
51				ユビオナシカワゲラ属	○	○	○
52			シタカワゲラ	オビシタカワゲラ属	○		
－				シタカワゲラ科			○
53			ヒロムネカワゲラ	ノギカワゲラ			○
54			ミドリカワゲラ	ミドリカワゲラ科	○	○	○
55			カワゲラ	モンカワゲラ	○	○	○
56				エダオカワゲラ属		○	○
57				ヒメナガカワゲラ属	○	○	
58				クロヒゲカワゲラ	○	○	○
59				カミムラカワゲラ	○		
－				カミムラカワゲラ属	●	●	●
60				フタツメカワゲラ属	○		
61				ヤマトカワゲラ		○	
62				オオクラカケカワゲラ		○	○
－				クラカケカワゲラ属			●
63				ヨウクルカワゲラ		○	
－				キカワゲラ属	○		
－				カワゲラ科	●	●	●
64			アミメカワゲラ	クサカワゲラ属	○	○	○
65				アサカワヒメカワゲラ属	○		
66				コグサヒメカワゲラ属	○		
67				ヒロバネアミメカワゲラ		○	○
68				ヒメカワゲラ属	○		
－				アミメカワゲラ科	●	●	●
69		カメムシ（半翅）	アメンボ	ヒメアメンボ	○		
70				シマアメンボ		○	
71			マツモムシ	マツモムシ	○		
72		ヘビトンボ	ヘビトンボ	ヘビトンボ	○	○	○
73			センブリ	センブリ属		○	
74		アミメカゲロウ（脈翅）	シロカゲロウ	シロカゲロウ属	○		
75			ヒロバカゲロウ	プライヤーヒロバカゲロウ		○	○
76				ウンモンヒロバカゲロウ属	○		
77		トビケラ（毛翅）	シマトビケラ	AD アミメシマトビケラ		○	○
－				アミメシマトビケラ属	○	●	
78				シロズシマトビケラ			○
79				ウルマーシマトビケラ	○	○	○
80				セリーシマトビケラ	○		
－				シマトビケラ属	●	●	●
81				シロフツヤトビケラ		○	
－				シロフツヤトビケラ属		●	○
82				エチゴシマトビケラ		○	
83			カワトビケラ	タニガワトビケラ属	○	○	○
84				カワトビケラ科	○		
85			イワトビケラ	ミヤマイワトビケラ属	○		
86			クダトビケラ	クダトビケラ属		○	
87			ヒゲナガカワトビケラ	ヒゲナガカワトビケラ	○	○	○
88			キブネクダトビケラ	キブネクダトビケラ属		○	○
89			ヤマトビケラ	コヤマトビケラ属	○		
90				イノプスヤマトビケラ		○	○
－				ヤマトビケラ属	○	●	●
91			カワリナガレトビケラ	ツメナガナガレトビケラ	○	○	○
92			ヒメトビケラ	カクヒメトビケラ属		○	○
93			ナガレトビケラ	フタタマオナガレトビケラ	○		
94				クレメンスナガレトビケラ	○	○	○
95				タシタナガレトビケラ		○	
96				カワムラナガレトビケラ	○	○	○
97				ニッポンナガレトビケラ		○	

表 8.1.4-42(3)　底生動物の調査結果

No.	綱名	目名	科名	種名	調査時期		
					春季	夏季	秋季
98	昆虫	トビケラ（毛翅）	ナガレトビケラ	シコツナガレトビケラ		○	
99				トワダナガレトビケラ	○	○	○
100				ヤマナカナガレトビケラ		○	
－				ナガレトビケラ属	●	●	●
101				Rhyacophila sp. RC			○
102			コエグリトビケラ	コエグリトビケラ属	○	○	○
103			カクスイトビケラ	ニイガタツツトビケラ		○	
104				ハナセマルツツトビケラ	○	○	
105				マルツツトビケラ			○
106				ウエノマルツツトビケラ	○	○	○
－				マルツツトビケラ属		●	
－				カクスイトビケラ科	●	●	
107			ニンギョウトビケラ	コブニンギョウトビケラ		○	○
108			カクツツトビケラ	オオカクツツトビケラ		○	
－				カクツツトビケラ属	○	●	○
109			エグリトビケラ	クロモンエグリトビケラ		○	
110				キリバネトビケラ属	○		
111				ヤマガタトビイロトビケラ	○		
112				Nothopsyche sp. NA	○		
113				トウホクミヤマトビケラ		○	
－				エグリトビケラ科			○
114			キタガミトビケラ	キタガミトビケラ	○	○	○
115			フトヒゲトビケラ	フタスジキソトビケラ	○	○	○
－				キソトビケラ属			●
116			トビケラ	ムラサキトビケラ	○	○	
117				アミメトビケラ属		○	
118			マルバネトビケラ	マルバネトビケラ属		○	
119			クロツツトビケラ	ニッポンアツバエグリトビケラ	○	○	
－				アツバエグリトビケラ属	●		○
－			－	トビケラ目（毛翅目）	●		●
120		ハエ（双翅）	オビヒメガガンボ	ホソオビヒメガガンボ属		○	○
121			ヒメガガンボ	ウスバガガンボ属	○	○	○
122				エリオプテラ属			○
123				ヒゲナガガガンボ属	○	○	○
124				カスリヒメガガンボ属		○	
－				ヒメガガンボ科		●	
125			ガガンボ	ガガンボ属	○	○	○
126				アシワガガンボ属		○	○
127			アミカ	クロバアミカ			○
128				コクロバアミカ			○
－				クロバアミカ属			●
129			チョウバエ	ハマダラチョウバエ属	○	○	○
130				ハネヒラチョウバエ属	○		
－				チョウバエ科	●	●	
131			ヌカカ	Atrichopogon 属		○	○
－				ヌカカ科	○		●
132			ユスリカ	ケブカエリユスリカ属	○	○	○
133				ハダカユスリカ属		○	
134				エダゲヒゲユスリカ属		○	
135				トラフユスリカ属		○	
136				ツヤユスリカ属	○		○
137				カマガタユスリカ属	○		
138				ヤマユスリカ属	○		
139				エラノリユスリカ属	○	○	○
140				テンマクエリユスリカ属	○	○	○
141				ボカシヌマユスリカ属		○	
142				ナガスネユスリカ属	○	○	○
143				ツヤムネユスリカ属			○
144				ホソケブカエリユスリカ属		○	○

表 8.1.4-42(4)　底生動物の調査結果

No.	綱名	目名	科名	種名	調査時期		
					春季	夏季	秋季
145	昆虫	ハエ（双翅）	ユスリカ	エリユスリカ属	○	○	○
146				オオユキユスリカ属	○	○	○
147				ニセトゲアシエリユスリカ属		○	○
148				ニセケバネエリユスリカ属		○	○
149				ハモンユスリカ属	○	○	○
150				サワユスリカ属	○		
151				ウスギヌヒメユスリカ属	○	○	
152				ナガレユスリカ属		○	○
153				カンムリケミゾユスリカ属		○	
154				アシマダラユスリカ属	○		
155				ヒゲユスリカ属	○		
156				トクナガエリユスリカ属	○		
157				ハヤセヒメユスリカ属		○	
－				ユスリカ科	●	●	●
158			ブユ	キアシオオブユ	○		
－				オオブユ属	●		○
159				アシマダラブユ	○	○	○
－				アシマダラブユ属	●	●	●
160			ナガレアブ	ハマダラナガレアブ	○	○	○
161			ミズアブ	Allognosta 属		○	
162			オドリバエ	オドリバエ科	○		○
－			－	ハエ目（双翅目）		●	
163		コウチュウ（鞘翅）	ゲンゴロウ	マメゲンゴロウ	○		
164				モンキマメゲンゴロウ			○
165				サワダマメゲンゴロウ	○		
166			ミズスマシ	オナガミズスマシ		○	
－				オナガミズスマシ属	○		
167			ダルマガムシ	ホソダルマガムシ			○
168			ガムシ	マルガムシ	○	○	
169				シジミガムシ属	○		
170			マルハナノミ	ケシマルハナノミ属		○	
171				クロマルハナノミ属			○
172			ヒメドロムシ	クロマルヒメドロムシ			○
－				キタマルヒメドロムシ属	○	○	●
173				ツヤドロムシ			○
174				ミゾツヤドロムシ	○	○	
－				ツヤドロムシ属	●		●
175				ヒメツヤドロムシ属	○		
176		ハチ（膜翅）	ヒメバチ	ミヤマミズバチ		○	
177	裸喉	櫛口	アカリコケムシ	アカリコケムシ		○	
合計	7 綱	21 目	75 科	177 種	118 種	116 種	89 種

注：1. 種名及び配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和 7 年度生物リスト」（国土交通省　河川水辺の国勢調査 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に準拠した。
2. 「～目」、「～科」、「～属」等としたもののうち、他種と重複する可能性があるものについては、種数の合計から除外した。ここでは「●」が計数しない種に該当する。

② 重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況

a. 文献その他の資料調査

(a) 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

(b) 調査方法

文献その他の資料により確認された動物について、表 8.1.4-43 の選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から重要な種を抽出した。また、注目すべき生息地については、表 8.1.4-44 の選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から注目すべき生息地を抽出した。

表 8.1.4-43(1) 重要な種の選定基準

No.	選定基準		文献その他の資料
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日)、「岩手県文化財保護条例」(昭和 51 年岩手県条例第 44 号)、「盛岡市文化財保護条例」(昭和 53 年盛岡市条例第 21 号)、「宮古市文化財保護条例」(平成 17 年宮古市条例第 202 号) に基づく天然記念物	特天：特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：県指定天然記念物 盛天：盛岡市天然記念物 宮天：宮古市天然記念物	「国指定文化財等データベース」(文化庁 HP、閲覧：令和 8 年 5 月)、「岩手県文化財保存活用大綱」(岩手県 HP、閲覧：令和 8 年 5 月)、「盛岡市指定文化財」(盛岡市 HP、閲覧：令和 8 年 5 月)
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号、最終改正：令和 8 年 5 月 22 日) 及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年政令第 17 号、最終改正：令和 8 年 2 月 18 日) に基づく国内希少野生動植物種等	国内：国内希少野生動植物種 特定 1：特定第一種国内希少野生動植物種 特定 2：特定第二種国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年政令第 17 号、最終改正：令和 8 年 2 月 18 日)
③	「環境省レッドリスト 2020」(環境省、令和 2 年) の掲載種 (鳥類及び爬虫類・両生類以外)	EX：絶滅･･･我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅･･･飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類･･･絶滅の危機に瀕している種 CR：絶滅危惧ⅠA類･･･ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの EN：絶滅危惧ⅠB類･･･ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの VU：絶滅危惧Ⅱ類･･･絶滅の危険が増大している種 NT：準絶滅危惧･･･現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 DD：情報不足･･･評価するだけの情報が不足している種 LP：絶滅のおそれのある地域個体群･･･地域的に孤立している個体群 (繁殖個体群を含む) で、絶滅のおそれが高いもの	「環境省レッドリスト 2020 の公表について」(環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月)

表 8.1.4-43(2)　重要な種の選定基準

No.	選定基準		文献その他の資料
④	「第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物　鳥類」（環境省、令和8年）及び「第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物　爬虫類・両生類」（環境省、令和8年）の掲載種	EX：絶滅･･･我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅･･･飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 CR：絶滅危惧ⅠA類･･･深刻な絶滅の危機に瀕している種 EN：絶滅危惧ⅠB類･･･絶滅の危機に瀕している種 VU：絶滅危惧Ⅱ類･･･絶滅の危険が増大している種 NT：準絶滅危惧･･･存続基盤が脆弱な種 DD：情報不足･･カテゴリーを判定するための情報が不足している種 LP：絶滅のおそれのある地域個体群･･･孤立した地域個体群で、絶滅のおそれが高いもの	「第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物　鳥類」（環境省、令和8年）及び「第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物　爬虫類・両生類」（環境省、令和8年）
⑤	「いわてレッドデータブック（岩手の希少な野生生物 2025年版)」(岩手県、令和7年）及び「レッドリスト（2024 年度)」(令和7年9月1日淡水産貝類のリスト更新）の掲載種（淡水産貝類）	EX：絶滅･･･岩手県ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅･･･飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 CR＋EN：絶滅危惧種Ⅰ類･･･絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの VU：絶滅危惧Ⅱ類･･･絶滅の危険が増大している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧種Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの NT：準絶滅危惧･･･存続基盤が脆弱な種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの NW：留意･･･現時点では「絶滅危惧」に該当しないが、生育･ 生息条件の変化によって「絶滅危惧Ⅰ･Ⅱ類」や「準絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する可能性が高い種、あるいは優れた自然環境の指標となる種 DD：情報不足･･･評価するだけの情報が不足している種	「いわてレッドデータブック（岩手の希少な野生生物 2025 年版)」(岩手県、令和7 年）及び「レッドリスト（2024 年度）（淡水産貝類)」(岩手県 HP、閲覧：令和8年5月)
⑥	「岩手県希少野生動植物の保護に関する条例」(平成14年岩手県条例第26号）の掲載種	指定：指定希少野生動植物 特定：特定希少野生動植物	「指定希少野生動植物及び特定希少野生動植物の指定」(平成 14 年岩手県告示第993号)

表 8.1.4-44(1)　注目すべき生息地の選定基準

選定基準		文献その他資料
「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）、「岩手県文化財保護条例」（昭和 51 年岩手県条例第 44 号）、「盛岡市文化財保護条例」（昭和 53 年盛岡市条例第 21 号）、「宮古市文化財保護条例」（平成 17 年宮古市条例第 202 号）に基づく天然記念物	特天：特別天然記念物 国天：天然記念物 県天：岩手県天然記念物 盛天：盛岡市天然記念物 宮天：宮古市天然記念物	「国指定文化財等データベース」（文化庁 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）、「岩手県文化財保存活用大綱」（岩手県 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）、「盛岡市指定文化財」（盛岡市 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）
「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号、最終改正：令和 8 年 5 月 22 日）及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行規則」（平成 5 年総理府令第 9 号、最終改正：令和 8 年 3 月 9 日）に基づく生息地等保護区	生息：生息地等保護区	「生息地等保護区一覧」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）
「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」（ラムサール条約）（昭和 55 年条約第 28 号、最終改正：平成 6 年 4 月 29 日）に基づく条約湿地	基準 1：特定の生物地理区内で代表的、希少、または固有の湿地タイプを含む湿地 基準 2：絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地 基準 3：特定の生物地理区における生物多様性の維持に重要な動植物を支えている湿地 基準 4：動植物のライフサイクルの重要な段階を支えている湿地。または悪条件の期間中に動植物の避難場所となる湿地 基準 5：定期的に 2 万羽以上の水鳥を支えている湿地 基準 6：水鳥の 1 種または 1 亜種の個体群の個体数の 1%以上を定期的に支えている湿地 基準 7：固有な魚類の亜種、種、科、魚類の生活史の諸段階、種間相互作用、湿地の価値を代表するような個体群の相当な割合を支えており、それによって世界の生物多様性に貢献している湿地 基準 8：魚類の食物源、産卵場、稚魚の生息場として重要な湿地。あるいは湿地内外の漁業資源の重要な回遊経路となっている湿地 基準 9：鳥類以外の湿地に依存する動物の種または亜種の個体群の個体数の 1%以上を定期的に支えている湿地	「ラムサール条約と条約湿地」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）

表 8.1.4-44(2)　注目すべき生息地の選定基準

選定基準		文献その他資料
「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（平成 14 年法律第 88 号、最終改正：令和 8 年 5 月 22 日）に基づく鳥獣保護区	国指定鳥獣保護区及び都道府県指定鳥獣保護区 特：特別保護地区 特指：特別保護指定区域	「令和 7 年度岩手県鳥獣保護区等位置図」（岩手県 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）
「自然環境保全法」（昭和 47 年法律第 85 号、最終改正：令和 8 年 5 月 22 日）及び「岩手県自然環境保全条例」（昭和 48 年岩手県条例第 62 号）に基づく自然環境保全地域	原生：原生自然環境保全地域 自然：自然環境保全地域 沖合：沖合海底自然環境保全地域 地域：都道府県自然環境保全地域	「自然環境保全地域」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）、「令和 7 年版環境報告書」（岩手県、令和 8 年）
「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に基づく重要湿地	基準 1：湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・砂浜・マングローブ湿地、藻場、サンゴ礁等の生態系のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合 基準 2：希少種、固有種等が生育・生息している場合 基準 3：多様な生物相を有している場合（ただし、外来種を除く） 基準 4：特定の種の個体群のうち、相当な割合の個体数が生育・生息する場合 基準 5：生物の生活史の中で不可欠な地域（採餌場、繁殖場等）である場合	「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）
「重要野鳥生息地（IBA, Important Bird and Biodiversity Areas）の保全」（日本野鳥の会 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）の掲載地	A1 ：世界的に絶滅が危惧される種、または全世界で保護の必要がある種が、定期的・恒常的に多数生息している生息地 A2 ：生息地域限定種（Restricted-range species）が相当数生息するか、生息している可能性がある生息地 A3 ：ある 1 種の鳥類の分布域すべてもしくは大半が 1 つのバイオーム※に含まれている場合で、そのような特徴をもつ鳥類複数種が混在して生息する生息地、もしくはその可能性がある生息地 ※バイオーム：それぞれの環境に生きている生物全体 A4ⅰ：群れを作る水鳥の生物地理的個体群の 1%以上が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト A4ⅱ：群れを作る海鳥または陸鳥の世界の個体数の 1%以上が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト A4ⅲ：1 種以上で 2 万羽以上の水鳥、または 1 万つがい以上の海鳥が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト A4ⅳ：渡りの隘路にあたる場所で、定められた閾値を超える渡り鳥が定期的に利用するボトルネックサイト	「重要野鳥生息地（IBA, Important Bird and Biodiversity Areas）の保全」（日本野鳥の会 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）
「KBA～私たちが残したい未来の自然～」（コンサベーション・インターナショナル・ジャパン HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に基づく区分	危機性　：IUCN のレッドリストの地域絶滅危惧種（CR、EN、VU）に分類された種が生息／生育する 非代替性：a) 限られた範囲にのみ分布している種（RR）が生息／生育する b) 広い範囲に分布するが特定の場所に集中している種が生息／生育する c) 世界的にみて個体が一時的に集中する重要な場所 d) 世界的にみて顕著な個体の繁殖地 e) バイオリージョンに限定される種群が生息／生育する	「KBA～私たちが残したい未来の自然～」（コンサベーション・インターナショナル・ジャパン HP、閲覧：令和 8 年 5 月）

表 8.1.4-44(3)　注目すべき生息地の選定基準

選定基準		文献その他資料
「陸上風力発電事業に係る環境影響評価ガイドライン」（岩手県、最終改正：令和 7 年 5 月）に基づくイヌワシの生息地域のゾーニング区分	イヌワシの重要な生息地（レッドゾーン）： イヌワシの生息に特に重要な地域であり、自然環境の保全上の支障を防止する観点から、対象事業実施区域に含めることが適切でない区域 イヌワシの生息地（イエローゾーン）： イヌワシの生息が定常的に見られる地域（繁殖場所、採餌場所を含む）を網羅した区域であり、環境の保全への支障を及ぼすおそれがなく、環境保全の見地から立地による影響が低減されるものと認められることが必要な区域 上記以外の区域（その他のゾーン）： レッドゾーン及びイエローゾーンには該当しないものの、イヌワシの一時的な滞在や通過が確認されている地域や、十分に調査されていない地域を含むため、イヌワシが生息しないことを示す区域ではないことに注意が必要な区域	「環境要素ごとの基準に掲げる区域(鳥類)」（岩手県 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）

(c) 調査結果

ｱ. 哺乳類の重要な種

文献その他の資料調査による重要な種として、表 8.1.4-45 のとおり、カワネズミ、ヤマコウモリ、コテングコウモリ、ニホンモモンガ、カモシカ等の 21 種が該当する。

表 8.1.4-45　哺乳類の重要な種（文献その他の資料調査）

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	⑤	⑥
1	モグラ（食虫）	トガリネズミ	カワネズミ				NW※1	
2		モグラ	ミズラモグラ			NT	VU	
3	コウモリ（翼手）	ヒナコウモリ	ヒメホオヒゲコウモリ				NT	
4			カグヤコウモリ				VU	
5			クロホオヒゲコウモリ			VU	CR+EN	
6			ノレンコウモリ			VU※2	VU	
7			モリアブラコウモリ			VU	CR+EN	
8			コヤマコウモリ			EN	CR+EN	
9			ヤマコウモリ			VU	CR+EN	
10			ヒナコウモリ				VU	
11			チチブコウモリ			LP※3	CR+EN	
12			ニホンウサギコウモリ				VU	
13			ユビナガコウモリ				VU	
14			コテングコウモリ				NW	
15			テングコウモリ				VU	
16	ネズミ（齧歯）	リス	ニホンモモンガ				NT	
17		ヤマネ	ヤマネ	国天			NT	
18	ネコ（食肉）	クマ	ツキノワグマ				NW※4	
19		イタチ	イイズナ			NT※5	VU※6	
20			オコジョ			NT※7	VU※7	
21	ウシ（偶蹄）	ウシ	カモシカ	特天			NW※8	
計	5 目	8 科	21 種	2 種	0 種	9 種	21 種	0 種

注：1. 種名及び配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和 7 年度生物リスト」（国土交通省河川水辺の国勢調査 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に準拠した。
2. 選定基準は表 8.1.4-43 中の番号に対応する。
3. 表中の※については以下のとおりである。
※1：ニホンカワネズミで掲載、※2：ホンドノレンコウモリで掲載、※3：本州のチチブコウモリで掲載、※4：ニホンツキノワグマで掲載、※5：ニホンイイズナ（本州亜種）で掲載、※6：ニホンイイズナで掲載、※7：ホンドオコジョで掲載、※8：ニホンカモシカで掲載

ｲ. 鳥類の重要な種

文献その他の資料調査による重要な種として、表 8.1.4-46 のとおり、マガン、ヨタカ、ジュウイチ、クマタカ、アカモズ、ノジコ等の 56 種が該当する。

表 8.1.4-46(1)　鳥類の重要な種（文献その他の資料調査）

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	④	⑤	⑥
1	カモ	カモ	マガン	国天				
2			オシドリ				NW	
3			シノリガモ				NT	
4			カワアイサ				NW	
5	キジ	キジ	ヤマドリ				NW	
6	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			NT	NT	
7	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ			VU	NW	
8	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ				NT	
9			カッコウ				NW	
10	ツル	クイナ	クイナ				NT	
11	チドリ	チドリ	ケリ			DD	VU	
12		シギ	ヤマシギ				NT	
13			オオジシギ			NT	VU	
14	ミズナギドリ	ウミツバメ	コシジロウミツバメ			EN	VU	
15		ミズナギドリ	オオミズナギドリ				NW	
16	ペリカン	サギ	ミゾゴイ			NT	CR＋EN	
17			チュウサギ			NT	NT	
18	タカ	ミサゴ	ミサゴ				VU	
19		タカ	ハチクマ			DD	NT	
20			クマタカ		国内	EN	CR＋EN	
21			イヌワシ	国天	国内	EN	CR＋EN	
22			ツミ				NT	
23			ハイタカ			NT	NT	
24			サシバ			VU	VU	
25			ノスリ				NW	
26	フクロウ	フクロウ	アオバズク				VU	
27			コノハズク				VU	
28			オオコノハズク				NT	
29			トラフズク				VU	
30			コミミズク				NW	
31			フクロウ				NW	
32	ブッポウソウ	ブッポウソウ	ブッポウソウ			EN	VU	
33		カワセミ	カワセミ				NW	
34			ヤマセミ			VU	NW	
35	キツツキ	キツツキ	アリスイ				VU	
36			オオアカゲラ				NW	
37			クマゲラ	国天		NT	CR＋EN	
38	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ				NT	
39		カササギヒタキ	サンコウチョウ				NW	
40		モズ	チゴモズ			EN	CR＋EN	
41			アカモズ		国内	CR	CR＋EN	
42		カラス	オナガ			NT		
43		ツバメ	コシアカツバメ				VU	
44		セッカ	セッカ				NT	
45		キバシリ	キバシリ				NT	
46		ヒタキ	コサメビタキ				NW	

表 8.1.4-46(2)　鳥類の重要な種（文献その他の資料調査）

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	④	⑤	⑥
47	スズメ	ヒタキ	コマドリ				NT	
48			ノビタキ				NT	
49		イワヒバリ	イワヒバリ				NT	
50			カヤクグリ				NW	
51		セキレイ	ビンズイ			NT		
52		アトリ	イスカ				NW	
53		ホオジロ	ホオアカ				VU	
54			カシラダカ			EN		
55			ノジコ			NT	NW	
56			クロジ				NW	
合計	14 目	29 科	56 種	3 種	3 種	21 種	52 種	0 種

注：1. 種名及び配列は「日本鳥類目録　改訂第 8 版」（日本鳥学会、令和 6 年）に準拠した。
2. 選定基準は表 8.1.4-43 中の番号に対応する。

ｳ. 爬虫類の重要な種

文献その他の資料調査による重要な種として、表 8.1.4-47 のとおり、ヒガシニホントカゲ、タカチホヘビ、シロマダラ及びヒバカリの 4 種が該当する。

表 8.1.4-47　爬虫類の重要な種（文献その他の資料調査）

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	④	⑤	⑥
1	有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ				NW	
2		タカチホヘビ	タカチホヘビ				DD	
3			シロマダラ				DD	
4			ヒバカリ				DD	
計	1 目	2 科	4 種	0 種	0 種	0 種	4 種	0 種

注：1. 種名及び配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和 7 年度生物リスト」（国土交通省河川水辺の国勢調査 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に準拠した。
2. 選定基準は表 8.1.4-43 中の番号に対応する。

ｴ. 両生類の重要な種

文献その他の資料調査による重要な種として、表 8.1.4-48 のとおり、トウホクサンショウウオ、アカハライモリ、タゴガエル、モリアオガエル等の 8 種が該当する。

表 8.1.4-48　両生類の重要な種（文献その他の資料調査）

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	④	⑤	⑥
1	有尾	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ			NT	NW	
2			キタオウシュウサンショウウオ※				NW	
3		イモリ	アカハライモリ			NT	NW	
4	無尾	アカガエル	タゴガエル			DD		
5			ニホンアカガエル				VU	
6			トウキョウダルマガエル			NT	NW	
7			モリアオガエル				NW	
8			カジカガエル				NW	
計	2 目	3 科	8 種	0 種	0 種	4 種	7 種	0 種

注：1. 種名及び配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和 7 年度生物リスト」（国土交通省河川水辺の国勢調査 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に準拠した。
2. 選定基準は表 8.1.4-43 中の番号に対応する。
3. 表中の※については以下のとおりである。
※：方法書時にハコネサンショウウオとしていたものについては、平成 24 年の再分類により岩手県に生息する集団がキタオウシュウサンショウウオに分割されたため、ここではキタオウシュウサンショウウオとした。

オ. 昆虫類の重要な種

文献その他の資料調査による重要な種として、表 8.1.4-49 のとおり、カトリヤンマ、チャマダラセセリ、カワラハンミョウ、シマケシゲンゴロウ等の 100 種が該当する。

表 8.1.4-49(1) 昆虫類の重要な種（文献その他の資料調査）

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	⑤	⑥
1	トンボ（蜻蛉）	アオイトトンボ	コバネアオイトトンボ			EN	CR+EN	
2		イトトンボ	モートンイトトンボ			NT	NT	
3		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ			NT	NW	
4			マダラヤンマ			NT	VU	
5			カトリヤンマ				CR+EN	
6			サラサヤンマ				NW	
7		サナエトンボ	ホンサナエ				NW	
8			オジロサナエ				NW	
9		ムカシヤンマ	ムカシヤンマ				NW	
10		エゾトンボ	エゾトンボ				NW	
11		トンボ	ハッチョウトンボ				NT	
12			キトンボ				NW	
13			オオキトンボ			EN	CR+EN	
14	アミメカゲロウ（脈翅）	ツノトンボ	キバネツノトンボ				VU	
15	チョウ（鱗翅）	マダラガ	ベニモンマダラ道南亜種			VU※1	VU※2	
16		ハマキガ	ウンモンサザナミヒメハマキ				NT	
17		セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ			NT	NW	
18			ミヤマチャバネセセリ				NT	
19			チャマダラセセリ			EN	CR+EN	
20		シジミチョウ	チョウセンアカシジミ			VU	VU	
21			ウラジロミドリシジミ				VU	
22			ハヤシミドリシジミ				VU	
23			クロミドリシジミ				NT	
24			クロシジミ			EN	VU	
25			ゴマシジミ北海道・東北亜種			NT※3	CR+EN※3	指定※3
26			ヒメシジミ本州・九州亜種			NT	VU※4	
27		タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン			VU		
28			ヒョウモンチョウ東北以北亜種			NT※5	NT	
29			オオウラギンヒョウモン			CR	CR+EN	
30			ゴマダラチョウ本土亜種				NW※6	
31			キマダラモドキ			NT		
32			クロヒカゲモドキ			EN	CR+EN	
33			コジャノメ				NW	
34			フタスジチョウ東北地方亜種				CR+EN※7	
35			オオムラサキ			NT	NT	
36		アゲハチョウ	ヒメギフチョウ本州亜種			NT	VU※8	
37		シロチョウ	ヒメシロチョウ北海道・本州亜種				NT※9	
38		トリバガ	モウセンゴケトリバ				NW	
39		ツトガ	モリオカツトガ			NT	NW	
40			フトシロスジツトガ				NW	
41		カギバガ	キボシミスジトガリバ				NW	

表 8.1.4-49(2)　昆虫類の重要な種（文献その他の資料調査）

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	⑤	⑥
42	チョウ（鱗翅）	シャクガ	クロフカバシャク			VU	NT	
43			フタオレウスグロエダシャク				DD	
44			エゾヤエナミシャク				VU	
45		スズメガ	イブキスズメ				NW	
46		ヒトリガ	マエアカヒトリ			NT	DD	
47		ヤガ	ジョウザンケンモン				DD	
48			ウスジロケンモン			NT	NT	
49			ツチイロキリガ				NT	
50			タカネショウブヨトウ				NT	
51			タンポキンウワバ				NW	
52			シロスジツマキリヨトウ				NT	
53			ガマヨトウ			VU	NW	
54			コシロシタバ			NT	NW	
55			ケンモンキシタバ				NW	
56			ミヤマキシタバ			NT	NW	
57			ミツモンケンモン			EN	CR+EN	
58			オガサワラヒゲヨトウ			EN	CR+EN	
59			シロスジキンウワバ				NT	
60			ヨスジノコメキリガ				DD	
61			オオシラホシヤガ				DD	
62			ハイイロヨトウ				NW	
63			クロヨトウ				NW	
64			ノシメコヤガ			CR	CR+EN	
65	ハエ（双翅）	アミカモドキ	ニホンアミカモドキ			VU	NT	
66		クサアブ	ネグロクサアブ			DD	NW	
67	コウチュウ（鞘翅）	オサムシ	オオアオグロヒラタゴミムシ				CR+EN	
68			ウメヤルリミズギワゴミムシ				VU	
69			セアカオサムシ			NT	NW	
70		ハンミョウ	カワラハンミョウ			EN	CR+EN	
71			ホソハンミョウ			VU	VU	
72			ナミハンミョウ				NW	
73		ゲンゴロウ	シマケシゲンゴロウ				VU	
74		クワガタムシ	オオクワガタ			VU	NT	
75		コガネムシ	ヒメコマグソコガネ				CR+EN	
76			ヒメケブカマグソコガネ				EX※10	
77			シナノエンマコガネ				NT	
78			ヤマトエンマコガネ			NT	NT	
79			オオチャイロハナムグリ			NT	NW	
80		タマムシ	アカヘリミドリタマムシ				VU	
81			サビナカボソタマムシ				NW	
82			ハビロキンヘリタマムシ				VU	
83		コメツキムシ	ツマグロヒラタコメツキ				NW	
84		ホタル	ゲンジボタル				NW	
85		ゴミムシダマシ	ホネゴミムシダマシ				VU	
86		カミキリムシ	ミチノクケマダラカミキリ			VU	NW	
87			フタスジカタビロハナカミキリ				VU	
88			トウホクトラカミキリ				NW	
89			クロサワヘリグロハナカミキリ				NT	
90			オニホソコバネカミキリ				VU	

表 8.1.4-49(3)　昆虫類の重要な種（文献その他の資料調査）

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	⑤	⑥
91	コウチュウ（鞘翅）	カミキリムシ	モモブトハナカミキリ				NW	
92			ベニバハナカミキリ				NW	
93			コトラカミキリ			NT	NT	
94			ホンドアカガネカミキリ				NW	
95			クロヒラタカミキリ			NT	NW	
96			ヨツボシカミキリ			EN	VU	
97		ハムシ	クロスジカメノコハムシ				NT	
98			ベニカメノコハムシ				NW	
99			ニセセスジツツハムシ				VU	
100	ハチ（膜翅）	アナバチ	オガサワラアナバチ			VU		
計	6 目	36 科	100 種	0 種	0 種	42 種	97 種	1 種

注：1. 種名及び配列については原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和 7 年度生物リスト」（国土交通省河川水辺の国勢調査 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に準拠した。
2. 選定基準は表 8.1.4-43 中の番号に対応する。
3. 表中の※については以下のとおりである。
※1：ベニモンマダラ本土亜種で掲載、※2：ベニモンマダラで掲載、※3：ゴマシジミで掲載、
※4：ヒメシジミで掲載、※5：ヒョウモンチョウ北海道・本州北部亜種で掲載、
※6：ゴマダラチョウで掲載、※7：フタスジチョウで掲載、※8：ヒメギフチョウで掲載、
※9：ヒメシロチョウで掲載、※10：ウスグロマグソコガネで掲載

ｶ. 陸産貝類の重要な種

文献その他の資料調査による重要な種として、表 8.1.4-50 のとおり、クリイロキセルガイモドキ、ヒダリマキマイマイの 2 種が該当する。

表 8.1.4-50　陸産貝類の重要な種（文献その他の資料調査）

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	⑤	⑥
1	柄眼	キセルガイモドキ	クリイロキセルガイモドキ				NT※	
2		オナジマイマイ	ヒダリマキマイマイ				NT	
計	1 目	2 科	2 種	0 種	0 種	0 種	2 種	0 種

注：1. 種名及び配列については原則として、「原色日本陸産貝類図鑑」（保育社、昭和 57 年）に準拠した。
2. 選定基準は表 8.1.4-43 中の番号に対応する。
3. 表中の※については以下のとおりである。
※：クリイロキセルモドキで掲載

ｷ. 魚類の重要な種

文献その他の資料調査による重要な種として、表 8.1.4-51 のとおり、カワヤツメ、ニホンウナギ、ギバチ、サクラマス（ヤマメ）等の 15 種が該当する。

表 8.1.4-51　魚類の重要な種（文献その他の資料調査）

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	⑤	⑥
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	ミナミスナヤツメ			VU※1	NT※2	
2			キタスナヤツメ			VU※3	NT※4	
3			カワヤツメ			VU	CR＋EN※5	
4	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ			EN	VU	
5	コイ	コイ	キンブナ			VU	NT	
6			タナゴ			EN	NW	
7			エゾウグイ			LP※6	VU	
8			スナゴカマツカ				NT	
9	ナマズ	ギギ	ギバチ			VU		
10	サケ	サケ	サクラマス（ヤマメ）			NT		
11	トゲウオ	トゲウオ	イトヨ				CR＋EN※7	
12	スズキ	カジカ	カジカ			NT※8	NT※8	
13		ハゼ	ボウズハゼ				NW	
14			チチブ				NW	
15			チクゼンハゼ			VU	NW	
計	7 目	8 科	15 種	0 種	0 種	11 種	13 種	0 種

注：1. 種名及び配列については原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和 7 年度生物リスト」（国土交通省河川水辺の国勢調査 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に準拠した。
2. 選定基準は表 8.1.4-43 中の番号に対応する。
3. 表中の※については以下のとおりである。
※1：スナヤツメ南方種で掲載、※2：ミナミスナヤツメ（スナヤツメ南方種）で掲載、
※3：スナヤツメ北方種で掲載、※4：キタスナヤツメ（スナヤツメ北方種）で掲載、
※5：カワヤツメ河川型で掲載、※6：東北地方のエゾウグイで掲載、
※7：太平洋系降海型イトヨ及び太平洋系陸封型イトヨで掲載、
※8：カジカ大卵型で掲載

ｸ. 昆虫類以外の無脊椎動物の重要な種

文献その他の資料調査による重要な種として、表 8.1.4-52 のとおり、ヒラヌマガイ、チビマメシジミ、マシジミ等の 6 種が該当する。

表 8.1.4-52　昆虫類以外の無脊椎動物の重要な種（文献その他の資料調査）

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	⑤	⑥
1	イシガイ	イシガイ	タガイ				NT	
2			ヒラヌマガイ				CR＋EN	
3	ドブシジミ	ドブシジミ	チビマメシジミ				NT	
4			マメシジミ属の 1 種①				NT	
5			マメシジミ属の 1 種②				NT	
6	マルスダレガイ	シジミ	マシジミ			VU	NT	
計	3 目	3 科	6 種	0 種	0 種	1 種	6 種	0 種

注：1. 種名及び配列については原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和 7 年度生物リスト」（国土交通省河川水辺の国勢調査 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に準拠した。
2. 選定基準は表 8.1.4-43 中の番号に対応する。

ヶ. 注目すべき生息地の分布

注目すべき生息地については、表 8.1.4-44 の選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から抽出した。対象事業実施区域及びその周囲における注目すべき生息地は図 8.1.4-40 のとおりである。

「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）によると、表 8.1.4-53 のとおりカモシカが特別天然記念物、ヤマネ、イヌワシが天然記念物として特に地域を定めず指定されている。

「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（平成 14 年法律第 88 号、最終改正：令和 8 年 5 月 22 日）に基づく鳥獣保護区として、表 8.1.4-54 のとおり、盛岡市小貝沢鳥獣保護区、盛岡市高森鳥獣保護区及び宮古市区界高原鳥獣保護区の計 3 件が存在するが、対象事業実施区域内には存在しない。

「自然環境保全法」（昭和 47 年法律第 85 号、最終改正：令和 8 年 5 月 22 日）及び「岩手県自然環境保全条例」（昭和 48 年岩手県条例第 62 号）に基づく自然環境保全地域として、表 8.1.4-55 のとおり、県指定の区界高原自然環境保全地域が存在し、その一部が対象事業実施区域内に存在するが、野生動植物保護地区の指定はない。

「KBA～私たちが残したい未来の自然～」（コンサベーション・インターナショナル・ジャパン HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に基づく生物多様性の保全の鍵になる重要な地域として、表 8.1.4-56 のとおり、早坂高原青松葉山が選定されているが、対象事業実施区域内には存在しない。

なお、対象事業実施区域及びその周囲に、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」（ラムサール条約）（昭和 55 年条約第 28 号、最終改正：平成 6 年 4 月 29 日）、「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）及び「重要野鳥生息地（IBA, Important Bird and Biodiversity Areas）の保全」（日本野鳥の会 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に選定された地域は存在しない。

また、令和 5 年 3 月に策定された「陸上風力発電事業に係る環境影響評価ガイドライン」（岩手県、最終改定：令和 7 年 5 月）に基づくイヌワシの生息地域のゾーニング区分について、対象事業実施区域及びその周囲との重ね合わせを行った結果、対象事業実施区域はイヌワシの重要な生息地（レッドゾーン）にあたる。対象事業実施区域の周囲においてもイヌワシの重要な生息地（レッドゾーン）及びイヌワシの生息地（イエローゾーン）が大部分を占めており、当該地域はイヌワシの重要な生息地となる。なお、ガイドラインにおいて、レッドゾーンについては「これまでの県内イヌワシ生息状況調査において、イヌワシの生息が定常的に見られる地域の中にあって、頻繁に利用される繁殖場所や高い頻度で飛来のある採餌場所など、イヌワシの生息に特に重要な地域であり、自然環境の保全上の支障を防止する観点から、対象事業実施区域に含めることが適切でない区域」とされている。なお、本ガイドラインは、本事業の環境影響評価方法書届出後に策定されたものである。

表 8.1.4-53　天然記念物（動物）

区分	種類	名称	所在地	指定年月日
国	特別天然記念物	カモシカ	県下一円（特に区域を定めず）	昭和 30 年 2 月 15 日
	天然記念物	ヤマネ	地域定めず	昭和 50 年 6 月 26 日
		イヌワシ	地域定めず	昭和 40 年 5 月 12 日

〔「岩手県文化財保存活用大綱」（岩手県 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）
「盛岡市指定文化財」（盛岡市 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）　より作成〕

表 8.1.4-54　鳥獣保護区

名称	指定区分	面積（ha） 【特別保護地区の面積】	期限
盛岡市小貝沢鳥獣保護区	森林鳥獣生息地	2,323 【101】	令和 10 年 10 月 31 日
盛岡市高森鳥獣保護区	森林鳥獣生息地	769	令和 15 年 10 月 31 日
宮古市区界高原鳥獣保護区	森林鳥獣生息地	449	令和 15 年 10 月 31 日

〔「令和 7 年度岩手県鳥獣保護区等位置図」（岩手県 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）より作成〕

表 8.1.4-55　自然環境保全地域

名称	面積	自然環境の特質	指定年月日	野生動植物保護地区
区界高原自然環境保全地域	550ha	高原、残丘とシラカバ等の樹林・草原	昭和 49 年 1 月 23 日	指定なし

〔「令和 7 年版環境報告書」（岩手県、令和 8 年）より作成〕

表 8.1.4-56　生物多様性の保全の鍵になる重要な地域（KBA）

名称	面積	自治体	保護地域	基準
早坂高原青松葉山	28,714ha	岩手県下閉郡伊岩泉町、岩手県宮古市、岩手県岩手郡葛巻町、岩手県盛岡市	外山早坂（そとやまはやさか）県立自然公園	EN：1 VU：1

注：基準欄の数値は、生息記録がある対象種の数を示す。

〔「KBA～私たちが残したい未来の自然～」（コンサベーション・インターナショナル・ジャパン HP、閲覧：令和 8 年 5 月）　より作成〕

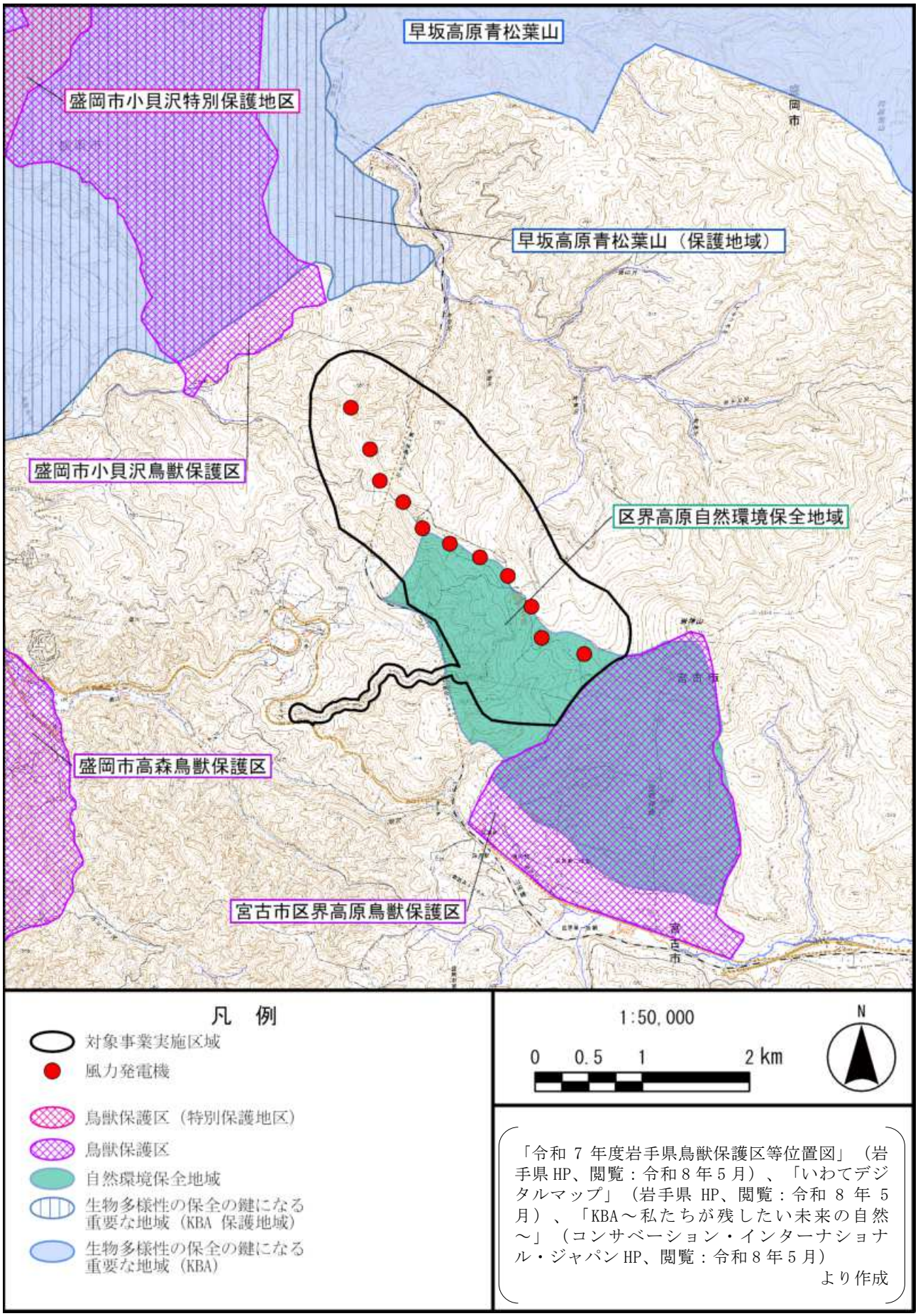


図 8.1.4-40(1)　動物の注目すべき生息地

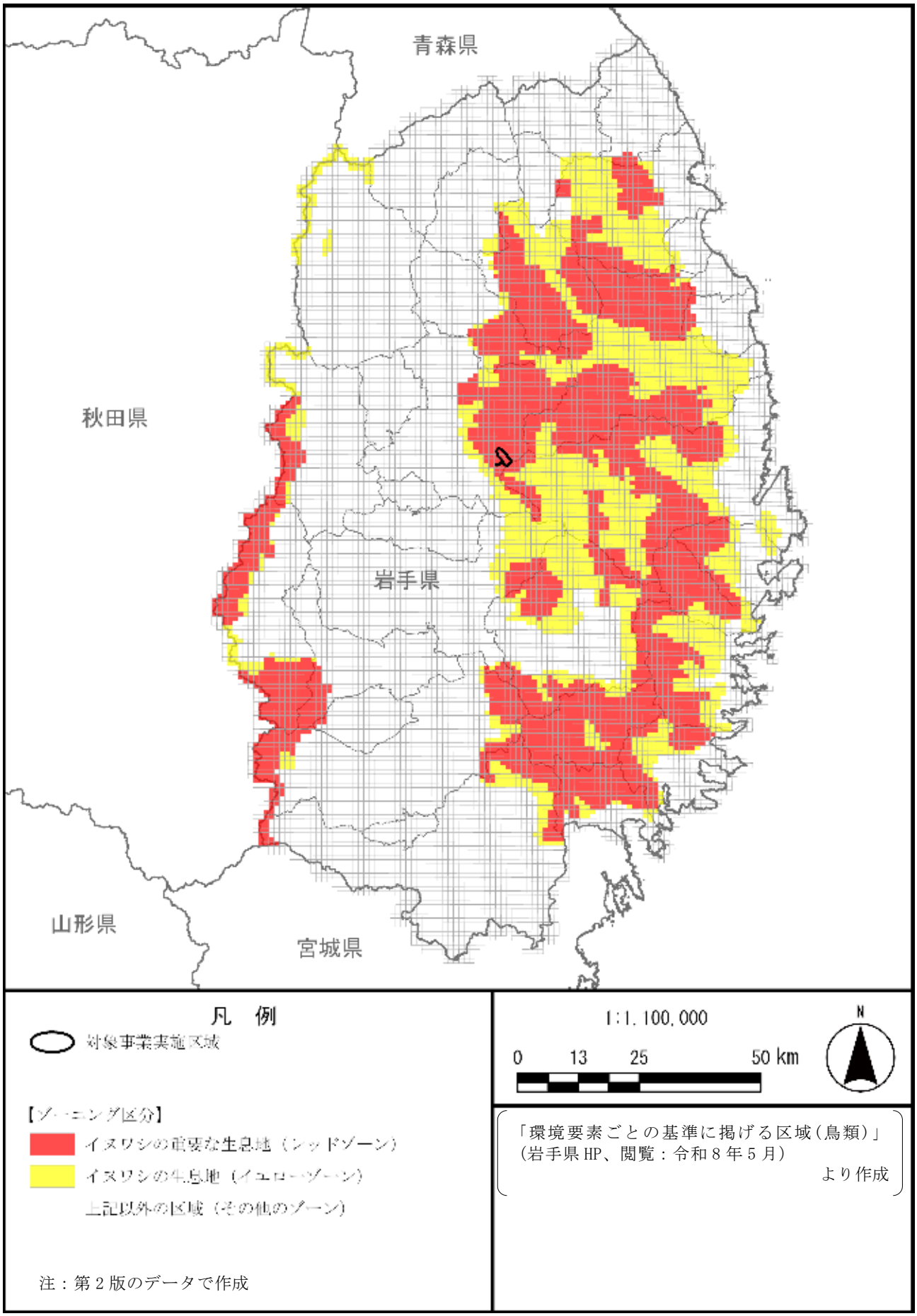


図 8.1.4-40(2)　動物の注目すべき生息地

b. 現地調査

(a) 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

(b) 調査方法

現地調査で確認された動物種について、表 8.1.4-43 の選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から重要な種及び注目すべき生息地を抽出した。

(c) 調査結果

ｱ. 哺乳類の重要な種

現地調査の結果、表 8.1.4-57 のとおり、ミズラモグラ、コテングコウモリ、ヤマネ、ツキノワグマ、カモシカ、ウシ目等の 5 目 5 科 8 種が確認された。

確認状況については以下に、確認位置は図 8.1.4-41 のとおりである。

表 8.1.4-57　哺乳類の重要な種（現地調査）

No.	目名	科名	種名	対象事業実施区域			選定基準				
				内		外	①	②	③	⑤	⑥
				改変区域							
				内	外						
1	モグラ（食虫）	モグラ	ミズラモグラ		○				NT	VU	
2	コウモリ（翼手）	ヒナコウモリ	ヒメホオヒゲコウモリ		○	○				NT	
3			チチブコウモリ		○				LP※1	CR+EN	
4			コテングコウモリ		○	○				NW	
5			コウモリ目（10～30kHz）※2	○	○	○			※3	※4	
－			コウモリ目（30～60kHz）※5	●	●	●			※6	※7	
6	ネズミ（齧歯）	ヤマネ	ヤマネ		○	○	国天			NT	
7	ネコ（食肉）	クマ	ツキノワグマ	○	○	○				NW※8	
8	ウシ（偶蹄）	ウシ	カモシカ		○	○	特天			NW※9	
－		－	ウシ目※10	○	●	●	※11			※12	
合計	5 目	5 科	8 種	3 種	8 種	6 種	2 種	0 種	3 種	8 種	0 種

注：1. 種名及び配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和 7 年度生物リスト」（国土交通省　河川水辺の国勢調査 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）に準拠した。

2. 選定基準は表 8.1.4-43 中の番号に対応する。

3. 「～目」としたもののうち、他種と重複する可能性があるものについては、種数の合計から除外した。ここでは「●」が計数しない種に該当する。

4. 表中の※については以下のとおりである。

※1：本州のチチブコウモリで掲載

※2：コウモリ目（10～30kHz）については、バットディテクターでの確認であり、種の同定には至らなかったが、周波数帯及び分布状況等により、ヤマコウモリ、ヒメヒナコウモリ、ヒナコウモリ、オヒキコウモリの可能性がある。いずれにおいても重要な種として選定されるため、ここでは重要な種として扱った。

※3：選定基準③において、ヤマコウモリ、オヒキコウモリは「VU」、ヒメヒナコウモリは「DD」に該当する。

※4：選定基準⑤において、ヤマコウモリは「CR+EN」、ヒナコウモリは「VU」に該当する。

※5：コウモリ目（30～60kHz）については、バットディテクターでの確認であり、種の同定には至らなかったが、周波数帯及び分布状況等により、ヒメホオヒゲコウモリ、カグヤコウモリ、モモジロコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、ノレンコウモリ、モリアブラコウモリ、アブラコウモリ、クロオオアブラコウモリ、コヤマコウモリ、チチブコウモリ、ニホンウサギコウモリ、ユビナガコウモリ、コテングコウモリ、テングコウモリの可能性がある。多くの種が重要な種として選定されるため、ここでは重要な種として扱った。

※6：選定基準③において、コヤマコウモリは「EN」、クロホオヒゲコウモリ、ノレンコウモリ（ホンドノレンコウモリで掲載）、モリアブラコウモリは「VU」、チチブコウモリ（本州のチチブコウモリで掲載）は「LP」に該当する。

※7：選定基準⑤において、クロホオヒゲコウモリ、モリアブラコウモリ、コヤマコウモリ、チチブコウモリは「CR+EN」、カグヤコウモリ、ノレンコウモリ、ニホンウサギコウモリ、ユビナガコウモリ、テングコウモリは

「VU」、ヒメホオヒゲコウモリは「NT」、コテングコウモリは「NW」に該当する。
※8：ニホンツキノワグマで掲載
※9：ニホンカモシカで掲載
※10：ウシ目は足跡等の確認であり、種の同定には至らなかったが、分布状況等によりカモシカの可能性がある。カモシカは重要な種として選定されるため、ここでは重要な種として扱った。
※11：選定基準①において、カモシカの場合は「特天」に該当する。
※12：選定基準⑤において、カモシカの場合は「NW（ニホンカモシカで掲載）」に該当する。

○ ミズラモグラ（図 8.1.4-41(5)）

対象事業実施区域内で 1 例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

死体での確認であった。

○ ヒメホオヒゲコウモリ（図 8.1.4-41(6)）

対象事業実施区域内外で 11 例が確認された。対象事業実施区域内では 7 例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

コウモリ類生息状況調査の捕獲調査において、夏季に BT1 で 4 例、BT2 で 3 例、BT3 で 3 例が、秋季に BT4 で 1 例が捕獲された。

○ チチブコウモリ（図 8.1.4-41(6)）

対象事業実施区域内で 7 例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

コウモリ類生息状況調査の捕獲調査において、夏季に BT2 でバットディテクターによる入感が確認された。

○ コテングコウモリ（図 8.1.4-41(6)）

対象事業実施区域内外で 4 例が確認された。対象事業実施区域内では 2 例確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

フィールドサイン調査等において、目撃が、コウモリ類生息状況調査の捕獲調査において、秋季に BT2 で 2 例が捕獲された。

○ コウモリ目（10～30kHz）（図 8.1.4-41(7)）

対象事業実施区域内外で 30 例が確認された。対象事業実施区域内では 29 例が確認され、このうち改変区域内で 4 例確認された。

コウモリ類生息状況調査の夜間踏査において、春季、夏季、秋季にバットディテクターによる入感が確認された。

また、音声モニタリング調査において 10～20kHz の種群として 712 例、20～30kHz の種群として 60,206 例の合計 60,918 例の通過が確認された。各地点における内訳は、10～20kHz として BD1 の高度 10m で 44 例、高度 50m で 49 例、BD2 で 116 例、BD3 で 60 例、BD4 で 434 例、BD5 で 9 例、20～30kHz として BD1 の高度 10m で 9,278 例、高度 50m で 12,548 例、BD2 で 15,132 例、BD3 で 12,916 例、BD4 で 4,914 例、BD5 で 5,418 例であった。

○ コウモリ目（30～60kHz）（図 8.1.4-41(7)）

対象事業実施区域内外で 28 例が確認された。対象事業実施区域内では 25 例が確認され、このうち改変区域内で 2 例確認された。

コウモリ類生息状況調査の夜間踏査において、春季、夏季、秋季にバットディテクターによる入感が確認された。

また、音声モニタリング調査において合計 58,679 例の通過が確認された。各地点における内訳は、BD1 の高度 10m で 2,521 例、高度 50m で 451 例、BD2 で 20,330 例、BD3 で 20,662 例、BD4 で 10,007 例、BD5 で 4,708 例であった。

○ ヤマネ（図 8.1.4-41(1)）

対象事業実施区域内外で 3 例が確認された。対象事業実施区域内では 2 例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

巣箱調査において、夏季及び秋季に YM1 で目撃が、秋季に YM2 で自動撮影カメラに映る個体が確認された。

○ ツキノワグマ（図 8.1.4-41（(2)～(4)）

対象事業実施区域内外で 61 例が確認された。対象事業実施区域内では 37 例が確認され、このうち改変区域内で 4 例が確認された。

フィールドサイン調査等において、四季を通じて糞や食痕などが確認されたほか、自動撮影調査において CM-9 以外の全地点で自動撮影カメラに映る個体が確認された。

○ カモシカ（図 8.1.4-41(5)）

対象事業実施区域内外で 9 例が確認された。対象事業実施区域内では 5 例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

フィールドサイン調査等において夏季、冬季に足跡や糞などが確認されたほか、自動撮影調査において CM-2 で自動撮影カメラに映る個体が確認された。

○ ウシ目（図 8.1.4-41(5)）

対象事業実施区域内外で 30 例が確認された。対象事業実施区域内では 21 例が確認され、このうち改変区域内で 1 例が確認された。

フィールドサイン調査等において、夏季、冬季に足跡や角研ぎ痕などが確認された。

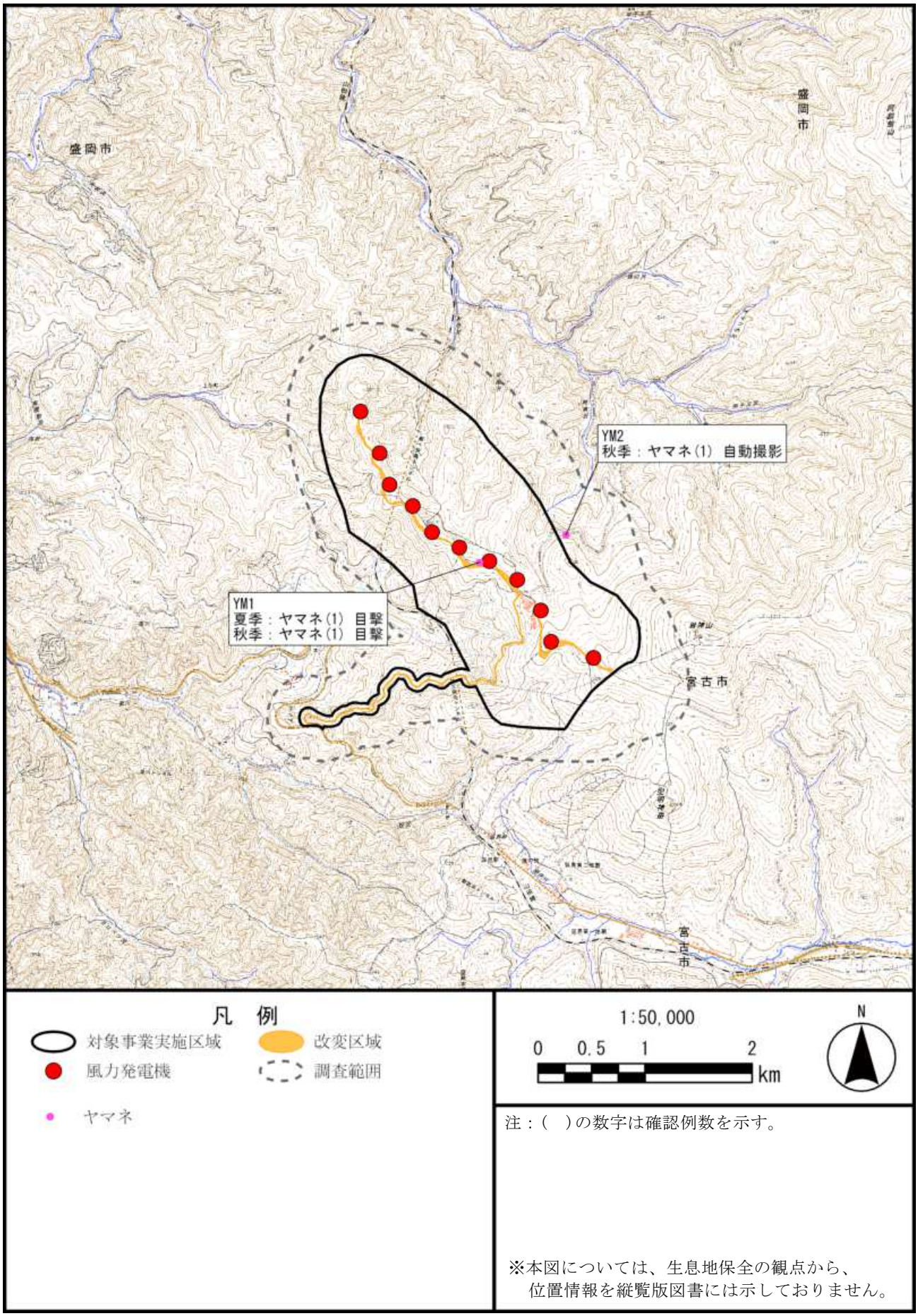


図 8.1.4-41(1)　哺乳類の重要な種の確認位置（ヤマネ）

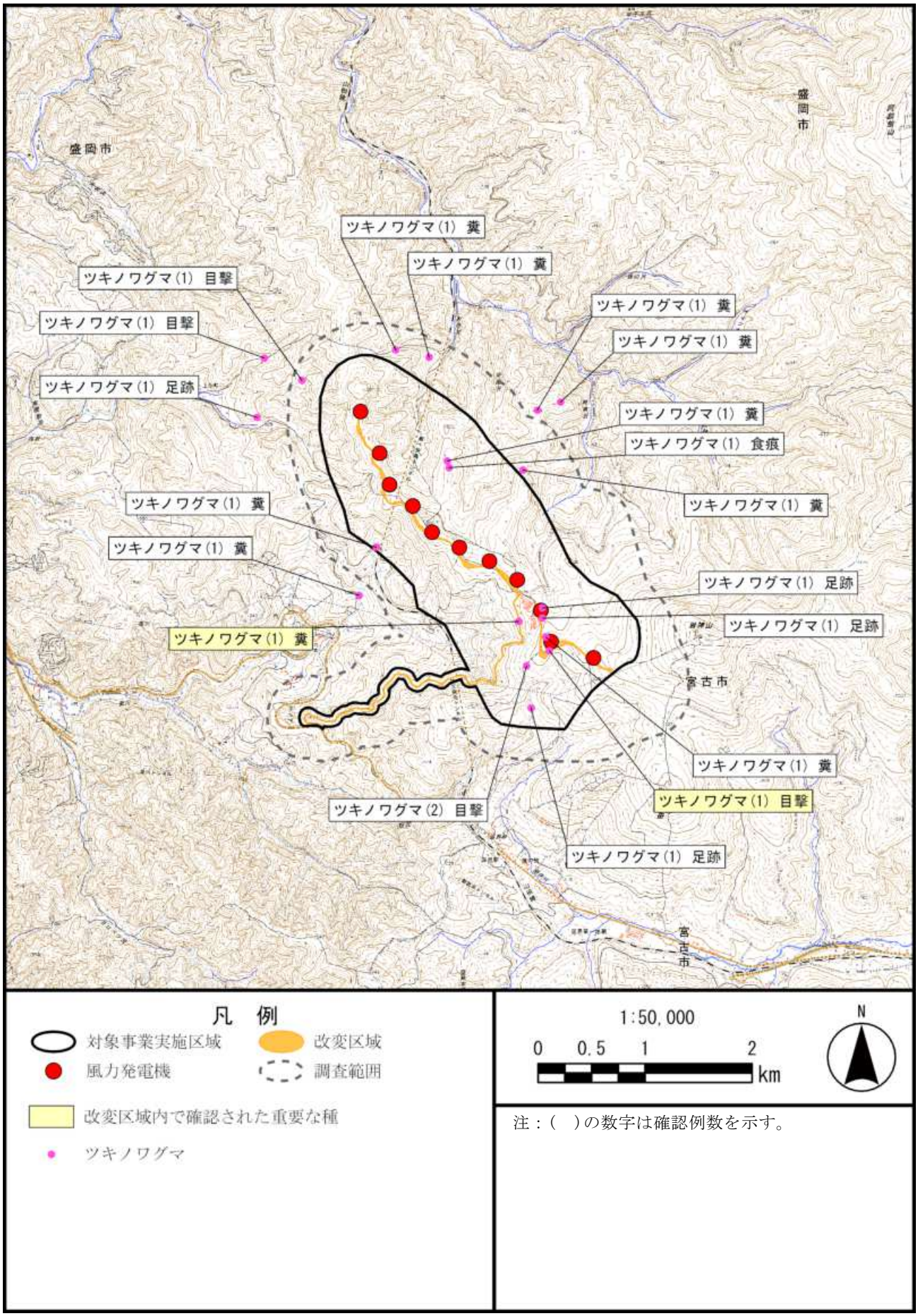


図 8.1.4-41(2)　哺乳類の重要な種の確認位置（ツキノワグマ：令和 7 年春季及び夏季）

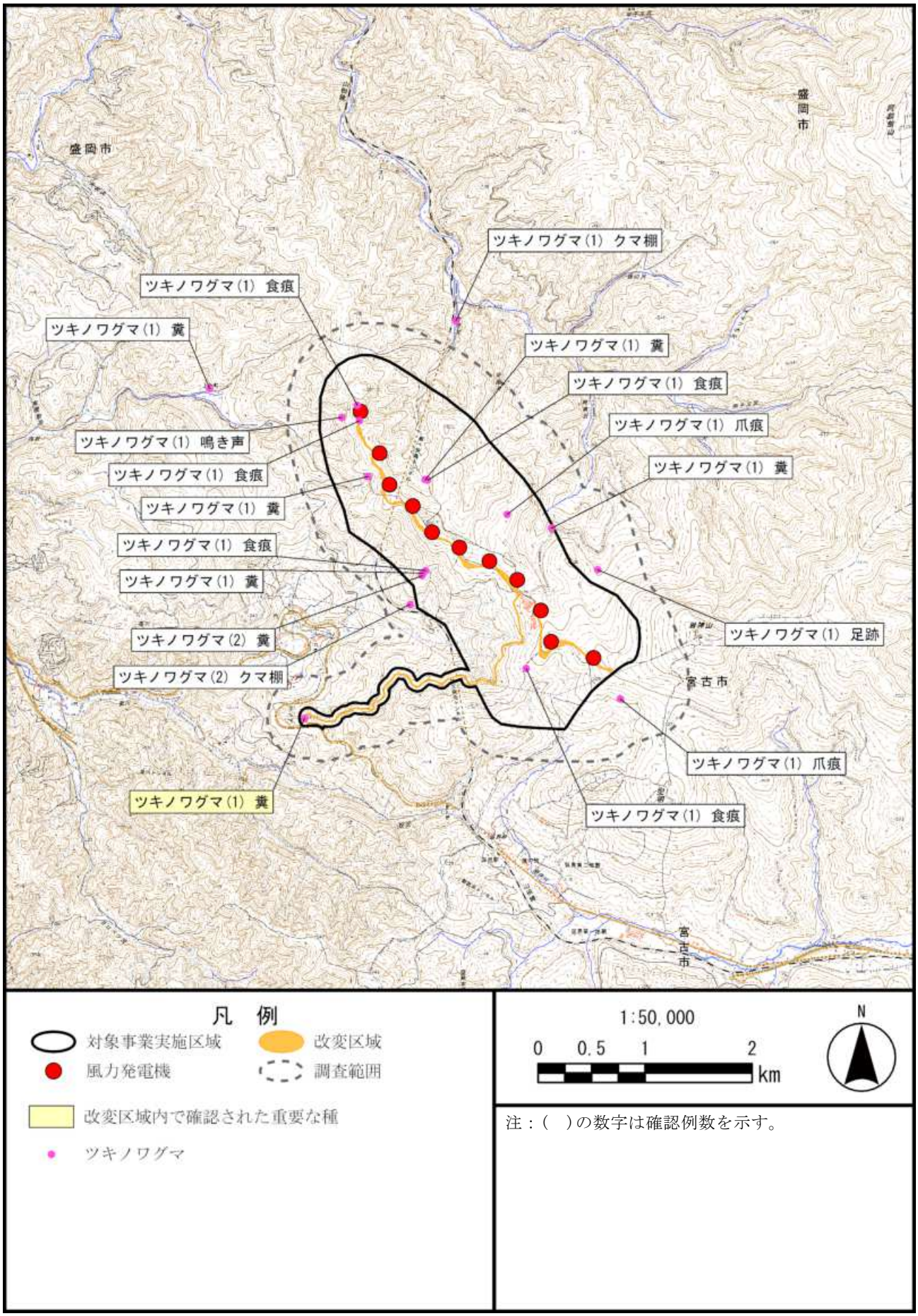


図 8.1.4-41(3)　哺乳類の重要な種の確認位置（ツキノワグマ：令和 7 年秋季）

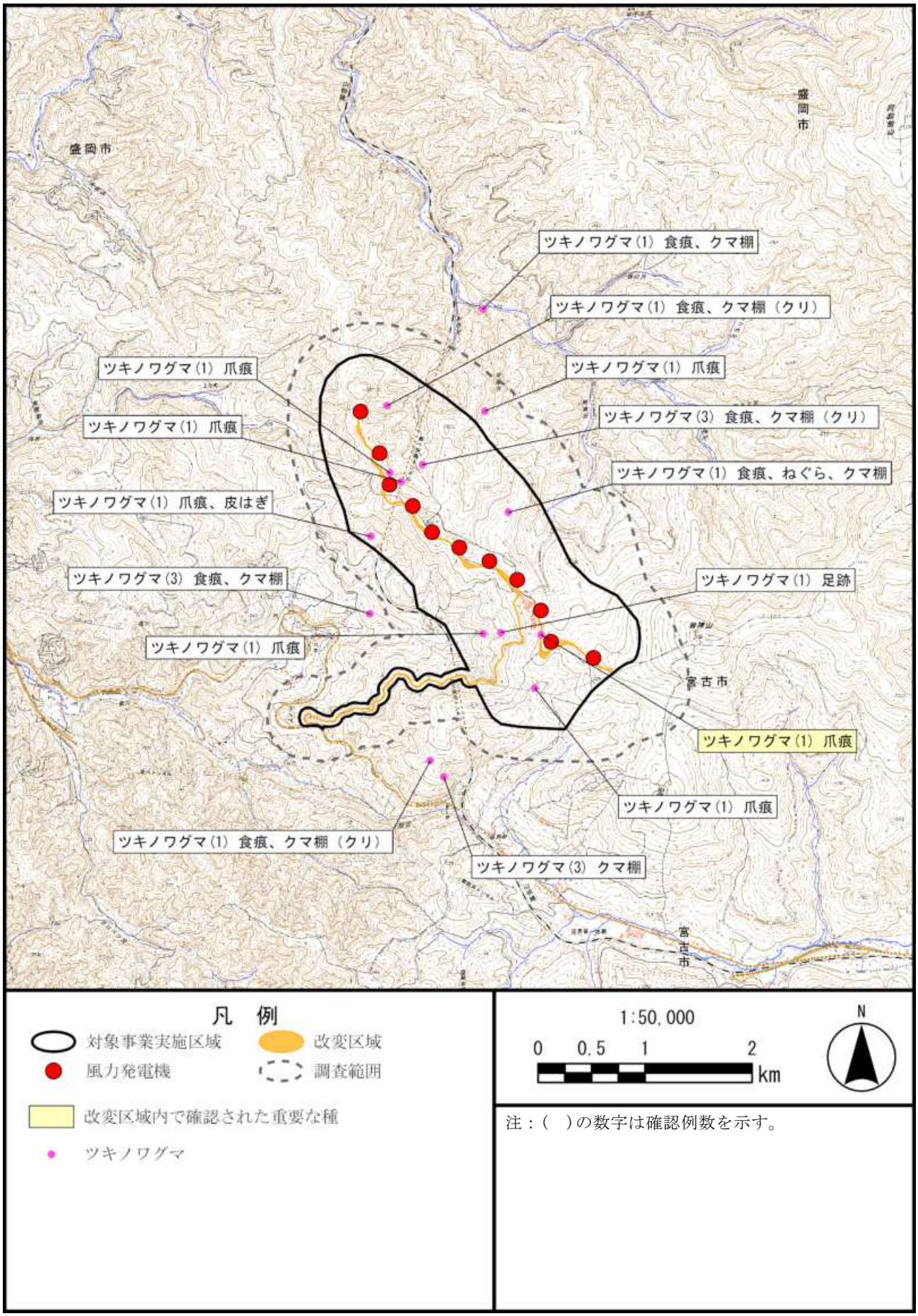


図 8.1.4-41(4)　哺乳類の重要な種の確認位置（ツキノワグマ：令和 7 年冬季）

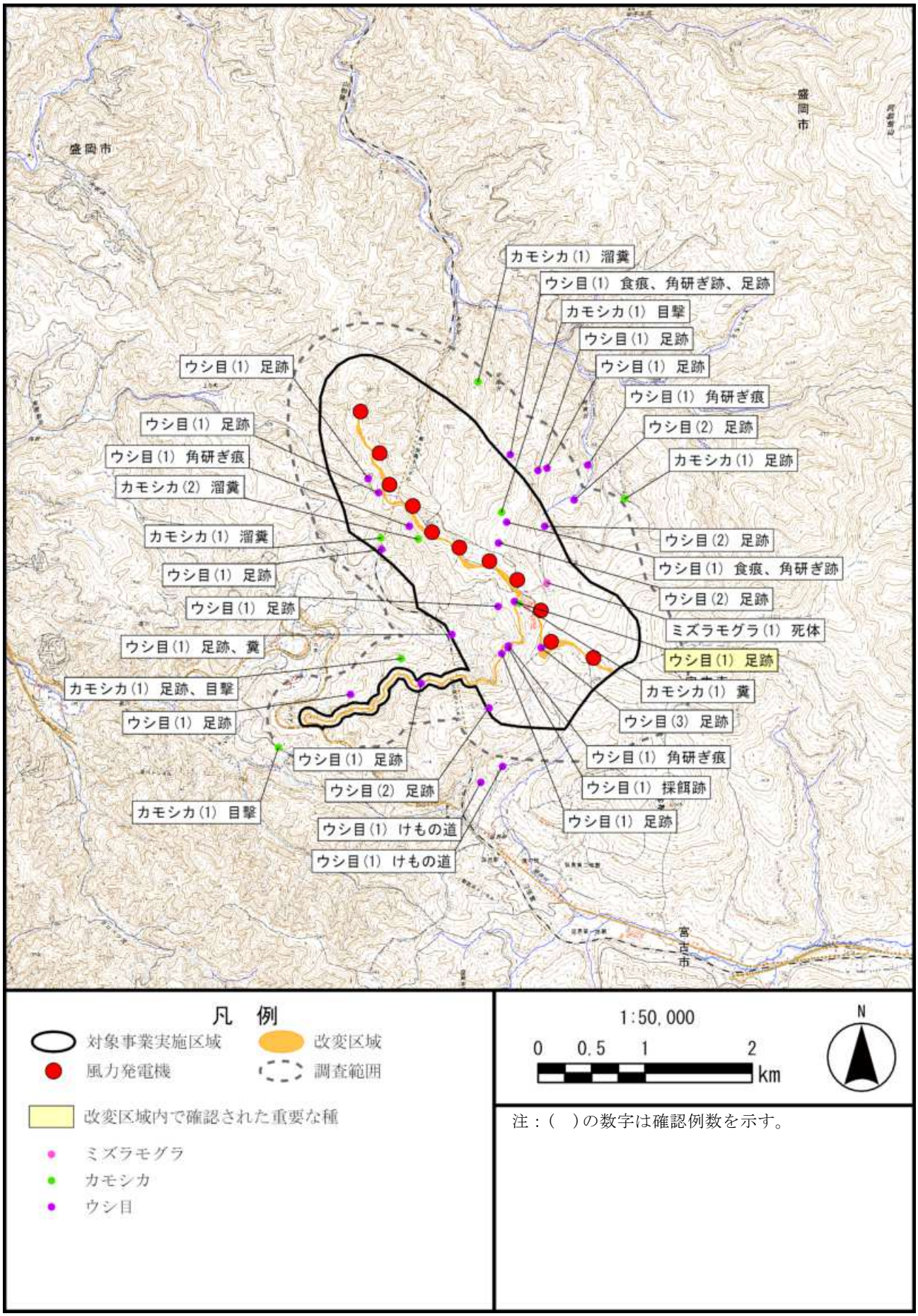


図 8.1.4-41(5)　哺乳類の重要な種の確認位置（ミズラモグラ、カモシカ、ウシ目）

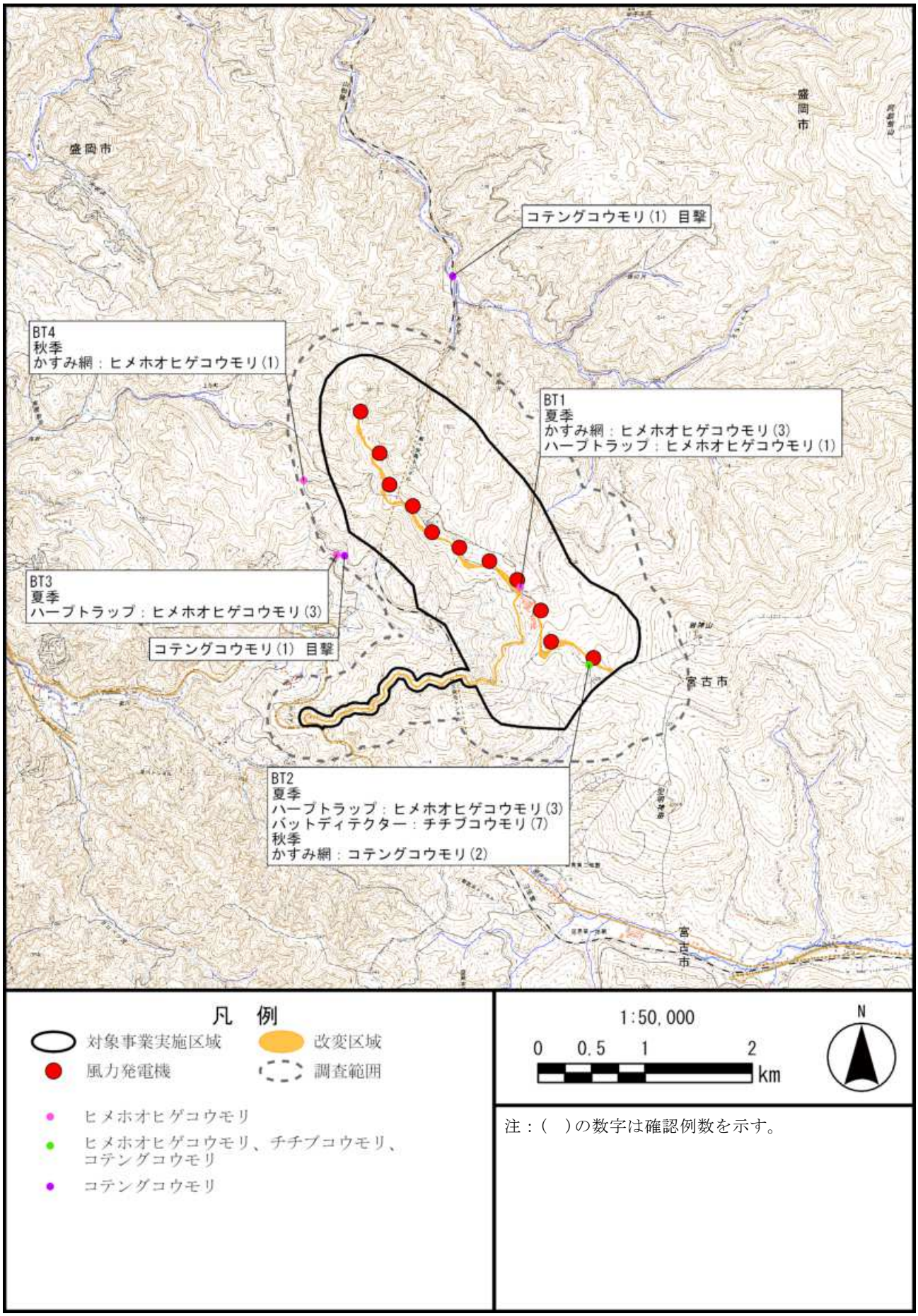


図 8.1.4-41(6)　哺乳類の重要な種の確認位置（コウモリ類：フィールドサイン調査及び捕獲調査）

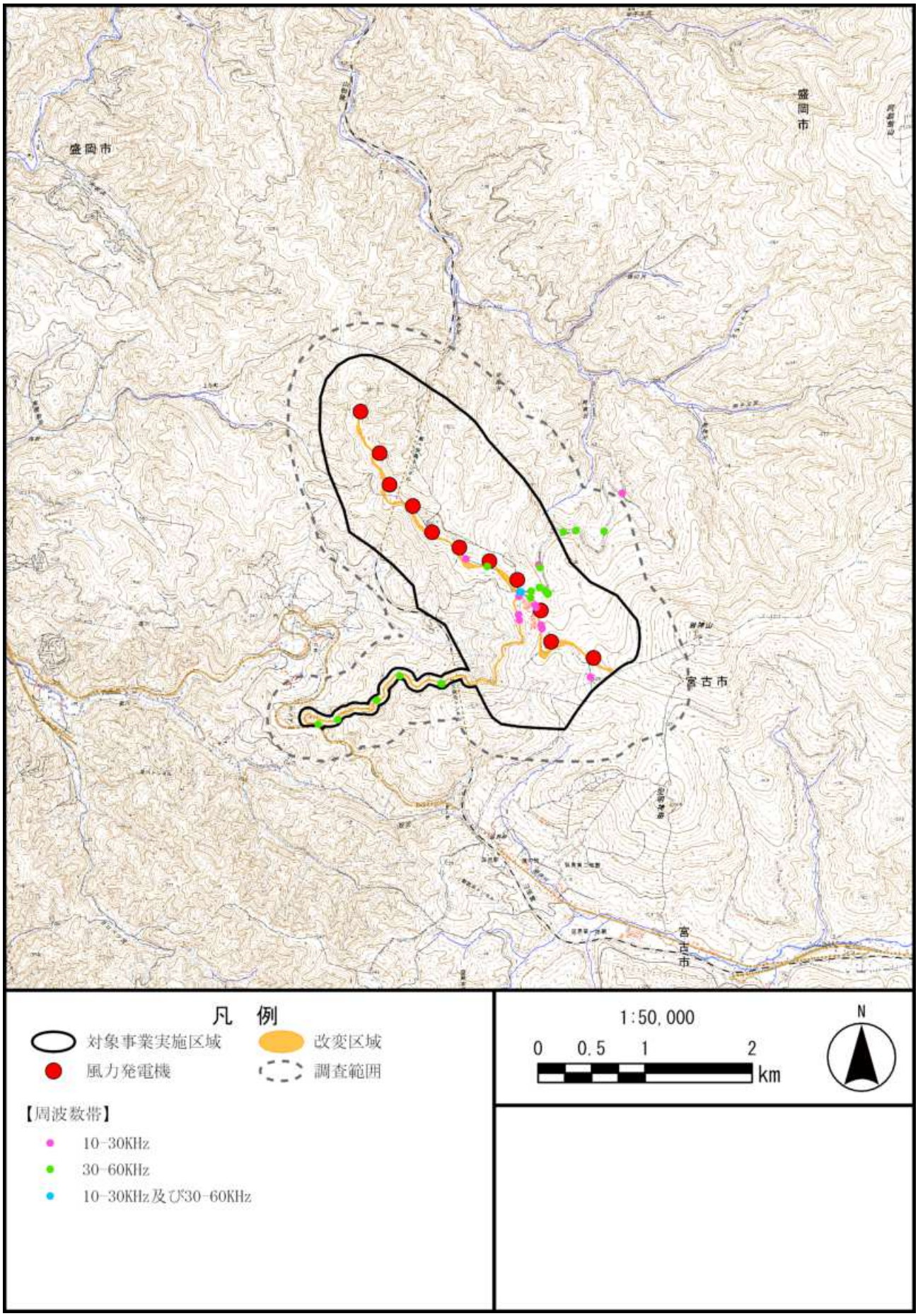


図 8.1.4-41(7)　哺乳類の重要な種の確認位置（コウモリ類：夜間踏査調査）

ｲ. 鳥類の重要な種

現地調査の結果、表 8.1.4-58 に示すマガン、ハリオアマツバメ、ミサゴ、サンショウクイ等の 12 目 17 科 37 種が確認された。

確認状況については以下に、確認位置は図 8.1.4-42～図 8.1.4-88 のとおりである。

表 8.1.4-58　鳥類の重要な種（現地調査）

No	目名	科名	種名	対象事業実施区域			選定基準				
				内		外					
				改変区域			①	②	④	⑤	⑥
				内	外						
1	カモ	カモ	マガン	○		○	国天				
2	キジ	キジ	ヤマドリ	○	○	○				NW	
3	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ		○	○			NT	NT	
4	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	○	○	○			VU	NW	
5			アマツバメ	○	○	○			VU		
6	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	○	○	○				NT	
7			カッコウ	○	○	○				NW	
8	チドリ	シギ	オオジシギ			○			NT	VU	
9	タカ	ミサゴ	ミサゴ	○		○				VU	
10		タカ	ハチクマ	○	○	○			DD	NT	
11			クマタカ	○	○	○		国内	EN	CR+EN	
12			イヌワシ	○	○	○	国天	国内	EN	CR+EN	
13			ツミ	○	○	○				NT	
14			ハイタカ	○	○	○			NT	NT	
15			オオタカ		○	○			NT	NT	
16			オオワシ	○			国天	国内	VU	CR+EN	
17			オジロワシ	○		○	国天	国内	VU	CR+EN	
18			サシバ	○	○	○			VU	VU	
19			ノスリ	○	○	○				NW	
20	フクロウ	フクロウ	フクロウ	○	○					NW	
21	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン			○				NT	
22			ヤマセミ			○			VU	NW	
23	キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ	○		○				NW	
24	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	○		○				NW	
25			チゴハヤブサ	○	○	○				NT	
26			ハヤブサ	○	○	○		国内	NT	CR+EN	
27	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	○	○	○				NT	
28		ヒタキ	サメビタキ	○						NT	
29			コサメビタキ	○	○	○				NW	
30			ノゴマ		○					VU	
31			コマドリ			○				NT	
32			ノビタキ	○	○	○				NT	
33		セキレイ	ビンズイ	－	－	－			NT		
34		アトリ	イスカ	○	○	○				NW	
35		ホオジロ	カシラダカ	－	－	－			EN		
36			ノジコ		○	○			NT	NW	
37			クロジ		○	○				NW	
計	12 目	17 科	37 種	26 種	24 種	31 種	4 種	5 種	17 種	33 種	0 種

注：1. 種名及び配列は「日本鳥類目録　改訂第 8 版」（日本鳥学会、令和 6 年）に準拠した。
2. 選定基準は表 8.1.4-43 中の番号に対応する。
3. 対象事業実施区域内高度については、図 8.1.4-31 のとおりである。
4. 選定基準④において、ビンズイ、カシラダカが重要な種に該当するが、「第 5 次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物　鳥類」（環境省、令和 8 年）発出前に実施した現地調査での確認であり、現地調査時は重要な種に該当しなかったため、詳細な位置情報及び個体数は不明である。

＜重要な種＞

○マガン（図 8.1.4-71）

渡り鳥として、渡り時の移動経路調査において、令和 7 年秋季に対象事業実施区域内外で 7 例 240 個体が確認された。対象事業実施区域内では 5 例 208 個体が確認されたが、すべて改変区域内での確認であった。

○ヤマドリ（図 8.1.4-42(1)、図 8.1.4-57、図 8.1.4-86）

対象事業実施区域内外で 19 例 22 個体が確認された。対象事業実施区域内では 17 例 20 個体が確認され、このうち 5 例 5 個体が改変区域内での確認であった。

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 22 例が確認された。対象事業実施区域内では 12 例が確認され、このうち 1 例が改変区域内での確認であった。

渡り時の移動経路調査において、一般鳥類として令和 7 年春季及び秋季に対象事業実施区域内外で 10 例 18 個体が確認された。対象事業実施区域内では 9 例 17 個体が確認され、このうち 5 例 10 個体が改変区域内での確認であった。

○ヨタカ（図 8.1.4-42(1) 、図 8.1.4-57、図 8.1.4-86）

対象事業実施区域内外で 8 例が確認された。対象事業実施区域内では 1 例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内で 1 例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

渡り時の移動経路調査において、一般鳥類として令和 7 年春季及び秋季に対象事業実施区域外で 4 例 4 個体が確認されたが、対象事業実施区域内での確認はなかった。

○ハリオアマツバメ（図 8.1.4-58、図 8.1.4-65、図 8.1.4-76）

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域外で 66 例が確認された。対象事業実施区域内では 15 例が確認され、このうち 1 例が改変区域内での確認であった。

また、渡り鳥として、渡り時の移動経路調査において、令和 7 年春季及び秋季に対象事業実施区域内で 3 例 35 個体が確認され、このうち 2 例 20 個体が改変区域内での確認であった。

○アマツバメ（図 8.1.4-65、図 8.1.4-76）

渡り鳥として、渡り時の移動経路調査において、令和 7 年春季及び秋季に対象事業実施区域内外で 7 例 18 個体が確認された。対象事業実施区域内では 4 例 11 個体が確認され、このうち 3 例 5 個体が改変区域内での確認であった。

○ジュウイチ（図 8.1.4-42(2)、図 8.1.4-58、図 8.1.4-86）

対象事業実施区域内外で 2 例が確認された。対象事業実施区域内では 1 例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

希少猛禽類調査おいて、対象事業実施区域内外で 10 例が確認された。対象事業実施区域内では 1 例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

渡り時の移動経路調査おいて、一般鳥類として令和7年春季に対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。

○カッコウ（図 8.1.4-42(2)、図 8.1.4-59、図 8.1.4-87）

対象事業実施区域内外で 20 例が確認された。対象事業実施区域内では 19 例が確認され、このうち1例が改変区域内での確認であった。

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 32 例が確認された。対象事業実施区域内では 10 例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

渡り時の移動経路調査において、一般鳥類として令和 7 年春季に対象事業実施区域内外で 16 例 16 個体が確認された。対象事業実施区域内では 3 例 3 個体が確認され、このうち 1 例 1 個体が改変区域内での確認であった。

○オオジシギ（図 8.1.4-60、図 8.1.4-88）

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域外で 5 例が確認されたが、対象事業実施区域内での確認はなかった。

渡り時の移動経路調査おいて、一般鳥類として令和7年春季に対象事業実施区域外で5例5個体が確認されたが、対象事業実施区域内での確認はなかった。

○ミサゴ（図 8.1.4-43）

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 12 例が確認された。対象事業実施区域内では5例が確認され、いずれも改変区域内かつ高度Mでの確認であった。なお、繁殖に関わる行動は確認されなかった。

○ハチクマ（図 8.1.4-44、図 8.1.4-64、図 8.1.4-74）

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 138 例が確認された。対象事業実施区域内では34例が確認され、このうち31例は高度Mでの飛翔であった。また、改変区域内では26例が確認された。繁殖に関わる行動として、餌運搬が確認された。

また、渡り鳥として、渡り時の移動経路調査において、令和 7 年春季及び秋季に対象事業実施区域内外で13例16個体が確認された。対象事業実施区域内では7例7個体が確認され、このうち6例6個体が改変区域内での確認であった。

○クマタカ（図 8.1.4-42(3）、図 8.1.4-45）

対象事業実施区域内で2例確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 556 例が確認された。対象事業実施区域内では 191 例が確認され、このうち 178 例は高度 M での飛翔であった。また、改変区域内では 95 例が確認された。繁殖に関わる行動として、餌運び、ディスプレイが確認された。

また、　　の 2 か所で巣が確認された。営巣木の状況は表 8.1.4-59 のとおりである。

※網掛け部分については、生息地保全の観点から、縦覧版図書には示しておりません。

〇イヌワシ（図 8.1.4-46）

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 85 例が確認された。対象事業実施区域内では 30 例が確認され、このうち 29 例は高度 M での飛翔であった。改変区域内では 20 例が確認された。なお、繁殖に関わる行動は確認されなかった。

〇ツミ（図 8.1.4-47、図 8.1.4-74）

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 22 例が確認された。対象事業実施区域内では 8 例が確認され、いずれも高度 M での飛翔であった。改変区域内では 4 例が確認された。なお、繁殖に関わる行動は確認されなかった。

また、渡り鳥として、渡り時の移動経路調査にて令和 7 年秋季に対象事業実施区域外で 2 例 3 個体が確認されたが、対象事業実施区域内での確認はなかった。

〇ハイタカ（図 8.1.4-42(3) 、図 8.1.4-48、図 8.1.4-64、図 8.1.4-74）

対象事業実施区域内で 1 例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 220 例が確認された。対象事業実施区域内では 71 例が確認され、このうち 64 例は高度 M での飛翔であった。改変区域内では 34 例が確認された。なお、繁殖に関わる行動として、餌運びが確認された。

また、渡り鳥として、渡り時の移動経路調査にて令和 7 年春季及び秋季に対象事業実施区域内外で 8 例 9 個体が確認された。対象事業実施区域内では 6 例 7 個体が確認され、このうち 4 例 4 個体が改変区域内での確認であった。

〇オオタカ（図 8.1.4-49）

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 15 例が確認された。対象事業実施区域内では 1 例が確認されたが、高度 M での飛翔であった。改変区域内での確認はなかった。なお、繁殖に関わる行動は確認されなかった。

〇オオワシ（図 8.1.4-50）

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内で 1 例が確認され、改変区域内かつ高度 M での確認であった。なお、繁殖に関わる行動は確認されなかった。

〇オジロワシ（図 8.1.4-51）

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 2 例が確認された。対象事業実施区域内では 1 例が確認され、改変区域内かつ高度 M での飛翔であった。なお、繁殖に関わる行動は確認されなかった。

〇サシバ（図 8.1.4-52）

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 14 例が確認された。対象事業実施区域内では 6 例が確認され、いずれも高度 M での飛翔であった。改変区域内では 4 例が確認された。なお、繁殖に関わる行動は確認されなかった。

○ノスリ（図 8.1.4-42(3)、図 8.1.4-53、図 8.1.4-64、図 8.1.4-75）

対象事業実施区域内で3例が確認され、このうち2例が改変区域内での確認であった。

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 290 例が確認された。対象事業実施区域内では74例が確認され、このうち70例が高度Mでの飛翔であった。改変区域内では33例が確認された。なお、繁殖に関わる行動は確認されなかった。

また、渡り鳥として、渡り時の移動経路調査において、令和 7 年春季及び秋季に対象事業実施区域内外で13例18個体が確認された。対象事業実施区域内では8例10個体が確認され、このうち4例6個体が改変区域内での確認であった。

○フクロウ（図 8.1.4-88）

渡り時の移動経路調査おいて、令和 7 年秋季に対象事業実施区域内で 7 例 7 個体が確認された。このうち1例1個体が改変区域内での確認であった。

○アカショウビン（図 8.1.4-60）

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域外で 3 例が確認されたが、対象事業実施区域内での確認はなかった。

○ヤマセミ（図 8.1.4-42(4)、図 8.1.4-60）

対象事業実施区域外で 2 例 3 個体が確認されたが、対象事業実施区域内での確認はなかった。

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域外で 6 例が確認された、対象事業実施区域内での確認はなかった。

○オオアカゲラ（図 8.1.4-60、図 8.1.4-88）

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 11 例 11 個体が確認された。対象事業実施区域内で1例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

渡り時の移動経路調査において、令和 7 年春季に対象事業実施区域外で 1 例 1 個体確認されたが、対象事業実施区域内での確認はなかった。

○チョウゲンボウ（図 8.1.4-54）

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 5 例が確認された。対象事業実施区域内では1例が確認され、高度Mでの飛翔であった。改変区域内での確認はなかった。なお、繁殖に関わる行動は確認されなかった。

○チゴハヤブサ（図 8.1.4-55、図 8.1.4-75）

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 6 例が確認された。対象事業実施区域内では3例が確認され、いずれも高度Mでの飛翔であった。改変区域内では3例が確認された。繁殖に関わる行動として餌運搬が確認された。

○ハヤブサ（図 8.1.4-56）

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 18 例が確認された。対象事業実施区域内では 10 例が確認され、いずれも高度 M での飛翔であった。改変区域内では 6 例が確認された。なお、繁殖に関わる行動は確認されなかった。

○サンショウクイ（図 8.1.4-61、図 8.1.4-77、図 8.1.4-88）

希少猛禽類調査おいて、対象事業実施区域内外で 9 例が確認された。対象事業実施区域内で 3 例が確認されたが、いずれも改変区域内での確認であった。

渡り時の移動経路調査において、令和 7 年春季に対象事業実施区域外で 1 例 1 個体が確認されたが、対象事業実施区域内での確認はなかった。

また、渡り鳥として、渡り時の移動経路調査にて令和 7 年秋季に対象事業実施区域外で 2 例 6 個体が確認されたが、対象事業実施区域内での確認はなかった。

○サメビタキ（図 8.1.4-69）

渡り鳥として、渡り時の移動経路調査において、令和 7 年春季に対象事業実施区域内で 1 例 3 個体が確認されたが、改変区域内での確認であった。

○コサメビタキ（図 8.1.4-42(4)、図 8.1.4-61）

対象事業実施区域内で 1 例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 3 例が確認された。対象事業実施区域内で 2 例が確認されたが、いずれも改変区域内での確認であった。

○ノゴマ（図 8.1.4-61）

希少猛禽類調査おいて、対象事業実施区域内で 1 例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

○コマドリ（図 8.1.4-61）

希少猛禽類調査おいて、対象事業実施区域外で 1 例が確認されたが、対象事業実施区域内での確認はなかった。

○ノビタキ（図 8.1.4-61）

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 15 例が確認された。対象事業実施区域内で 9 例が確認され、このうち 3 例が改変区域内での確認であった。

○イスカ（図 8.1.4-42(4)、図 8.1.4-62、図 8.1.4-85、図 8.1.4-88）

対象事業実施区域内で 9 例 21 個体が確認され、このうち 5 例 12 個体が改変区域内での確認であった。

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で約 318 例が確認された。対象事業実施区域内で 72 例が確認され、このうち 7 例が改変区域内での確認であった。

渡り時の移動経路調査において、一般鳥類として令和 7 年春季に対象事業実施区域内

で1例1個体が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

また、渡り鳥として、渡り時の移動経路調査において、令和 7 年秋季に対象事業実施区域内外で 15 例約 209 個体が確認された。対象事業実施区域内で 12 例約 126 個体が確認され、このうち9例 86 個体が改変区域内での確認であった。

○ノジコ（図 8.1.4-42(4)、図 8.1.4-63）

対象事業実施区域内外で 4 例が確認された。対象事業実施区域内では 3 例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内外で 7 例が確認された。対象事業実施区域内では1例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

○クロジ（図 8.1.4-42(4)、図 8.1.4-63、図 8.1.4-85）

対象事業実施区域内で1例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

希少猛禽類調査において、対象事業実施区域内で 2 例が確認されたが、改変区域内での確認はなかった。

また、渡り鳥として、渡り時の移動経路調査において、令和 7 年秋季に対象事業実施区域外で1例3個体が確認されたが、対象事業実施区域内での確認はなかった。

＜渡り鳥（令和7年春季）＞

○ 猛禽類

猛禽類では6例10個体の渡りが確認された。対象事業実施区域内を通過した個体数は2例3個体（30.0%）で、このうち、高度Mでの通過は1例2個体（66.7%）であった。

・ハチクマ（図8.1.4-64）：対象事業実施区域内外で3例3個体の渡りが確認された。対象事業実施区域内では1例1個体の渡りが確認されたが、高度Mでの通過は確認されなかった。
・ハイタカ（図8.1.4-64）：対象事業実施区域内で1例2個体の渡りが確認された。高度Mでの通過であった。
・ノスリ（図8.1.4-64）：対象事業実施区域外で2例5個体の渡りが確認された。

○ その他の鳥類

その他の鳥類では76例965個体の渡りが確認された。対象事業実施区域内を通過した個体数は30例261個体（27.0%）で、このうち、高度Mでの通過は9例67個体（25.7%）であった。

全体の通過個体数が多かったのは、マヒワ（4例261個体）、ツグミ（16例170個体）であった。

＜渡り鳥（令和7年秋季）＞

○ ガン・カモ・ハクチョウ類

ガン・カモ・ハクチョウ類では19例610個体の渡りが確認された。対象事業実施区域内を通過した個体数は13例467個体（76.6%）で、このうち、高度Mでの通過は7例247個体（52.9%）であった。

○ 猛禽類

猛禽類では31例37個体の渡りが確認された。対象事業実施区域内を通過した個体数は20例22個体（59.5%）で、このうち、高度Mでの通過は18例20個体（90.9%）であった。

・ハチクマ（図8.1.4-74）：対象事業実施区域内外で10例13個体の渡りが確認された。対象事業実施区域内の通過は6例6個体で、いずれも高度Mでの通過であった。
・ツミ（図8.1.4-74）：対象事業実施区域外で2例3個体の渡りが確認された。
・ハイタカ（図8.1.4-74）：対象事業実施区域内外で7例7個体の渡りが確認された。対象事業実施区域内の通過は5例5個体で、このうち、高度Mでの通過は4例4個体であった。
・ノスリ（図8.1.4-75）：対象事業実施区域内外で11例13個体の渡りが確認された。対象事業実施区域内の通過は8例10個体で、このうち、高度Mでの通過は7例9個体であった。
・チゴハヤブサ（図8.1.4-75）：対象事業実施区域内で1例1個体の渡りが確認された。高度Mでの通過であった。

○ その他の鳥類

その他の鳥類では合計3,353個体の渡りが確認された。対象事業実施区域内を通過した個体数は1,666個体（49.7%）で、このうち、高度Mでの通過は602個体（36.1%）であった。

全体の通過個体数が多かったのは、アトリ（797個体）、ツグミ（776個体）であった。

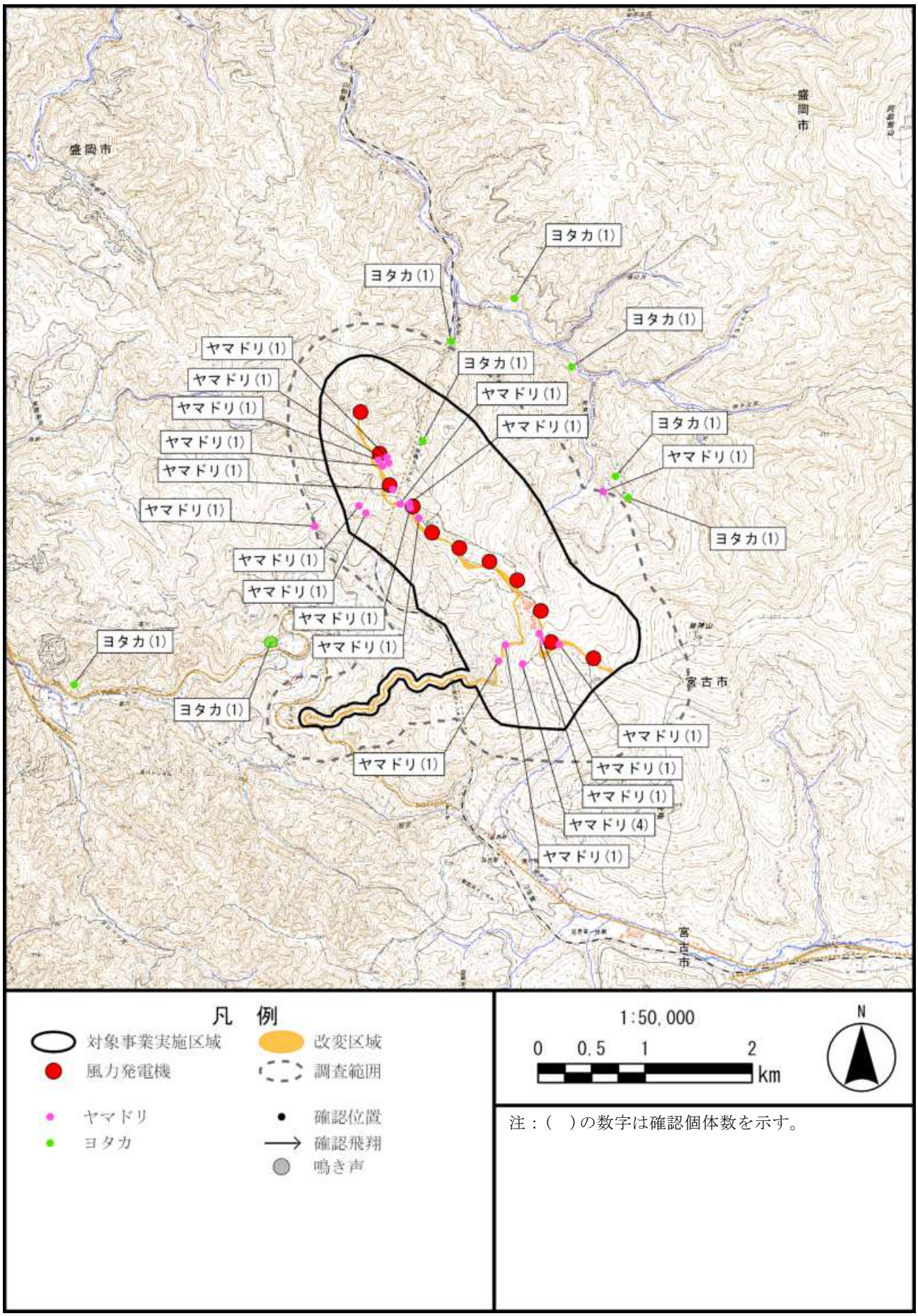


図 8.1.4-42(1)　鳥類の重要な種の確認位置（ヤマドリ、ヨタカ）

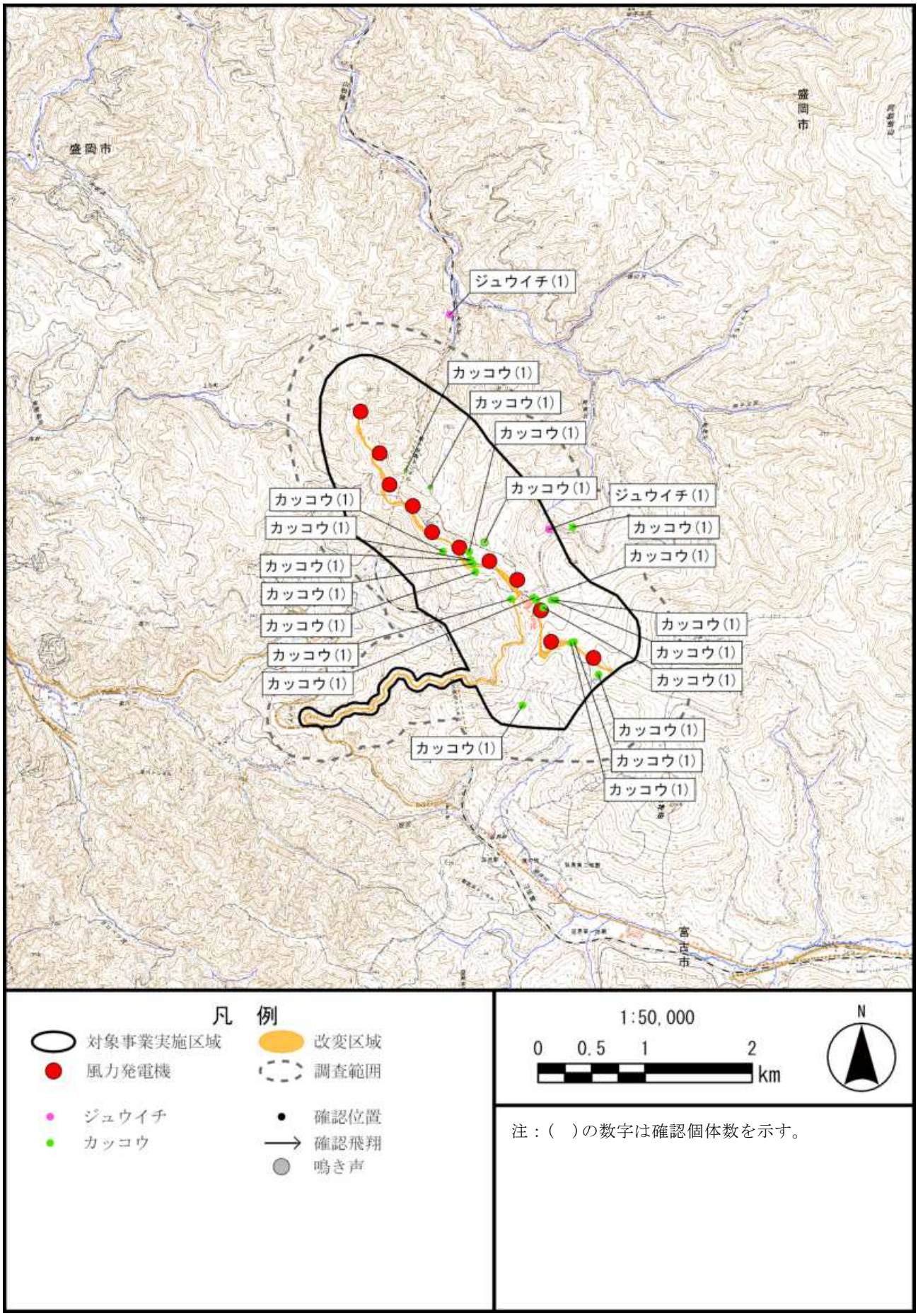


図 8.1.4-42(2)　鳥類の重要な種の確認位置（ジュウイチ、カッコウ）

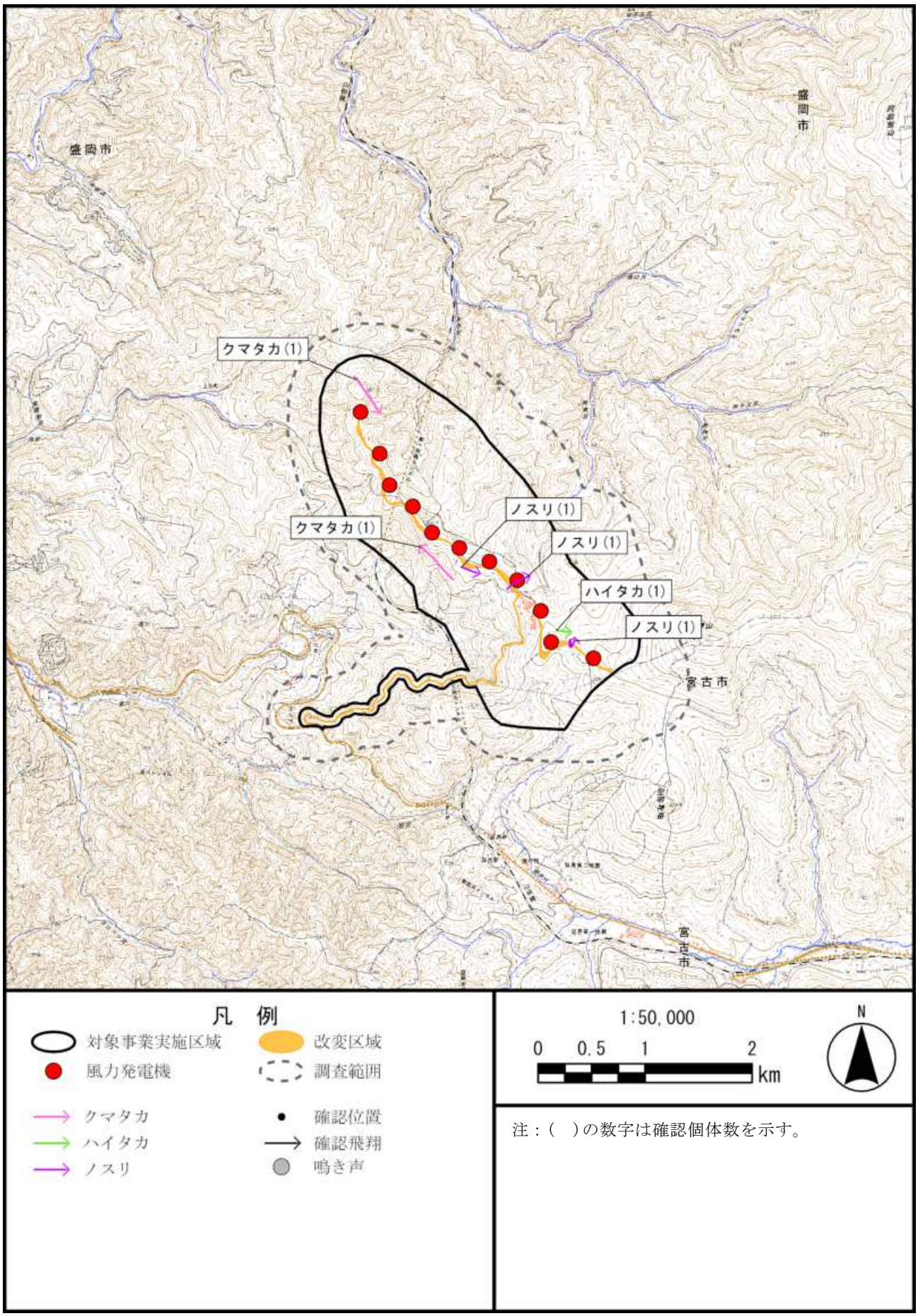


図 8.1.4-42(3)　鳥類の重要な種の確認位置（クマタカ、ハイタカ、ノスリ）

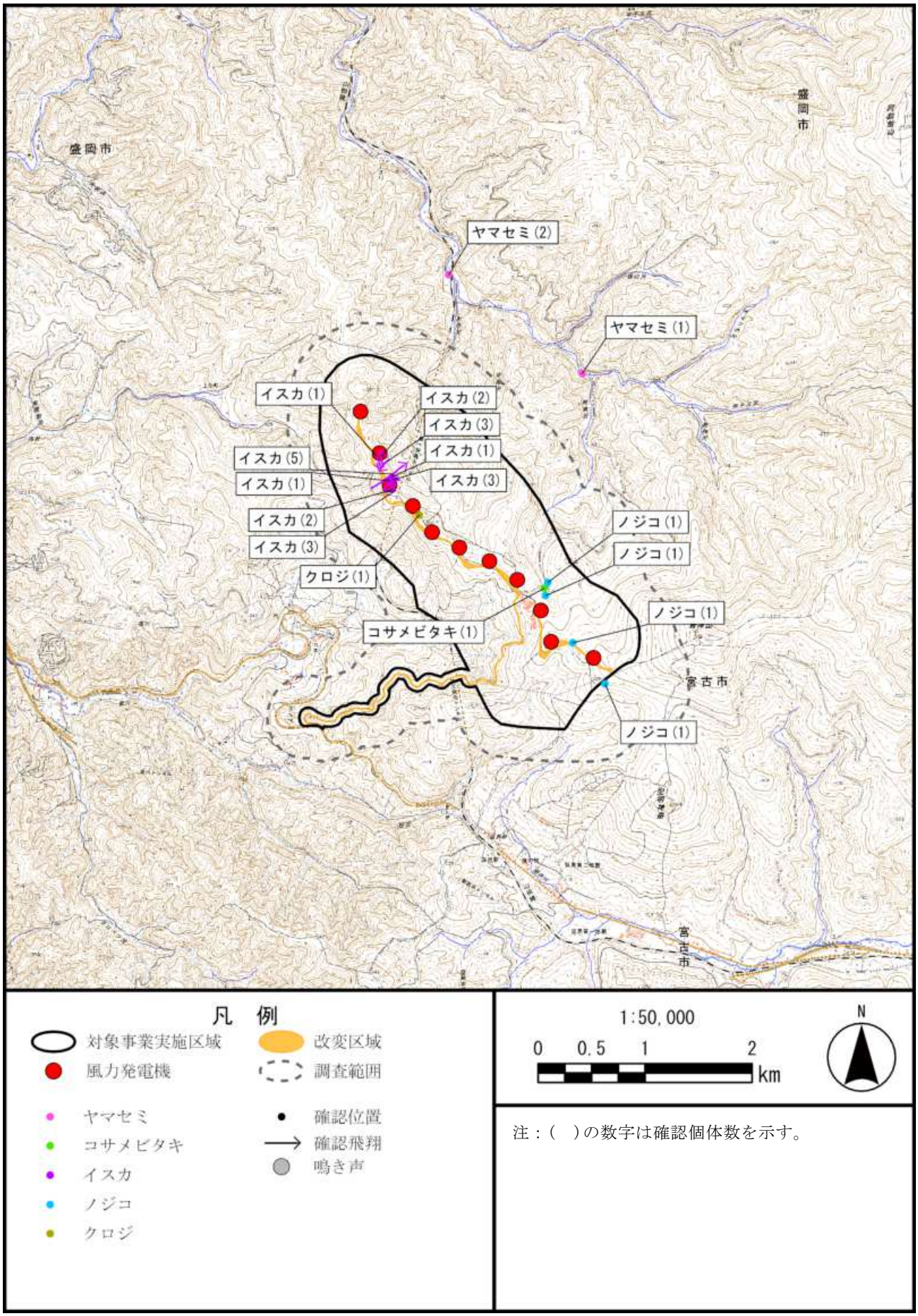


図 8.1.4-42(4)　鳥類の重要な種の確認位置
（ヤマセミ、コサメビタキ、イスカ、ノジコ、クロジ）

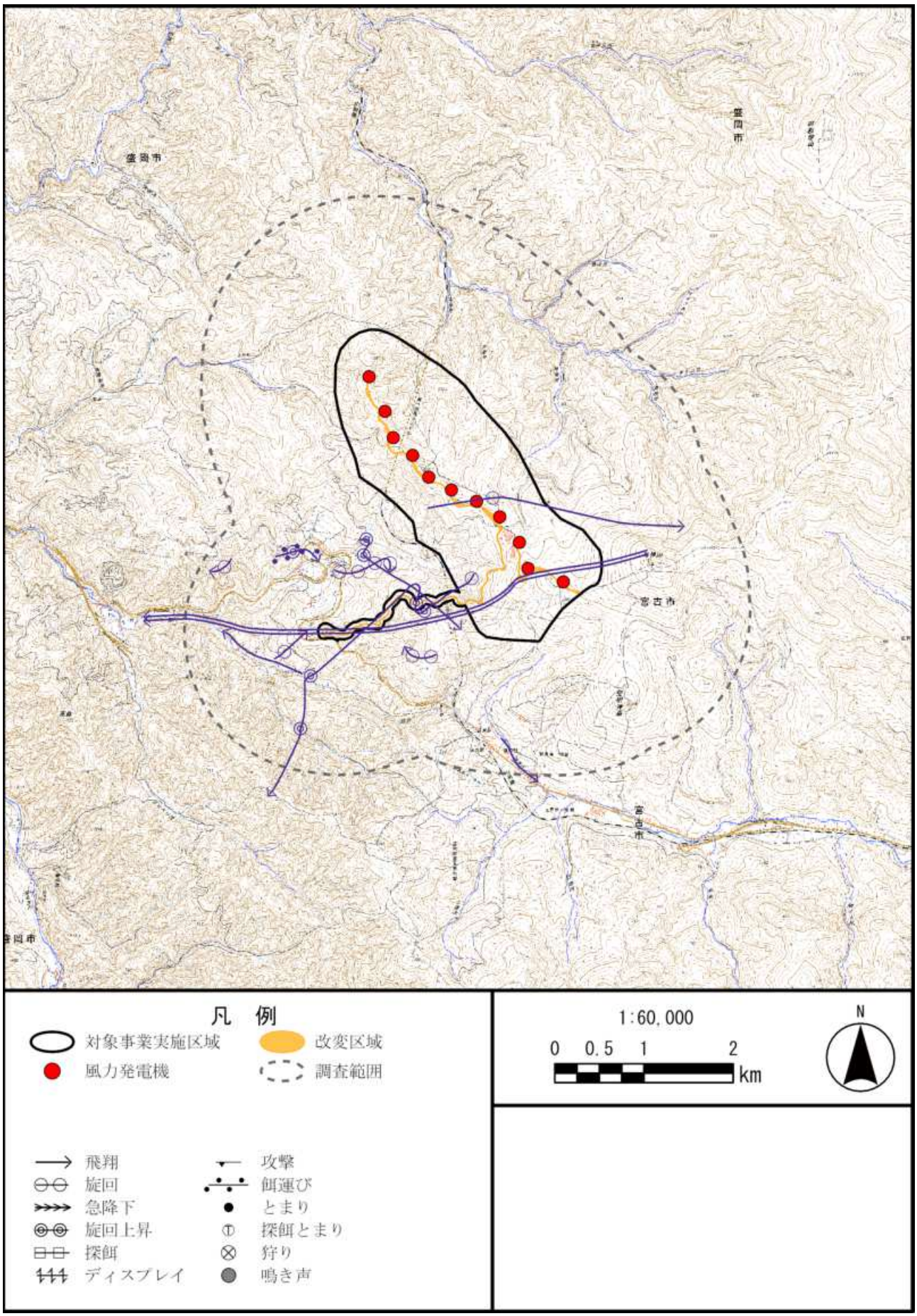


図 8.1.4-43　鳥類の重要な種の確認位置（ミサゴ：令和 5 年 9 月～令和 7 年 8 月）

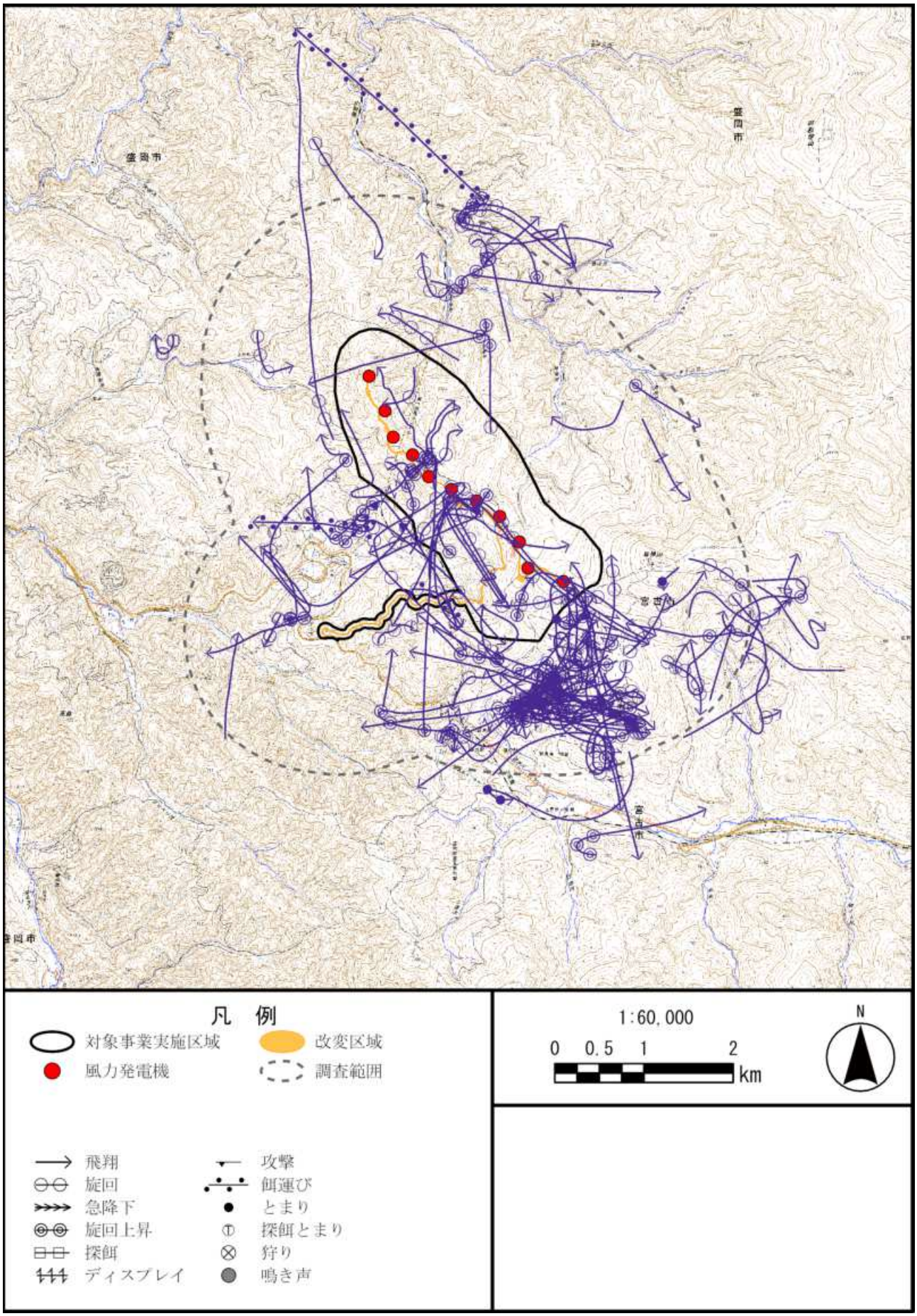


図 8.1.4-44　鳥類の重要な種の確認位置（ハチクマ：令和 5 年 9 月～令和 7 年 8 月）

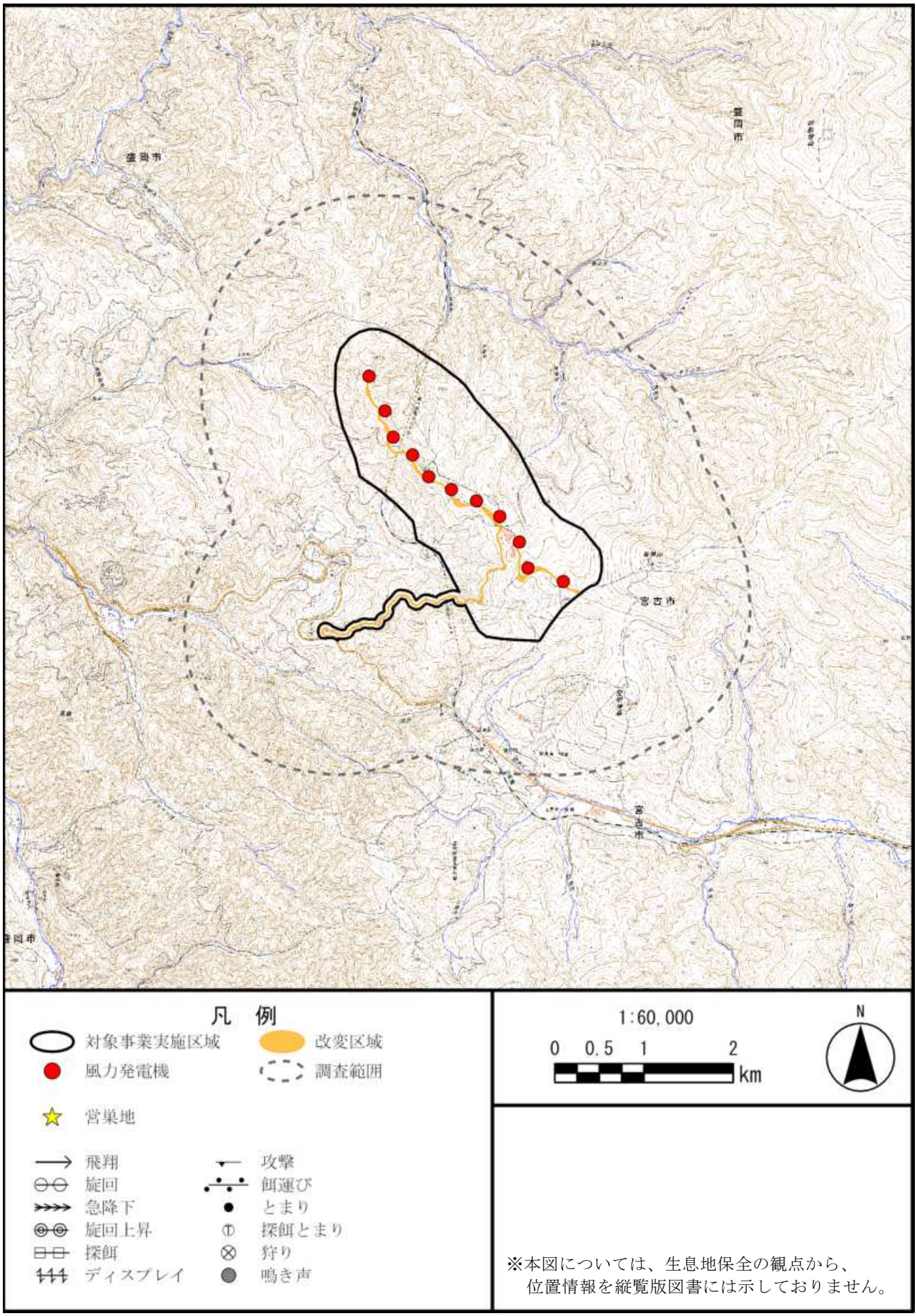


図 8.1.4-45　鳥類の重要な種の確認位置（クマタカ：令和 5 年 9 月～令和 7 年 8 月）

表 8.1.4-59　クマタカの営巣状況

No.	Ne1	Ne2
標高	638.1m	645.4m
樹種	カラマツ	スギ
樹高	約 20m	約 23m
架巣形態	樹幹型	樹幹型
巣の長径×短径	約 100cm×約 100cm	約 80cm×60cm
巣の厚さ	約 50cm	約 40cm
胸高直径	40cm	50cm
架巣高	約 17m	約 16m
確認状況	令和 6 年 11 月調査において、の令和 5-6 年冬季まで付近で幼鳥が確認されていた周辺を踏査した結果、巣を確認した。巣の直下で鳥類の骨と思われる食痕が見られた。	令和 7 年 7 月調査においてで幼鳥への給餌が確認されたため、周辺を踏査した結果、巣を確認した。巣内で幼鳥 1 個体が確認された。 巣の直下には糞が見られた。
写真		

※網掛け部分については、生息地保全の観点から、縦覧版図書には示しておりません。

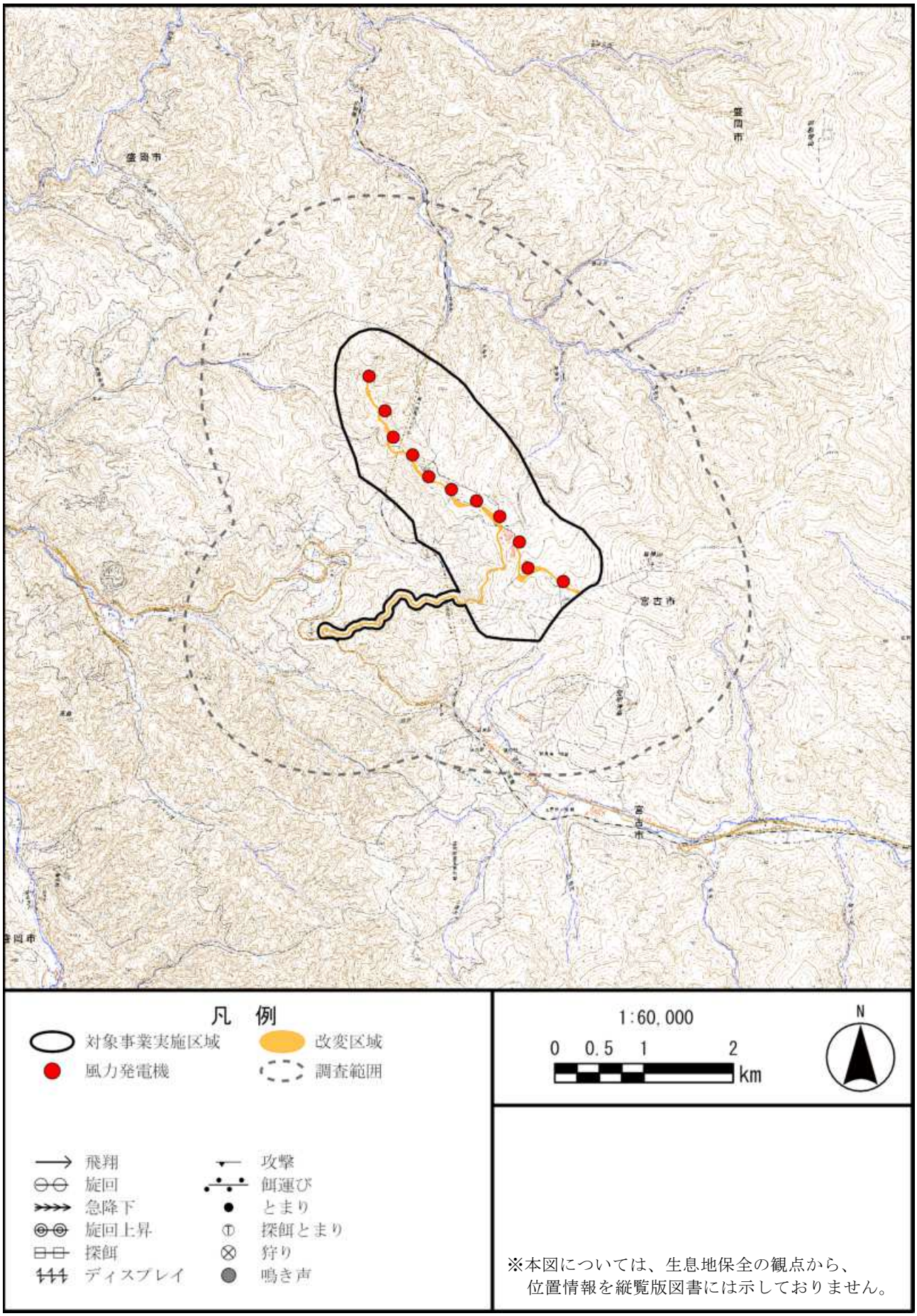


図 8.1.4-46(1)　鳥類の重要な種の確認位置
（イヌワシ：対象事業実施区域　：令和 5 年 9 月～令和 7 年 8 月）

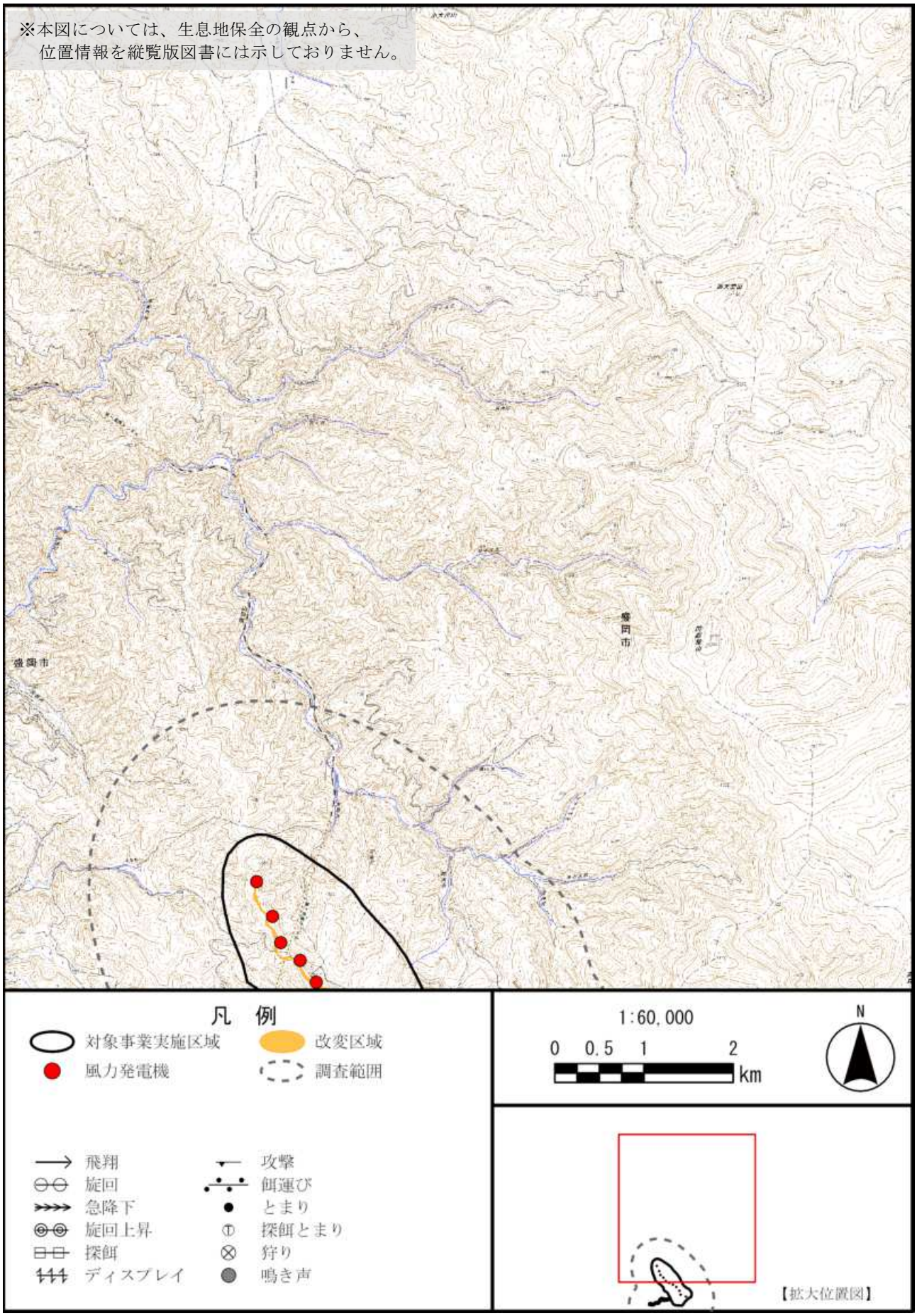


図 8.1.4-46(2)　鳥類の重要な種の確認位置
（イヌワシ：対象事業実施区域外　令和 5 年 9 月～令和 7 年 8 月）

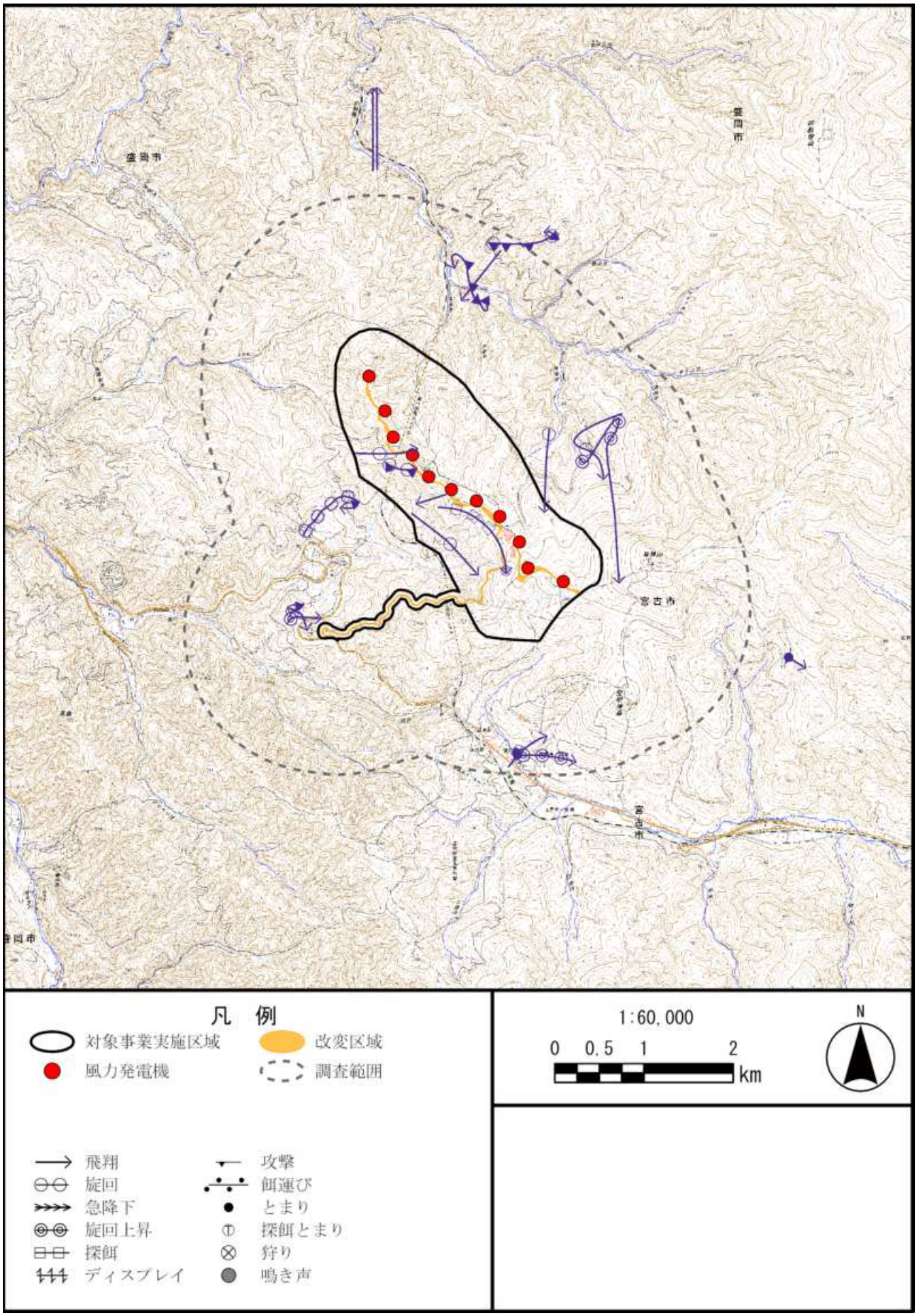


図 8.1.4-47　鳥類の重要な種の確認位置（ツミ：令和 5 年 9 月～令和 7 年 8 月）

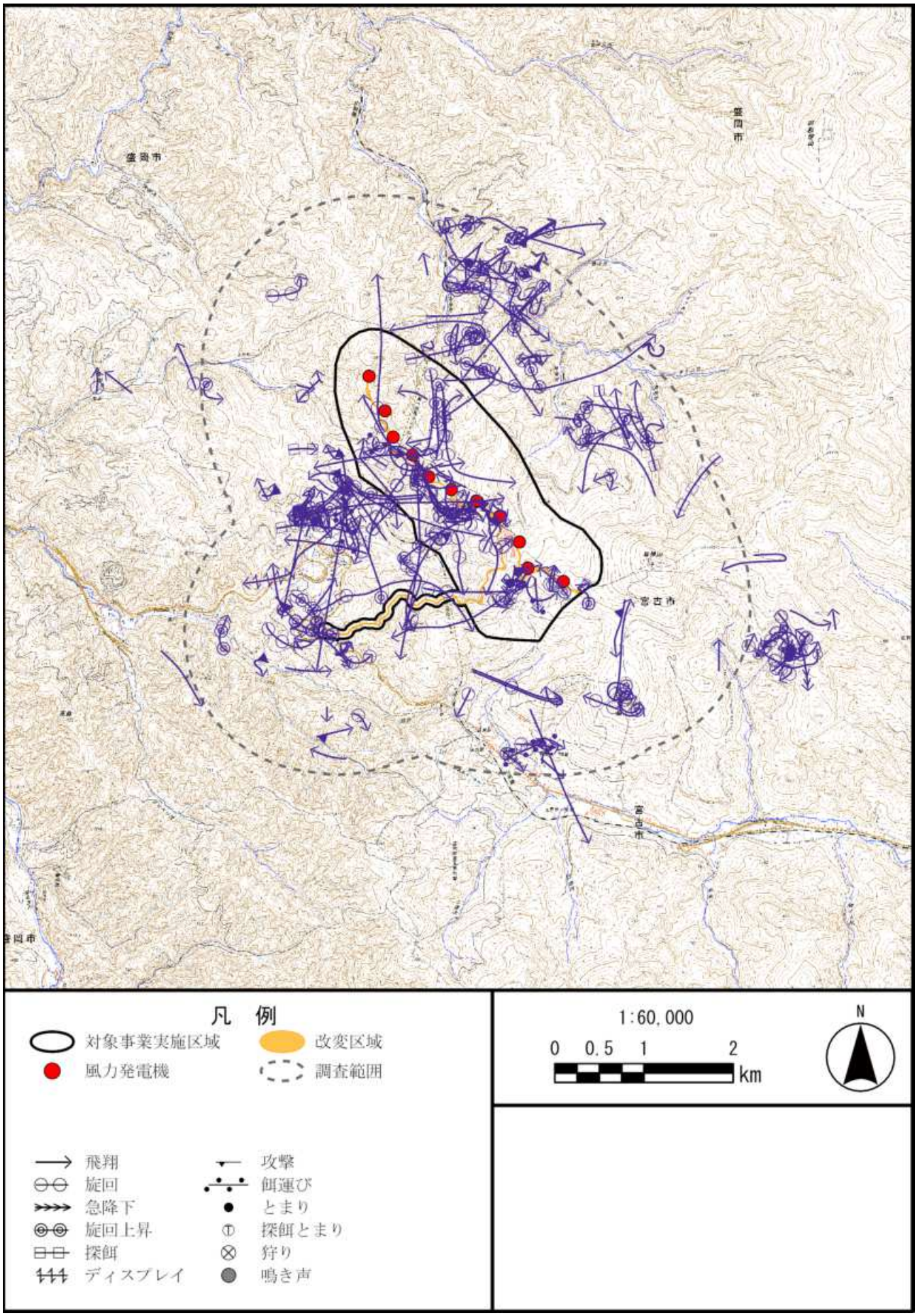


図 8.1.4-48　鳥類の重要な種の確認位置（ハイタカ：令和 5 年 9 月～令和 7 年 8 月）

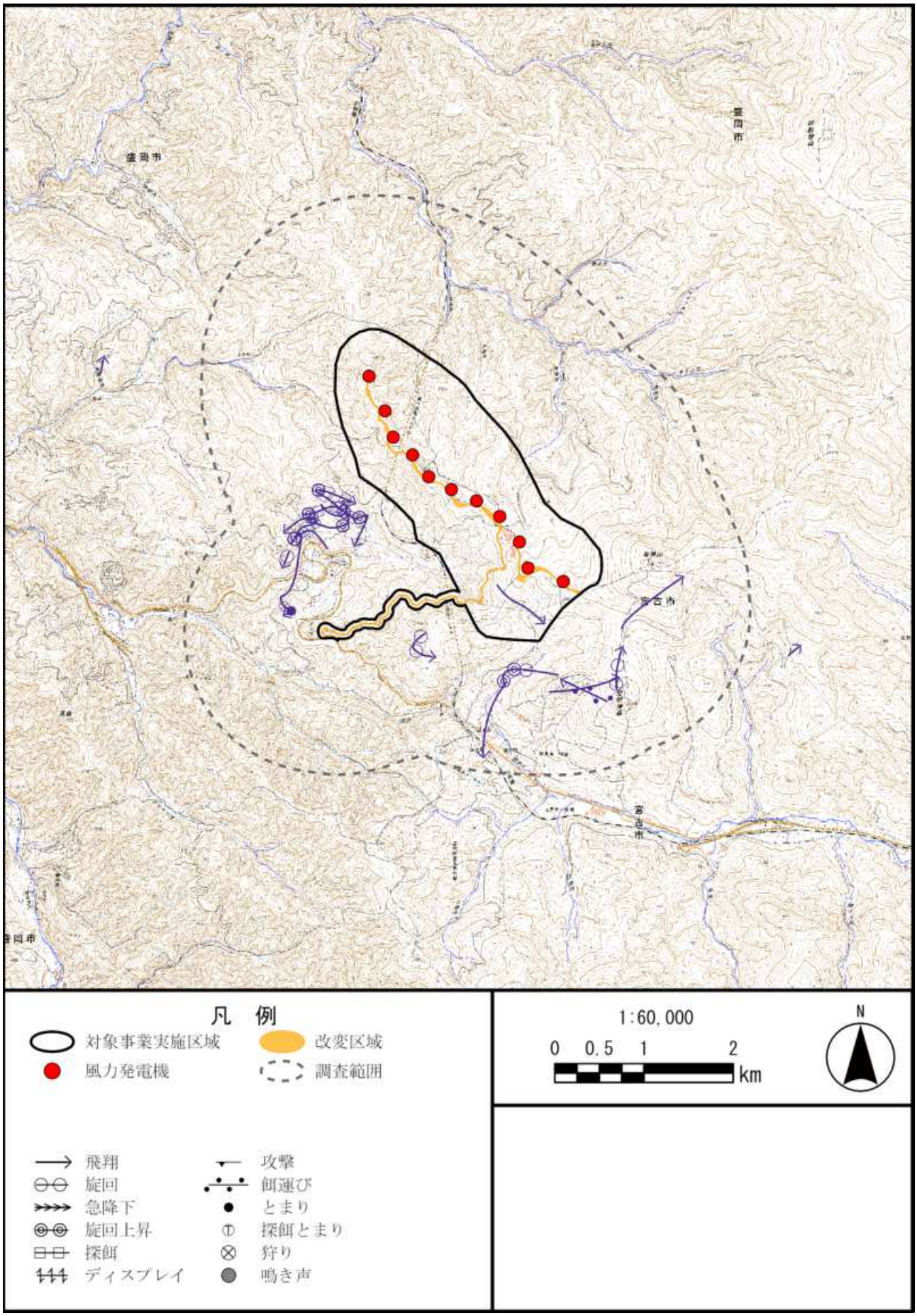


図 8.1.4-49　鳥類の重要な種の確認位置（オオタカ：令和 5 年 9 月～令和 7 年 8 月）

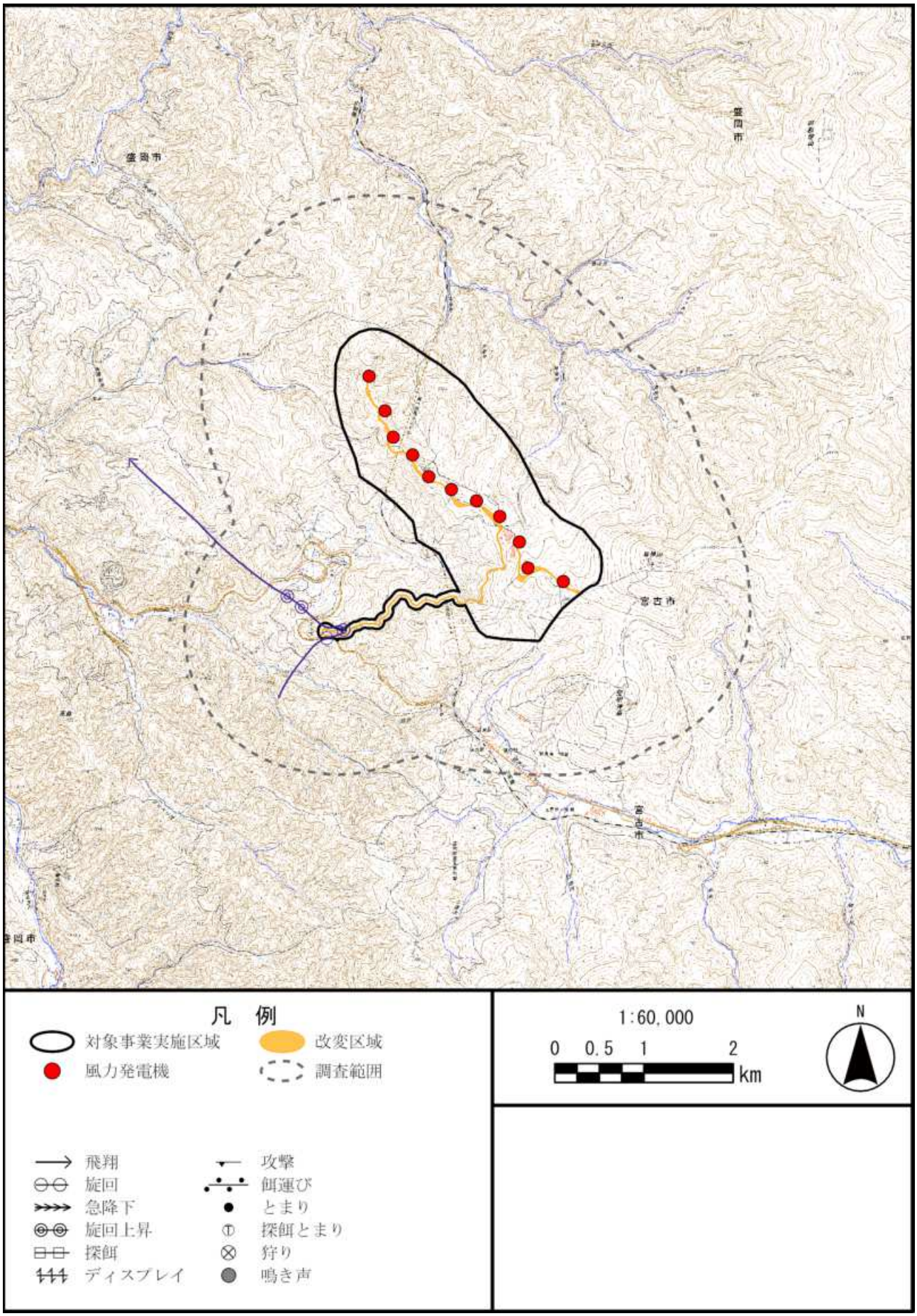


図 8.1.4-50　鳥類の重要な種の確認位置（オオワシ：令和 5 年 9 月～令和 7 年 8 月）

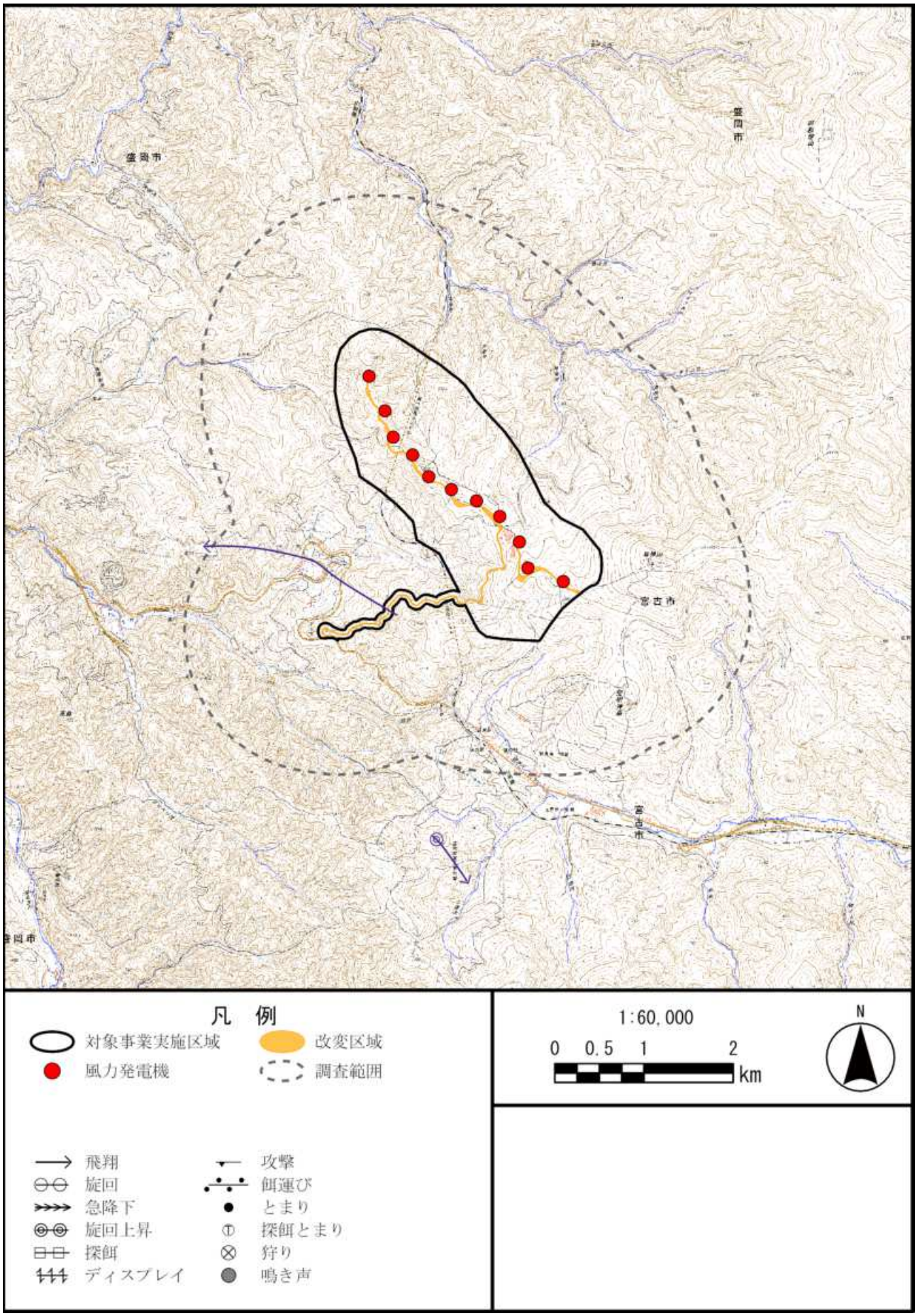


図 8.1.4-51　鳥類の重要な種の確認位置（オジロワシ：令和 5 年 9 月～令和 7 年 8 月）

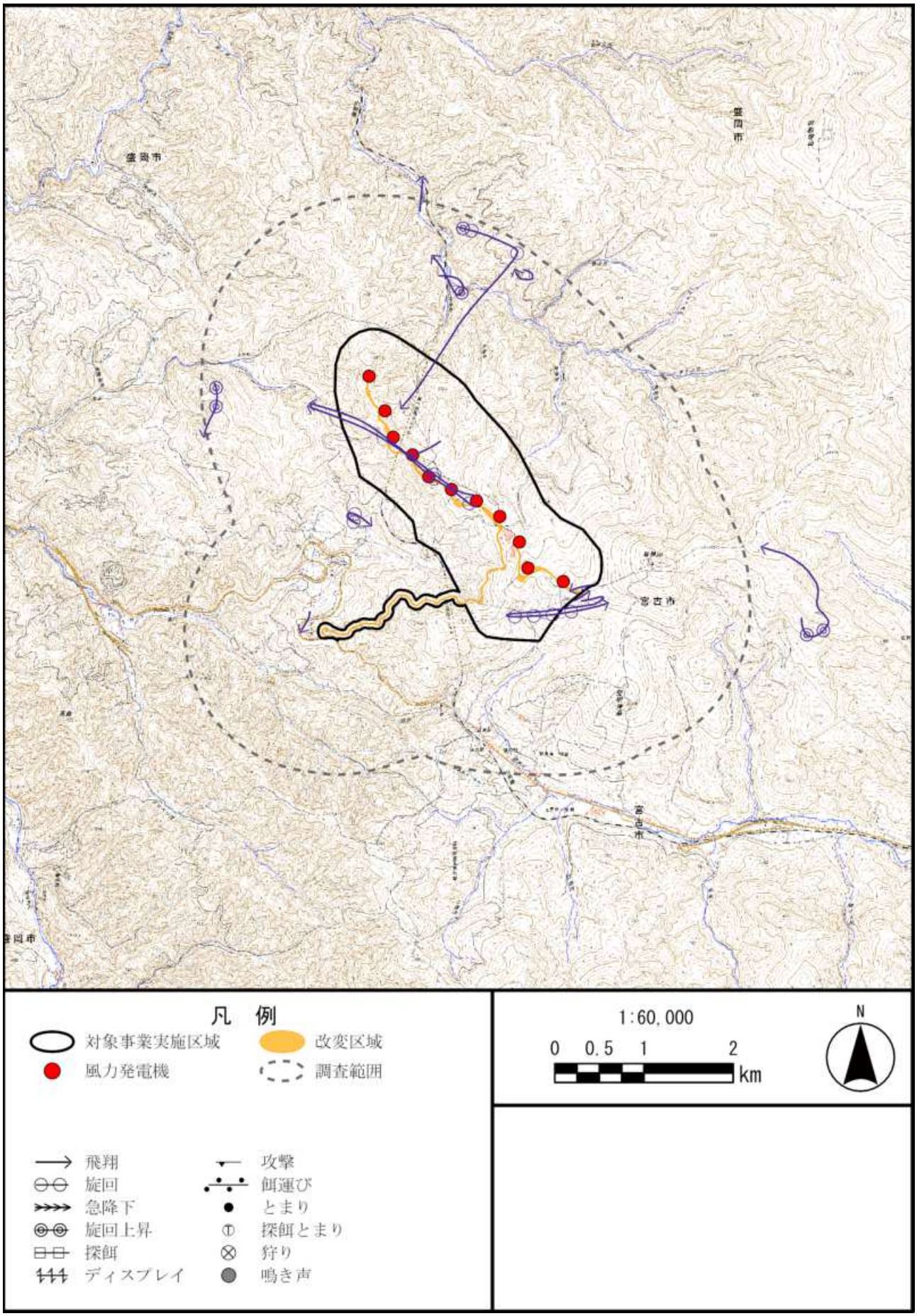


図 8.1.4-52　鳥類の重要な種の確認位置（サシバ：令和 5 年 9 月～令和 7 年 8 月）

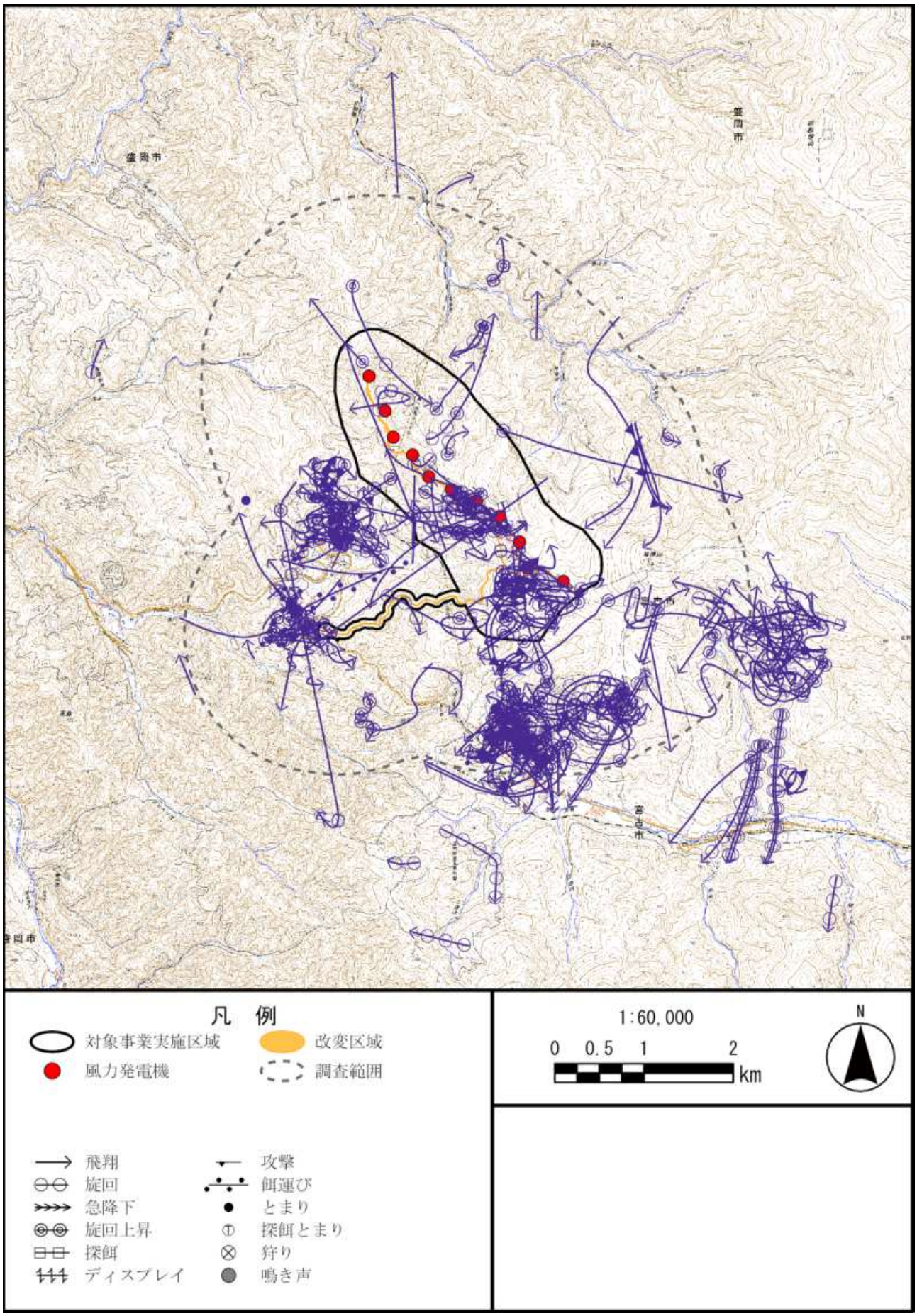


図 8.1.4-53　鳥類の重要な種の確認位置（ノスリ：令和 5 年 9 月～令和 7 年 8 月）

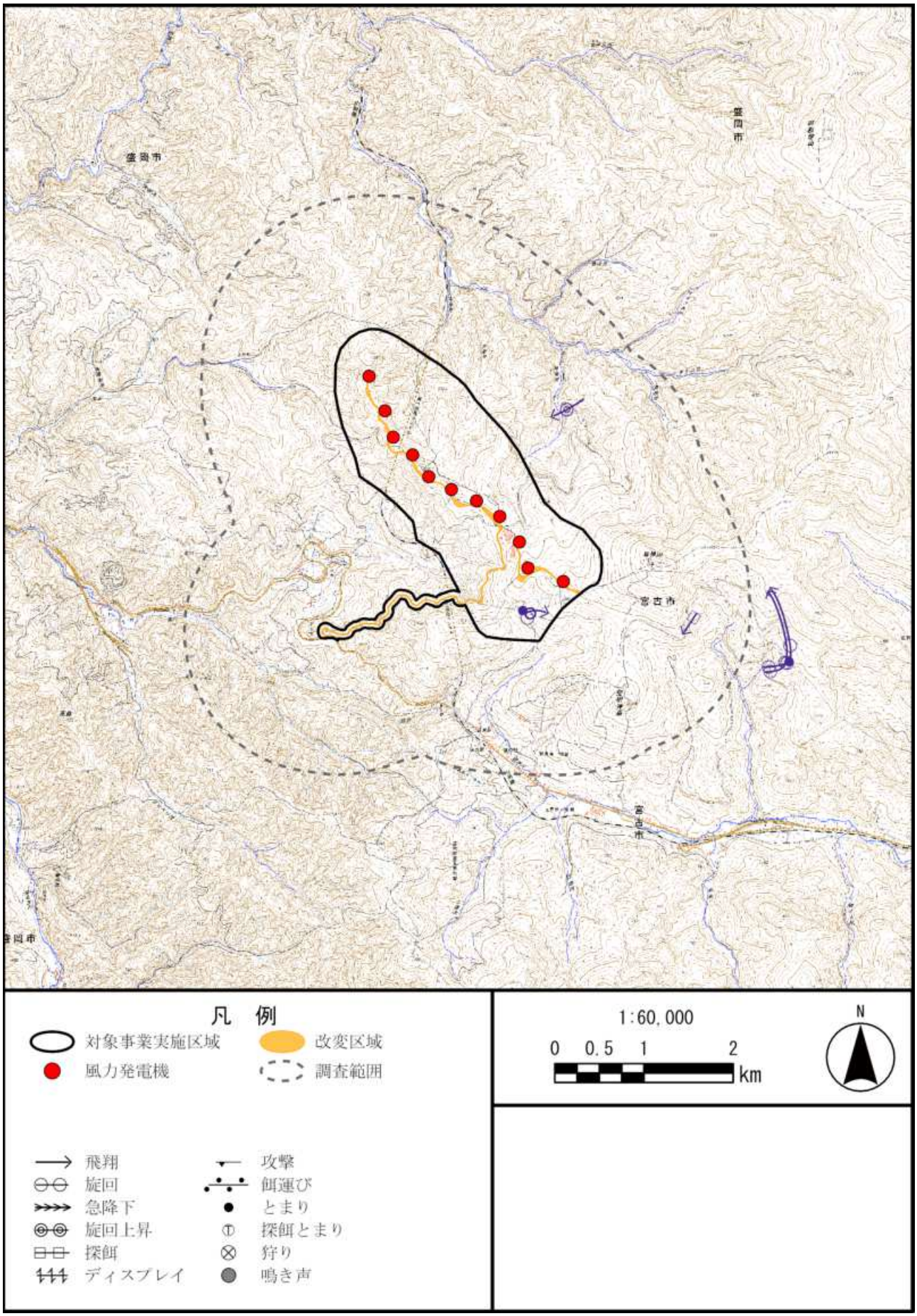


図 8.1.4-54　鳥類の重要な種の確認位置（チョウゲンボウ：令和 5 年 9 月～令和 7 年 8 月）

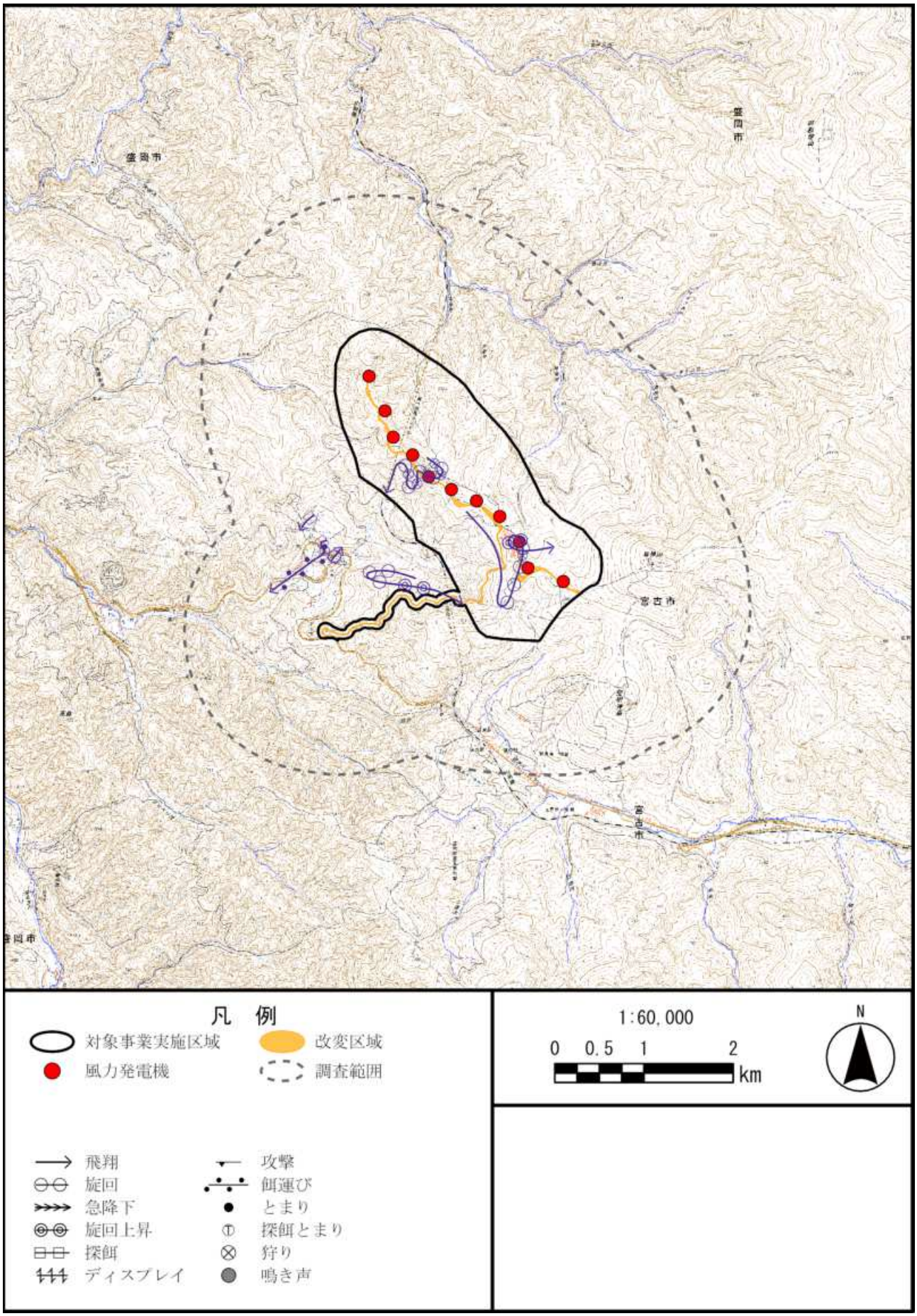


図 8.1.4-55　鳥類の重要な種の確認位置（チゴハヤブサ：令和 5 年 9 月～令和 7 年 8 月）

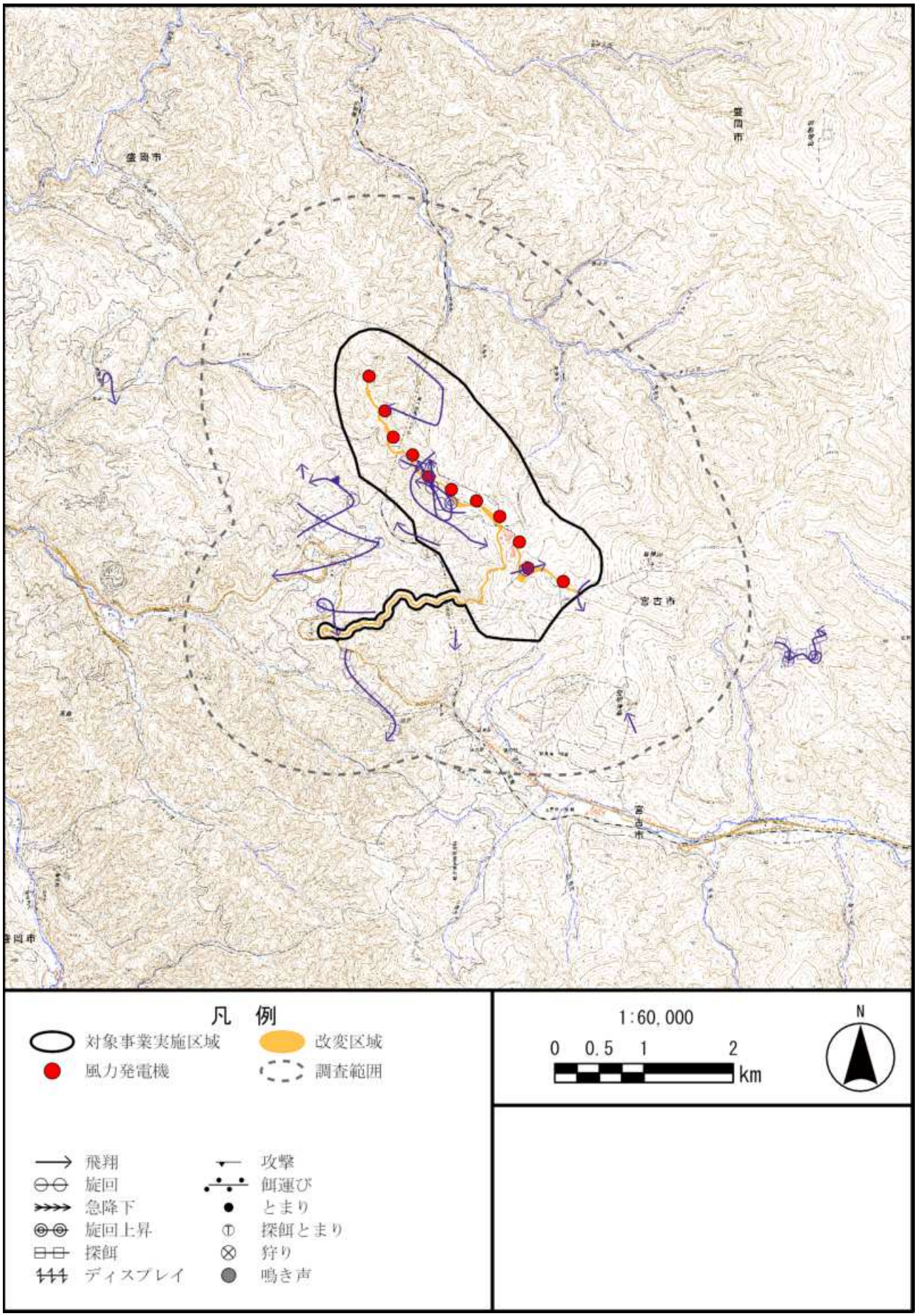


図 8.1.4-56　鳥類の重要な種の確認位置（ハヤブサ：令和 5 年 9 月～令和 7 年 8 月）

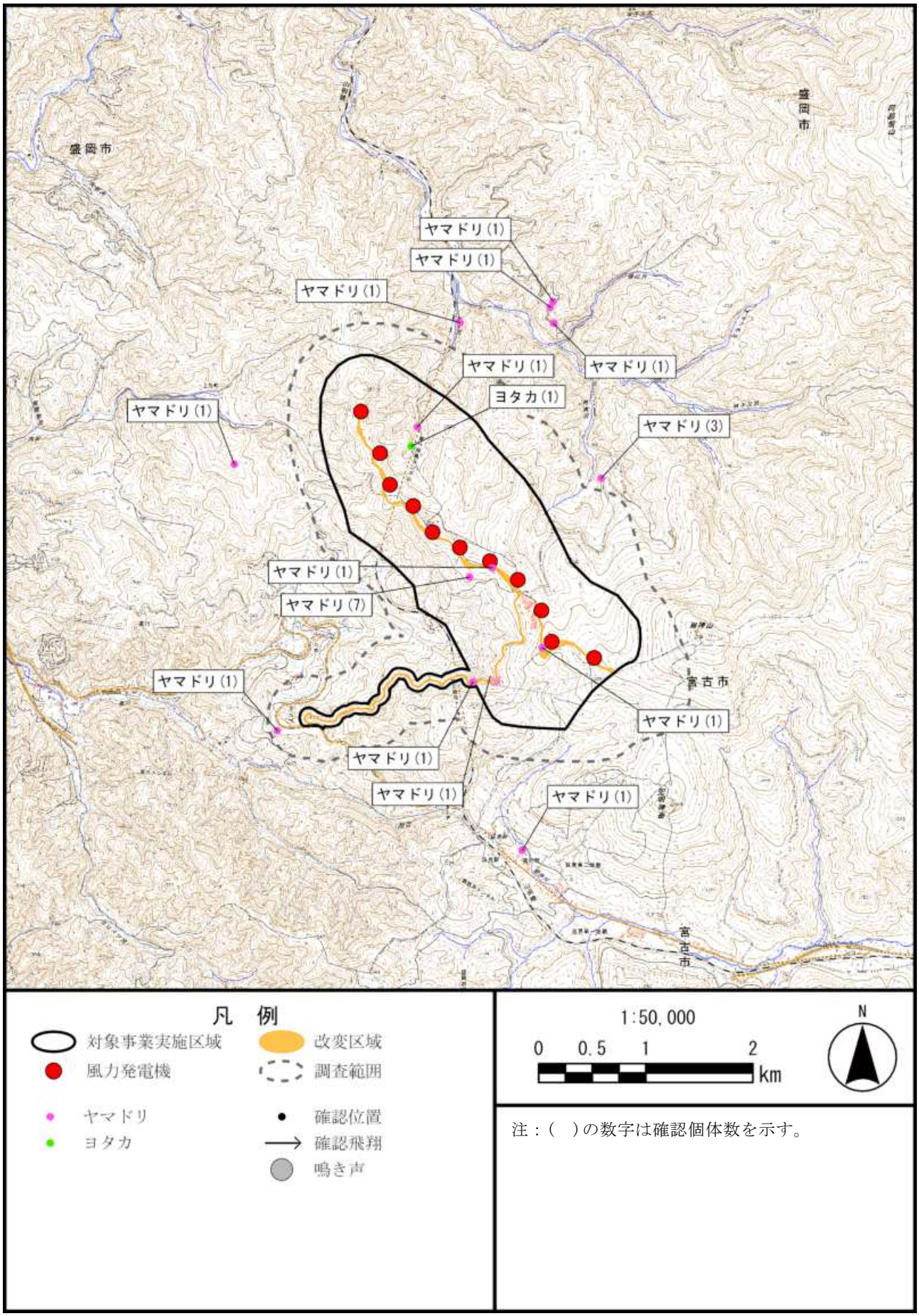


図 8.1.4-57　鳥類の重要な種の確認位置（猛禽類調査時の一般鳥類重要な種：ヤマドリ、ヨタカ）

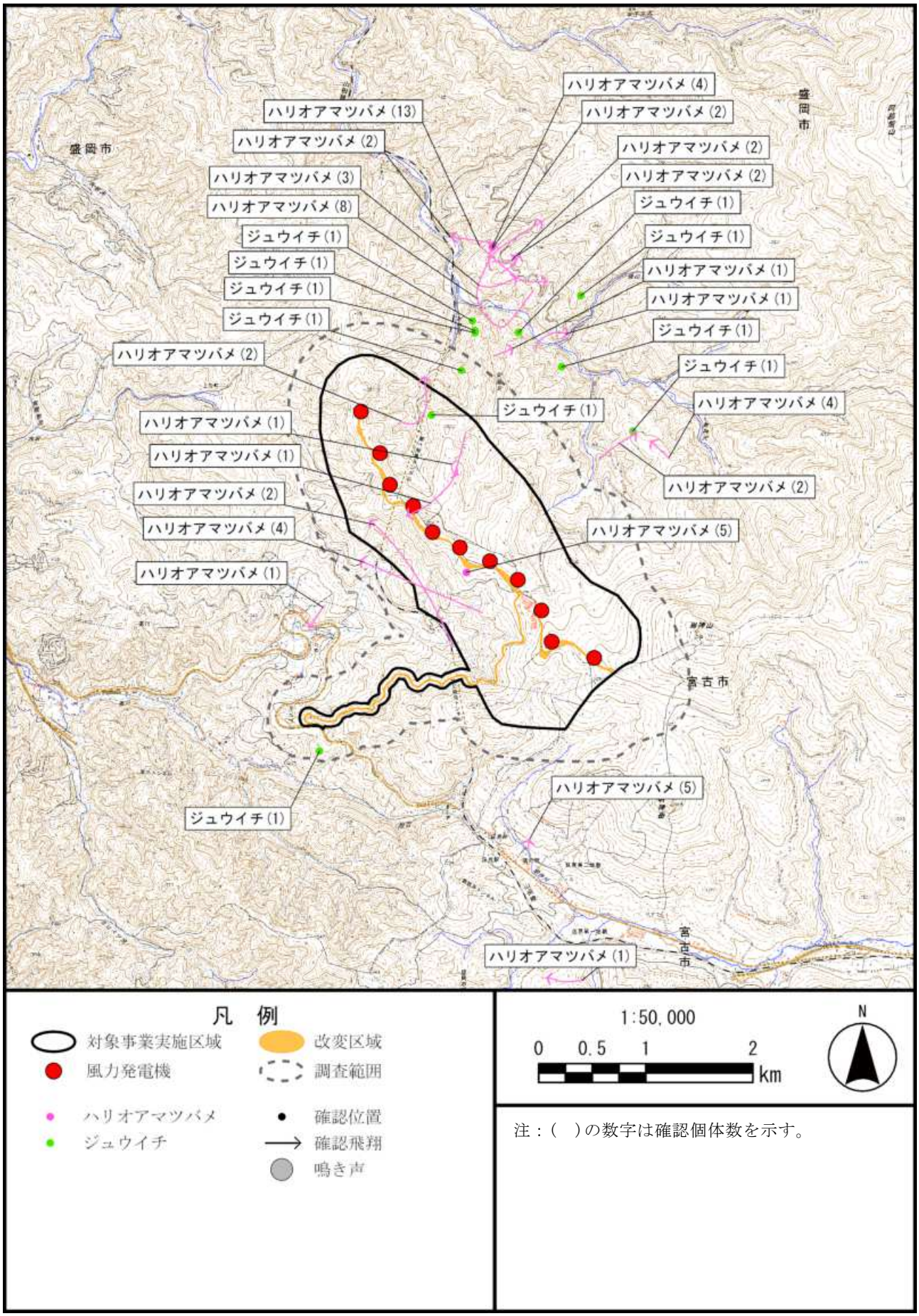


図 8.1.4-58　鳥類の重要な種の確認位置
（猛禽類調査時の一般鳥類重要な種：ハリオアマツバメ、ジュウイチ）

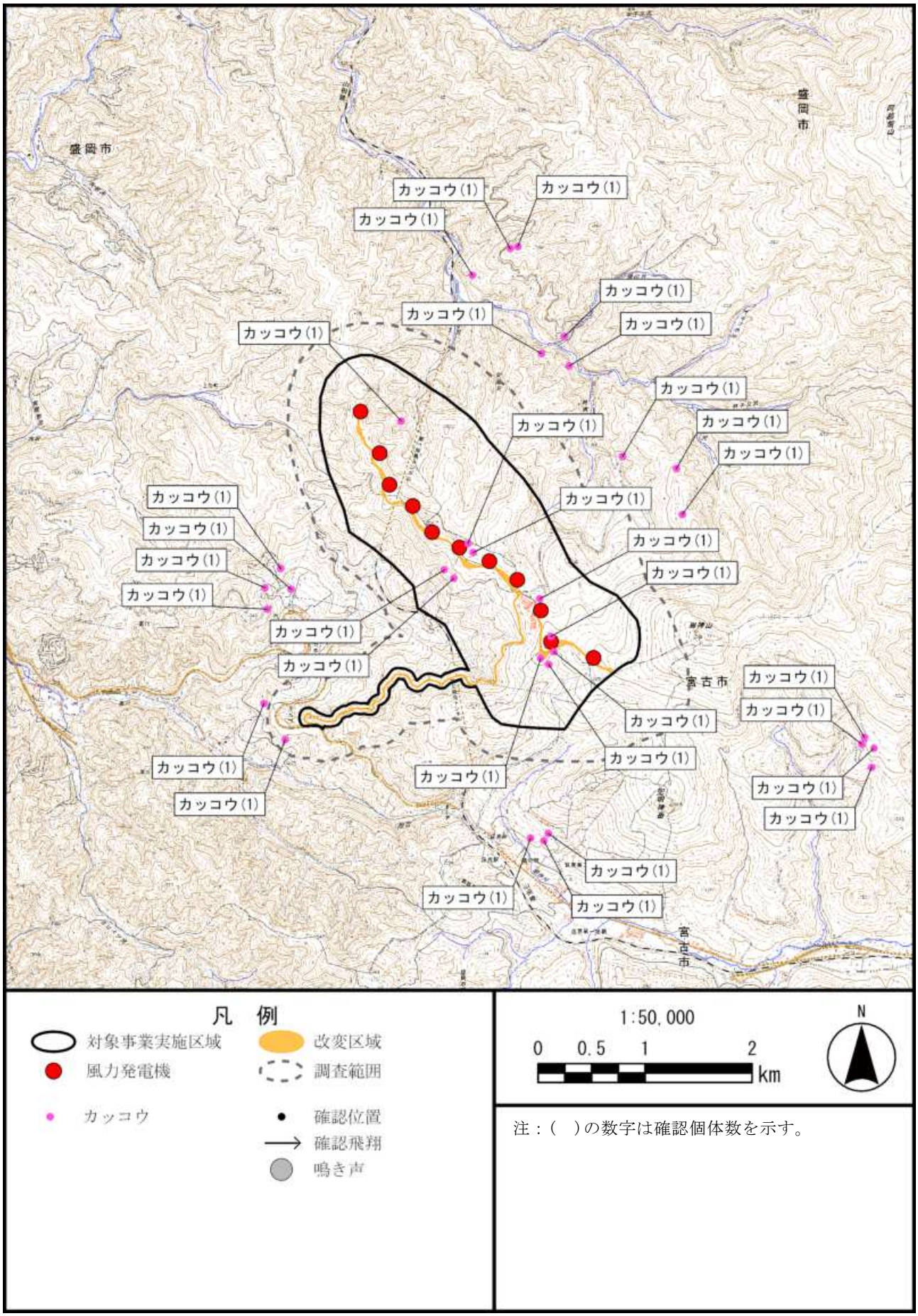


図 8.1.4-59　鳥類の重要な種の確認位置（猛禽類調査時の一般鳥類重要な種：カッコウ）

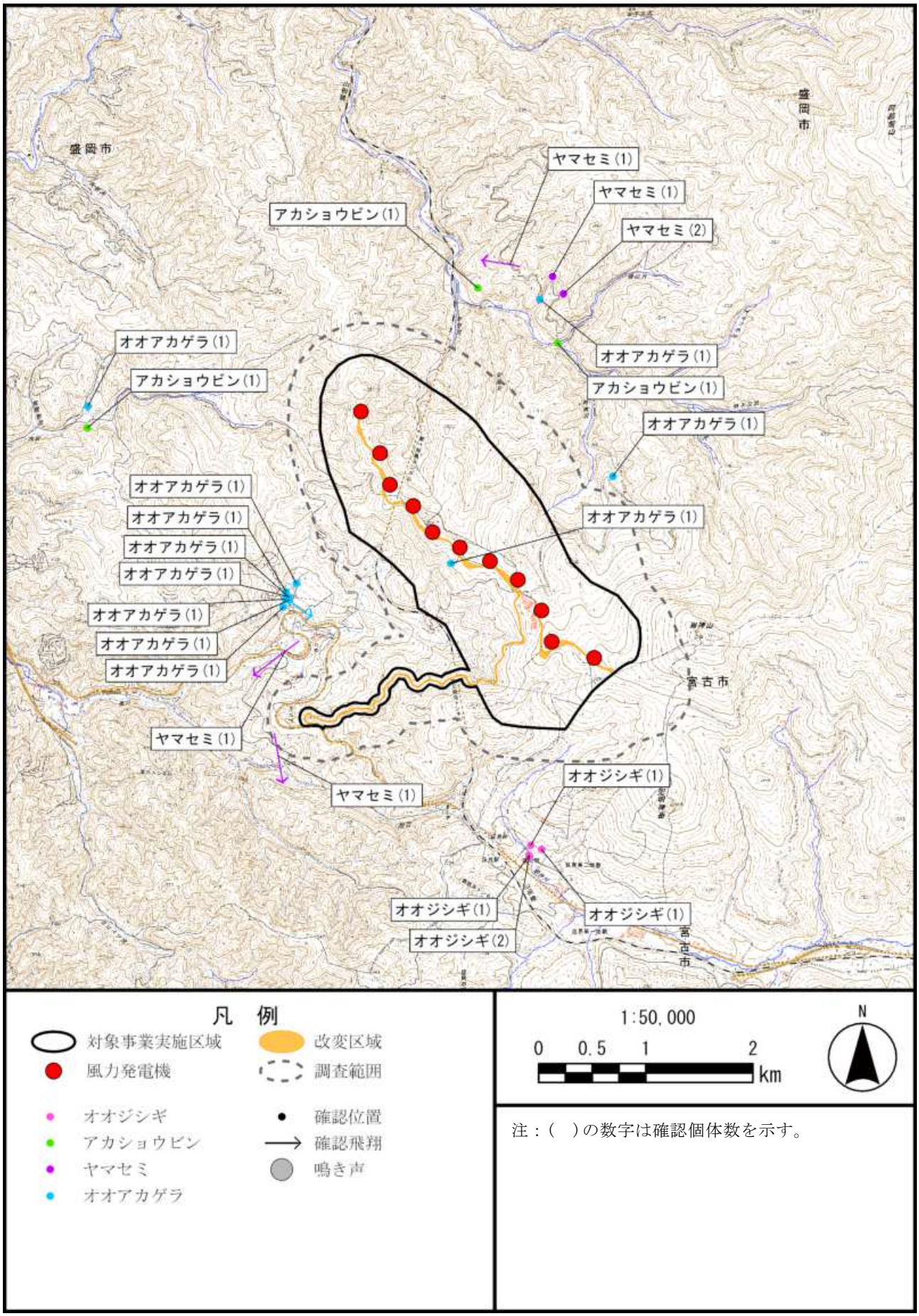


図 8.1.4-60　鳥類の重要な種の確認位置
（猛禽類調査時の一般鳥類重要な種：オオジシギ、アカショウビン、ヤマセミ、オオアカゲラ）

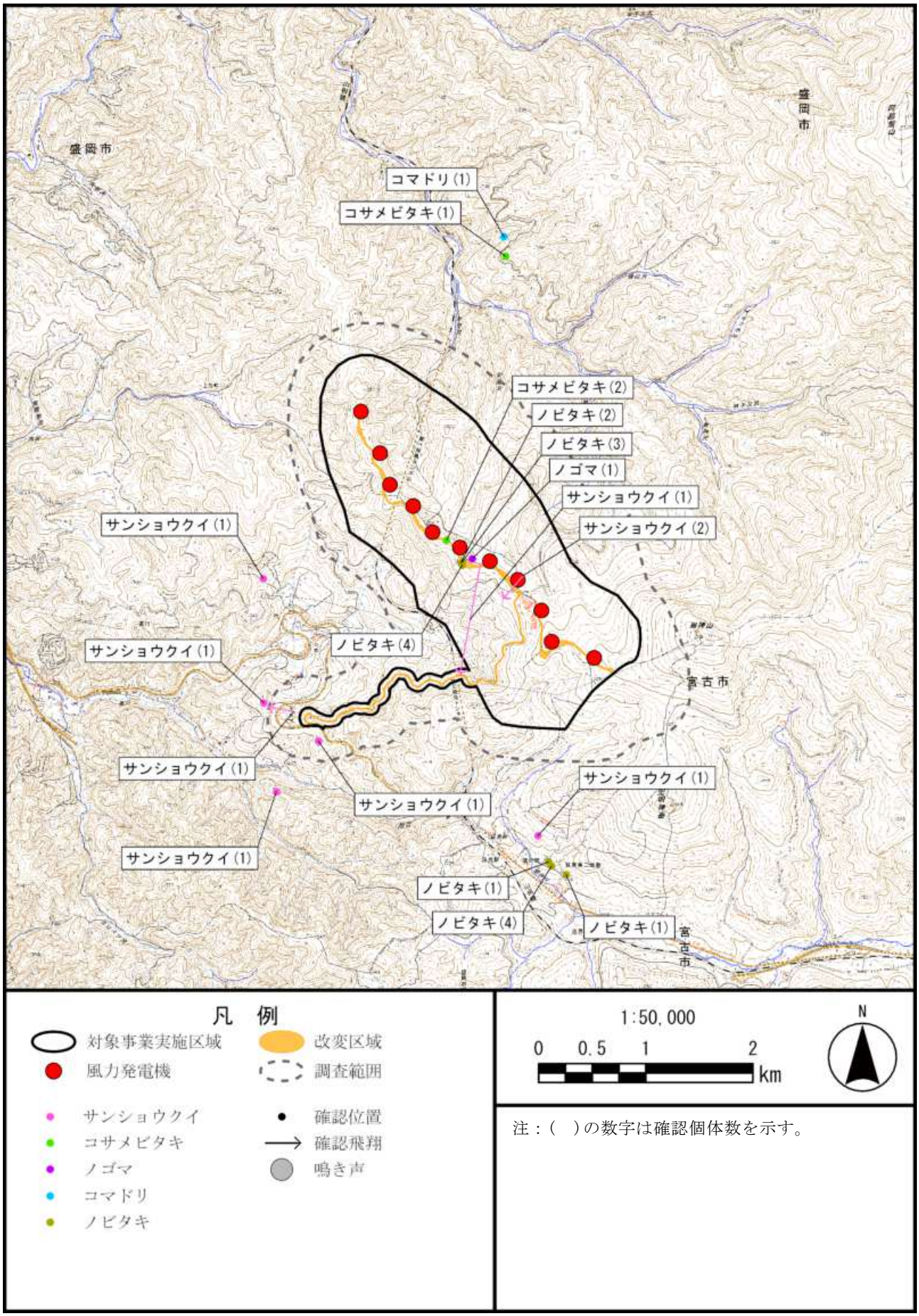


図 8.1.4-61　鳥類の重要な種の確認位置（猛禽類調査時の一般鳥類重要な種：
サンショウクイ、コサメビタキ、ノゴマ、コマドリ、ノビタキ）

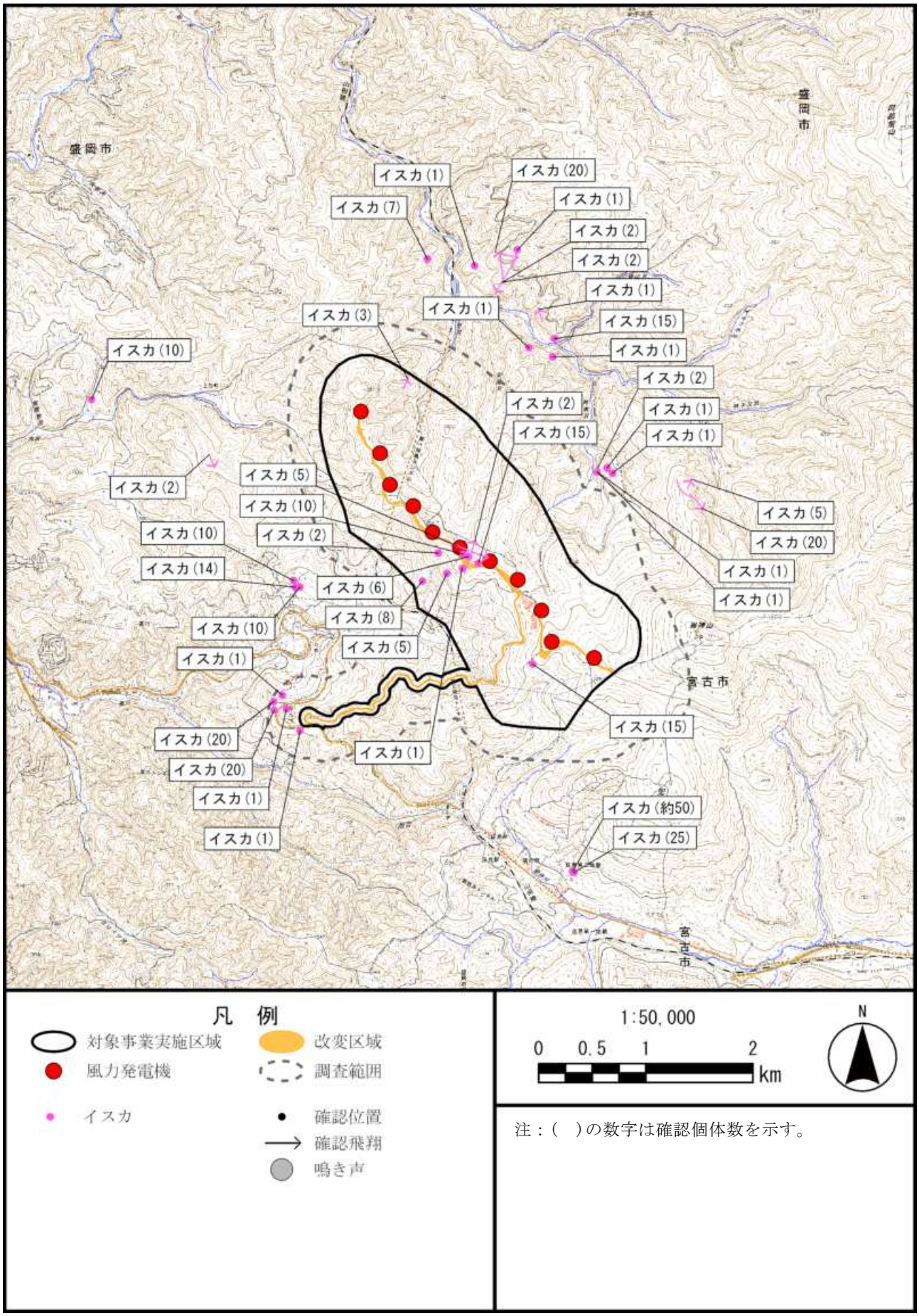


図 8.1.4-62　鳥類の重要な種の確認位置（猛禽類調査時の一般鳥類重要な種：イスカ）

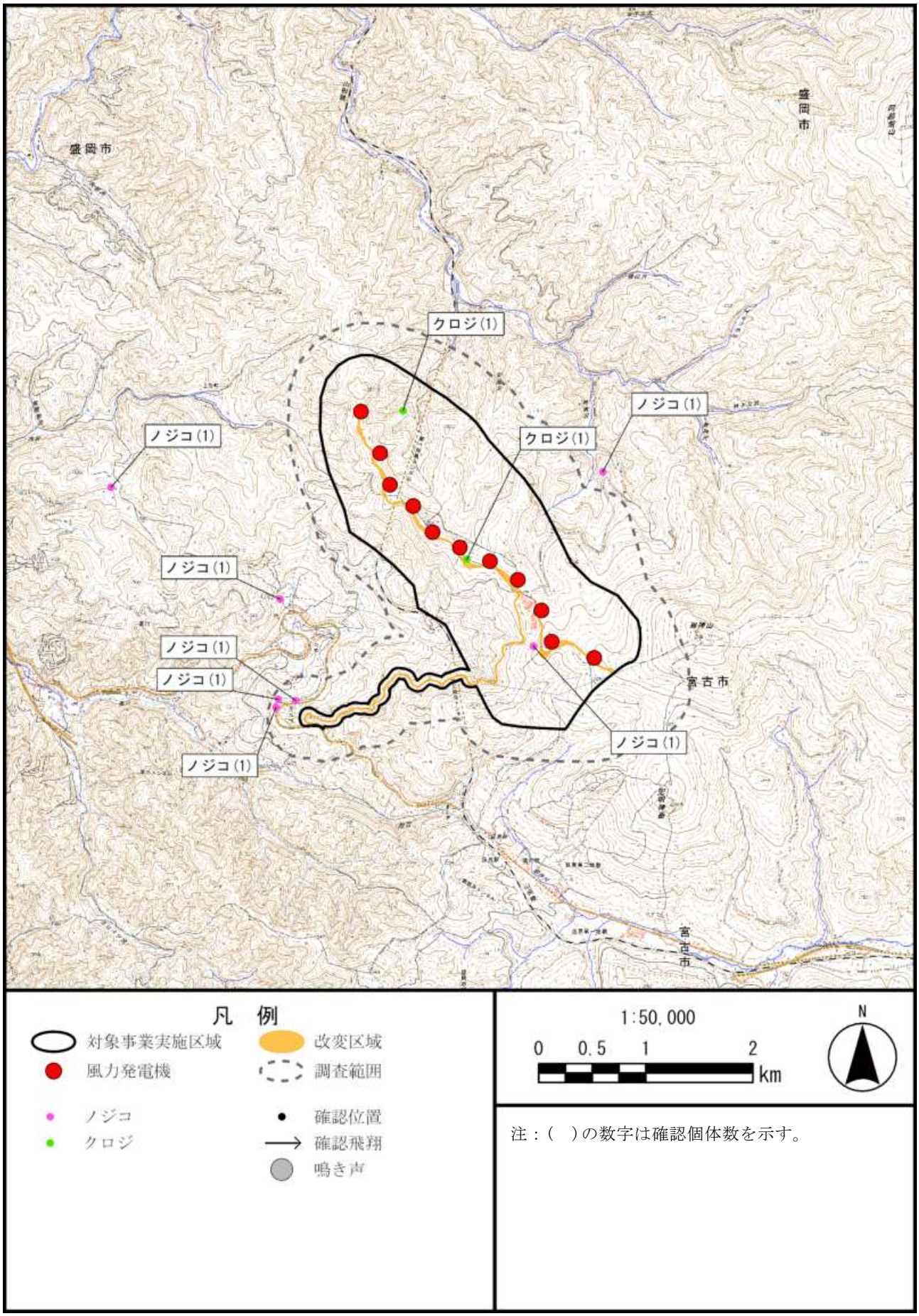


図 8.1.4-63　鳥類の重要な種の確認位置（猛禽類調査時の一般鳥類重要な種：ノジコ、クロジ）

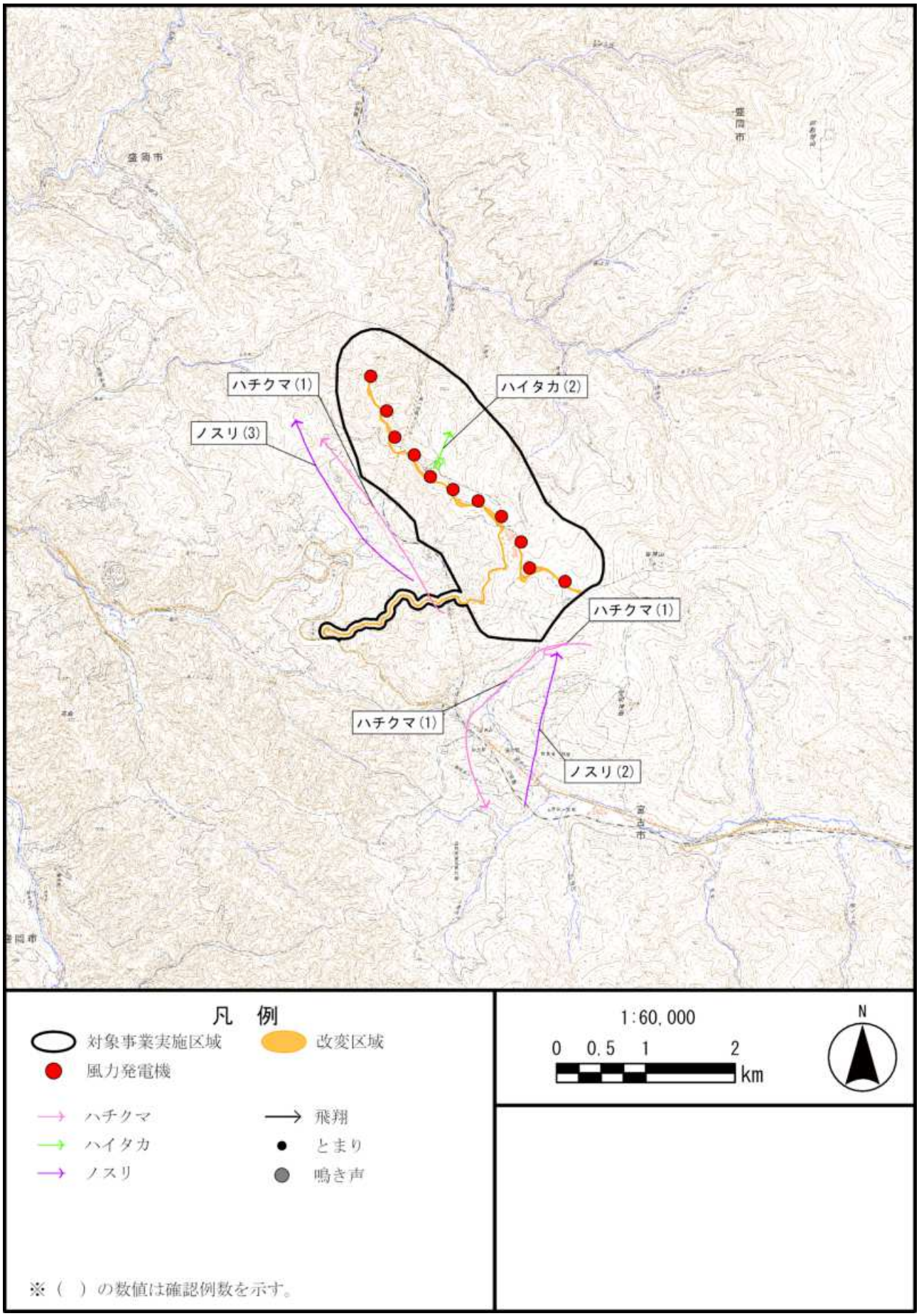


図 8.1.4-64　鳥類の渡り時の移動経路（令和 7 年春季　猛禽類：ハチクマ、ハイタカ、ノスリ）

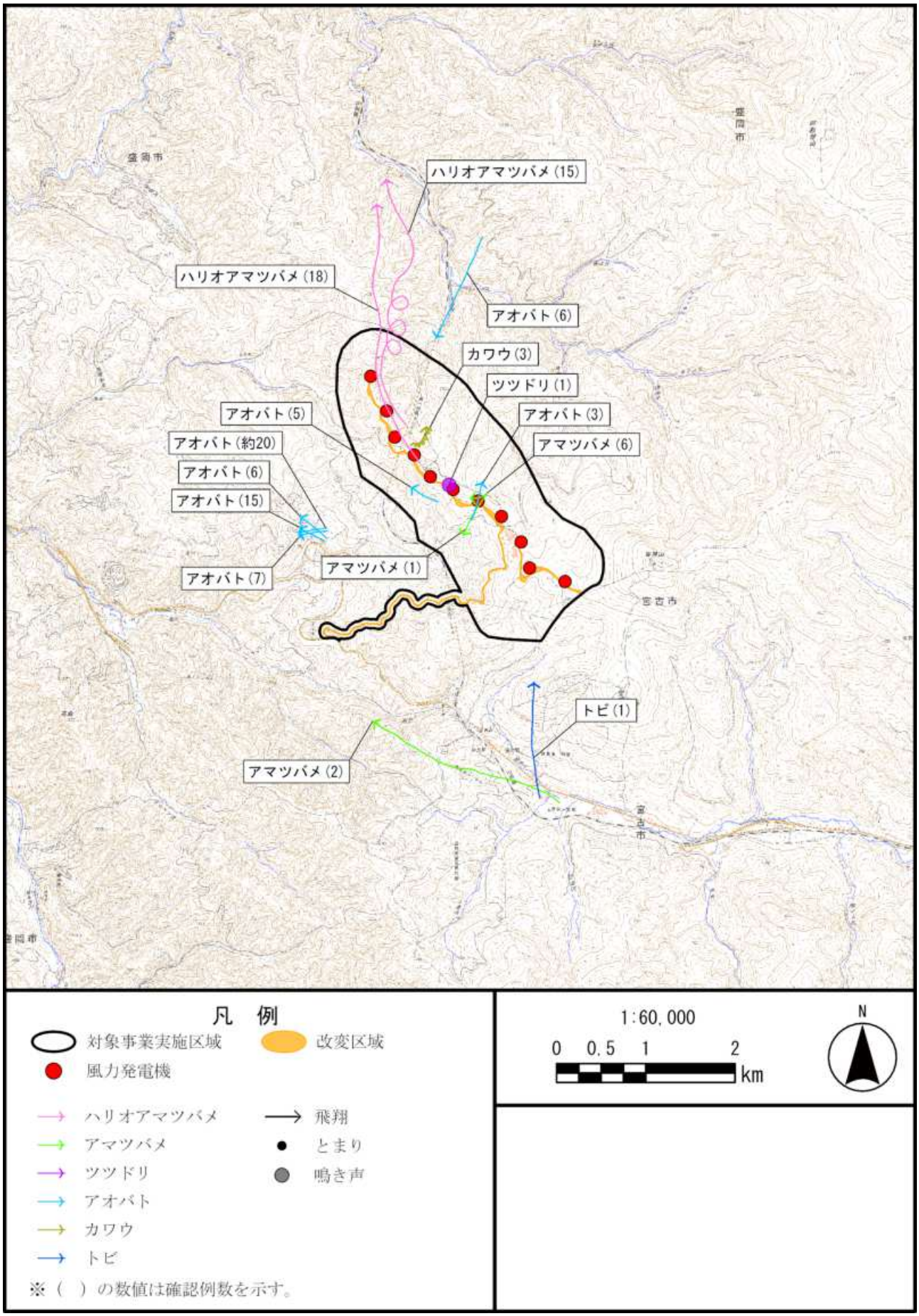


図 8.1.4-65　鳥類の渡り時の移動経路（令和 7 年春季　一般鳥類：
ハリオアマツバメ、アマツバメ、ツツドリ、アオバト、カワウ、トビ）

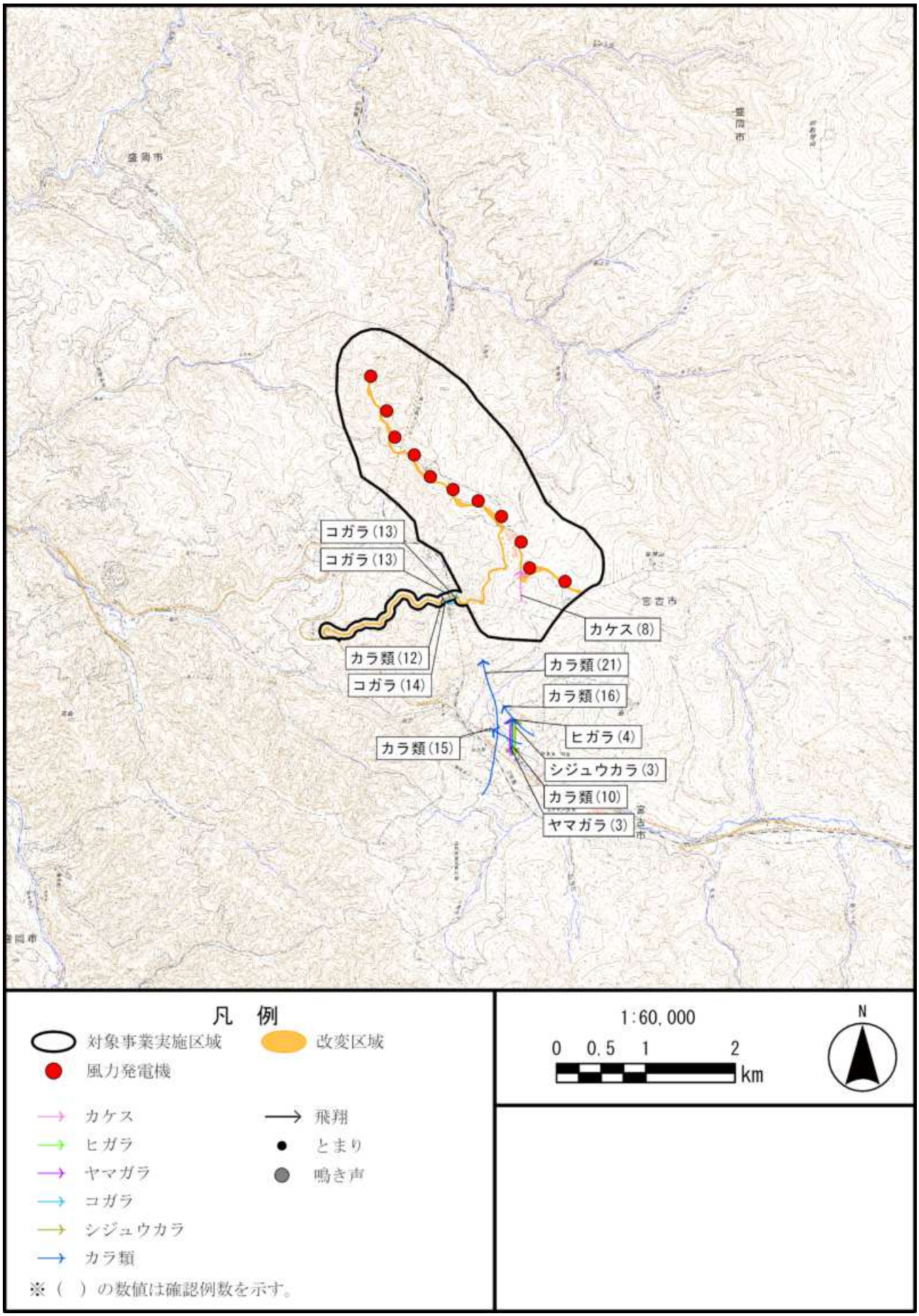


図 8.1.4-66　鳥類の渡り時の移動経路（令和 7 年春季　一般鳥類：
カケス、ヒガラ、ヤマガラ、コガラ、シジュウカラ、カラ類）

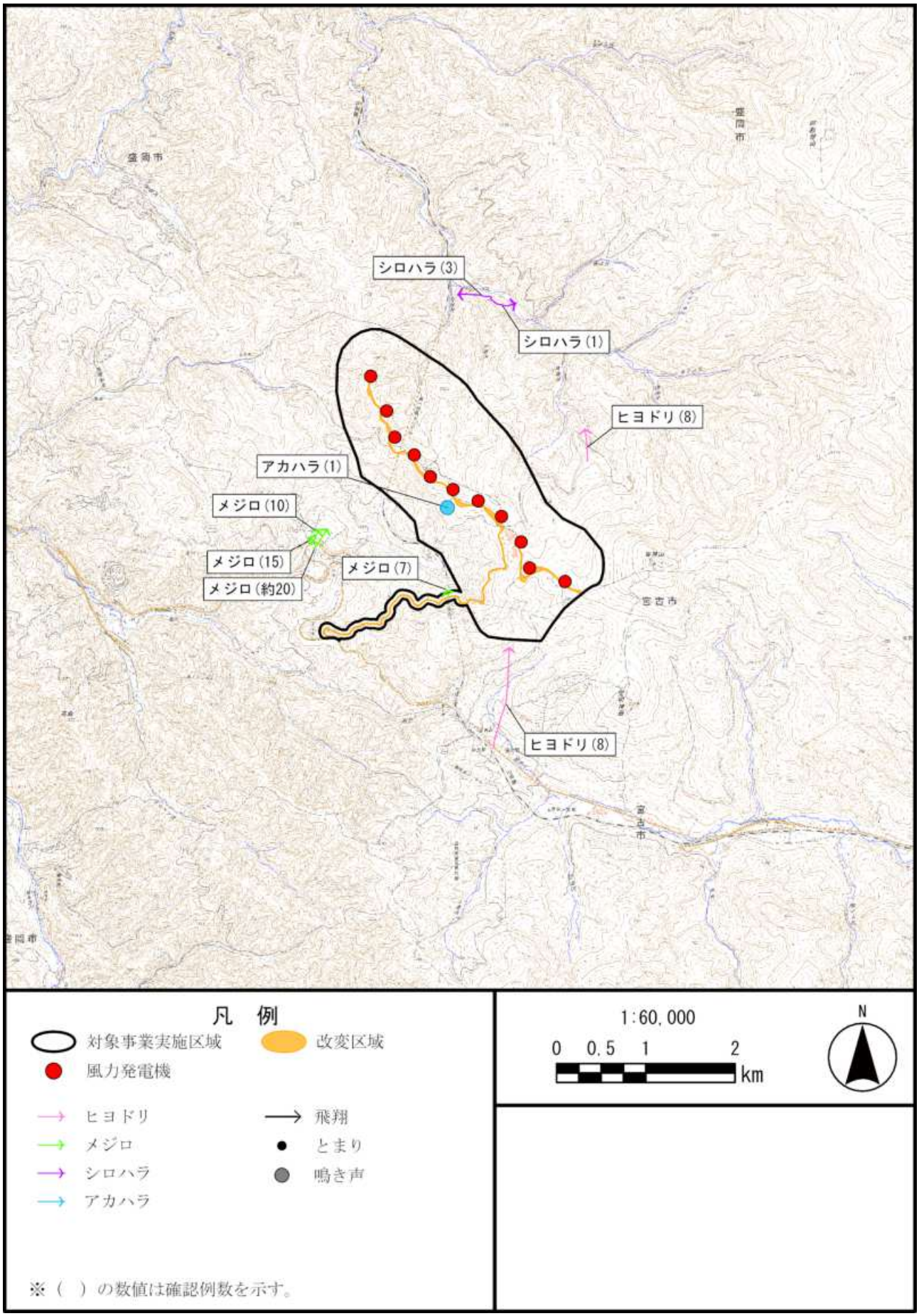


図 8.1.4-67　鳥類の渡り時の移動経路
（令和 7 年春季　一般鳥類：ヒヨドリ、メジロ、シロハラ、アカハラ）

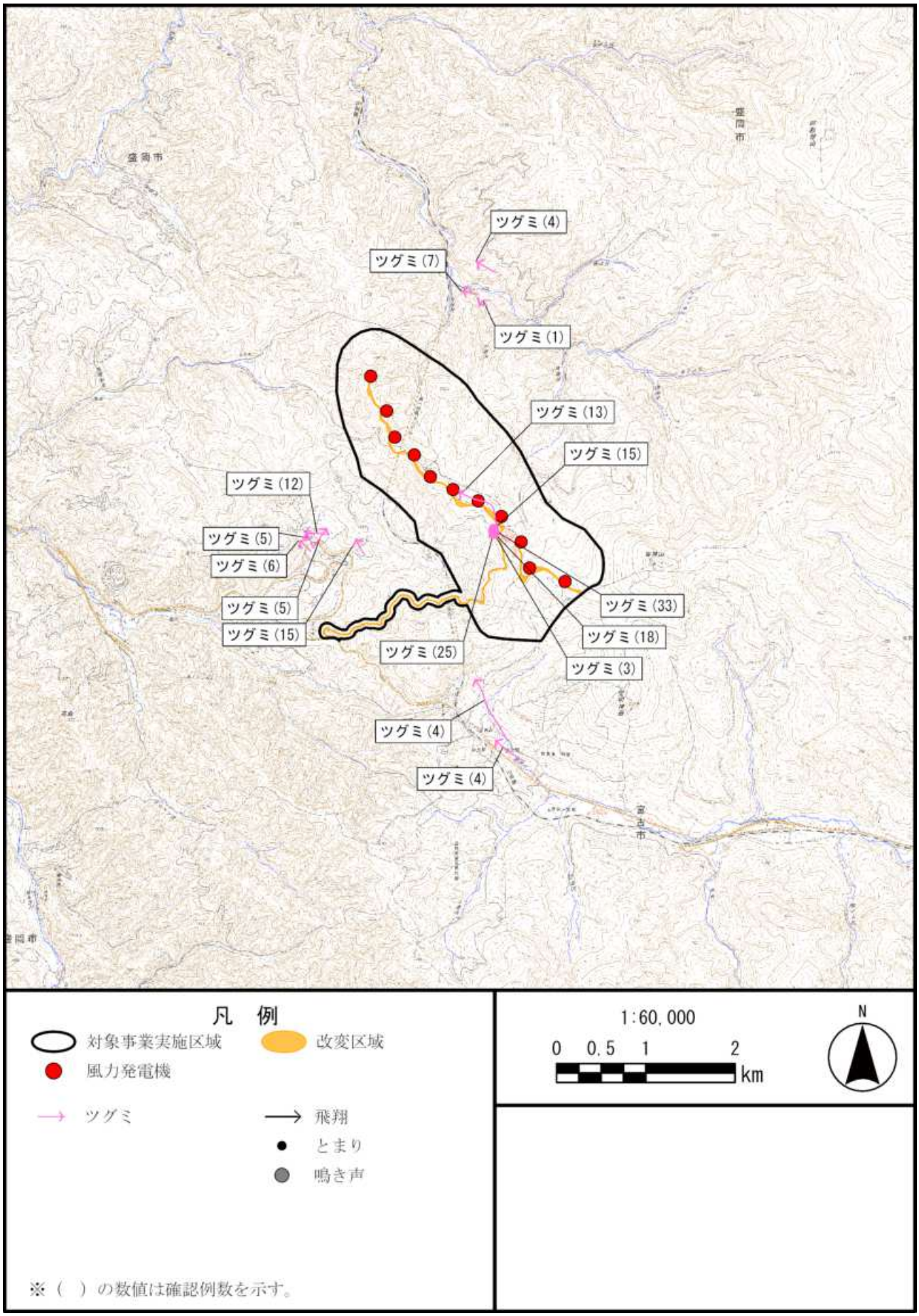


図 8.1.4-68　鳥類の渡り時の移動経路（令和 7 年春季　一般鳥類：ツグミ）

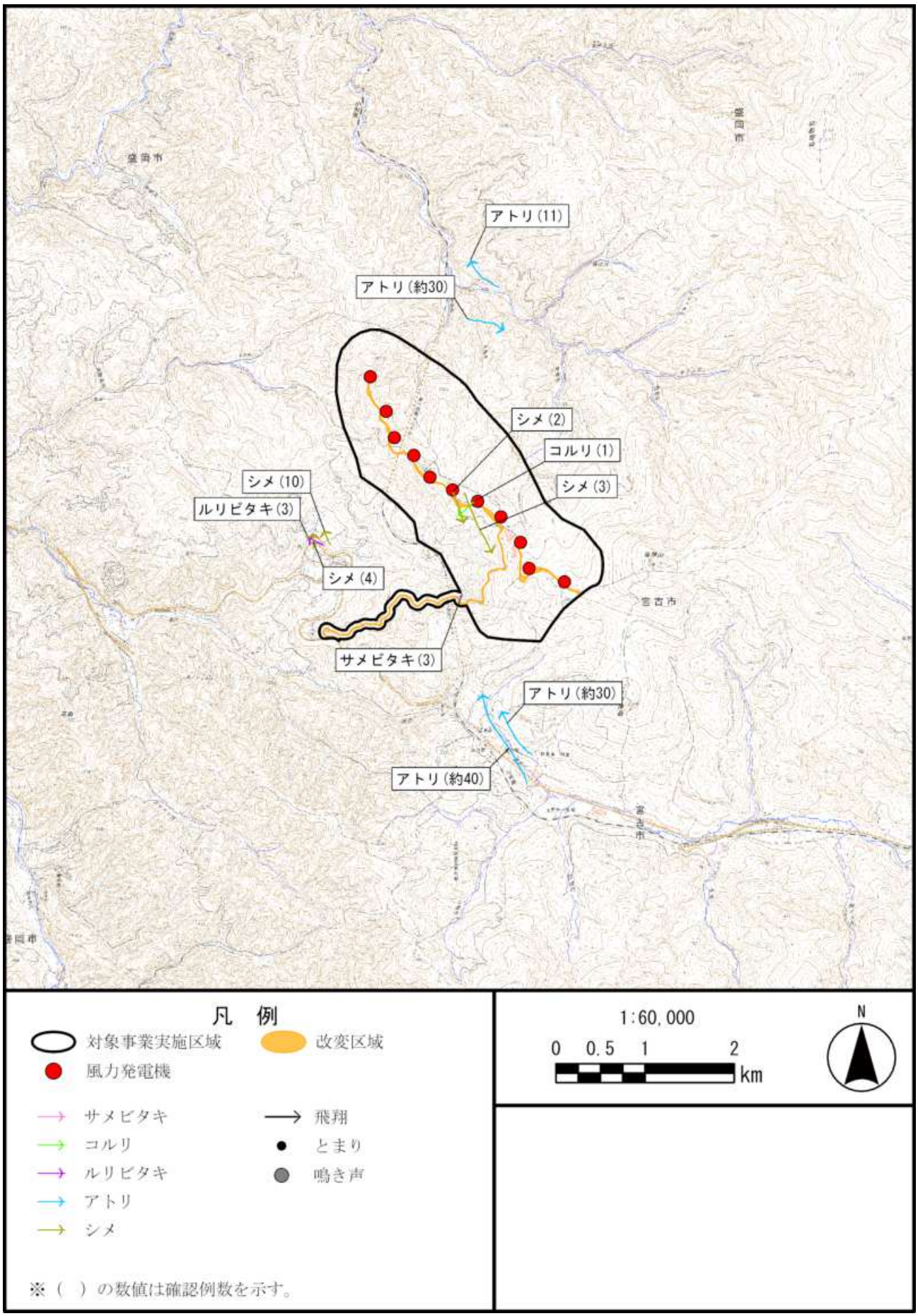


図 8.1.4-69　鳥類の渡り時の移動経路
（令和 7 年春季　一般鳥類：サメビタキ、コルリ、ルリビタキ、アトリ、シメ）

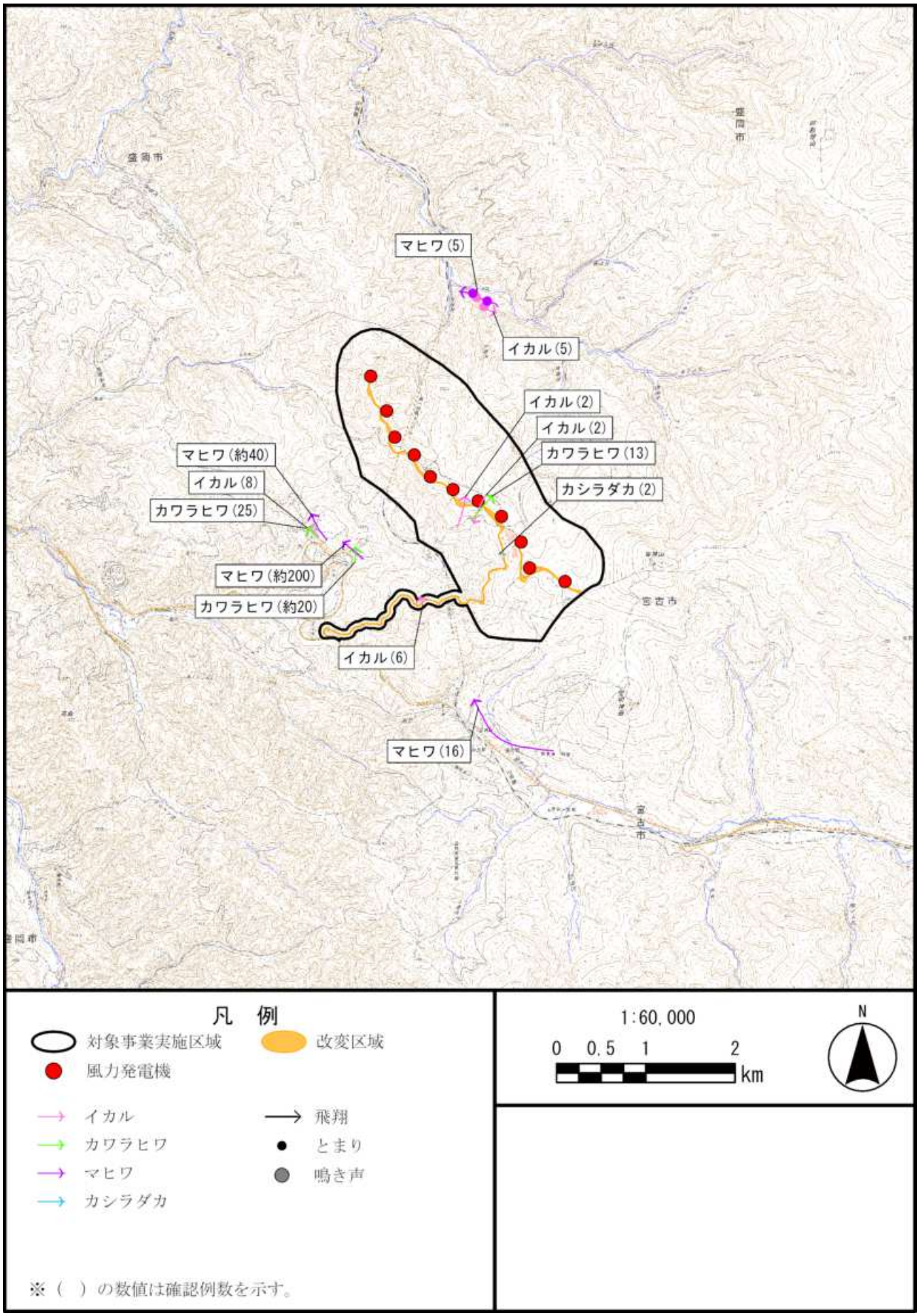


図 8.1.4-70　鳥類の渡り時の移動経路
（令和 7 年春季　一般鳥類：イカル、カワラヒワ、マヒワ、カシラダカ）

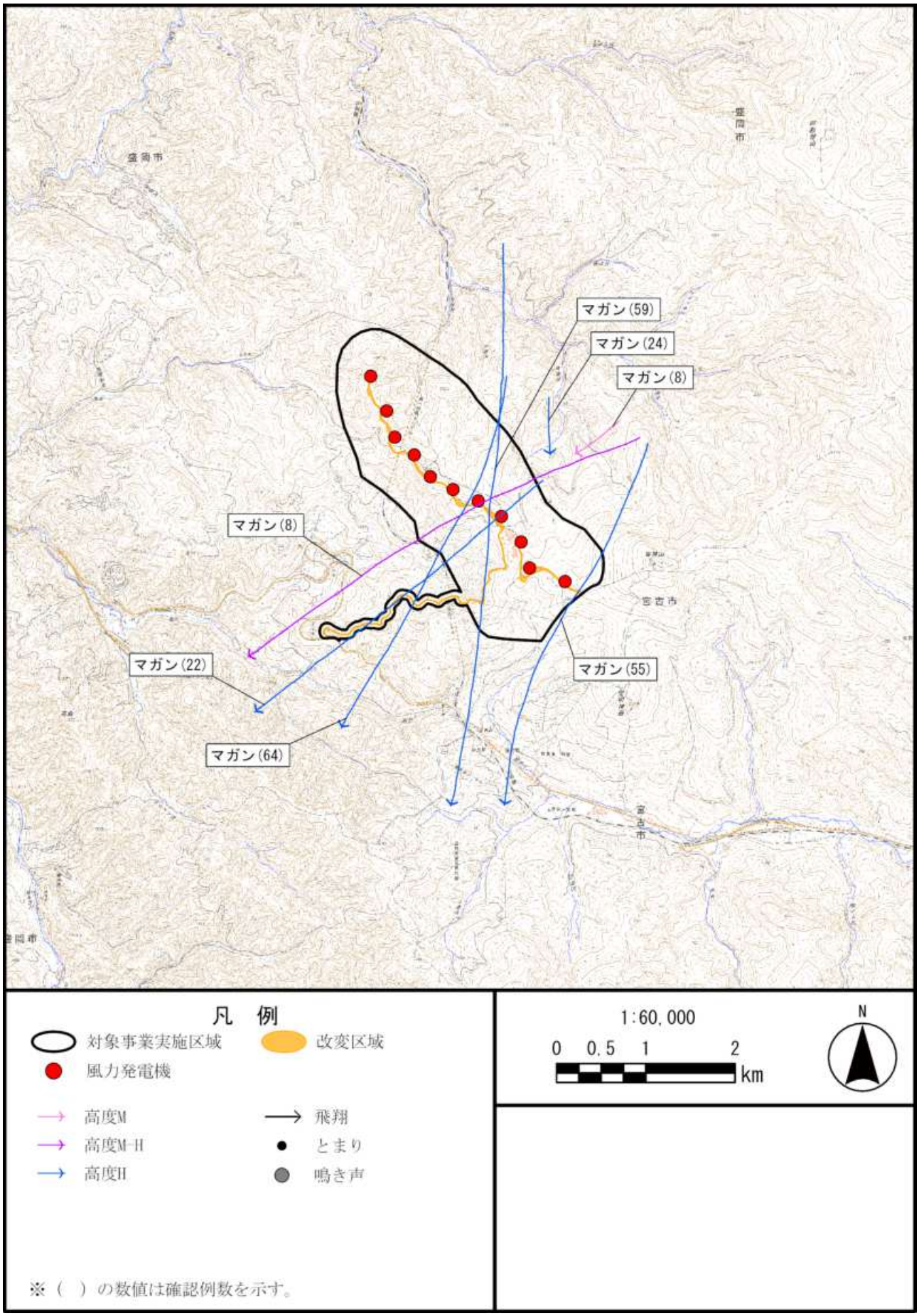


図 8.1.4-71　鳥類の渡り時の移動経路（令和 7 年秋季　ガン・カモ・ハクチョウ類：マガン）

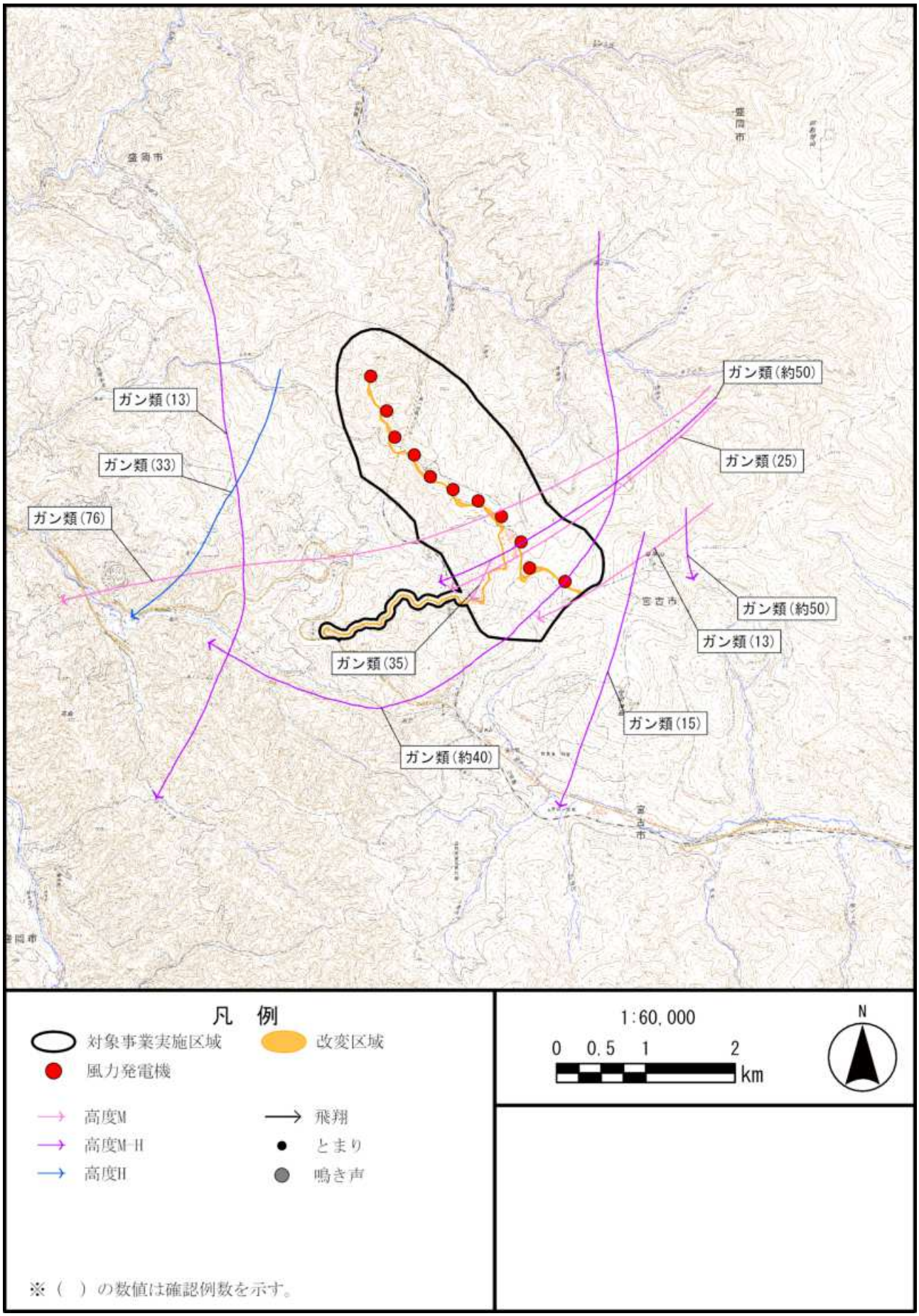


図 8.1.4-72　鳥類の渡り時の移動経路（令和 7 年秋季　ガン・カモ・ハクチョウ類：ガン類）

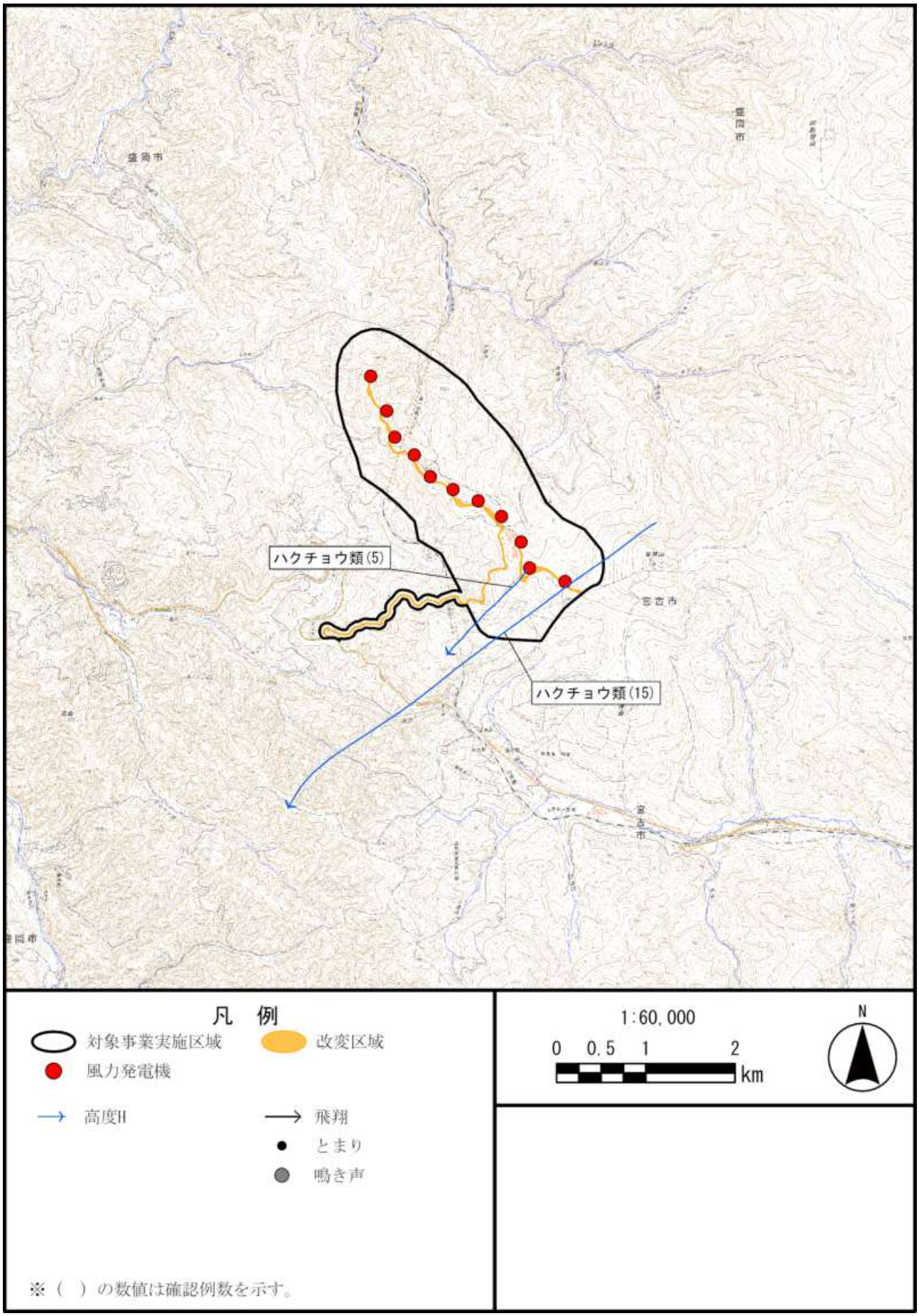


図 8.1.4-73　鳥類の渡り時の移動経路
（令和 7 年秋季　ガン・カモ・ハクチョウ類：ハクチョウ類）

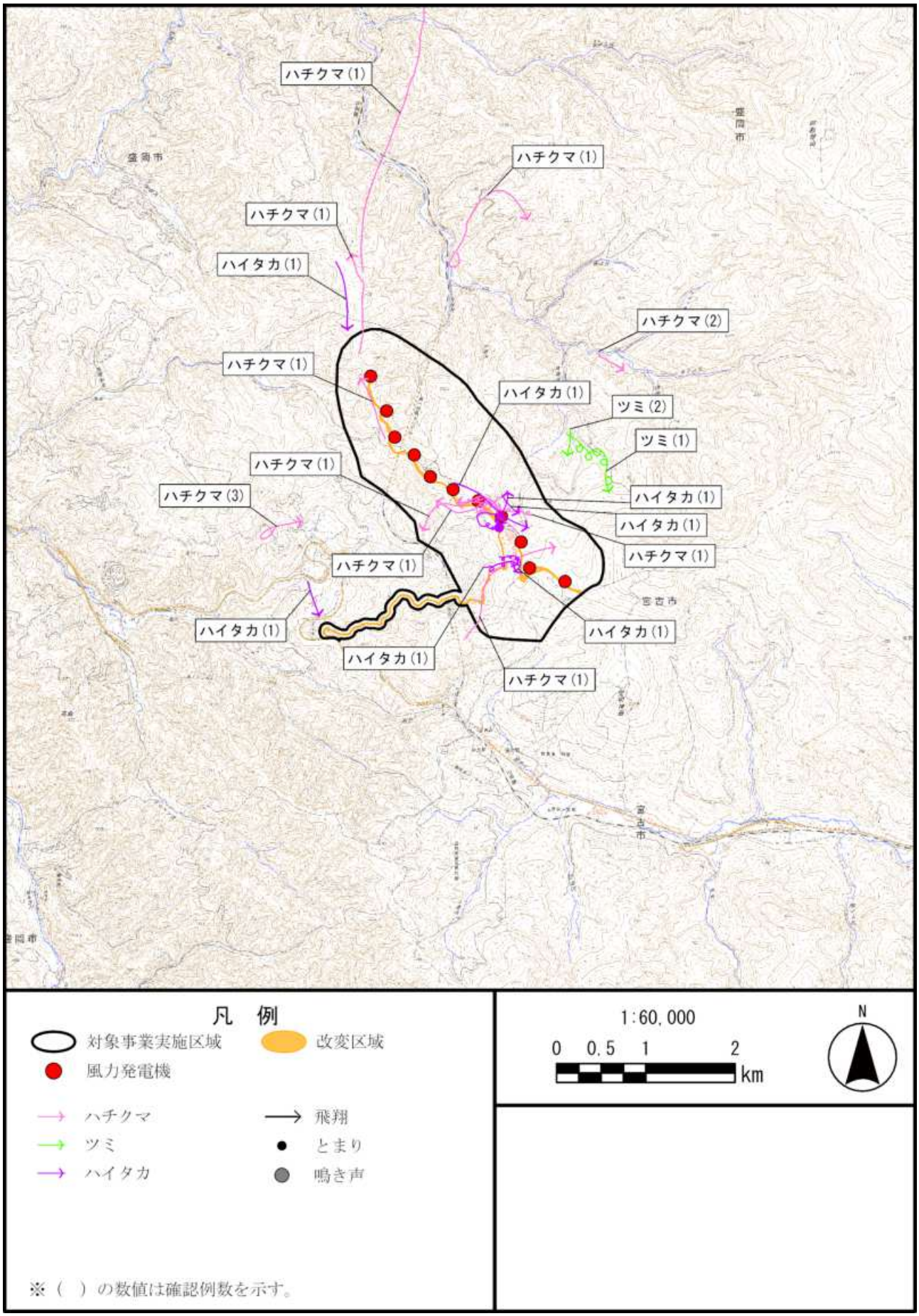


図 8.1.4-74　鳥類の渡り時の移動経路（令和 7 年秋季　猛禽類：ハチクマ、ツミ、ハイタカ）

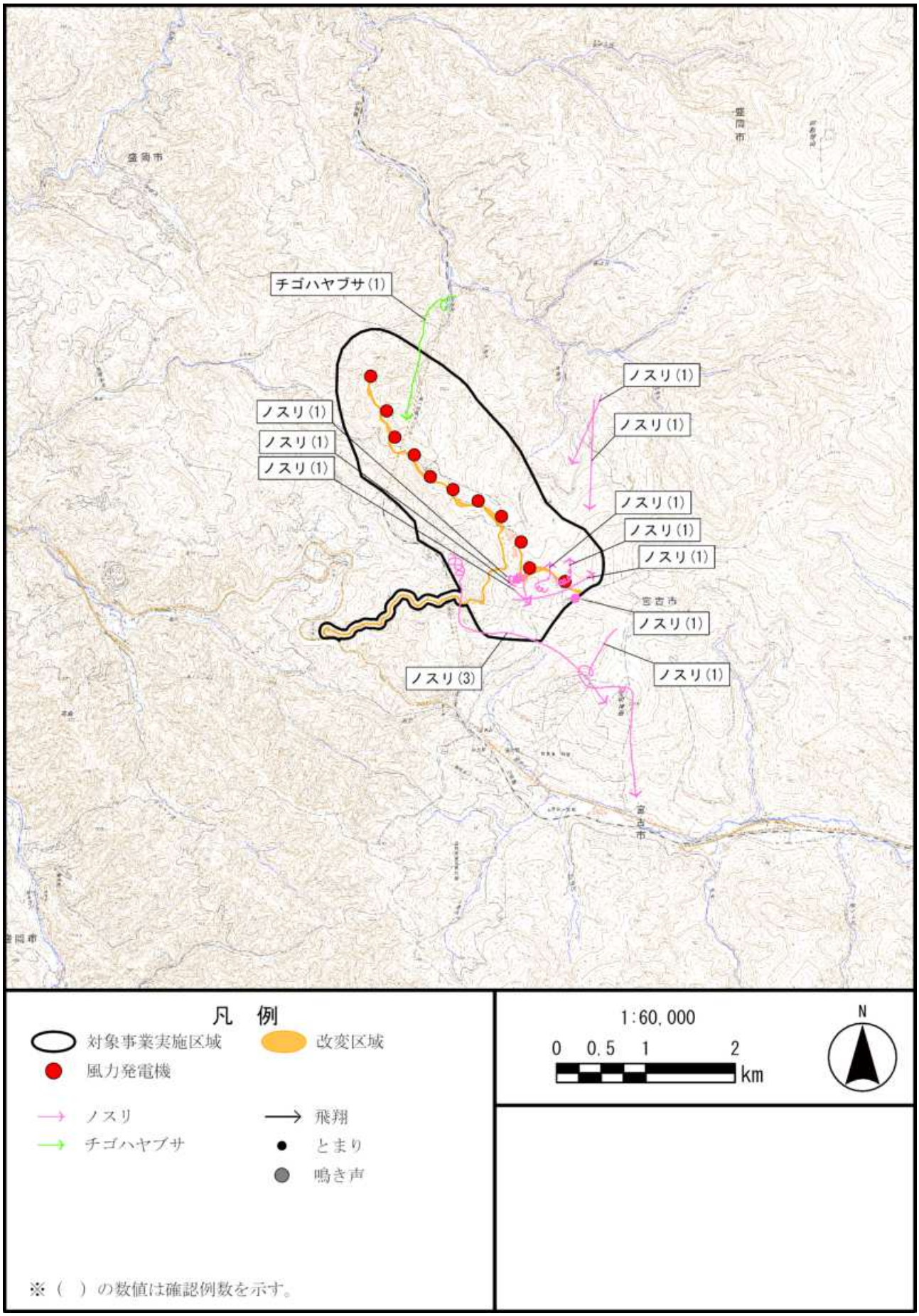


図 8.1.4-75　鳥類の渡り時の移動経路（令和 7 年秋季　猛禽類：ノスリ、チゴハヤブサ）

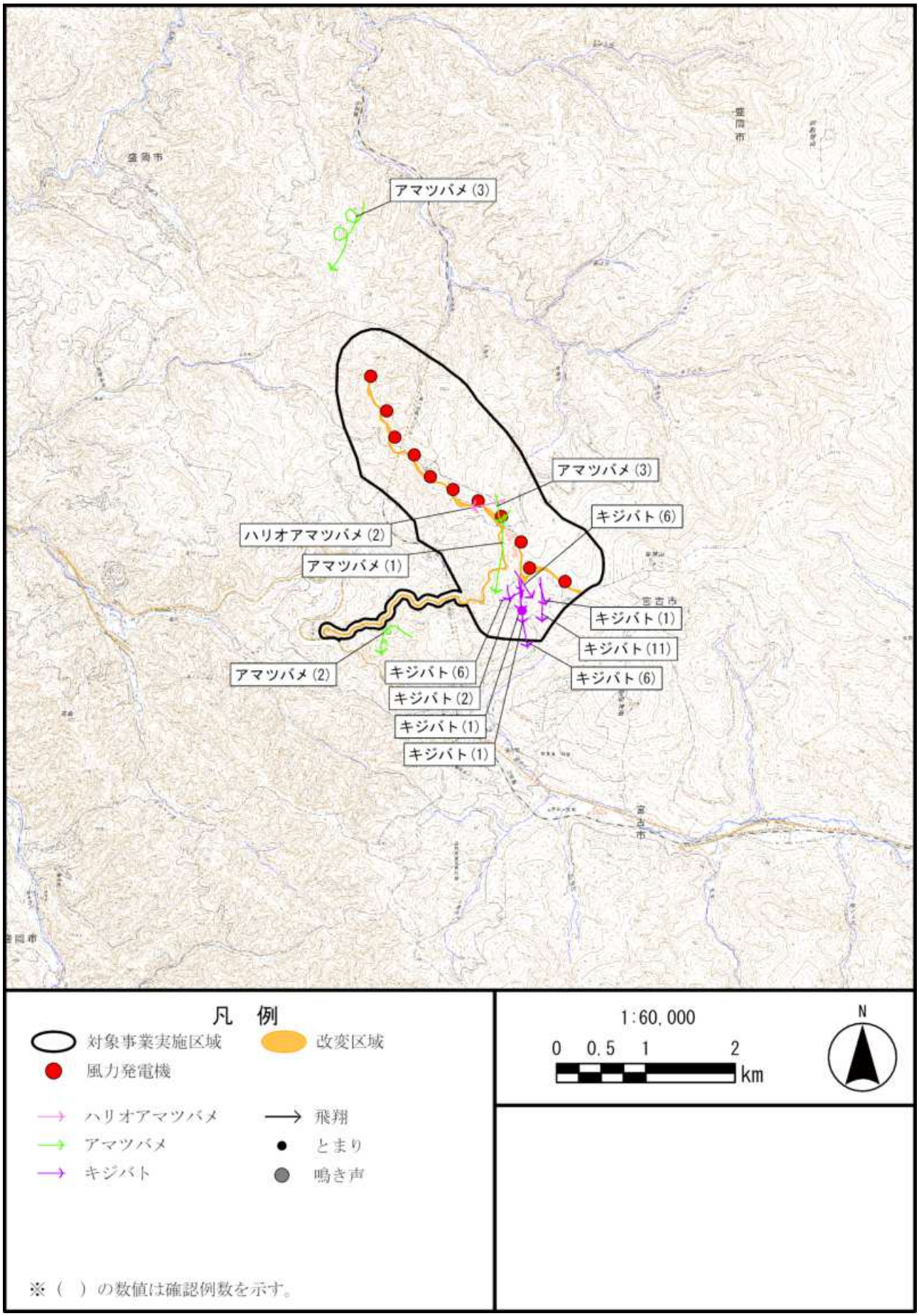


図 8.1.4-76　鳥類の渡り時の移動経路
（令和 7 年秋季　一般鳥類：ハリオアマツバメ、アマツバメ、キジバト）

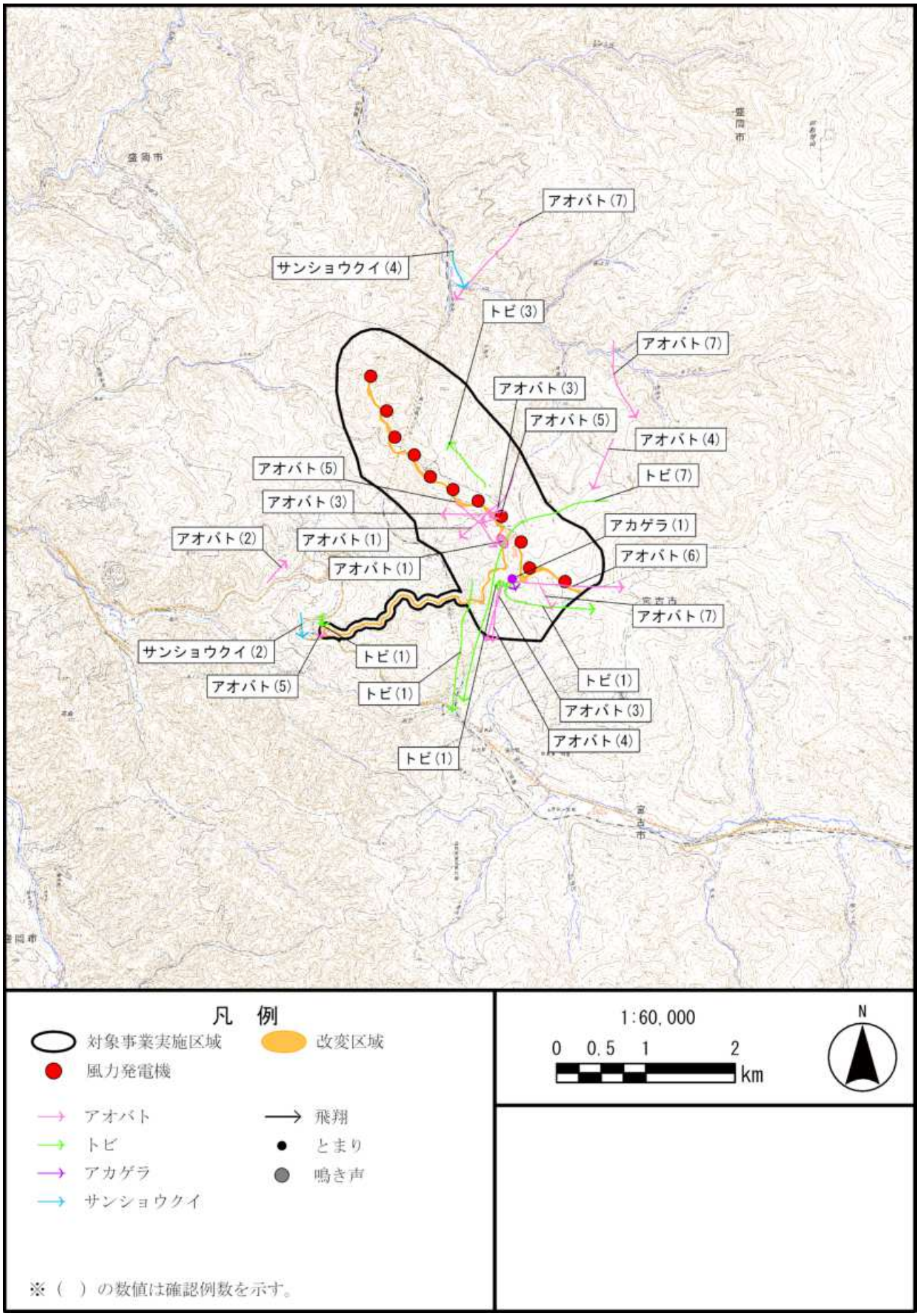


図 8.1.4-77　鳥類の渡り時の移動経路
（令和 7 年秋季　一般鳥類：アオバト、トビ、アカゲラ、サンショウクイ）